

平成20年6月12日・6月13日  
教育研究会要録  
大学・附属共同研究紀要

# 豊かな学びを育む学習の創造

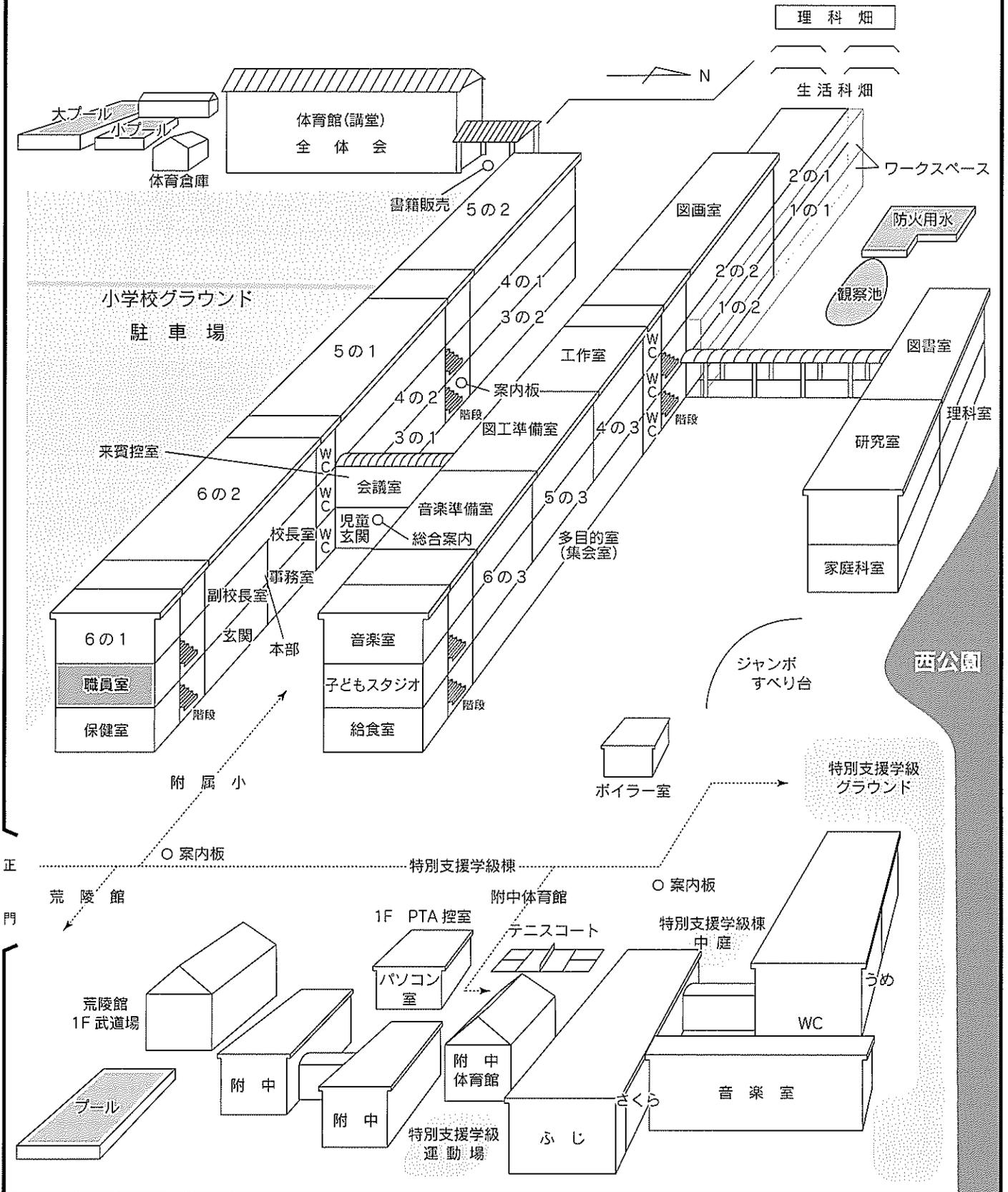
子どもの「問い」を深化・拡充させる授業づくり



福岡教育大学附属福岡小学校

# 研究会会場図

※下靴のままお上がりください。





## ごあいさつ

福岡教育大学 学長 大 後 忠 志

福岡教育大学附属福岡小学校の平成20年度研究発表会の開催にあたりまして、ひとことごあいさつを申し上げます。

本学は、九州地区で唯一の教員養成系単科大学として、教員にふさわしい人材育成を中核に、地域とともに歩む大学をめざしているところです。

その中で、各附属学校は、貴重な教育実践の先導的研究実験校としての任務を確実に果たしていくことが、大きな使命の一つであります。なかでも、本学及び各附属学校においては、共に連携して研究・開発を行っており、その成果は、このような研究発表会等により地域の諸学校に還元され、地域を中心とする教育界に大きく貢献することが期待されています。

本年度の研究発表会は、主題を「豊かな学びを育む学習の創造ー子どもの『問い』を深化・拡充させる授業づくりー」と設定して、その研究成果を世に問うものであります。公開授業はもちろん、テーマ別ディスカッション、学習指導協議会、全体講演など2日間にわたる多彩な内容となっています。

今回の研究発表会が地域の学校のみならず、我が国における初等教育実践の進展に少しでも寄与できることを願っております。ご参会された皆様のご指導・ご助言を切にお願いする次第であります。

今後とも、附属学校を中心に、本学と各地域の公立学校及び教育関係機関との連携を深めてまいりたいと考えております。

最後になりましたが、ご参会下さった皆様はじめ、本研究会のためにご協力下さいました関係者の皆様に、心よりお礼を申し上げますとともに、より一層のご支援をお願い申し上げます。あいさつと致します。



# はじめに

校長 鈴木 清 一

一昨年12月の改正教育基本法の成立を皮切りに、昨年は教育改革関連三法（教員免許法，地方教育行政法，学校教育法）の改正が急ピッチで行われ，今年四月には，我が国の教育改革の具体的施策を示す教育振興基本計画の，その原案といえる中教審答申が提出されました。こうした教育改革の動きと並行して進められてきた学習指導要領の改訂は，この3月の小・中学校の新指導要領の告示で実施の第一歩が踏み出されたのです。改訂の観点として，知識基盤社会を担う子どもたちの「生きる力」を育むため，その具体的な手立てを確立するということが述べられています。今後は各学校において，新学習指導要領に対応した独自のカリキュラムを早急に構想し，速やかな実施に向けた試行を重ねることが求められることとなります。

本校では，これまで長年にわたり，教育課程の編成，実施，評価に関する研究実践を積み重ねてきました。その仕上げとして，平成16年度からの3年間は，研究主題を「豊かに生きる子どもをはぐくむ教育課程の創造」とし，「協働」をキーワードに他者とともに学び合う中で確実に学力を身に付け，活用できる子どもの育成をねらいとした研究に取り組んでまいりました。この成果は，著書「子どもが本気になる授業づくり～新しい時代の単元・題材づくりから発問・板書まで～」(明治図書)として昨年6月に刊行しております。

昨年度からは，これまでの研究成果を踏まえつつも，より強く現場のニーズにマッチさせるため，授業づくりに重点を置く研究にシフトしています。本年度は学習指導要領の改訂の方向性を見据えて，研究主題を「豊かな学びを育む学習の創造」，副主題を「子どもの問いを深化・拡充させる授業づくり」と設定しました。具体的には，子どもの学習意欲の向上や思考力・判断力・表現力の育成をねらいとした「活用・探究型」の授業づくりの取り組みであります。

今回の研究発表会開催にあたりましては，多くの方々から本校と発表者への直接的，間接的なご指導・ご支援と励ましをいただきました。ここに深く感謝申し上げますとともに，今後につきましても格別のご指導とご高配を賜りますよう，切にお願い申し上げます。

# 目 次

ごあいさつ	1
はじめに	2
目 次	3
日程と内容 (第1日目)	4
日程と内容 (第2日目)	6
本校研究の歩み	8

## 公開授業及び全体会の部 (第1日目)

学習指導案 (午前)	9
全 体 会	26
学習指導案 (午後)	27
テーマ別ディスカッション	52
ディスカッションのまとめ	52

## 公開授業及び全体会の部 (第2日目)

学習指導案 (午前)	53
全 体 会	72
学習指導案 (午後)	73
学習指導協議会	92
全 体 講 演	92

## 研 究 紀 要 の 部

研究紀要の部目次	93
研究全体構想	94
各教科等部要項	112
特別支援教育部要項	164
帰国子女教育部要項	178
おわりに	185
平成20年度研究同人	186

# 第1日目 6月12日(木)の日程

## I 学習指導の部(午前)

### ▼ 学習指導(9:15~10:00)

学年組	教科領域等	単元・題材・主題名	授業者	会場
2年2組	音楽科	曲にあわせてバンブーダンスを踊ろう	高武 龍彦	音楽室
3年1組	国語科	まとまりに気をつけて読もう-道具を使う動物-	光延 正次郎	3年2組教室
4年2組 3年3組	理科	空気のパワーを体感しよう	今泉 伸一郎	理科室
5年2組 6年3組	英語活動	Let's expand the circle of friends.	田中 健悟 セバウンかおり Matthew Love	子どもスタジオ
6年1組	国語科	筆者の意図を解明しよう-なぜ、イースター島だったのか-	平島 健二	6年1組教室

### ▼ 特別支援学級と通常学級の交流学習指導(9:15~10:00)

1年2組 1・2年ぶじ組	体育科	おにをかわしてボールをはこぼう -すりぬけおにあそび-	毛利 拓也 下川 勝彦	附属中体育館
-----------------	-----	--------------------------------	----------------	--------

### ▼ 特別支援教育学習指導(9:15~10:00)

5・6年梅組	国語科	たのしい七夕かざりのつくりかたをせつめいしよう	諏訪原 佳子	特学棟音楽室
--------	-----	-------------------------	--------	--------

## II 全体会の部(午前)

### ▼ あいさつ(10:20~10:35)

福岡教育大学学長 大後 忠志  
校長 鈴木 清一

### ▼ 主題発表(10:35~11:05)

#### ・豊かな学びを育む学習の創造

—子どもの「問い」を深化・拡充させる授業づくり—

研究主任 北田 尚雄

### ▼ 教科等発表(11:05~11:25)

#### ・思考と表現を練り上げる国語科学習

—内容構成と文章構成のフィードバック活動を位置付けた授業づくり—

国語科部 平川 洋一

### ▼ 児童発表(11:30~11:50)

#### ・12歳の主張—平和のとりでを築く—

指導者 平川 洋一

#### ・創り出そう！私達のハーモニー

指導者 有川 陽子

### Ⅲ 学習指導の部(午後)

#### ▼ 学習指導 (13:00~13:45)

学年組	教科領域等	単元・題材・主題名	授業者	会場
1年1組	国語科	どんなしごとでどんなつくりかな?—じどうしゃくらべ	平川 洋一	1年1組教室
2年1組	生活科	しょうかいしよう!子どもどうにんガイド	塚本 正典	2年1組ワークスペース
3年2組	理科	わくわくこん虫ワールド	福原 伸治	理科室
4年1組	算数科	生活情報をブックレットにしよう	島川 二郎	4年1組教室
4年2組	学級活動	開催, 4の2ブックトーク会	黒澤 真二	4年2組教室
5年1組	社会科	おいしい給食の向こう側へほうれん草, だれがどこからどうやって~	高良 祐治	5年2組教室
5年2組	体育科	得点力アップ大作戦-2ゴールハンドボール-	渡邊 正則	附属中体育館
6年2組	総合	つくろう あらつ大絵巻	高瀬 雄大	6年1組教室

#### ▼ 帰国子女教育学習指導 (13:00~13:45)

3~6年 3組合同	国際交流タイム	世界のスーパ博覧会	永尾 健 有川 陽子	子どもスタジオ
--------------	---------	-----------	---------------	---------

#### ▼ 特別支援教育学習指導 (13:00~13:45)

さくら・楡組グループ	算数科	くらべこの森にでかけよう	諏訪原 佳子	特学棟音楽室
さくら・楡組グループ		はかってみつけよう!ひみつのたからさがし	弘松 英樹	さくら組教室
さくら・楡組グループ		ただしくはかっておかしづくり	下川 勝彦	ふじ組教室

#### ▼ 保健養護部実践提案部会 (13:00~13:45)

※ 保健養護部会テーマ

支援が必要と思われる子どもへの関わり方 ~子どもの行動を見とる視点と、その対応~

会場	提案者	司会者	指導助言者
6年2組 教室	福岡市立席田小学校 (前 本校養護教諭) 養護教諭 結城 今日子	福岡市立西高宮小学校 養護教諭 島山 佳子	元聖マリア学院短期大学 非常勤講師 筑紫 味子 福岡教育大学 保健管理センター所長 宮田 正和

### Ⅳ 全体会の部(午後)

#### ▼ 新しい学習指導要領における授業づくりテーマ別ディスカッション (14:00~15:00)

※ 各テーマごとに、授業例の提案を行い、その後、小グループに分かれて、参会者のみなさんとともに意見交流していきます。

番号	会場	テーマ	内容	コーディネーター
①	体育館	習得型の授業づくり (基礎・基本の徹底)	教科等の基礎・基本を確実に身に付けることのできる「習得型」の授業とは・・・。国語科の読むことの授業を例にあげみなさんと話し合っていきます。	<提案> 平川 洋一 <グループコーディネーター> 光延 正次郎 諏訪原 佳子
②	子ども スタジオ	活用型の授業づくり (思考力・表現力)	身に付けた知識や技能等を活用していく子どもの姿は、また、そのために必要な力とは・・・。思考力や表現力を培う算数科の授業を例に考えます。	<提案> 永尾 健 <グループコーディネーター> 下川 勝彦 田中 健悟
③	1年教室 ワークスペース	探究型の授業づくり (ことばと体験)	今回の指導要領では「ことば」「体験」もキーワードになっています。それらを大切に探究型の学習について、社会科や理科の授業を例に考えます。	<提案> 高良 祐治・今泉伸一郎 <グループコーディネーター> 塚本 正典 高瀬 雄大

#### ▼ テーマ別ディスカッションのまとめ (15:20~16:40)

##### 「習得」「活用」「探究」の授業づくりについて

○ 教育報道出版社 代表取締役社長 梶 浦 真 氏  
福岡教育大学 教授 津 川 裕 氏  
本校研究部 田 中 健 悟

## 第2日目 6月13日（金）の日程

### I 学習指導の部(午前)

#### ▼ 学習指導 (9:15~10:00)

学年組	教科領域等	単元・題材・主題名	授業者	会場
2年2組	算数科	三角形, 四角形, ステンドグラスづくり	永尾 健	2年2組教室
3年1組	総合	エコロン池かいぞう作せん	今泉 伸一郎	3年2組教室
3年2・3組 4年3組	体育科	ゴールをめざせ キックチャンスゲーム	毛利 拓也	附属中体育館
4年1組	道徳	見つめよう, 思いやりの心	三浦 研一	4年1組教室
4年2組	総合	つくろう 我らの附属小ふくこい	高良 祐治	子どもスタジオ
5年1・3組	音楽科	ジャズにチャレンジ!	有川 陽子	音楽室
6年1・3組	理科	みつめよう 暮らしの中の火	福原 伸治	理科室
6年2組	社会科	清盛と頼朝~二人の武士が描いた「この国の形」~	高瀬 雄大	6年1組教室

#### ▼ 特別支援教育学習指導 (9:15~10:00)

3・4年さくら組	算数科	かたちをくみあわせて わくわくたなばたかい	弘松 英樹	特学棟音楽室
----------	-----	-----------------------	-------	--------

### II 全体会の部(午前)

#### ▼ あいさつ (10:20~10:35)

初等教育研究部委員長  
校長 鈴木 清一

#### ▼ 主題発表 (10:35~11:05)

##### ・豊かな学びを育む学習の創造

—子どもの「問い」を深化・拡充させる授業づくり—

研究副主任 下川 勝彦

#### ▼ 教科等発表 (11:05~11:25)

##### ・自ら地域への気付きを深める生活科学習

—協同活動を位置付けた授業づくり—

生活科部 塚本 正典

#### ▼ 児童発表 (11:30~11:50)

・児童アピールー3年生われら附属小ちょボラ隊—

指導者 塚本 正典

・創り出そう! 私達のハーモニー—

指導者 有川 陽子

### Ⅲ 学習指導の部(午後)

#### ▼ 学習指導(12:45~13:30)

学年組	教科領域等	単元・題材・主題名	授業者	会場
1年1組	算数科	いくつといくつ?ビンゴでゲット	島川 二郎	1年1組教室
1年2組	生活科	すすめよう!がっこうガイドボランティア	塚本 正典	2階階段・ワークスペース
2年1組	体育科	あらつの森たんけんたい	渡邊 正則	附属中体育館
4年1組	国語科	相手をゆり動かす材料は?~どうぶつ保護シェルター募金をよびかけよう~	平川 洋一	4年1組教室
5年1・3組	家庭科	まかせてね 旬の野菜でオリジナルサラダ	緒方 敦子	家庭科室
5年2組	図画工作科	開店:和菓子屋本舗~和心でおもてなし~	北田 尚雄	図画室・工作室
6年1組	学級活動	委員会活動活性化プロジェクト	黒澤 真二	6年1組教室
6年2組	算数科	体積から見える世界	田中 健悟	6年2組教室

#### ▼ 特別支援教育学習指導(12:45~13:30)

ふくろ組 くら組 みこ組	合同生活単元学習	みんなでつくろう七夕フェスティバル	下川勝彦, 諏訪原佳子, 弘松英樹, 倉富 護	特学棟音楽室
--------------------	----------	-------------------	----------------------------	--------

#### ▼ 活用力を高める探究型の授業づくりにおける学習指導協議会(13:45~14:45)

会場	教科領域等	司会者	指導助言者
4年1組	国語科	宗像市立東郷小学校 教諭 田 渕 聡	古賀市教育委員会 指導主事 水上 栄一 福岡教育大学 准教授 河野 智文
5年2組	社会科	前原市立加布里小学校 教諭 増田 裕一	福岡県教育センター 主任指導主事総括 芋生 修一 福岡教育大学 教授 小川 亜弥子
3年2組	算数科	宗像市立河東西小学校 教諭 平山 哲也	春日市立春日原小学校 校長 山下 英俊 福岡教育大学 教授 飯田 慎司
理科室	理科	那珂川町立片縄小学校 教諭 清水 隆一郎	福岡市立笹丘小学校 校長 谷 友雄 福岡教育大学 准教授 安藤 秀俊
1年2組	生活科	福岡市立城南小学校 教諭 松田 伸治	みやま市立下庄小学校 教頭 藤木 寿美枝 福岡教育大学 准教授 寺岡 聖豪
音楽室	音楽科	太宰府市立太宰府西小学校 教諭 武田 耕治	久留米市立城島小学校 校長 丸山 誠二郎 福岡教育大学 准教授 原田 大志
図画室	図画工作科	福岡市立石丸小学校 教諭 田澤 秀樹	福岡市立有田小学校 校長 田中和 隆 福岡教育大学 教授 阿部 守
附属中学校	体育科	春日市立須玖小学校 教諭 久保 勝美	宗像市教育委員会 主幹指導主事 脇田 哲郎 福岡教育大学 教授 相部 保美
家庭科室	家庭科	福岡市立舞松原小学校 教諭 篠原 裕子	福岡市立東住吉小学校 校長 小嶋 悦子 福岡教育大学 准教授 貴志 倫子
6年1組	特別活動	筑紫野市立天拝小学校 教諭 白土 教子	宗像市立河東西小学校 校長 大嶋 正紹 福岡教育大学 教授 高田 清
2年1組	道徳	福岡市立東住吉小学校 教諭 大近 正博	八女市立北川内小学校 校長 池田 隆 福岡教育大学 教授 堺 正之
特学棟 梅組教室	特別支援 教育	福岡市立東福岡特別支援学校 教諭 阿部 年江	福岡県立養護学校 「福岡高等学園」 校長 堤 正則 福岡教育大学 教授 藤金 倫徳

### Ⅳ 全体会の部(午後)

#### ▼ 全体講演(15:00~16:20)

「学ぶ意欲と活用する力を育む—全国学力調査から考えるこれからの授業づくり—」

全体講師 国立教育政策研究所 次長 惣脇 宏 氏

#### ▼ あいさつ

副校長 三原 英喜

# 本校研究のあゆみ

年度			
23	○学習効果判定の理論と実際	59	○自己実現の喜びを生み出す学習内容の検討 学習実態の多様性に即応する学習指導
24	○カリキュラムの構成と実際	60	○自己実現の喜びを生み出す学習指導法 子どもの個性が生きる指導
25	(発表会なし)	61	○自己実現の喜びを生み出す学習指導法 「学習の個性化をめざす指導法の開発」 (明治図書から出版)
26	○学習深化の指導	62	○自己実現の喜びを生み出す学習指導法 学習の個性化をめざす学習過程
27	○学習深化の指導	63	○自己実現の喜びを生み出す学習指導法 「学習の個性化」をめざす授業の改造 「感動体験を中核とした生活科の授業づくり」 (明治図書から出版)
28	○学習深化をめざす指導	平成	元年
29	○学習指導における諸問題の再検討		○個が生きる授業の創造 自己理解の学習過程
30	○学習指導における新課題の再検討	2年	○個が生きる授業の創造 考えを確かにする活動構成
31	○学習指導深化をめざす新課題の究明	3	○個が生きる授業の創造 考えを深める自己吟味活動を通して 「個が生きる授業づくり」(北大路書房から出版)
32	○組織化をめざす学習指導法の究明	4	○生きる喜びを生み出す授業の創造 思い・願いをもって問いつづける活動づくり
33	○組織化をめざす学習指導法の究明	5	○生きる喜びを生み出す学習の創造 思いをあらわしていくよさを 実感する活動の展開
34	○学習指導の系統化	6	○生きる喜びを生み出す学習の創造 自分のよさを実感する表現活動の展開
35	○改訂指導要領による学習指導の諸問題	7	○生きる喜びを生み出す教育課程の創造 新しい教育課程における教科領域の 学習の具体化
36	○考える子どもを育てる指導法の究明	8	○生きる喜びを生み出す教育課程の創造 子供主体の活動からみる教育課程の編成 「新時代の授業を創る」(明治図書から出版)
37	○考える力をのばす学習指導法の考察	9	○生きる喜びを生み出す教育課程の創造 子供主体の活動からみる教育課程の編成
38	○考える力をのばす学習指導法の考察	10	○豊かな人間の育成をめざす教育の創造 活動や体験を基盤にした学習の総合化 「学習創造」(算数・人間・障害児教育)出版
39	○考える力をのばす学習指導法の考察	11	○豊かな人間の育成をめざす教育の創造 子供と創る教科・総合的学習の展開 「学習創造」(理科・図画工作・音楽)出版
40	○考える力をのばす学習指導法の考察	12	○豊かな人間の育成をめざす教育の創造 知恵と心情をはぐくむ教科・総合の 調和的展開 「学習創造」(国語・体育)出版
41	○考える力をのばす学習指導法の考察 「授業における思考訓練」(明治図書から出版)	13	○豊かな人間の育成をめざす教育課程の創造 調和的に展開する教科領域・総合的 学習像の明確化 「新世紀の学力づくり」(明治図書)出版
42	○教科の本質に立脚した学習指導法の考察 「思考をのばす学習過程の評価」(明治図書から出版)	14	○豊かな人間の育成をめざす教育課程の創造 —教科・総合の学びを連動する(ふくおかプラン)の展開—
43	○(発表会なし)	15	○豊かな人間の育成をめざす教育課程の創造 —「自己追究」の学びを拓く(ふくおかプラン)の展開— 「評価で変えるカリキュラムづくり」(明治図書)出版
44	○現代化をめざす指導法の究明 教材の現代的価値と児童の実態と 反応に基づく指導内容の検討	16	○豊かに生きる子どもをはぐくむ教育課程の創造 —「生活・文化・人間の学び」を位置付けた(ふくおかプラン)の構想—
45	○現代化をめざす指導法の究明 基本的内容にせまらせる学習の開発	17	○豊かに生きる子どもをはぐくむ教育課程の創造 —自己開発と「生活・文化・人間の学び」を統合する(ふくおかプラン)展開—
46	○現代化をめざす指導法の究明 ひとりひとりを生かす 合理的な学習指導のしくみ	18	○豊かに生きる子どもをはぐくむ教育課程の創造 —協働を中核とした学習の展開—
47	○現代化をめざす指導法の究明 学習の連帯化をはかる指導のしくみ	19	○学びを強め確かにする学習の創造 —学びの体験を活かす3つの統合による授業づくり—
48	○現代化をめざす指導法の究明 連帯性を育てる学習指導のしくみ	20	○豊かな学びを育む学習の創造 —子どもの「問い」を深化・拡充させる授業づくり—
49	○現代化をめざす指導法の究明 連帯の力で学びとる姿勢の形成をはかる 学習指導のしくみ 「学習を連帯化する指導法」 (明治図書から出版)		
50	○現代化をめざす指導法の究明 学びとる力の育成をはかる学習指導のしくみ		
51	○学びとる力を伸ばす学習指導法の究明 操作を通じた学習の構造化		
52	○学びとる力を伸ばす学習指導法の究明 操作を通じた学習指導の展開 「できるまで育てる」(秀巧社から出版)		
53	○「できるまで育てる」学習指導の計画と運営 交流でよりよい操作を身につける学習指導 「自由活動の時間」(秀巧社から出版)		
54	○現代化をめざす指導内容と指導法の実証的究明 教材の価値にせまらせる操作学習の評価		
55	○自己実現の喜びを生み出す学習指導 見直し活動を生かした操作学習の深化		
56	○自己実現の喜びを生み出す学習指導 自己を見直し、考えを深める 指導のしくみ		
57	○自己実現の喜びを生み出す学習指導 自ら見直し活動に取り組み、 自己を深める指導のしくみ 「学ぶ喜びを生み出す授業」 (北大路書房から出版)		
58	○自己実現の喜びを生み出す学習指導 個が生きる課題づくり		

# 公開授業及び全体会の部

# 第1日目 午前の部

## 学習指導案

### ▼ 学習指導 (9:15~10:00)

学年組	教科領域等	単元・題材・主題名	授業者	会場
2年2組	音楽科	曲にあわせてバンブーダンスを踊ろう	高武 龍彦	音楽室
3年1組	国語科	まとまりに気をつけて読もう -道具を使う動物たち-	光延 正次郎	3年2組教室
4年・3組	理科	空気のパワーを体感しよう	今泉 伸一郎	理科室
5年2組 6年3組	英語活動	Let's expand the circle of friends.	田中 健悟 セバウンかおり Matthew Love	子どもスタジオ
6年1組	国語科	筆者の意図を解明しよう -なぜ、イースター島だったのか-	平島 健二	6年1組教室

### ▼ 特別支援学級と通常学級の交流学習指導 (9:15~10:00)

1年2組 1・2年ぶ組	体育科	おにをかかわしてボールをはこぼう -すりぬけおにあそび-	毛利 拓也 下川 勝彦	附属中体育館
----------------	-----	---------------------------------	----------------	--------

### ▼ 特別支援教育学習指導 (9:15~10:00)

5・6年梅組	国語科	たのしい七夕かざりのつくりかたをせつめいしよう	諏訪原 佳子	特学棟音楽室
--------	-----	-------------------------	--------	--------

バンブーダンスを通して三拍子の拍の流れを感じ取る、「問い」の深化型の学習  
**第2学年2組 音楽科学習指導案**

指導者 高武龍彦

題材 曲に合わせて、バンブーダンスを踊ろう

指導観

本題材について

本題材は、フィリピンの民族舞踊であるバンブーダンスを踊ることを通して、三拍子の拍の流れを感じながら踊ったり歌ったりできるようになることをねらいとしている。踊りを通して、体全体を使い、三拍子の拍の流れを感じ取ることは、強・弱・弱の三拍子の拍感をとらえて歌唱表現を工夫したり、身体表現をしたりすることにつながるよさがある。また、バンブーダンスを取り入れ、体全体を使って踊ったり、友達と息を合わせて踊ったりして表現することは、音楽表現の楽しさに気付かせ、基礎的な表現の能力を高める上からも意義深いと考える。

本学級の子どもたちについて

本学級の子どもたちは、楽曲が演奏されるとステップを踏んだり、手拍子をしたりして体全体で音楽を感じている。第1学年においては、「おもちゃの兵隊」の鑑賞で、音楽隊をイメージしてみんなで兵隊になり二拍子を感じて身体を動かしていた。「踊る子ねこ」の鑑賞においては、曲の雰囲気に合わせてなめらかに体を動かすことは経験してきている。そこで、バンブーダンスを通して、三拍子の強・弱・弱の拍感を楽しくとらえさせたい。このことは三拍子の拍の流れを感じ取りながら歌を歌ったり、楽器を演奏したりする上でも意義深い。

本題材の指導について

本題材の指導にあたっては、バンブーダンスを踊る子どもの踊りを提示することで、自分達ももっとバンブーダンスをうまく踊りたいという表現に対する意欲をもたせたい。そこで、歌唱曲「ウンパッパ」の拍の流れに合うように、三拍子の強・弱・弱の拍の流れを感じながら踊るモデルのビデオや、踊り工夫カードを参考に、グループで踊りを工夫させていきたい。最後に、グループでつくり上げた踊りを発表会で、友達に広げていくことで、本題材を振り返り、達成感を味わわせたい。

目標

- 1 バンブーダンスに興味をもち、曲に合わせて自ら体を動かし、楽しく踊ったり、歌ったりすることができる。
- 2 三拍子の拍の流れを感じ取り、拍の流れにあった踊り方や歌い方を工夫することができる。

計画 (約5時間)

階	主な学習活動	時間
で	1 バンブーダンスを踊り、モデルと自分の踊りを比べて自分の課題を発見する。	1
あ	○ うまく踊るには音楽に合わせるとよいということをつかむこと	
う	※ 曲によってバンブーダンスを踊る子どもの踊りを鑑賞する場を設定する。	
つ	2 「ウンパッパ」に合わせてバンブーダンスを踊る。	3
	(1) 「ウンパッパ」を歌う。	①
く	○ 「ウンパッパ」の全体的な雰囲気や主旋律をつかむこと	
	※ 拡大楽譜や拡大歌詞を準備して、楽曲に対する共通理解を図る。	
	(2) モデルの踊りを見て、「ウンパッパ」の拍の流れに合うためには、どのような工夫が必要か試しの踊りをする。	① 本時
	○ 三拍子の拍の流れに合わせた踊りを、試すこと	
	※ 三拍子の拍感を意識して踊っているモデルのビデオを提示する。	
る	(3) グループに分かれ、「ウンパッパ」のリズムに合った踊りを工夫する。	①
	○ 三拍子の拍感にあうようにグループで考えた踊り方をつかむこと	
	※ 子どもたちの踊りの工夫に必要な楽器を準備する。	
広げ	3 グループの踊りを発表し合う。	1
る	○ 友達の踊りのよさをとらえること	
	※ 交流の場を設定する。	

## 本時の学習活動の展開

### 本時授業の目標

- モデルのビデオをもとに、「ウンパッパ」にピッタリ合う踊りを試してみようとしている。
- 強・弱・弱の三拍子の拍感を感じ取りながら、踊ることができる。

1 「ウンパッパ」に合わせてバンブーダンスを踊り、モデルのビデオを鑑賞して、うまく踊れる方法について話し合う。

○ 自分達の今の踊りの状態をつかむこと

- ☆ なかなかうまく踊れないね。
- ☆ 遅れたり早くなったりするよ。
- ☆ どうやったら「ウンパッパ」にピッタリあうかな。

### 本時のめあて

「ウンパッパ」にピッタリ合うように、グループで踊りを工夫してみよう。

2 モデルのビデオをもとに、グループでバンブーダンスを工夫する。

(1) モデルのビデオを鑑賞し、踊りの工夫点について話し合う。

○ 「ウンパッパ」の拍の流れにのった踊りになるにはどのような工夫をすればよいかつかむこと

- ☆ 曲にピッタリ合ってるね。
- ☆ 一拍目は体の動きがちがうね。
- ☆ 一拍目にヒントがあるのかな。

(2) 身振り手振りや楽器を加えてグループの踊りを工夫する。

○ 踊りを工夫することで、強・弱・弱の拍感をとらえること



〈準備する楽器〉

- ・タン布林
- ・カスターネット
- ・鳴子 など

- ☆ 楽器を入れると音で一拍目がはっきり分かるね。
- ☆ 手を使うと、ダンスの振りにもなるね。
- ☆ モデルの人たちの踊りに近づいてきたよ。

3 グループで考えたバンブーダンスを発表し合う。

○ 三拍子の拍感をとらえながら、各グループで工夫したバンブーダンスができたか、確認し合うこと

- ☆ だいぶ一拍目が強く踊れたり、歌えるようになったね。
- ☆ ほかの踊り方も試してみよう。

○ 準備

教師側：バンブーダンス用竹  
「ウンパッパ」の拡大楽譜  
打楽器

### 〈各活動の子どもの見取りと支援〉

【子どもの見取りの観点】

- ◎ どうやったら「ウンパッパ」にあった踊りができるか、踊りを考えようと問いをもととしている。

【支援】

- ※ 各グループで活動できるよう、複数の竹を準備する。
- ※ 全員が踊ることができるように10人一組でグループを構成する。
- ※ 時間いっぱい、グループ全員が練習できるように練習用のテープを床に貼っておく。

【子どもの見取りの観点】

- ◎ モデルのビデオの鑑賞を通して、一歩目に力が入るということに関連した発言をしている。

【支援】

- ※ 一拍目を意識付けできるように、一拍目のふりを大きくしたモデルのビデオを準備する。
- ※ 自分達の踊りとの違いを見つけるという鑑賞の観点を提示する。

【子どもの見取りの観点】

- ◎ 楽器や、身振り手振りを加えて、一拍目を意識した踊り方を試そうとしている。

【支援】

- ※ どの部分で踊りの工夫をするか確認するために、拡大楽譜を準備する。
- ※ バンブーダンスを踊っている様子を写した写真を提示したり、楽器を準備したりして、子どもたちが多様な踊り方の工夫ができるように、場を設定しておく。

【子どもの見取りの観点】

- ◎ 三拍子の拍感に関する発言をしている。
- ◎ 他のグループの発表をみて、他の踊り方も積極的に試してみようと試そうと発言している。

【支援】

- ※ 強・弱・弱の拍感を感じて踊ることができるようになったことに気づいていることを賞賛する。
- ※ 新たな問いに対して、積極的に取り組もうとする姿勢を賞賛する。

使える読み方を見通しながら課題を追究していく「問い」の深化型の学習

## 第3学年1組 国語科学習指導案

指導者 光 延 正 次 郎

単 元 まとまりに気をつけて読もう～道具を使う動物たち～

### 指 導 観

#### 本単元について

本単元は意味段落の要点をとらえながら、動物たちそれぞれが道具を使う様子を読むことをねらいとしている。具体的には、①自分の知識・経験を手がかりにしたり、ことばと写真・ビデオを結び付けたりしながら、動物が道具を使う様子を具体化すること、②具体化した動物が道具を使う様子をほかの動物たちの道具を使う様子と比較することにより、その違いを明らかにすることが主な学習内容である。

「道具を使う動物たち」は、4種類の動物の道具を使う様子が具体的に書かれているので、動物それぞれの道具を使う様子を違いを、子どもたちは興味をもって読み進めると考える。

#### 本学級の子どもたちについて

本学級の子どもたちは、文章をたどりながら順序よく書かれている事柄を読むことはできるようになってきた。しかし、文章をまとまりごとの意味段落に分けたり、意味段落の要点をとらえて読むまでには至っていない。これは、意味段落の要点をとらえる読み方が確実に身に付いていないからである。そこで、国語科学習の充実期にあたり、知的能力も発達し、学校等での体験により自主性も増してくるこの期に本単元を設定する。このことは、幅広く読書しようとする態度を育てる上でも意義深い。

#### 本単元の指導について

本単元の指導にあたっては、どんな読み方をしたらよいか見通しながら、課題「動物が道具を使うことはすごいことなのか」を追究させ、意味段落の要点をとらえる読み方を使うことができるようにしたい。この読み方を具体化すると次の3つとなる。①自分の知識・経験と比べて場面の様子を具体化する読み方、②ことばと写真・ビデオを結び付けて場面の様子を具体化する読み方、③前段落と比べ場面の様子の相違点をとらえる読み方である。

#### 目 標

- 1 課題をもって意欲的に「道具を使う動物たち」を読み、動物たちの道具の使い方について自分が読み取ったことを進んで話し合うことができる。
- 2 自分の知識・経験と比べたり、ことばや写真・ビデオを結び付けたり、前段落と比べたりする読み方を使いながら、動物が道具を使う様子を読み取ることができる。

#### 計 画 (約8時間)

階	主 な 学 習 活 動	時 間
つ か む	1 自分と道具を使う動物たちを比べ、読むめあてについて話し合う。 ○ 道具を使う動物たちの様子(すごさ)に向かう課題意識をもつこと ※ 自分と比較しながら、動物が道具を使うことがすごいことなのか考えさせる。	2
	2 読みの課題に沿って、意味段落ごとに道具を使う動物の様子を読む。 (1) 石を道具として使うエジプトハゲワシとラッコの様子を読む。 ○ どの読み方が見えそうか見通せるようになること ※ 流れ図をもとにこれまで学んだ読み方を想起させ活用できるようにする。	4
ふ か め	(2) とげを道具として使うキツキフィンチや、いろいろな場合に道具を使うチンパンジーの様子を読む。 ○ 使える読み方を見通しながら課題を追究すること ※ 学んだ読み方のうち、どれが見通す場面を設定する。	② 本 時 2 / 2
	3 道具を使うほかの動物について書かれている本を読む。 ○ 意味段落の要点をとらえる読み方をほかの文章でも活用できるようにすること ※ 本という形で副教材を提示することにより、読み方を確かなものにする。	②

## 本時の学習活動の展開

### 本時授業の目標

- 石を道具に使うラッコの様子について自分が読み取ったことを進んで話し合うことができる。
- 自分の知識・経験と比べる読み方や、ことばと写真・ビデオを結び付ける読み方、前段落と比べる読み方が使えそうなことを見通し、課題を追究することができる。

1 エジプトハゲワシとラッコの写真から読むめあてについて話し合い、どんな読み方が使えそうか見通す。

(1) 石を道具に使う動物であるエジプトハゲワシとラッコの写真を比較し、読むめあてについて話し合う。

○ ラッコのすごさを読んで見つけたいという思いをもつこと

☆ 石を道具に使うラッコにもすごいところがあるのかな。

### 本時のめあて

石を道具に使うラッコにもすごいところがあるのかさがしてみよう。

(2) 学んだ読み方のうちのどの読み方が使えそうか見通す。

○ どの読み方が使えそうか見通しをもつこと

☆ この読み方でラッコのすごいところを見つけよう。

2 自分の知識・経験や写真・ビデオを手がかりにしたり、エジプトハゲワシと比べたりしながら、ラッコのすごさを読み取る。

(1) 自分の知識・経験や写真・ビデオを手がかりにしながら、石を道具に使うラッコのすごいと思うところに色シールを貼る。

○ ラッコが石を道具に使う様子を具体化すること

☆ ラッコが石を道具に使う様子がよく分かったぞ。

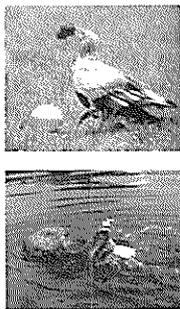
(2) ラッコとエジプトハゲワシの相違点について話し合う。

○ ラッコの段落の要点(ラッコのすごさ)をとらえること

☆ 石を道具に使っているところはエジプトハゲワシと同じだけど、ラッコは用途により石を使い分けているところがすごい。

ラッコは、用途により、石を使い分けているのが、すごいんだ。

ラッコは、アワビをはぎ取るときには先がとがった石を、二枚貝の口を開けるときは平たい石を道具に使っている。



同じように石を道具に使う動物

3 ラッコとエジプトハゲワシを比較しながら、ラッコのすごさを「○○作戦」と短文にまとめる。

○ ラッコのすごさを自分の言葉で説明すること

☆ 使い分け作戦です。わけは、アワビをはぎ取るときと二枚貝の口を開けるときとで、石を使い分けているからです。

### 準備

教師側：前単元・前時までの流れ図、写真、色シール、文カード、学習プリント、ビデオ

### <各活動の子どもの見取りと支援>金

#### 【子どもの見取りの観点】

◎ 石を道具に使うラッコのすごいところを見つめたいと表現(話す・書く)している。

#### 【支援】

※ 同じように石を道具に使うエジプトハゲワシとラッコの写真を比較させて、ラッコにもすごいところはあるのか予想させる。

※ 流れ図をもとに、学んだ読み方のうち、どれが使えそうか、どのようにしたら使えそうか見通させる。

#### 【子どもの見取りの観点】

◎ 自分の経験や写真を手がかりにしながら、石を道具に使うラッコのすごいところに色シールを貼っている。

#### 【支援】

※ 自分と比べてすごいと思うところにはピンクのシールを、ことばと写真を結び付けてすごいと思うところには水色のシールを貼っている。

※ 石でたたいてアワビをはぎ取ったり、平たい石に打ちつけて二枚貝の口を開けたりしているラッコのさし絵やビデオを外部情報として提示する。

#### 【子どもの見取りの観点】

◎ ラッコは、アワビをはぎ取るときと二枚貝の口を開けるときとで、石を使い分けているのがすごいんだと発表している。

#### 【支援】

※ 石を道具に使うエジプトハゲワシの様子を思い出せないときには、前時学習の流れ図を参考にしよう助言する。

#### 【子どもの見取りの観点】

◎ ラッコのすごさを「○○作戦」と自分で考えて命名して表現(話す・書く)している。

#### 【支援】

※ 前時のエジプトハゲワシと比較させながら、「○○作戦」と短く命名させる。

習得した科学的な見方考え方をものづくりに活用する「問い」の深化型の学習  
**第4学年2・3組 理科学習指導案**

指導者 今泉伸一郎

単元 **空気のパワーを体感しよう**

指導観

本単元について

本単元は、空気や水を容器に閉じ込めて外から押し縮めるように力を加えて、空気や水のかさの変化を調べ、空気や水はそれぞれ違った性質があるという見方や考え方をもちょうにするのがねらいである。本単元は、空気ロケットについて空気や水の性質の違いについて「問い」を生み出し、さらにもものづくりを通して「問い」が深化する仕組みをもたせることで知的好奇心が高まり学ぶことへの必要感が生まれ、科学的な思考が発揮される上で価値高い。

本学級の子どもたちについて

本学級の子どもたちは、これまで空気を入れた玩具を使って遊び、手ごたえや反発することなどを体感している。しかし、それが空気の性質であるという考えはもっていない。また、自然事象やその変化について調べようとするとき、変化の要因を見出し、その要因をもとに事象の変化を自分で工夫して再現しようとする態度は育っていない。そこで空気や水の存在を押し縮めたり、手ごたえを感じたりして確かめ、それを再現するといった活動を取り入れる。

本単元の指導について

本単元の指導にあたっては、まず、中身の見えない空気ロケット発射のデモンストレーションを観察し、よく飛ぶ空気ロケットへのものづくりに対する学びの動機付けを行う。また、自然事象の要因となる空気と水を特定し、それらの性質についての「問い」を生み出し見通しをもつようにする。次に、空気と水の縮み具合と元に戻る性質の違いを観点に物の性質について調べるようにする。その際モデルによって思考を具体的に表出し、対立する相互の考えの違いについて明らかにする説明活動を位置付ける。最後に、空気と水の量の比についての「問い」を観点とした空気ロケット作りを行い、習得した自然のきまりを活用して問題を解決できるようにする。

目標

- 1 空気と水の性質の違いについて意欲的に調べ、空気ロケット作りに活用することができる。
- 2 閉じ込めた空気は縮めることができ、元に戻ろうとする力が働くが、水は押し縮められないことを実感する。

計画 (約7時間)

時	主な学習活動	時間
1	1 中身の見えない空気ロケットを飛ばすデモンストレーションを観察する。 ○ 自然事象の要因を特定すること ※ 空気ポンプとロケットから噴射されるものから要因について話し合わせる。	1
2	2 空気や水の性質について調べる。 (1) 空気と水の性質の違いを調べる。 ○ 空気と水を調べる観点を特定すること ※ チューブロケットを用いて水と空気での飛び方の違いを体感させる。 (2) 空気の性質について調べる。 ○ 空気は押し縮められ、元に戻ろうとする力がはたらくこと ※ 粒子モデルを用いた説明活動を位置付け、洗腸器内の空気の縮み具合をスポンジで視覚化して観察させる。 (3) 水の性質について調べる。 ○ 水は押し縮められないこと ※ 水の性質との違いを観点にモデルを用いた説明活動を位置付け対立を起こす。	4 ② 2/2 本時 ①
3	3 よく飛ぶ空気ロケット競争を行う。 (1) よく飛ぶ空気ロケット作りを行う。 ○ 水と空気の性質の違いを活用すること ※ 空気ロケットを準備し、空気と水の量比を観点に試行錯誤させる。 (2) 空気ロケット競争を行う。 ○ ロケットの飛びで自己評価すること ※ 空気と水の性質の違いを観点に空気ロケットの飛び方と関係付ける。	2 ① ①

## 本時の学習活動の展開

### 本時授業の目標

- 空気だけ、水だけのアクリルパイプ弾の弾の飛び方の違いを空気と水の性質の違いを観点に意欲的に調べることができる。
- 空気だけのアクリルパイプ弾は水だけのアクリルパイプ弾よりよく飛ぶのかを水と空気の性質の違いから見出すことができる。

1 空気ロケットのデモンストレーション見学で特定したロケットが飛ぶ要因である水と空気の性質について話し合う。

○ 空気と水の性質について調べる見通しをもつこと

☆ 空気ロケットは先生が空気ポンプを使って飛ばしていたからきっと空気がある。それにロケットから水が噴射されていたから水も関係があるはずだ。

☆ どうして空気と水が必要なんだろう。例えば、空気だけ、水だけでは空気ロケットは飛ばないのかな。

### 本時のめあて

空気だけのアクリルパイプ弾、水だけのアクリルパイプ弾の飛び方のちがいについて調べよう。

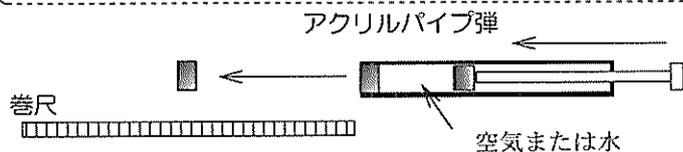
2 空気だけでのアクリルパイプ弾、水だけのアクリルパイプ弾での弾の飛び方の違いを定量的に調べる。

(1) 空気だけでのアクリルパイプ弾、水だけのアクリルパイプ弾での弾の飛び方の違いについて予想したことを話し合う。

○ 飛び方の違いを観点に抽象モデルを用いて考えをつくること

☆ 空気だけのの方が水だけよりも弾を遠くへ飛ばせると思います。わけは、空気ロケットは空気ポンプで空気をたくさん入れていたからです。

☆ 私は、空気だけと水だけのアクリルパイプ弾は飛び方は変わらないと思います。わけは、どちらもかさは変わらないと思うからです。



(2) 空気だけでのアクリルパイプ弾の飛び方について調べる。

○ 空気だけの時の飛び距離を観点に定量的に調べること

☆ 空気だけの時弾は、何度やっても1mほど飛んだ。

(3) 水だけでのアクリルパイプ弾の飛び方について調べる。

○ 水だけの時の飛び距離を観点に定量的に調べること

☆ 水だけの時は、何度やっても10cmほどしか飛ばなかった。

3 実験結果から空気と水の性質の違いについて行う。

○ 弾の飛び方の違いは、空気と水の閉じ込められた時の縮み具合とともに戻る力であることに気付くこと

☆ アクリルパイプの中の空気は縮んでバネのように元に戻ろうとするからよく飛ぶんじゃないかな。水は縮まないから飛ばない。

○ 準備

教師側：アクリルパイプ 前弾後弾 巻尺

児童側：筆記用具

### ＜各活動の子どもの見取りと支援＞

【子どもの見取りの観点】

◎ 空気ロケット飛ばしのデモンストレーションの様子から根拠をもってロケットが飛ぶ要因を特定する発言をしている。

◎ 空気だけ、水だけにこだわった空気ロケットの飛び方についての発言をしている。

【支援】

※ 空気ロケット飛ばしのデモンストレーションの様子を想起させ、空気と水を観点に話し合わせる。

【子どもの見取りの観点】

◎ 空気だけの方がよく飛ぶ、水だけの方がよく飛ぶ、どちらも変わらないという3つの立場について理由を根拠をもって発言している。

◎ 自分が3つの立場のうちどの立場なのかを明らかにしている発言やノートの記述をしている。

【支援】

※ 対立の構造をつくり、調べる必要感をもたせるために3つの立場とその根拠の違いについて板書で整理する。

※ 自分がどの立場なのかを明確にするために机間指導の際に助言する。

【子どもの見取りの観点】

◎ 空気だけのアクリルパイプ弾と水だけのアクリルパイプ弾の弾の飛び方に着目して距離を調べている。

【支援】

※ 空気だけの時の弾の飛び方を調べる場、水だけのチューブ弾の飛び方を調べる場をそれぞれ設け、2グループに分け交互に調べるようにする。

※ 定量的に調べることができるように弾の飛び距離を観点に巻尺で測り取る。その際、飛ばす役、測り取る役、記録する役を班で分担する。

【子どもの見取りの観点】

◎ 弾の飛び方の違いを空気や水の性質を観点に発言している。

【支援】

※ 空気の入れ方、押し出される時の様子、空気と水のアクリルパイプに入る量について発問する。

紹介のタスク活動において選択性を重視した「問い」の拡充型の学習

## 第5学年2組・第6学年3組 英語活動指導案

指導者 田中 健悟/セバウンかおり/Matthew Love

題材 Let's expand the circle of friends.

### 指導観

#### 本題材について

本題材は、相手に対していろいろと質問したり、相手からの質問に応えたりする言い方に慣れ親しむことをねらいとしている。具体的には、①好きなスポーツや趣味、食べ物等を尋ねたり応えたりする英語表現に慣れ親しむこと、②誕生日がいつなのかを尋ねたり応えたりする英語表現に慣れ親しむこと、③住んでいる場所を尋ねたり応えたりする英語表現に慣れ親しむこと、④質問した人の紹介ができることなどである。ここでは、「What, When, Where」を用いた質問に慣れ親しみ、英語表現を用いて自己紹介や他者紹介ができるようにしていく。

#### 本学級の子どもたちについて

本学級の子どもたちは、これまでに、好きな色や果物について質問をしたり応えたりすることを学んできている。しかしまだ、質問をいくつか組み合わせで尋ねたり、自己紹介でそれらを組み合わせで紹介したりするまでには至っていない。そこで、本題材では、自己紹介や他者紹介に必要な簡単な質問を通して、コミュニケーションを図ることができるようにする。このことは、簡単ではあるが、双方向のコミュニケーションを成立させる上で意義深い。

#### 本題材の指導について

本題材の指導にあたっては、「分析段階」でALTがモデル演示として行う自己紹介や他者紹介に出合わせ、学習のゴール像に対するイメージをもたせる。そして、紹介に関する分析を行い紹介に必要な「質問の英語表現」をそれぞれタスク活動として取り上げ、「問い」の拡充を行う。次に「習得段階」では「何」「いつ」「どこに」の質問に慣れ親しむためのカードゲームやインタビューゲームを行う。最後に「活用段階」では、英語表現を用いて友達を紹介をしたり、紹介文から誰のことかを当てるゲームを行ったりして友達の輪を広げていく。

#### 目標

- 1 質問の英語表現をもとに、友達に質問を進んで行ったり、質問に応えたりする活動に意欲的に取り組むことができる。
- 2 「What, When, Where」を用いた質問に慣れ親しみ、相手とのコミュニケーションを図るための道具として組み合わせて使うことができる。

#### 計画 (約5時間)

階	主な学習活動	時間
分 析	1 ALTが行う自己紹介や家族紹介を聞いて、これからの紹介カードづくりについて必要なことを話し合う。 ○ インタビュー活動の見通しをもつこと ※ 「What, When, Where」のように「W」の付く質問が多いことに気付かせる。	1
	2 紹介カードを作成するために、質問したり応えたりするタスク活動を行う。 (1) 好きな食べ物や趣味について質問したり応えたりする。 ○ 「What」を使う質問とそれに対応する応え方に慣れ親しむこと ※ カルタ取りゲームやインタビューゲームなどのタスク活動を設定する。 (2) 誕生日と住所の質問・応答をする。 ○ 「When, Where」を使う質問とそれに対応する応え方に慣れ親しむこと ※ ゲームのタスク活動を設定する。	2 ①
習 得	3 英語表現を用いて他者紹介を行う。 (1) 他者紹介のための紹介カードづくりをするために、友達に質問をする。 ○ 英語で質問を組み合わせで行うこと ※ 英語表現を忘れた場合は、録音した声を機器で再現できるようにする。 (2) 他者紹介とゲスフーゲームをする。 ○ HeやHerを使い他者紹介ができること ※ これまでのインタビューカードをもとに紹介カードをつくらせる。	2 ① 本時
	活 用	

## 本時の学習活動の展開

### 本時授業の目標

- 紹介カードを使って多くの友達にインタビューしながら、誰の紹介カードなのかを当てる活動に意欲的に取り組むことができる。
- 「What, When, Where」のつく質問を組み合わせて行ったり、質問に応えたりすることができる。

### 1 ALTが行うインタビューゲームの方法について話し合う。

- (1) 前時までに行ってきた「What, When, Where」を使った質問を振り返るための練習を行う。

○ 「W」がつく質問の英語表現を想起すること

☆ 何が好きかは、「What ~ do you like ?」を使うんだっとな。

- (2) 紹介カードを使ったインタビューゲームの方法を話し合う。

○ インタビューゲームの方法を見通すこと

☆ 誰の紹介カードかをインタビューしながら探すんだな。

### Today's topic

Let's play the interview game.

### 2 質問と応答を繰り返しながらインタビューゲームを行う。

- (1) 紹介カードを5枚もらい、そのカードが紹介している人をインタビューをしながら時間内にできるだけ多く探し当てる。

○ これまでに使ってきた質問の英語表現を組み合わせて使うこと

☆ この紹介カードは、誰の紹介をしているものかな？

「She likes sushi (すし).」と書いてあるから、おすしが好きな女子を、英語を使って見つけないといけないな。

【紹介カードーだれのことを紹介しているのかな？】

	His hobby is fishing.		Her hobby is swimming.
	His birthday is in April.		Her birthday is in June.
	He lives in Nishijin-cho.		She lives in Atago-cho.
	He likes orange juice.		She likes sushi.

- (2) 紹介カードを使って、代表者がその人の紹介に関するヒントを出しながら友達当てクイズ(ゲスフーゲーム)を行う。

○ 「What, When, Where」を使って紹介をしながら誰のことを当てる友達当てクイズの活動を楽しむこと

☆ 誰の紹介をしようかな？

・ His hobby is reading. He likes banana. Who is he ?  
→ Aoki - kun ? Yes, he is.

・ Her birthday is in May. She lives in Daimyo-cho. Who is her ?  
→ Kojima - san ? Yes, she is.

### 3 参観者の先生方に名前やどこから来たのかを英語で尋ね、自己紹介をする。

○ 初めての人と英語でコミュニケーションを図ろうとすること

☆ 初めて会う人に英語で尋ねたり、自己紹介したりしてみたいな。

遠くからやってきてそうだな。尋ねてみよう。

### ○ 準備

教師側：子ども一人一人の紹介カードのセット、音声再生機器

児童側：ノート

### <各活動の子どもの見取りと支援>

#### 【子どもの見取りの観点】

◎ 「What, When, Where」を声に出して、練習を熱心に行っている。

#### 【支援】

※ ALTにテンポよく話してもらい、耳で聞いて想起できるようにする。

#### 【子どもの見取りの観点】

◎ ALTがやって見せているインタビューゲームの様子を熱心に観察している。

#### 【支援】

※ ALTとのやりとりでゲームの進め方やその意味がよくわかるように、紹介カードの大きなものを準備しておく。

#### 【子どもの見取りの観点】

◎ 自分に配られた紹介カードを頼りに英語で質問をしたり、質問に応えたりしながら、相手を探している。

#### 【支援】

※ 趣味や好きな食べ物などの英語がわからなくなったら、ALTに尋ねたり、ノートを見たりすることができるようにしておく。

※ 英語表現については、音声機器を使って再生可能にしておく。

#### 【子どもの見取りの観点】

◎ 出題者になって友達を紹介しようとすることに意欲的取り組み、誰のことを当てるために英語でのヒントを熱心に聞き取っている。

#### 【支援】

※ 子どもが友達の誰かの紹介を一つ一つ丁寧に言うために、ALTに紹介を一文ずつ繰り返してもらおうようにする。

#### 【子どもの見取りの観点】

◎ 初めて会う人に対しても、自分から進んでどこから来たのかを尋ねたり、自己紹介をしたりしている。

#### 【支援】

※ 参観者の先生方にシールを渡し、質問や自己紹介がうまくできたら評価としてシールを子どもたちに渡しってもらうように準備しておく。

事例と意見の関係を追究し続ける「問い」の深化型の学習

## 第6学年1組 国語科学習指導案

指導者 平島健二

単元 筆者の意図を解明しよう～なぜ、イースター島だったのか～

### 指導観

#### 本単元について

本単元は、題材や題名、文章構成等、筆者の意図を確かにしながら、自分の考えを広げ深めることをねらっている。具体的には、①筆者の意見と事例との関係を追究する課題をもつこと、②関連教材から情報を取り出し、筆者の意図を読み取ること、③根拠をもって解釈することが主な学習内容である。

「イースター島にはなぜ森林がないのか」は、大きく3つのまとまりで構成され、人類の文化のあり方を論説している。イースター島の文化の在り方と筆者の意見をつなぐ情報を取り出し、補完しながら筆者の意図を解釈していくのに適した文章である。

#### 本学級の子どもたちについて

本学級の子どもたちは、段落相互の関係を考え、中心的事柄を読み取り、要旨をとらえることができるようになってきている。また、意見の根拠を問う読み方、既知の情報を付加する読み方を学んできている。しかし、事例の取り上げ方や文章構成等の筆者の意図を他の情報を補完して、解釈していく読み方、つまり、筆者の見方・考え方に自分の立場から感想を深めていくまでには至っていない。そこで、自分の問いに必要な情報を取り出し、判断・解釈したりしながら感想を深めていくという筆者の意図を明かにする読み方を身につけさせたい。

#### 本単元の指導について

本単元の指導にあたっては、文章構成を手がかりに情報を補完しながら、筆者の意図を読み取り、自分の考えを広げ深めることができるようにしたい。つかむ段階では、中心教材に出合わせ、筆者の意図に関わる課題を捉えさせる。深める段階では、筆者の意見に対して事例は妥当なのか、筆者の意見は妥当なのか、必要な情報を補完したり比較したりしながら解釈していく。生かす段階では、考えを整理して読みを評価し、充実感を味わわせる。

#### 目標

- 1 筆者の意図を追究しようと、中心教材を読んだり自分の問いをはっきりさせて文章を選択したりしながら、自分の読み方をつくることができる。
- 2 筆者の意図を文章構成や表現の工夫などからとらえ、情報を補完・比較して筆者の考えに対する自分の感想を深めることができる。

#### 計画（約9時間）

階	主な学習活動	備
つかむ	1 「イースター島にはなぜ森林がないのか」との出会いから筆者の意図についての学習課題をとらえる。 ○ 題名から関心を高めて通読し、筆者の述べ方について課題をもつこと ※ 簡単な構造図をつくり、事例と意見に隔たりがあることに気付かせる。	2
深める	2 学習課題をもとに「イースター島にはなぜ森林がないのか」を読み深める。 (1) 意見の根拠となる事例の背景について「まとめ」とつないで読み取る。 ○ イースター島がどんな島だったのか、その特質を読み取ること ※ 文章構造図をもとに問いを生み出す。 (2) 意見の根拠となる事例の意味について「まとめ」とつないで読み取る。 ○ イースター島の人々の行為と森林が消えた原因の関係を読み取ること ※ 事例とまとめを構造図に位置付ける。 (3) 情報を補完したり事例と意見をつないだりしながら、空所を追究し筆者の意図について話し合う。 ○ 筆者の意図を読み取ること ※ 事例と意見をつなぐ情報を準備する。	5 ① ③
生かす	3 筆者の意見や意図に対して自分の考えを書きまとめる。 ○ 情報を判断し考えを広げ深めること ※ 学習課題を具体化した視点を与える。	① 本時 2

## 本時の学習活動の展開

### 本時授業の目標

- 筆者の意図にかかわる問いを明らかにして、解明しようとする意欲をもち、自分の考えが深まったことに自信をもつことができる。
- 自分に必要な情報を選択したり比較したりしながら筆者の意図をとらえ、自分の読み方を創ることができる。

### 1 前時までの学習を想起し、本時学習のめあてを話し合う。

- イースター島の人々の行為と結果を追究してきたことを想起し、本時学習のめあてを把握すること

☆ 今後の人類の存続を述べるために、なぜイースター島を事例に取り上げているのかな。現代人はどんな関係にあるのだろうか。

### 本時のめあて

イースター島の人々と現代人の関係を読み比べて空所を埋め、筆者がイースター島の事例を取り上げた意図を解き明かそう。

### 2 イースター島の人々と現代人との関係について、補助資料と読み比べたり情報を補完したりしながら、空所を書き足して、筆者の意図を読み取る。

- (1) 補助資料と読み比べながら、自分に必要な情報を取り出し、事例と意見の関係を考え、空所を書き足す。

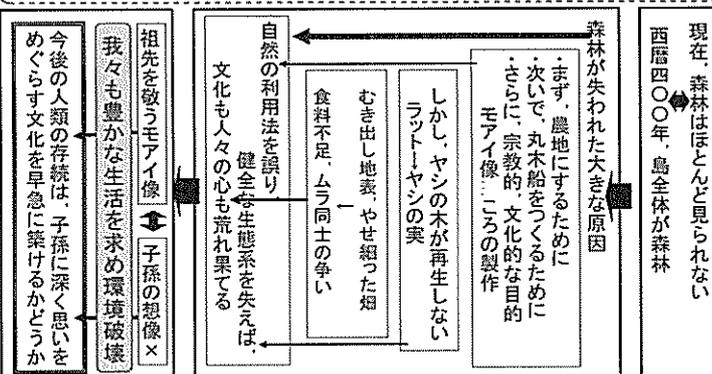
- 事例と意見の関係を情報を取り出し判断して読み取ること

☆ 豊かな生活を求め、環境を破壊していることがイースター島の人々と同じ。現代人も同じ道をたどるのではという事例なんだ。

- (2) 筆者の意見の意味について、情報を補完しながら熟考する。

- 「早急に」ということばに、筆者の思いの大きさがこめられていることを読み取ること

☆ 現在の環境破壊は危機的状況になっている。もうのんびりしている時間はないから、筆者は「早急に」と呼びかけているんだ。



### 3 文章を選択し自分に必要な情報を取り出して、読み取ったよさや自分が解き明かしたことについて考えを書きまとめる。

- 自分で読みの学習を創り、読み深めたことの意義を感じ、情報を取り出したり判断・熟考したことへの自信をもつこと

☆ 現代の環境破壊とイースター島を比べる読み方をしたことで、筆者の意見がよくわかるし、自分で解き明かすことができたぞ。

### ○ 準備

教師側：板書用カード、流れ図、拡大本文、選択教材文

児童側：学習ノート

### <各活動の子どもの見取りと支援>

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 追究課題を把握し、意見が飛躍し省かれているまとまりがあることを想起し、話したり書いたりしている。

#### 【支援】

- ※ 流れ図をもとに、文章構成を想起したり、題名・事例・意見のつながりについて確認したりする。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ イースター島の人々が自然の利用方法を誤り、生態系を傷つけてきたために文化も人々の心も荒れ果たてたことを話したり書いたりしている。

#### 【支援】

- ※ 流れ図をもとに、事例のまとめと事例をつないで焦点化する。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 補助資料を読みながら、イースター島の人々と現代人が重なっている情報を取り出し、自分で意味づけながら空所に書き込んでいる。

#### 【支援】

- ※ 自然の利用方法と生態系の破壊という観点から補助資料を提示し、それぞれ情報を加工できるようにする。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 補完した情報から現代の環境破壊や生態系の破壊の深刻さを「早急に」ということばの根拠として、話したり書いたりしている。

#### 【支援】

- ※ 「早急に」ということばに着目させ、筆者がわざわざこのことばを使っているわけを考えさせ、筆者の思いを想像させる。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 筆者がイースター島を取り上げた意図や人類の文化の在り方への思いが、情報を補完して熟考する読み方でよくわかるという内容で書きまとめ、自分の読み方を評価している。

#### 【支援】

- ※ 書きまとめやすいように、筆者の意図、読み方等の観点を与える。

状況判断をし、友達と協力して逃げる、追いかける動きを創る「問い」の深化型の学習  
**第1学年2組 体育科学習指導案** (1・2年ふじ組との交流及び共同学習)

指導者 毛利拓也(T2) 下川勝彦(T1)

単元 **おにをかわしてボールをはこぼう -すりぬけおにあそび-**

指導観

本単元について

本単元は、ボールを持った逃げる側が追いかける側(鬼)をすり抜けて目標となる得点板までたどり着くことで得点となる鬼遊びである。本単元のねらいは、相手の位置や動きを見て自分の動く方向や速さを判断しながら、相手をかかわす(避ける)動きや左右に素早く動いて相手を追いかける動きを創っていくことである。また、ゲームを通して手順やきまりを理解したり、仲間や相手を意識しながらかわりを広げたり、深めたりしていくこともねらっている。

本学級の子どもたちについて

本学級の子どもたちは、逃げたり追いかけたりする遊びに興味をもっている。また、逃げる、追いかけるなどの簡単な遊び方についてはある程度理解して、相手を意識しながら逃げたり追いかけたりすることができる。しかし、相手の動きに合わせて自分の動く方向を素早く判断したり相手の動く方向を予想したりすることは十分にできない。そこで、場の変化や相手の位置から状況を判断するような鬼遊びを設定して、逃げたり追いかけたりする動きを多様に創り出すことができるようにしたい。

本単元の指導について

本単元の指導にあたっては、対戦相手の人数を変えたりゲームの場を変えたりして、自分で判断しながら逃げる、追いかける動きを創ることができるようにする。「であう」段階では、新たな鬼遊びに出合わせ、試しのゲームを通して、活動の手順やきまりを理解させるとともに動きを体験させる。「ひろげる」段階では、活動の場や相手の人数を変化させることによって、逃げる、追いかける動きを引き出していく。「いかす」段階では、ゲーム大会を行って、今までに獲得した動きを発揮させることによって、満足感や達成感を味わえるようにする。

目標

- 1 活動の手順やきまりを理解し、2組やふじ組の友達と協力したり、教え合ったりしながら「すりぬけおにあそび」を楽しむことができる。
- 2 場や対戦相手の人数による新たな状況の変化に応じて自分で動き方などを判断しながら逃げる、追いかける動きを創り出すことができる。

計画 (約6時間)

階	主な学習活動	備
であう	1 新たな鬼遊びと出合い、試しの活動をしながらか動きを体験する。 ○ 鬼遊びで必要な逃げる追いかける動きをつかむこと ※ 試しのゲームで動作補助やモデル演示によって手順や動き方をつかませる。	2
	2 チームで力を合わせてゲームをする。 (1) すりぬけが2つの場でゲームをする。 ○ コースと相手の位置から自分が動く方向を判断して動きを創ること ※ すりぬける2カ所を判断して動くための動作補助とモデル演示	3
ひろげる	(2) すりぬけが3、4カ所の場で動く方向を判断しながらゲームをする。 ○ 空いているコースと相手の位置から前後左右に細かく動いて逃げたり追いかけたりすること ※ 相手の動きを意識させるための声かけやすりぬけ方の友達同士のモデルの演示	①
	(3) 自由にぬけられる場でゲームをする。 ○ 進む方向やタイミングを多様に判断して逃げたり追いかけたりすること ※ 相手の動きをよく見るような声かけ	①
いかす	3 創った動きをいかして大会をする。 ○ これまでの判断や動き方をいかしながら逃げたり追いかけたりすること ※ これまでの動きを想起させるような声かけやモデル演示	1

## 本時の学習活動の展開

### 本時授業の目標

- チームで得点を多く取るために、友達と動きの教え合いや声のかけ合いをしながら2組やふじ組の友達と協力して「すりぬけおにあそび」を楽しむことができる。
- すりぬける所が4つの場において友達と楽しく鬼遊びをしながら、相手の位置や動きに応じて、逃げたり追いかけたりする動きを高めていくことができる。

1 これまでの「すりぬけおにあそび」を振り返り、本時のめあてについて話し合う。

○ これまでの「すりぬけおにあそび」と新たな場での試しの「すりぬけおにあそび」を行い、動き方の違いに気付くこと

☆ あたらしい ばしよでは、すすむ みちが ふえたけれど とくてんを たくさん とれるように うごくぞ。

### 本時のめあて

3つや 4つの みちから 1つの みちを えらぶ ばしよで うまく にげたり おいかけたり しよう。

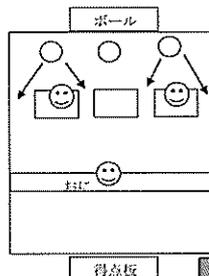
2 新しいルールやコートで、楽しく「すりぬけおにあそび」をする。

(1) 3対3での対戦で「すりぬけおにあそび」をする。

○ 1つの進む道を判断して逃げること

### すりぬけおにのきまり

- 鬼は、決まったエリアしか動けない。
- タグをとられたら始めからやり直し。
- すりぬけたら得点板にボールを置く。



☆ あいてをみて すばやく うごこう。

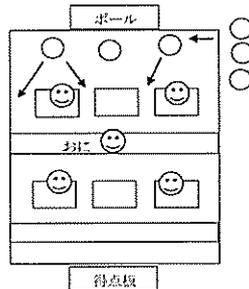
(2) 6対6での対戦で「すりぬけおにあそび」をする。

○ 連続して相手のいる位置やすりぬけるタイミングを判断して動くこと

☆ いままでの うごきかたを つかってみよう。

☆ まえよりも たくさん とくてんをとれるように にげるぞ。

☆ おともだちにも にげかたを おしえてあげよう。



3 ゲームを振り返り、逃げる、追いかける動きの高まりについてモデル演示をして話し合う。

○ 左右に細かく動いたり、相手のいる位置を見て素早く走り出したりする動きのよさを実感すること

☆ むずかしい ばしよでも とくてんが できたぞ。

### 準備

教師側：得点板、ボール、手順表、鬼遊びの場の図、対戦表、BGM

児童側：タグ、ピブス

### <各活動の子どもの見取りと支援>

#### 【子どもの見取りの観点】

◎ これまでのゲームと本時の場での試しのゲームでの動き方の違いに気付く、発表している。

#### 【支援】

※ 前時の振り返りのゲームと本時の場での試しのゲームを行わせ、本時のめあてをつかませる。

#### 【子どもの見取りの観点】

◎ 相手をよく見ながら先に進んでいくタイミングをはかっている。

◎ 素早く走り出して相手をかわしながら走っている。

#### 【支援】

※ タイミングのはかり方やかわし方について、教師のモデル演示や賞賛の声かけをしていく。

#### 【子どもの見取りの観点】

◎ 相手の動きをよく見ながら、自分がどの方向に動かすか判断して、素早く動き出している。

◎ 体を反らしたり傾けたりしながら相手をかわしながら走っている。

#### 【支援】

※ 教師の声かけや演示、友だちのうまくいった動きの演示の発表などをさせることによって、動き出しやかわし方についてのこつをつかませる。

#### 【子どもの見取りの観点】

◎ 友達のうまくいった動きの演示を見て、動き方のまねをしたり自分の動きを発表したりしている。

#### 【支援】

※ 動きのモデル演示の発表と動き方のよさについて話し合わせて、本時の学習を振り返らせるとともに、次時のゲームへの意欲付けを行う。

自分で状況を判断し、友達とかかわりながら逃げる、追いかける動きを創る学習

## 第1・2学年ふじ組 体育科学習指導案 (1年2組との交流及び共同学習)

指導者 下川 勝彦 (T1) 毛利 拓也 (T2)

単元 おにをかかわしてボールをはこぼう - すりぬけおにあそび -

### 指導観

#### 本学級の子どもたちについて

本学級の子どもたちは、1年生3名、2年生4名の計7名で構成されている。子どもたちは、これまでゲームでは、逃げる、追いかけるなどの簡単なきまりについては理解しながら鬼ごっこなどをしてきている。しかし、集団の中で相手の動きを見ながら自分で動く速さや方向などを判断することは不十分である。そこで、友達とかかわり、場の変化や相手の位置から状況を判断するような鬼遊びを設定することで、友達と一緒に逃げたり追いかけたりする動きを多様に創り出すことができるようにしたい。

#### 本単元について

本単元の「すりぬけおにあそび」は、ボールを持った逃げる側が追いかける側（鬼）をすり抜けて目標となるボール入れ（得点板）までたどりつくことで得点となる鬼遊びである。本単元のねらいは、相手の位置や動きを見て自分の動く方向や速さを判断し、相手をかかわす（避ける）動きや左右に素早く動いて相手を追いかける動きなどを創っていくことである。また、ゲームを通して手順やきまりを理解したり仲間や相手を意識したりしながら友達とかかわりを広げていくこともねらっていきたい。

#### 本単元の指導について

本単元の指導については、対戦相手の人数を変えたりゲームの場を変えたりして、自分で判断しながら逃げる、追いかける動きを創ることができるようにする。「であう」段階では、新たな鬼遊びに出合わせ、試しのゲームで動作補助やモデル演示で基本となる動きをつかませる。「ひろげる」段階では、ゲームの場や対戦相手の人数などの状況を変えて、逃げる、追いかける動きを多様に創らせたい。「いかす」段階では、ゲーム大会を行い、これまでに創りあげた動きを發揮させ、満足感を十分に味わえるようにする。

#### 目標

- 1 活動の手順やきまりを理解し、お互いのがんばりや動きのよさを認め合い、友達とかかわりを広げていきながら鬼遊びを楽しむことができる。
- 2 場や対戦相手の人数により新たな状況の変化から自分で動き方や動く方向などを判断しながら逃げる、追いかける動きを創り出すことができる。

#### 計画 (約6時間)

階	主な学習活動	時
1	<p>1 新たな鬼遊びと出合い、試しの活動をしながらか動きを体験する。</p> <p>○ 鬼遊びで必要な逃げる、追いかける動きをつかむこと</p> <p>※ 試しのゲームで動作補助やモデル演示によって手順や動き方をつかませる。</p>	2
2	<p>2 チームで力を合わせてゲームをする。</p> <p>(1) すりぬけが2つの場でゲームをする。</p> <p>○ コースと相手の位置から自分が動く方向を判断して動きを創ること</p> <p>※ すりぬける2カ所を判断して動くための動作補助とモデル演示</p> <p>(2) すりぬけが3、4カ所の場で動く方向を判断しながらゲームをする。</p> <p>○ 空いているコースと相手の位置から前後左右に細かく動いて逃げたり追いかけたりすること</p> <p>※ 相手の動きを意識させるための声かけやすりぬけ方の友達同士のモデル演示</p> <p>(3) 自由にぬけられる場でゲームをする。</p> <p>○ 進む方向やタイミングを多様に判断して逃げたり追いかけたりすること</p> <p>※ 相手の動きをよく見るような声かけ</p>	3 ① 本時
3	<p>3 創った動きをいかしてゲーム大会をする。</p> <p>○ これまでの判断や動き方をいかしながら逃げたり追いかけたりすること</p> <p>※ これまでの動きを想起させるような声かけやモデル演示</p>	1

## 本時の学習活動の展開

### 本時授業の目標

- 友達とかかわりながら相手の位置や動きに応じて自分が動く方向や速さを判断して逃げる, 追いかける動きを創ることができる。
- (AG): 動作補助やモデル演示により相手を見て走る方向をきめながら逃げる追いかける動きを創ることができる。
- (BG): 主に声かけにより相手の位置を見て左右にステップしながらタイミングを判断して逃げる, 追いかける動きを創ることができる。

1 「すりぬけおにあそび」でのこれまでの動き方を振り返り, 新たな鬼遊びの場での動き方を話し合う。

- これまでの「すりぬけおにあそび」と新たな場での試しの「すりぬけおにあそび」を行い, 動き方の違いに気付くこと

☆ あたらしい ばしょでは, すずむ みちが ふえたけれど とくてんを たくさん とれるように うごくぞ。

### 本時のめあて

3つや 4つの みちから 1つの みちを えらぶ ばしょで うまく にげたり おいかけたり しよう。

2 友達とかかわりながら逃げたり追いかけたりして楽しく「すりぬけおにあそび」をする。

- (1) 3対3での対戦で「すりぬけおにあそび」をする。

- 1つの進む道を判断して逃げること

Aグループ	Bグループ
○ 教師の補助により素早く走り出したり避けたりすること	○ モデルの動きを見ながら素早く走ったり避けたりすること

☆ あいてを みて すばやく うごこう。

- (2) 6対6の対戦で「すりぬけおにあそび」をする。

- 連続して相手のいる位置やすりぬけるタイミングを判断して動くこと

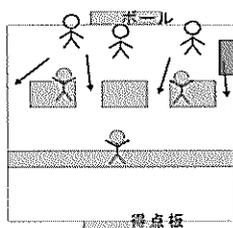
○ 自分で動く方向を決めて素早く走ったり避けたりすること	○ 友達の動きを見ながら動くタイミングをつかむこと
------------------------------	---------------------------

☆ これまでの うごきかたを つかうぞ。

3 ゲームを振り返り, 逃げる, 追いかける動きの高まりについてモデル演示をして話し合う。

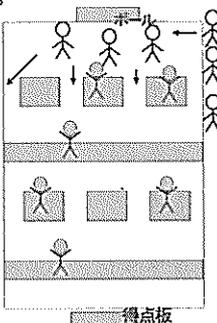
- 左右に細かく動いたり, 相手のいる位置を見て素早く走り出したりする動きのよさを実感すること

☆ むずかしい ばしょでも とくてんが できたぞ。



**すりぬけおにあそびのルール**

- 鬼は, 決まったエリアしか動けない。
- タグをとられたら始めからやり直し。
- すりぬけたら得点板にボールを置く。



### 準備

- 教師側: 得点板, ボール, 手順表, 鬼遊びの場の図, 対戦表, BGM,
- 児童側: タグ, ビブス

### <各活動の子どもの見取りと支援>

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ これまでのゲームと本時の場での試しのゲームでの動き方の違いを発表している。
- 【支援】
- ※ 前時の振り返りのゲームと本時の場での試しのゲームを行わせる。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 相手をよく見ながら先に進んでいくタイミングをはかっている。
- ◎ 素早く走り出して相手をかわしながら走っている。
- (AG): 教師に補助されながら素早く走り出して進んでいる。
- (BG): 教師のモデルの動きを見ながら素早く走り出して進んでいる。
- 【支援】
- ※ AGについては, 教師の動作補助を中心に, BGについては, 教師のモデル演示を中心に支援する。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 相手の動きをよく見ながら, 自分がどの方向に動かか決めて, 素早く動き出している。
- ◎ 体を反らしたり傾けたりしながら相手をかわしながら走っている。
- (AG): 教師に促されながら素早く動いている。
- (BG): 友達のモデルの動きを見ながら素早く動いている。
- 【支援】
- ※ AGについては, 教師の促しや声かけ, BGについては, 友達の動きに注目させての声かけを中心に支援する。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 友達のうまくいった動きの演示を見て, 動き方のまねをしたり自分の動きを発表したりしている。
- 【支援】
- ※ 動きのモデル演示の発表と動き方のよさを話し合わせる。

友達に作り方を説明することで状況に応じてことばを使えるようにする学習

## 第5・6学年梅組 国語科学習指導案

指導者 諏訪原佳子

単元 たのしい七夕かざりの つくりかたを せつめいしよう!

### 指導観

#### 本学級の子どもたちについて

本学級の子どもたちは、発音が不明瞭で主に指さしや一語文で話す子ども、主語+述語の二語文で話す子ども、多語文で話す子どもがいる。どの子どもとのかかわりを好み、自分から経験したことなどを伝えようとする。しかし、前後のつながりがなかったり詳しく話したりできないのでうまく伝わらないこと、一方的だったりパターンが決まっていたりしてやりとりまでにはいたらないことがある。また、相手に伝わったとしても大まかなことは伝わるが詳しい様子や気持ちなどは伝えきれないことも多い。

#### 本単元について

本単元は七夕会で使う招待状や飾りを子どもたち同士で作り方を教え合いながら作っていくものである。まずは、教師が提示した説明書を読んで作ることで、ことばと動きを結び付けるようにする。次に友達に説明するための説明書を作って友達に説明することで、相手に伝わるようにことばを言い換えたり、詳しくしたりできるようにしていく。身に付けたことばを状況に応じて使い分けたり、詳しくしたりすること、相手の反応を見て話すことは日常生活の中でやりとりに生かされてくると考える。

#### 本単元の指導について

本単元の指導にあたっては、みとおす、つかむ、ひろげるの3つの段階で行う。みとおす段階では教師が提示した説明書を読んで作り、ことばの意味をとらえるようにする。つかむ段階では友達と教え合う中で場に応じて違うことばを使ったり詳しくしたりして相手に応じて話せるようにしたり、内容を聞き取ったりできるようにしていく。この際、ペアは発達段階にあまり差がないようにする。ひろげる段階では、さくら組の友達に教えることにかかわる相手を広げていく。さらに作った飾りを七夕会で使い満足感を味わうことができるようにする。

#### 目標

- 招待状や飾りの作り方を友達に教えるという見通しをもって、進んで取り組むことができる。
- 飾りづくりで使うことばがわかり、場に応じて使ったり話の内容を聞き取ったりすることができる。  
(AG)動きを表すことばを使って話すこと  
(BG)順番を知らせることばを使って話すこと  
(CG)大切なところを落とさずに話すこと

#### 計画 (約7時間)

階	主な学習活動	単
みとおす	1 説明書を読んで招待状か飾りのどちらかを作る。 ○ 説明書に書かれていることばの意味をとらえること ※ ねらいとすることばを入れた説明書の提示とそれを見ながら作る活動の設定	3
	2 七夕会で使う飾りの作り方を友達と教え合う。 (1) 友達に説明するための説明書を作る。 ○ 動きを表すことば、順番を表すことば大切なところを示すことばの使い方をとらえること ※ 個に応じたことばカードや手順表、話すとき大切なことを示した掲示物の提示 (2) 友達同士で教え合う。 ○ 相手に応じて繰り返し伝えたり言い換えたり、他のことばを付け加えてより詳しくしたりすることをとらえること ※ やりとりができるグループの設定と個に応じたヒントカードやコミュニケーションカードの提示	3 ② ① 本時
ひろげる	3 さくら組の友達に作り方を教える。 ○ 相手に応じてことばを使ったり、ことばを詳しくしたりすることで、伝えられたという満足感を味わうこと ※ さくら組の友達に作り方を教える場の設定と七夕会での飾り付けの設定	1

## 本時の学習活動の展開

### 本時授業の目標

- 自分が知っている飾りや招待状の作り方を友達に教えようという見通しをもち、意欲的に友達にかかわることができる。
- (AG)動きを表すことばを詳しくして相手に伝えること  
(BG)「最初に、つぎに」など順番を表すことばを使うこと  
(CG)「このとき」などのことばを使い大切なことを知らせること

### 準備

- 教師側：手順表、ヒントカード、ランゲージパル、音声カード  
コミュニケーションカード  
児童側：説明書

### <各活動の子どもの見取りと支援>

1 友達に教えるための説明書を作ったことを思い出し、友達ができるような話し方聞き方について話し合う。

- 詳しく話したり、順番や大切なところを落とさないように話したりしなければいけないという見通しをもつこと

☆ 友達ができるように、詳しく話さないといけないぞ。

☆ 聞き方も大切だな。

### 本時のめあて

しょうたいじょうや かざりを つくろう！  
(きく人) 大切なところは どこか かんがえて きこう。  
(はなす人) ともだちが わかるように はなそう。

2 友達とペアになり、自分の知っている飾りの作り方を教え合う。

(1) 説明用に作った説明書を見て、説明の仕方の確認をする。

- 招待状や飾りの作り方の順番や説明するときに必要となることばをとらえること

☆ 友達ができるように教えるには、どんなことばで、どんな順番で伝えればいいのか。

(2) 説明書をもとにして、工程ごとに友達に説明する。

- 相手に応じて詳しく伝えたり、順番や大切なところを落とさないで話したりすることをとらえること

### Aグループ

- 「つける」「えらぶ」のことばをもとに、相手ができるように「何を」「どのように」のことばを付け加え詳しくすることをとらえること

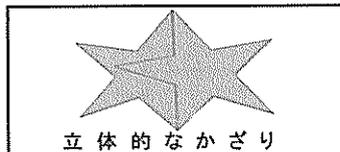
### Bグループ

- 「最初に～します。」「1番目に～します。」など順番を表すことばを相手や場面に応じて使っていくということをとらえること

### Cグループ

- 「そのとき～します。それは～だから。」など大切な部分を理由を加えたり違う言い方をしたりして表すことをとらえること

☆ 順番だけでなく詳しくしたり、言いかえたりすると伝わるな。



3 どのようなことばを使って説明したか話し合う。

- 詳しく話したり、大切なところを落とさないで話したり説明を聞いたからうまく作れたという満足感を味わうこと

☆ やった！友達ができるように話せたから上手にできたぞ。

### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 招待状や飾りの作り方を友達に教えたい教えて欲しいと発言している。
- ◎ 詳しく話す、最後まで聞くなど発言している。

### 【支援】

- ※ 招待状や飾りの提示
- ※ 話し方聞き方の提示

### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 説明書を読んで、作り方を確認している。

### 【支援】

- ※ 前時に作った説明書の提示
- ※ 説明するときに必要な、順番を知らせるボードや音声付カード、作り方の手順を知らせる写真などの提示

### 【子どもの見取りの観点】

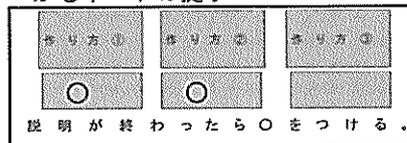
- ◎ 相手ができるように説明したり、相手の様子に応じて説明したりしている。

(AG)「何をどうする」ということを身振りやカード、ことばを使って伝えている。

(BG) 順番を知らせることばを使って説明したり相手からの質問を受けて必要なことを繰り返したりしている。  
(CG) 相手ができるようにことばを言い換えたり詳しくしたりして作るときポイントを知らせている。

### 【支援】

- ※ ことばの発達段階が似ている同士でペアをくみ説明をし合う場の設定
- ※ 教える、教えられるという立場がわかるような場の設定と名札などの提示
- ※ どこまで説明したかが視覚的にわかるボードの提示



### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 詳しく話すことで伝わった、うまく聞くことができたと発表している。

### 【支援】

- ※ ことばの使い方を発表する場

# 全体会（1日目）

## ▼ あいさつ（10：20～10：35）

福岡教育大学学長 大後 忠志  
校長 鈴木 清一

## ▼ 教科等発表（11：05～11：25）

・思考と表現を練り上げる国語科学習

ー内容構成と文章構成のフィードバック活動を位置付けた

授業づくりー

国語科部 平川 洋一

## ▼ 主題発表（10：35～11：05）

・豊かな学びを育む学習の創造

ー子どもの「問い」を深化・拡充させる授業づくりー

研究主任 北田 尚雄

## ▼ 児童発表（11：30～11：50）

・12歳の主張ー平和のとりでを築くー

指導者 平川 洋一

・創り出そう！私達のハーモニー

指導者 有川 陽子

# 第1日目 午後の部

## 学習指導案

### ▼ 学習指導 (13:00~13:45)

学年組	教科領域等	単元・題材・主題名	授業者	会場
1年1組	国語科	どんなしごとでどんなづくりかな?—じどうしゃくらべ—	平川 洋一	1年1組教室
2年1組	生活科	しょうかいしよう!子どもとうにんガイド	塚本 正典	2階職員・ワークスペース
3年2組	理科	わくわくこん虫ワールド	福原 伸治	理科室
4年1組	算数科	生活情報をブックレットにしよう	島川 二郎	4年1組教室
4年2組	学級活動	開催, 4の2ブックトーク会	黒澤 真二	4年2組教室
5年1組	社会科	おいしい給食の向こう側~はうれん草, だがどこからどうやって~	高良 祐治	5年2組教室
5年2組	体育科	得点力アップ大作戦-2ゴールハンドボール-	渡邊 正則	附属中体育館
6年2組	総合	つくろう あらつ大絵巻	高瀬 雄大	6年1組教室

### ▼ 帰国子女教育学習指導 (13:00~13:45)

3~6年 3組合同	国際交流タイム	世界のスープ博覧会	永尾 健 有川 陽子	子どもスタジオ
--------------	---------	-----------	---------------	---------

### ▼ 特別支援教育学習指導 (13:00~13:45)

さくら・榊組グループ	算数科	くらべっこ森にでかけよう	諏訪原 佳子	特学棟音楽室
さくら・榊組グループ		はかってみつけよう!ひみつのたからさがし	弘松 英樹	さくら組教室
さくら・榊組グループ		ただしくはかっておかしづくり	下川 勝彦	ふじ組教室

読み方を繰り返して身に付け、理解を深めていく「問い」の深化型の学習

# 第1学年1組 国語科学習指導案

指導者 平川 洋一

## 単元 どんなしごとで、どんなつくりかな? ～じどう車くらべ～

### 本単元について

本単元のねらいは、「どんなしごとで、どんなつくりかな」という観点で情報を取り出し事柄の順序をとらえながら想像を広げる読み方を、繰り返しながら身に付けることである。この読み方を①叙述と挿絵をつないで読む、②叙述と生活経験をつないで読むの2点に設定し、主教材で習得し副教材で活用していく。

題名の関心から課題をもって叙述を取り出し、それを挿絵や生活経験とつないでじどう車の様子を想像することで解釈し、しごととつくりの関係を熟考・評価し、他のじどう車へ活用するという一連の流れは、PI SA型読解力の育成と、中教審答申、新学習指導要領でいう「習得」と「活用」に込めるものである。

### 本学級の子どもたちについて

本学級の子どもたちは、「いろいろなくちばし」において、叙述と写真を対応させながら読んだり、書かれている順序にそって内容を生活経験をもとにふくらませて具体化したり、いろいろな鳥の写真のくちばしの形から、その働きを想像したりする学習を行ってきた。今後は、観点にそって叙述を正しく取り出したり書かれている事柄を意味付けて自分の考えをつくる学習を行っていく必要がある。

### 本単元の指導について

国語科の  
学びの体験  
「じどう車くらべ」

見方・考え方  
読み方の習得

➔

国語科の  
学びの体験  
「どんなしごとで  
どんなつくりかな」

活用

本単元の指導にあたっては、つかむ段階において、じどう車のしごととつくり

に課題をもたせる。ふかめる段階においては、書かれている順序をおさえながら、書かれている内容と挿絵とをつなぐ読み方、生活経験とをつなぐ読み方を繰り返して習得させる。「いかす」段階においては、「他にどんな自動車があって、どんなしごとをしてどんなつくりなんだろう」と、問いを深化させ習得した読み方や見方・考え方を駆使しながら、課題を解決させていくようにする。

### 目標

- 1 じどう車のしごととつくりについて課題をもって、進んで読んだり話し合ったりすることができる。
- 2 それぞれのじどう車のしごととつくりについて書かれている所を取り出し、挿絵や生活経験とつないでその関係をとらえることができる。

### 計画 (約8時間)

段階	主な学習活動	時間
つかむ	<p>1 「じどう車くらべ」を読み、書かれていることの内容と順序について話し合い学習課題をつくる。</p> <p>○ それぞれのじどう車のしごととつくりが書かれていることをつかむこと</p> <p>※ 挿絵をもとに順序をとらえさせる。</p>	2
ふかめる	<p>2 それぞれのじどう車を読み深める。</p> <p>(1) バスやじょうよう車のしごととつくりについて話し合う。</p> <p>○ バスやじょうよう車のつくりのわけを仕事とつないで理由をとらえること</p> <p>※ しごととつくりについて書かれている箇所には色シールを貼り、挿絵や生活経験とつないで具体化し、2者の関係を説明し合う場を位置付ける。</p> <p>(2) トラック、クレーン車のしごととつくりについて話し合う。</p> <p>○ トラック、クレーン車のつくりのわけを仕事とつないで理由をとらえること</p> <p>※ しごととつくりについて書かれている箇所には色シールを貼り、挿絵や生活経験とつないで具体化し、2者の関係を説明し合う場を位置付ける。</p>	4 ② 本時 1 / 2
いかす	<p>3 ほかのじどう車のしごととつくりについて考える。</p> <p>○ はしご車、救急車のつくりのわけを習得した読み方を活用してとらえること</p> <p>※ 教師自作の文章を提示し、主教材で身に付けた叙述を取り出して挿絵や生活経験とつないで具体化する読み方をもとに、関係をとらえる場を位置付ける。</p>	2

## 本時の学習活動の展開

### 本時授業の目標

- トラックのしごととつくりについて課題をもって、自分が知っていることや読み取ったことを進んで話し合うことができる。
- 書かれている内容と挿絵・生活経験をつなぎながら、トラックのつくりとしごとの関係をとらえ、読み方身に付けることができる。

1 バスや乗用車の挿絵とトラックの挿絵を比較し、トラックのしごととつくりの関係を予想し、話し合う。

- トラックのしごととつくりを読んで見つけ、その関係をはっきりさせたいという思いをもつこと

☆ バスやじょうようしゃは人をのせるからひろいざせきがあったけど、トラックもしごとにあつたつくりになっているのかな。

### 本時のめあて

トラックは どんな しごとをして どんな つくりになっているのか、よんで りゆうを はなしあおう。

2 トラックのしごととつくりを読み取る。

- (1) トラックの「しごと」と「つくり」が書かれている箇所に色シールを貼って、叙述を取り出す。

- 必要な情報を確かに取り出し、事柄の順序をとらえること

☆ トラックもバスやじょうようしゃの文しようとおなじように、しごとのつぎにつくりがかかっているな。

- (2) 挿絵を手がかりにしたり、生活経験とつないだりしながら、トラックのつくりのわけを仕事とつないで話し合う。

- 運転席のうしろが荷物をのせる「つくり」になっているわけを、重く、大きな荷物を、安全に、時間通りに、目的地まで運ぶという「しごと」とつないでとらえ、読み方を身に付けること

☆ にもつをたくさんはこぶことができるように、うんでんせきのうしろがひろくなって、にだいがあるんだね。おもいにもつをはこぶために、タイヤがたくさんついているんだね。

た く さ ん つ い て い ま す。	ト ラ ッ ク に も つ を の せ る が	お も い に も つ を の せ る の う しろ	に だ い が あ る の だ ね。	せ き の う しろ	そ の う しろ	つ く り	は こ ぶ こ と を し て い ま す。	し ご と	ト ラ ッ ク は 、 に も つ を	お も い に も つ	大 き な	は こ ぶ こ と	あ ん ぜ ん	に だ い	ど お り ん	も く て き	ち ま で
---	--	--	--	------------------------	-------------------	-------------	--	-------------	--	----------------------------	-------------	-----------------------	------------------	-------------	------------------	------------------	-------------



3 これまでの自動車とくらべながら、トラックのしごととつくりを「トラックのじまん」として書きまとめる。

- トラックの「しごと」と「つくり」を自分の言葉で説明すること

☆ ぼくはトラックです。おもいにもつをはこぶからうしろのにだいがひろくなっているよ。たいやもたくさんついているよ。

### 準備

教師側：学習の流れ図、色シール

学習プリント、トラックの模型

児童側：定規

### <各活動の子どもの見取りと支援>

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ トラックのしごととつくりについて、知りたいと発言したり書きまとめたりしている。

#### 【支援】

- ※ これまでの自動車のしごととつくりの流れ図をもとに想起させる。
- ※ これまで使ってきた読み方やトラックの挿絵を提示して、しごととつくりを予想させる。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ トラックの「しごと」に赤シール、「つくり」に青シールを貼っている。
- ◎ 書かれている内容を挿絵をもとに具体化したり、「つくり」のわけを「しごと」とつないで発言している。

#### 【支援】

- ※ 「しごと」「つくり」が書かれている箇所にサイドラインを引かせる。
- ※ それぞれにシールを貼らせる。
- ※ 挿絵のどこに表れているか、問い返しの発問をする。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ トラックのつくりが広い荷台になっていて、タイヤがたくさんついているわけを、荷物の様子や運ぶ仕事の内容とつないで発言している。

#### 【支援】

- ※ どんな荷物なのか、運ぶとはどういうことなのか発問する。
- ※ トラックの写真や模型を提示して確かめさせる。
- ※ しごととつくりがどんな関係にあるのか、バス・自動車と比べて話し合わせる。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ トラックのしごととつくりを「トラックのじまん」としてして発言したり書きまとめたりしている。

#### 【支援】

- ※ 前時までのじまんと比べさせながら、書きまとめさせる。

地域と協力してまちのよさを広げる、「問い」の複合型の学習

## 第2学年1組 生活科学習指導案

指導者 塚本正典

単元 しょうかいしよう! 子ども とうにん ガイド

### 指導観

#### 本單元について

本單元は、あらつのまちを取り上げ、子どもたちが唐人町の様々な店や働く人、利用する人に出会いインタビューをする中で、地域に親しみや愛着をもち、地域の人々と繰り返しかかわりながら地域のよさを実感的にとらえ、適切に接していくことができるようにする。具体的には、①自分の生活があらつのまちやあらつの人とかかわりがあることや、②あらつのまちや人のよさに気づき、親しみをもつこと、③まちの人にあいさつをしたりインタビューをしたりしながら適切に接することである。

#### 本学級の子どもたちについて

本学級の子どもたちは、西公園探検を通して、季節ごとの自然の変化に応じて自分たちの生活の様子が変わることをとらえている。しかし、自分たちの生活と地域の人々や場所とのかかわりにまで意識は至っていない。そこで、地域とかかわることによって様々な人々との出会いや愛着のある人や場をつくり、人々と適切に接することができるよう体験を通して身に付けることができるようにする。このことは、親しみをもって、地域との関係や価値に気づき自分の成長を深める上で大変意義深いと考える。

#### 本単元の指導について

本単元の指導にあたっては、あらつのまちの様子や人々の様子に親しみや愛着をもって、適切に接することができることをねらいとしている。であう段階では、あらつのまちの探検から、まちの様子をガイドする課題をもとに、家の方に、自分のお気に入りのまちの様子を紹介する、問いを設定する。ふかめる段階では、問いをもとに探検を進め、唐人町の様子を伝えるガイドマップを作ったり、新たに唐人町のよさについて調べたりする。いかす段階では、まちの人と協力して唐人町のガイドを進め、紹介ができた自分の成長に気付くようにする。

#### 目標

- 1 あらつの様子に関心をもち、意欲的に唐人町の様子を見学したりインタビューしたりしながら地域の方と親しみをもって接することができる。
- 2 あらつの探検やガイドマップづくりを通して、自分の生活と地域の人がつながっていることや唐人町のもつ意味やよさに気付くことができる。

#### 計画 (約11時間)

階	主な学習活動	時
で	1 唐人町のガイドを進めてある方と一緒に、あらつのまち探検をする。	3
あ	○ あらつのまちの様子に気づき、唐人町の様子を伝えたい問いをもつこと	
う	※ まち歩きガイドの方に、あらつのまちの様子を聞く場を設定する。	
ふ	2 唐人町の様子をまち探検をもとに、ガイドマップにまとめ、紹介する。	6
か	(1) まち探検をもとに、すてきなまちのお気に入り探しをする。	③
め	○ 自分とのかかわりから、まちのよさに気づき、新たな問いをもつこと	
る	※ ガイドマップをもとに、お気に入りの場所探しをしたりまとめたりする場を設定する。	
	(2) 唐人町のお気に入りの場所のガイドマップを作り、紹介する。	③
	○ 唐人町の様子や働いている人の魅力に気付くこと	本
	※ 友達にガイドマップを紹介したり作り変えたりする場を設定する。	時
	3 ガイドマップをもとに、唐人町のガイドを進める。	2
い	○ 唐人町のよさを広げ、自分が多くのまちのよさを説明できたよさや成長に気付くこと	3
か	※ 家の方に唐人町の様子を紹介するガイドを実の場で設定する。	2

## 本時の学習活動の展開

### 本時授業の目標

- 唐人町の様子が分かるように、意欲的につくりかえたり、友達に分かりやすく紹介したりすることができる。
- 唐人町の様子を紹介する活動を通して、唐人町の魅力やよさに気付くことができる。

1 あらつのまち探検をもとに、唐人町のまちのお気に入りの場所や人について話し合う。

- 唐人町のすてきな場所や人を伝えていく問いをもち、ガイドを進めていきたいという意欲を高めること

☆ 私は、当仁公民館のとんとんぶんこがいいな。

☆ 私は、唐人町商店街の中の、かみやがとてもよかったよ。

### 本時のめあて

まちのしょうかいをして、とうじん町のすてきなひみつがたくさん見つかるように、ガイドを見なおそう。

2 唐人町のガイドマップをつくったり、唐人町の様子を紹介したりしながら、ガイドを見直す点について話し合う。

- (1) 唐人町のガイドマップをつくったり、紹介したりする。

- 自分がお気に入りの場所をもとに、唐人町の様々な建物の様子や、人々のよさに気付くこと



☆ 私は、かみやを紹介します。この店は、はるやなつのきせつごとに、いろいろなおいしいおかしがならぶ、たのしいお店です。

☆ ぼくは、当仁公民館を紹介します。ここには、本の読み聞かせをしてくれる「とんとんぶんこ」があります。

- (2) ガイドマップをもとに唐人町の様子を紹介し、ガイドについて見直す点を話し合う。

- 友達のガイドマップのよさやガイドマップを見直す視点に気付くこと

☆ 友達のガイドは、名前や場所、楽しいところやすてきな理由をわかりやすく説明しているところがいいです。

3 これからの活動の見通しについて話し合う。

- ガイドマップをもとに、マップの内容やガイドの進め方について見直す、新たな問いに気付くこと

☆ 探検をして、すてきなまちのことをくわしく調べてみたい。

☆ 実際の場所で家の人にあらつのまちのガイドをしていきたい。

### 準備

教師側：写真、探検マップ、ガイドマップのサンプル、GT

児童側：ガイドマップ、学習ノート

### <各活動の子どもの見取りと支援>

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 唐人町の中にお気に入りの場所を探し、家の人に自分が伝えるという思いから、唐人町のすてきな場所について紹介していく場所を説明しようとしている。

#### 【支援】

- ※ これまで探検してきた、あらつのまち探検マップをもとに、自分が紹介するお気に入りの場所のマップを提示する。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ ガイドマップをもとに、自分がお気に入りの場所について分かりやすく紹介している。

#### 【支援】

- ※ お気に入りの場所が違う友達とのグループで編成し、紹介する場を設定する。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 自分が紹介したい唐人町の様子を、探検メモをもとに、ガイドマップにまとめている。

#### 【支援】

- ※ ガイドマップのまとめ方のサンプルを提示する。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 自分が作ったガイドマップをもとに、友達に唐人町のすてきな場所について分かりやすく説明している。

#### 【支援】

- ※ 唐人町のガイドの進め方について見直す視点に気付くことができるよう、お気に入りの場所が同じ、グループごとに紹介する場を設定したり、具体物や写真をもとに、分かりやすく唐人町を紹介する場を設定したりする。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ すてきなまちの様子がよく伝わるように、さらに調べることやガイドの仕方について新たな問いについてまとめている。

#### 【支援】

- ※ 街歩きガイドの方に、唐人町のガイドについてアドバイスをいただく場を設定する。

虫の体のつくりをモデルで表現しながら分析する「問い」の深化型の学習

第3学年2組 理科学習指導案

指導者 福原伸治

単元 わくわく昆虫ワールド～虫の体のつくりを調べよう～

指導観

本単元について

本単元は、昆虫の体が、成長とともに変化する様子に関心をもち、変化した様子について調べたことをモデルで表現し、前の段階の姿と比較しながら特徴と違いについて考えをもつことをねらいとしている。実際に昆虫を育て、収集していく活動を通して卵から成虫まで変化する様子を体のつくりの違いに着目し、特徴について考えをもつことができるようになることを考えた。

本学級の子どもたちについて

本学級の子どもたちは、日常の生活において校庭の草花に生息している昆虫を手にしたたり、動きを追ったりすることで、親しみをもって関わることができている。しかし、卵が生み付けられる様子や幼虫へと変化する様子を見た経験がないために、卵から成虫までの様子を関係付けてとらえることができていない。自分たちの手で昆虫を育てる中で、成長の様子がもたらす不思議さに気付き、もっと調べていきたいという思いをもつことができると考える。

本単元の指導について

本単元においては、たくさんの種類の虫たちと出会うことで、体の形や足の数、羽の付き方など体のつくりに関して共通点や差異点に関心をもち、比較しながら分析する活動ができると考えた。そこで、実際に花の蜜を吸う様子と、キャベツ畑でのモンシロチョウの動きを比較させ、葉の裏側についていた卵がどのように成長すると思うか予想させる。見つけた卵や幼虫などを観察させ、自分たちで育てていこうという思いをもたせる。そのために、もっとモンシロチョウのことを調べてみたいと問いを深化させる姿が見られると考えた。さらに、モンシロチョウについて学んだことを、西公園で見つけた他の昆虫にも活かし、昆虫ワールドの仲間を増やしていこうという問いを深化する姿が見られると考えた。

目標

- 1 昆虫を観察する活動を通して、体のつくりに着目しながら、成長の過程で変化することについての考えをもつことができるようにする。
- 2 さまざまな昆虫たちの体のつくりの違いを比較することによって、昆虫ワールドを作るという目的をもち、観察したことを生かしながら、昆虫の体のつくりについて理解できるようにする。

計画 (約9時間)

時	主な学習活動	時
つ	1 学校の畑でとんでいるモンシロチョウを観察し、気付いたことを話し合う。 ○ 昆虫の体の成長に関心をもち、体のつくりを調べる意欲をもつこと ※ モンシロチョウが花の蜜を吸う様子と畑でとんでいる様子とを比較させる。	2
つ	2 成長する様子を観察し、変化する体のつくりを調べる。 (1) モンシロチョウの幼虫を観察し、成長に必要なものについて話し合う。 ○ 幼虫が成長するために卵の殻や植物を栄養として成長すること ※ 実際に幼虫の動きと卵の殻や葉の変化を観察させ、図や言葉で表現させる。 (2) 幼虫からさなぎに変化する様子を観察し、この後の変化について話し合う。	4
く	○ モンシロチョウはさなぎの状態を経て成虫となること ※ 昆虫の体をスチロールのモデルで表現させ、調べたことを交流させる。	②
る	3 みんなで作った昆虫のモデルを集めて西公園のジオラマをつくる。 ○ 昆虫の体のつくりについて調べたことを活かして、モデルで表現すること ※ 他の虫に着目させ、「西公園の昆虫ワールド」を全員で作る活動を設定する。	3 2 3 本時

## 本時の学習活動の展開

### 本時授業の目標

- 昆虫の体のつくりに関心をもち、モンシロチョウ以外の虫も同じような体のつくりをしているのか意欲的に調べることができる。
- モンシロチョウの体のつくりについて学んだことを活用しながら、他の虫を観察し、昆虫の体のつくりについて理解することができる。

1 モンシロチョウの成虫が活動している様子を観察したときのことについて、ジオラマをもとに話し合う。

○ 本時では、モンシロチョウ以外の虫について観察して、体のつくりの相違点があるのかを調べるというめあてをつかむこと

☆ 小さいバッタがいて、同じように飛んで逃げていたよ。

☆ でもバッタは足が大きくてたくさんあったみたい。

### 本時のめあて

虫を観察してもけいを作り、昆虫ワールドの仲間に入れよう。

2 モンシロチョウ以外の虫を観察し、模型を作り、ジオラマをもとに住んでいるところについて話し合う。

(1) 見つけてきた虫を観察し、気付いたことを学習プリントに書く。

○ 虫は、食べるものの違いや生活する場所の違いに合わせて体のつくりがかわることについて理解すること

### <観察する虫>

・ バッタ、カマキリ、シジミチョウ、ダンゴムシ、ハサミムシ

☆ バッタも、形は違っていても6本の足があったぞ。

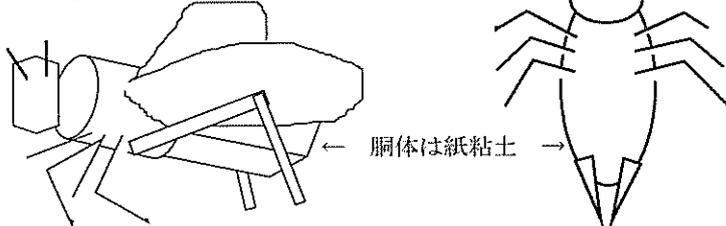
☆ ハサミムシもやっぱり足の数がチョウと同じだった。

(2) 観察を通して、虫の体のつくりについて分かったことを活かしながら模型を作ったり、気付いたりしたことを話し合う。

○ 観察する中で、足や羽の数などが前までの学習の中でモンシロチョウで学んだことと同じであることに気付くこと

☆ ハサミムシは、モンシロチョウとは見た目が全然違っていただけ、足の数も同じだし体も裏側から見るとにているみたいだ。

☆ 子どもが作るバッタやハサミムシのモデル



足の数、体の分かれ方などについて、詳しく見ていく。

3 虫の種類が違うことによってみつけることができた体のつくりの共通点から分かったことについて話し合う。

○ 虫たちは生活の形によって、見た目の体の様子が違うところもあるが基本的なつくりは共通していることに気付くこと

☆ もっと他の虫の体のつくりなども調べて、昆虫ワールドをもっと本物に近づけたいな。

### ○ 準備

教師側：学習の流れ図、蝶の模型、ジオラマ、学習プリント

観察ボックス、模型の材料

児童側：サインペン、捕まえた昆虫など、

前時までに製作した物

### <各活動の子どもの見取りと支援>

#### 【子どもの見取りの観点】

◎ 前時までに製作したミニチュアをもとに、モンシロチョウで学んだことを振り返って発表することができる。

#### 【支援】

※ 流れ図とビデオで、子どもたちの作品と前時に観察した畑の様子を流しながら話し合わせる。

#### 【子どもの見取りの観点】

◎ 前時までに捕まえた虫を観察ボックスに入れて、モンシロチョウの特徴と比較しながら観察する活動ができています。

#### 【支援】

※ プロジェクターで虫の様子を拡大して映したり、事前に虫の体の様子を写真で拡大したものを準備しておいて、必要に応じ提示する。

#### 【子どもの見取りの観点】

◎ 観察して気付いたことをもとに、モンシロチョウ以外の虫の体のつくりについて図や言葉を用いながら、シートにまとめることができる。

#### 【支援】

※ モンシロチョウの観察で用いていたジオラマを提示する。

#### 【子どもの見取りの観点】

◎ ジオラマをもとにしながら、自分が気付いたことを発表したり、友達の気付きとの違いについて意見を出したりすることができている。

※ ジオラマの中をその環境に合わせたエリアで表現したものを提示して、発表する際に使うことができるようにしておく。

#### 【子どもの見取りの観点】

◎ 自分と友達が観察して得た結果の違いに着目し、さらに調べてみたいことについて発表したり、学習プリントに書き加えたりすることができる。

#### 【支援】

※ 学習プリントの中に、お互いの相違点について書き加えられるスペースをとっておく。

表にした情報を比較し、よりよいものに更新しようとする「問い」の深化型の学習  
**第4学年1組 算数科学習指導案**

指導者 島川二郎

単元 **生活情報をブックレットにしよう**

指導観

本単元について

本単元は、論理的に起こりうる場合を調べることがねらいである。具体的には、①情報を2つの観点から分類したり、整理したりできること②情報を2つの観点から整理する仕方を把握し、その表をよみ取ることができること、である。

本単元は、生活に関わる情報をブックレットにまとめるために、2つの観点から分類整理する力を活用していく。具体的には①クラスの仲間の生活習慣の情報を落ちや重なりに気を付けて2つの観点からまとめた表に分類整理すること、②集団の特徴を整理した2次元表をよみ取ること、である。

本学級の子どもたちについて

本学級の子どもたちは、第3学年で、資料を落ちや重なりがないように棒グラフに整理している。また簡単な場合の2つの観点から整理した表の見方についても学習している。しかし、つくり方や集団の特徴をとらえるまでには至っていない。

このような時期に本単元を取り上げ、目的に応じて2つの観点を自ら選び分類整理し、そして集団の特徴を見付け出すよさを感じることができる指導を行っていきたい。このような指導は、問いを深化させていく上でも意義深い。

本単元の指導について

本単元の指導にあたっては、生活ブックレットをつくらうという求めをもち、給食の種類と残菜の量の関係など、自分たちの生活情報を、統計的に調べようと問いを深化させる。そのために、見いだす段階では、2つの観点からの整理する表を導入する。試みる段階では、ブックレットにまとめる情報を、複数の情報の中から選び整理することができるようにする。広げる段階では、2組など他の学級、学年の生活情報の資料を整理したり、比較行ったりすることを通して1組の特徴を明確にさせる。

目標

- 1 生活に関わる情報を自分で調べ、特徴を学級の仲間に知らせるために表に表し、自分のブックレットに進んでまとめることができる。
- 2 学習、遊び、食べ物といった生活に関わる情報を、2つの観点から分類整理し、特徴がわかるようにまとめることができる。

計画 (約8時間)

階級	主な学習活動	時間
見 い だ す	1 生活に関わるアンケート結果を目的に応じて2つの観点から分類整理する。 ○ 自分の目的に応じて情報を集め、集めた情報の表し方を把握すること ※ ケガの種類と場所のブックレットに出合わせ、自分たちの予想と比べ、数値をもとに伝達するよさに気付かせる。	2
	2 自分がブックレットにまとめたいと思った情報を、自分が選んだ観점에서表に表し、特徴をまとめる。 (1) いろいろな2つの観点から分類整理した表へのまとめ方を知り、情報のよみ取りをする。 ○ 「できる」「できない」の2つの観点から整理した表の表し方を把握すること ※ 複数の表を比べ、目的に応じて整理の仕方が異なることに気付かせる。	4
試 み る	(2) まとめたい情報を表に表す。 ○ 2つの観点での表し方を把握すること ※ 「できる・できない」の観点で表す方法を意識させ、表に色付けしたものと結び付けてまとめさせる。	②
	3 2組などの生活情報と比較し、1組と2組などの生活の仕方の似ているところと違うところについて話し合う。 ○ 2組の生活情報との違いに気付くこと ※ 1組の特徴を2組などとの比較を通して、より詳しく整理させる。	2 本 時 1 / 2

## 本時の学習活動の展開

### 本時授業の目標

- 2組の生活情報に興味をもち、1組の生活情報との違いを明確にする2つの観点から表にすることに意欲的に取り組むことができる。
- 1組の生活情報を落ちや重なりに気を付けて、2つの観点からなる表にまとめることができる。

### 1 「生活情報」に示した特徴をより明確にする方法を話し合う。

- 1組の生活情報にまとめた表だけでは、1組の集団の特徴が明確ではないことを把握すること

【例 1組の表】

	先週		合計
	借りた	借りない	
今週 借りた	15	5	16
借りない	20	6	26
合計	30	10	40

【例 2組の表】

	先週		合計
	借りた	借りない	
今週 借りた	25	3	28
借りない	10	2	12
合計	35	5	40

- ☆ 1組では、今週と先週で「借りた・借りた」と答えている人が多いのは同じけど、10人も違う。他にも違いがあるのでは。

### 本時のめあて

2組と1組の生活情報の表を比べて、1組の特徴を明らかにしよう。

### 2 1組の特徴を2組の生活の特徴と比べて説明する。

- (1) 自分が比べたいと考えた2組の生活情報を落ちや重なりに気を付けて2つの観点から分類整理する。

- 2組の生活情報の中から、特徴を比べるために必要な情報を選び、観点を明確にして表に表すこと

- ☆ ぼくは、先週と今週休み時間外で遊んだ人の表をつくった。1組は、「はい・はい」と答えた人が一番多かったけど2組も同じような結果になるかな。落ちや重なりに気を付けて表に整理するぞ。

- ☆ 休み時間外で遊んだの表を「はい・いいえ」でまとめるのだったな。マスのどの場所になるか考えなければいけないんだ。

- (2) つくり上げた2組の表と1組の表を比べ、特徴を説明する。

- 1組と2組の表で似ているところと違うところを見取ること

【例 1組の表】

	先週		合計
	はい	いいえ	
今週 はい	28	2	30
いいえ	5	5	10
合計	33	7	40

【例 2組の表】

	先週		合計
	はい	いいえ	
今週 はい	10	5	15
いいえ	20	5	25
合計	30	10	40

- ☆ 先週と今週で外で遊んでいると答えている人が、今週は1組は多いけど、2組は少なかったんだな。

### 3 1組と2組の似ているところと違うところを話し合う。

- 特徴のある数値がある2つの項目を全体で見付けること

- ☆ 「先週」と「今週」の遊びについての答え方が1組と2組では、少し違っていたな。

- ☆ 他のクラスと比べても違いがあるのかな。

### ○ 準備

教師側：板書用2次元表、ブックレットにまとめるための情報（本の借り入れ状況など）、ヒントカード  
児童側：生活情報ブックレットにのせている2次元表

### <各活動の子どもの見取りと支援>

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 2次元表のよみ取り方が分かって発言している。

#### 【支援】

- ※ 2次元表のマスを1つずつ指ししめし起こりうる場合を確認する。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 自分が調べる資料を明確にもってめあてを書く。

#### 【支援】

- ※ めあての中に2組のどの項目の表をつくるのか記述させ、自分が表に整理する項目を把握させる。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 落ちや重なりに気を付けて、自分が調べる情報を2つの観点からなる表にまとめることができる。

#### 【支援】

- ※ 正の字を書いたり、使った情報には印を付けたりするなど、注意する点を流れ図に記しておくとともに、手元にも表にまとめるときの注意のカードを配っておく。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 一番大きな数同士を比べたり、小さな数値を比べたりしながら、特徴を記述している。

#### 【支援】

- ※ 2組の特徴をまずノートに整理した後に、1組の特徴と比べるようにさせ、大きな数値と小さな数値に印を付けさせる。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 代表児の1組と2組の表を積極的に比べ、発言している。

#### 【支援】

- ※ 代表児が発表している時に、最大と最小が分かるように、印を付け、似ているところと違うところを明確にする。

# 1年生との交流をきっかけにブックトークの仕方を追究していく「問い」の複合型の活動 第4学年2組 学級活動指導案

指導者 黒澤真二

題材 開催，4の2ブックトーク会

## 指導観

### 本題材について

本題材は，1年生との交流をきっかけに下学年へのブックトーク会を開くことを通して，縦割り交流を深め，学級や学校生活を楽しくすることに意欲的に参画することをねらいとしている。具体的には，  
①ブックトーク会を開くことで企画力を高めること  
②ジャンルごとにブックトークの仕方を意見交流することで，合意形成しながら集団決定できること  
③よりわかりやすいブックトークにするために，友達と協力しながらブックトークを実践し，学校生活への参画力を高めていくことである。ブックトーク会を成功させるために，子ども自らが，「問い」をもって実践していくことができると考える。

### 本学級の子どもたちについて

本学級の子どもたちは，意欲的に委員会活動や縦割り活動に参加している。しかし，活動内容は，自分のことが中心で下学年に目を向けるまでには至っていない。そこで，上学年として自覚があるこの時期に，1年生と交流体験を行う。そして，雨の日に退屈している下学年のために，ブックトーク会を開き，学級や学校生活をより楽しくすることができるようにし，縦割り集団の仲を深め，学級の友達と協力して活動ができるようにする。

### 本題材の指導について

1年生との交流体験から，下学年とのかかわりに興味をもつことができる。また，下学年が雨の日に退屈しているという現状を知り，自分たちがブックトーク会を開き，下学年を楽しませてあげたいというゴール像をもつことができる。そして，ブックトークを成功させるために，どんなジャンルのブックトークにするか，役割分担はどうするかなどの「問い」が拡充する。さらに，ワークショップ形式で中間報告を行い，集客の仕方について新たな「問い」が生まれ，解決していく。

### 目標

- 1 下学年にブックトークを行い，昼休みを充実させていくために，「下学年が楽しめるか」という観点で話し合い，意欲的に活動に参加できる。
- 2 学級全体での話し合いや違うジャンルの友達や同じジャンルの友達との少人数交流の仕方がわかり学級で協力してブックトークができる。

### 計画（約5時間）

段階	主な学習活動	時間
つ	1 1年生との交流からブックトーク会を開く目的や組織について話し合う。 ○ 下学年がどうしたら雨の日に楽しく過ごせるかを考えること ※ GTの読み聞かせを視聴させたり，組織を立ち上げさせたりして，ブックトークの仕方を追究できるようにする。	2
決める	2 4の2ブックトーク会について話し合い，ブックトークの準備を行う。 (1) ブックトークを行うためのジャンルを話し合う。 ○ 下学年が喜ぶ「動物・虫」「遊び」「乗り物」「物語」のジャンルをとらえること ※ 各ジャンルに必要な本を集めるために総合図書館を利用し，用意しておく。 (2) 中間報告を行い，ブックトークの仕方について話し合う。 ○ 全体交流やジャンルごとの少人数交流で，ブックトークの参考にすること ※ 情報収集ノートに色シールを貼り，わかりやすく意見交流できるようにする。	① 2 ① 本時
行う	3 下学年にブックトークを開いたことを振り返り，成果と課題を話し合う。 ○ ブックトークで下学年のためになり，学級で協力できたよさをとらえること ※ 1年生の感想を紹介し，これからも楽しい学級生活をつくるために，実践していこうとする意欲をもたせる。	1

## 本時の学習活動の展開

### 本時授業の目標

- 「下学年が楽しめるか」という観点で中間報告を行い、各ジャンルのブックトークの仕方を付加・修正することができる。
- 違うジャンルの友達への中間報告、同じジャンルの友達との少人数交流、全体交流という本時の話合いの進め方がわかる。

### 1 教師の話聞き、学級会のめあてについて話し合う。

- 教師の話で、下学年の立場になってブックトークの仕方をよくしていこうという意欲を高めること

☆ 中間報告でブックトークをもっとよくしていこう。

### 本時のめあて

- 中間報告を行い、ブックトークの仕方をよりわかりやすくしよう。
- ・下学年が楽しめるか

### 2 中間報告後、同じジャンルの友達と少人数交流し、付加・修正した新たな案をグループで創り上げ、全体の場で話し合う。

#### (1) 各ジャンルごとに中間報告を行う。

- 各ジャンルごとのグループに分かれ、「下学年が楽しめるか」という観点で中間報告を行い、ブックトークのよさを共有すること

☆ 各ジャンルごとにどんなブックトークになるのか、とても楽しみだね。早く、ブックトークを聞いてみたいな。

### ブックトークにおける各ジャンルごとの気付いた点の例

動物・虫…季節ごとに虫を紹介するとよい
遊び…室内で手軽にできる遊びを中心に紹介するとよい
乗り物…電車や飛行機など絵で説明をくわえるとよい
物語…読み聞かせで大切な語りかける読み方を工夫するとよい

### (2) 同じジャンルの友達と中間報告後の出された意見をまとめ、新たな案を全体の場で話し合う。

- 下学年にたくさんブックトーク会に来てもらうためには、集客の仕方も工夫する必要があることに気付くこと

☆ 実際にブックトークをしてみると思っていたようにいかない点もあったね。自分では気付かないこともわかったぞ。

### ジャンルが「遊び」のグループの少人数交流例

遊びの紹介を、ブックトークのなかで実際に行ったらどうかな。



雨の日にすぐにできる遊びがいいね。

### 3 教師の話聞き、本時の話合いを書きまとめる。

- 中間報告で改善していくことを確認し、各ジャンルごとの準備や進め方をとらえること

☆ 下学年へのブックトーク会に向けて、宣伝活動も行い、参加者をたくさん集めて楽しませよう。

### ○ 準備

教師側：学習の流れ図、色シール

ワーキングボード、バインダー

児童側：話合いノート、情報収集ノート

ブックトークに必要な本

### <各活動の子どもの見取りと支援>

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 下学年に喜んでもらえるようなブックトークを行うという明確なゴール像をもち、準備をしている。

#### 【支援】

- ※ 中間報告に必要な本を総合図書館から借りたり、各コーナーごとに必要な飾り物を用意したりしておく。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 今までの準備をもとに各グループで協力して中間報告を行っている。

#### 【支援】

- ※ ブックトークがしやすいように、ワークショップ形式でグループを4つに分けておく。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 違うジャンルの友達が参観者として聞く中間報告を行い、気付いた点を意見交流している。

#### 【支援】

- ※ 工夫している点は、赤色シール、もっと楽しくできる点は青色シールを貼らせ、視覚的にとらえさせる。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 中間報告で出された意見を、同じジャンルの友達との共通点から新たなブックトークの仕方を創っている。

#### 【支援】

- ※ ワーキングボードに今までのブックトークとは違う新たなものを書きまとめている。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 中間報告で今までのブックトークの改善点をお互いに意見交流できたことを認め合っている。

#### 【支援】

- ※ 教師の話で、中間報告の工夫点や意見交流のよさを賞賛し、実践での意欲付けを図る。

給食の食材の源を生産者までさかのぼって追究していく「問い」の深化型の学習

## 第5学年1組 社会科学学習指導案

指導者 高良 祐治

小単元 おいしい給食の向こう側～ほうれん草，だれがどこからどうやって?～

### 指導観

#### 本小単元について

本小単元は、給食に使われるほうれん草がどのようにして自分たちの元に届いているのかを、生産や流通の様子を中心に、コストを考慮しながら追究していくことを通して、我が国の食料生産について考えることをねらいとしている。具体的には、①安定した食料確保のために、多くの人々の取り組みを介して計画的な生産・調達が行われていることに気付くこと②気候や自然条件を考慮しながら、新鮮なほうれん草を生産・出荷している人々の工夫や努力をとらえることなどである。

#### 本学級の子どもたちについて

本学級の子どもたちは、本大単元の導入における食料生産地調べや米づくりの学習で、我が国の様々なところで食料生産が行われていることに気付いている。しかし、ふだん食べている給食の向こう側で確実に食糧を確保するために計画・調整している人がいることや、生産現場で天候や病害虫などに神経を使いながら生産を高めようと工夫や努力をしていることには気付いていない。昨今、「食農教育」の重要性がさげばれているなか、自分が食べている食事の源をさかのぼっていくことは意義深い。

#### 本単元の指導について

本単元の指導にあたっては、自分たちが食べたほうれん草がどのようにして学校までやってきたのかをさかのぼりながら追究していく。そこで、ほうれん草が使われた給食のメニューとそのほうれん草が生産された畑を比較し、その間を予想することで追究の見通しをもつ。そして、給食室、青果市場、JA、生産者とほうれん草の源に向かって問いを深化させながら追究し、生産者や生産現場との出会いや交流を通して、一つの食材が自分たちの元に届くまでの時間や労力などについてとらえることで、食料の確保と自分自身との関係について考える。

#### 目標

- 1 給食で食べたほうれん草が、どのようにして届いたのかを遡っていくことで、食料生産と自分とのかかわりについて調べることができる。
- 2 安全なほうれん草を安定して届けようと取り組んでいる様子を調べることで、食料生産にかかわる人々の工夫や努力をとらえることができる。

#### 計画（約10時間）

階	主な学習活動	時
つ か む	1 給食のほうれん草とほうれん草畑を比較して話し合う。 ○ 自分が食べている食材に関心を持ち、追究の見通しをもつこと ※ 給食室、JA、生産者と連携して、産地と給食メニューをつなげる。	2
	2 給食に使われるほうれん草が、どのようにして届いているのか調べる。 (1) 給食室～青果市場～JAのほうれん草やそこにかかわる人々の様子を調べる。 ○ 安定した量を安定した金額で計画的に確保する工夫や努力に気付くこと ※ 給食の食材卸しにかかわる人々へのインタビューの場を設定する。	6
さ ぐ る	(2) ほうれん草の生産やそこに携わる人の様子を調べる。 ○ 安全で安定した生産のための工夫や努力をとらえること ※ 生産現場の見学や生産者との交流ができる場を設定する。 (3) ほうれん草が届くまでをまとめる。 ○ 食料生産の大切さを実感すること ※ かかわる人や時間・コストなどを取り入れたルート図を制作させる。	② 本 時 3 / 3 ①
	3 これからの食糧確保について調べる。 ○ 食料問題のこれからの課題や取り組みについてとらえ、考えをつくること ※ 未来の食糧事情予想の提示	2

## 本時の学習活動の展開

### 本時授業の目標

- ほうれん草の価格や生産性について問いをもつことで、樋口さんのほうれん草づくりの工夫や努力を調べることができる。
- ほうれん草の生産性を向上させる方法や問題点を考えることで、食料生産という産業の大切さをとらえることができる。

### 1 ほうれん草1把の金額を計算し、その金額について話し合う。

- 予想と実際の金額の違いから、ほうれん草農家樋口さんのほうれん草生産について課題を見出すこと



$$\leftarrow 400\text{円/kg} \div 5 \text{ (一袋200g)} \div 3 \text{ (一袋3把入り)} = 26.6\text{円}$$

- ☆ あれだけ時間をかけたり、腰を曲げて収穫したりしたほうれん草がこんなに安い？樋口さんはどう思っているのかな。
- ☆ コストを下げるか、高い値が付くほうれん草を作らなくては。

### 本時のめあて

ほうれん草の生産性を上げるために樋口さんはどのような取り組みをしているのか調べよう。

### 2 ほうれん草の生産性を上げていく方法や取り組みについて調べる。

- (1) 「コストを下げる」「付加価値をつける」それぞれの場合で生産性が向上するかどうかが調べる。

- 生産性を向上させる方法はいろいろあっても、そのための問題点も多いことをとらえること

#### コストを下げるためには

- ・ 栽培面積を広くする←土地の購入費がかかる
- ・ 機械化を図る←機械の購入費が高い
- ・ ハウスを自動化にする←施設費が高い

#### 付加価値をつけるためには

- ・ 病気や害虫を防ぐ←農薬はできるだけ使いたくない
- ・ 特殊ビニールで包装している←1枚3円で買わないといけな
- ・ 有機肥料を使う←たい肥づくりの労力が必要になってくる
- ・ ブランド化を図る←単価が安い野菜なので、あまり高く売れない

- (2) 樋口さんの営農方法について調べ、工夫について話し合う。

- 季節に合わせて多角的な生産を行うことで、生産性を向上させる工夫をしていることをとらえること

- ☆ 季節や畑の状態によって品種を変えたり、キャベツや米もつくすることで、生産性を上げているんだ。樋口さんも54歳。これから同じように続けられるかどうかという不安もあるんだ。

### 3 ほうれん草を通して、食料生産の意味について話し合う。

- いつもどこかで食料の生産に取り組んでいる人々がいることで、自分たちの日々の食料が確保されていることを実感すること

- ☆ 一食259円の給食の向こう側に、このような人々の工夫や努力が隠されていることがよく分かった。食料生産は大切な産業だ。

### ○ 準備

教師側：中央卸売市場青果市場の価格表  
電卓 ほうれん草 給食の材料  
樋口さんのインタビューVTR

児童側：学習ファイル

### <各活動の子どもの見取りと支援>

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ ほうれん草1把の金額を計算で求めて、その値段に対して「高い」「安い」などの感想を理由とともに発言したり、ノートに書いたりしている。
- ◎ どうすればもうかるのかという視点で、問いをつくり、解決の見通しをもっている。

#### 【支援】

- ※ 前日の福岡市中央卸売市場青果市場のほうれん草の価格を提示し、計算で1把の価格を求めさせる。
- ※ 前時に調べたほうれん草が収穫できるまでの樋口さんの作業や日数についての資料を提示する。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ ほうれん草の生産性を上げるための方法を提案したり、他者の提案に対して、賛同したり問題点を提示したりしている。

#### 【支援】

- ※ 見学してきたことや樋口さんから聞いたことなどを活用しながら調べることができるように資料や流れ図を提示する。
- ※ メリットやデメリットを構造的に板書する。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 樋口さんの気候に合わせた生産や多角的な生産といった工夫の価値をとらえた発言をしたりノートに書いたりしている。

#### 【支援】

- ※ 樋口さんの1年間の食料生産カレンダーを提示したり、生産性についての考え方を述べる樋口さんのインタビューVTRを視聴させる。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 食料生産という産業が、人々の生活を支えていく上で価値高いものであることに気付いた発言をしたり、ノートに書いたりしている。

#### 【支援】

- ※ 本小単元の導入で食べた1食分の給食の材料を提示する。

ボールを効果的に運び、得点する方法を探究する「問い」の深化型の学習  
**第5学年2組 体育科学習指導案**

指導者 渡邊 正 則

単 元 得点力アップ大作戦～2ゴールハンドボール～

指 導 観

本単元について

本単元は、攻守混合、ゴール型のハンドボールの学習を通して、ボールをいかに効果的にゴール近くに運び、多く得点するかを探究的に考えながら活動し、チームの戦術的動きを高めることをねらいとした学習である。またその成功感や活動の満足感を味わうことをねらいとした学習である。具体的には、みんなでパスやシュートができる場所を創り出すように考えながら動きを工夫できるようにすることである。主な学習内容は、①ボールを持っていない子が空いているスペースに動いたり守りを振り切ってボールを受けたりすること②状況に応じて素早く投げたり、状況を見極め、動いたところでキャッチできたりする動きを高めること③効果的に得点する簡単な戦術を考え出すこと等である。

本学級の子どもたちについて

本学級の子どもたちは、これまでいろいろなゲームの学習を通して、ラリーを続けたり簡単な作戦を立てて相手ゴールにボールを運んだりする動きを高めてきている。攻守混合のゴール型の運動としてはフラッグフットボールで、チームで協力して作戦を考えながら攻撃を組み立てて、ボールを運び得点するという活動を楽しんできている。また日常的にもサッカーなどを通して、パスやドリブルを効果的に使いながら得点する活動を楽しんでいる。このような時期に本単元を取り上げ、チームの戦術的動きを系統的・総合的に高めたり、そのための基礎的な技能や連携した動きを高める場を工夫したりしながら、楽しく運動ができるようにするとともに、体力の向上を図る。

本単元の指導について

本単元の学習において、これまでに他の運動学習の中で身に付けてきた、パスやシュート、チームで協力してゴール近くにボールを運び得点する等の戦術的動きの体験を生かしながら、ハーフコートのハンドボールのゲームを数的優位な条件の中でゴール前に効果的にボールを運び得点するための基本的な戦術的動きや得点方法を考えさせる。次に攻守が同じ条件になっても自分たちの考えていた作戦は有効かという問いに深化させ、速攻や効果的なパスのつなぎ方を考えさせながら活動を繰り返させ、チームとしての戦術的動きが高まるようにする。

目 標

- 1 チームで協力して、効果的にボールをゴール前に運び、得点する戦術的な動きを工夫したり、そのために必要な練習の場を工夫したりして楽しく活動することができる。
- 2 味方がパスできる空間に動いてパスをもらったり、状況を判断して素早くボールを投げたり、動いたところでキャッチしたりできる。

計 画 (約10時間)

階	主 な 学 習 活 動	時
や っ て み る	1 ボールの運び方、つなぎ方、得点の仕方を考えながら試しのゲームをする。 ○ 効果的にボールを運び、得点するための課題や見通しを見出すこと ※ モデルの動きとの心電図での比較活動や課題が見えやすく編集したビデオの分析を通して、効果的なボール運びを考えさせる。	2
ひ ろ げ る	2 効果的にボールを運ぶ動きを高めるための作戦や練習方法を考えながら、楽しくハーフコートのゲームを繰り返す。 (1) 見出したチームの課題を解決するための戦術に沿って練習やゲームを行う。 ○ チャレンジ活動でのボール回しの習得や数的優位を生かしてパスのつなぎ方や得点しやすい場所を判断して動く動きを身に付けること ※ 自分たちの課題にあった攻撃パターンやその練習方法を身に付けるための取材活動やチャレンジゲームを位置付ける。 (2) 身に付けた攻撃パターンを相手の守りに応じて活用する動きを考えながら楽しくゲームを繰り返す。 ○ チャレンジゲームでの動きを活用して優位な条件がなくても得点が増えるボール運びや得点する方法を工夫すること ※ これまで考えてきた戦術的動きを資料として提示し、そこまでボールを運ぶ視点から動きを工夫させる。	6 ③ 本 時 1 / 3
ふ か め る	3 2ゴールハンドボール大会を行う。 ○ 高めてきた動きのよさを発揮して効果的なボールの運びを実感すること ※ 自主的な運営をさせ、学習を生かした動きが発揮できるようにする。	2

# 本時の学習活動の展開

## 本時授業の目標

- 友達と協力してこれまでに身に付けた動きを活用して、数的優位のない攻防を突破する作戦を工夫しながら楽しくゲームをすることができる。
- 守りの動きを素早く判断して、空いているスペースに動いてボールをもらったり、守りのうすい方にパスしたりして得点する動きを身に付けることができる。

## 準備

- 教師側：2ゴールハンドボール場、  
工夫した戦術的動きの資料  
防御人形
- 児童側：学習ノート

## <各活動の子どもの見取りと支援>

1 これまでに身に付けた動きをふり返るとともに、変化したルールやそれにもなって変わる動きを確認し、ゲームを行う。

- 数的優位がなくなったコートで、守りのうすい方を判断して攻撃する本時の学習のねらいをつかむこと

☆ 相手の守備のすき間を見つけないといけなぞ。

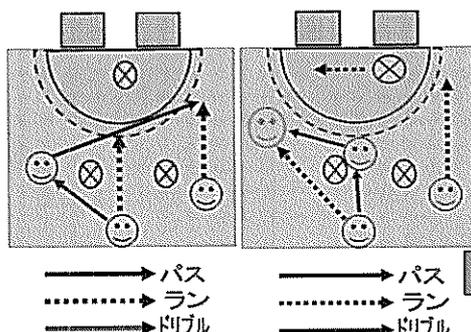
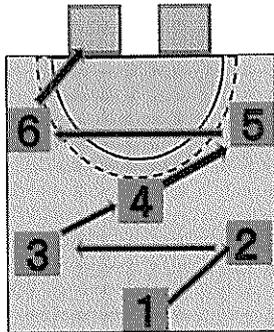
### 本時のめあて

これまでに身に付けたボール回しを生かして、守りの状況を素早く判断して、得点になりやすいコースを見つけてたくさん攻撃しよう。

2 効果的な攻撃の仕方を考えながらハーフコートでのハンドボールのゲームを繰り返す。

- (1) 前時までの動きでうまくいった作戦の動きを中心に試しながら練習を繰り返す。

《Aチーム作戦例》 《Bチーム作戦例》



【チャレンジ活動での動き】 【図1パスラン作戦】 【図2ワンツー作戦】

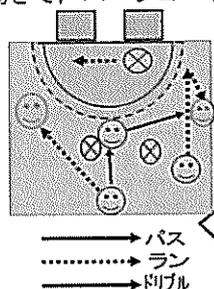
- 条件の変化に応じて、動きの課題や修正ポイントを考えること
- (2) ゲーム1の課題を修正した動きで、ハーフコートのゲームを繰り返す。

- ゲーム1の動きを修正して状況に応じた動きに応用すること

3 今日の活動をもとにうまくいった動きや作戦を紹介し、よさを話し合う。

- 工夫した活動や作戦のよさを実感し、次時の活動において、動きを工夫する意欲をもつこと

☆ もっと動きを組み合わせ、いろいろなパターンの攻撃の方法を考えていきたいな。



パスがうまくいかないから、相手の守備を動かして、パスをしやすくしないとイケないぞ。

### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ これまでの動きや活動を活用して新しい条件でのゲームを試し、本時学習のめあてをもつとともに、活動への意欲を高めている。

### 【支援】

- ※ 前時までの活動の様子をVTRや写真で掲示して、動きの高まりやよさを賞賛する。

### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 人数が増えたことで、守りをかわす動きを速くしたり、あいている味方を素早く見つけている。

### 【支援】

- ※ モデルチームの動きのよさを紹介し、単なる作戦だけでなく、動きにも目を向けさせる

### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 数的優位の中で学んだことを生かして作戦を工夫している。

### 【支援】

- ※ これまで効果的だった作戦の掲示をして作戦に生かすようにする。

### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ ゲーム1の動きの基本を活用しながら、状況に応じた動きをしている

- ※ ゲームをストップしよりよい動きを賞賛する。

### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 今日の学習を振り返り、よさを見出し、次時への意欲を高めている。

### 【支援】

- ※ 今日よかった動きを見合い、お互いの考えのよさを相互評価する。

変わりゆくあらつの今昔を絵巻で残す「問い」の複合型の学習

## 第6学年2組 総合的な学習指導案

指導者 高瀬雄大

単元 つくろう! あらつ大絵巻

### 指導観

#### 本単元について

本単元は、本校が所在するあらつの街のよさを追究することを通して郷土の文化への愛着を深めることをねらいとしている。具体的には、万葉集にも名が出てくる荒津一体の変遷を物語として構成し、絵巻によって表現する。絵巻は、追究したことを一連の流れで表すことができるよさがあり、一人一人の思いを連ねることができる。また、あらつ地区には西公園（荒津山）、唐人町、荒戸、大濠など古い街が多く地区ごとに変遷の歴史があるため追究課題が広がりやすく、意欲的に探究することができる上でも意義深いと考える。

#### 本学級の子どもたちについて

本学級の子どもたちは、第5学年の総合の時間において、学校付近を流れる菰川をきれいにすることを目的としてその方法や計画を企画し、実行する活動を行っており、その中で情報を収集したり、分析したりして問いを深化、拡充し学習をすすめることができている。そこで、あらつの街を物語として残す「あらつ大絵巻」を作成するという課題を達成するために計画を立てて必要な情報を収集、分析したり、内容を検討することができるようにしたい。

#### 本単元の指導について

本単元の指導にあたっては「変わりゆくあらつの街並み」というテーマで物語を構成し、それをまとめるために絵巻という表現方法で記録してのこしたいという意欲を高めさせる。そのために、九州国博の大絵巻展を見たり、絵巻制作に携わる表具師の合屋さんから話を聞いたりする。また、住民の9割以上が転入者であるあらつ地区の人々に歴史的、文化的価値を伝えようとしている空賢司さんと共に、絵巻でのPR活動を企画する。そして、唐人町、荒戸西公園などの変遷についての情報を収集して物語を構想して絵巻を制作し、作品の展示会を実行する。

#### 目標

- 1 あらつの街の移り変わりを絵巻によって表現し住民に伝える意欲を高めることができる。
- 2 絵巻の内容や、制作方法、発信方法などを計画し、友達と協力しながら実行することができる。

#### 計画（約20時間）

階層	主な学習活動	時間
出 合 う	1 絵巻の魅力について話し合う。 (1) 現存する様々な絵巻に出会い、その魅力について話し合う。 ○ 当時の人々の思いが生き生きと描写されていることに関心をもつこと ※ 九州国博の大絵巻展を見学したり、表具師の合屋さんから絵巻の価値について話を聞いたりする。 (2) 自分達で絵巻をつくってみたいという思いを高める。	6 ④
	○ 6年間過ごした学校周辺の様子を絵巻で表したいという思いを高めること ※ 学校周辺を探索し、物語の題材についての情報を集めさせる。	②
探 る	2 絵巻制作に向けての情報を集める。 (1) 荒津の物語について話し合う。 ○ 荒津の各地区の歴史に物語の舞台がたぐさんあることをとらえること ※ 空健司さんの話を聞く。 (2) 絵巻制作についての計画を立てる。	6 ③
	○ 各地区の魅力を紹介する物語を構想すること ※ 変遷の歴史が読み取れる物語になっているかを全体で検討する。	③ 本時 3/3
表 す	3 地区ごとに絵と文のレイアウトなどを決め、絵巻を完成させる。 ○ 制作スタッフに別れて計画を立てて活動すること ※ 空さんと協力して完成した絵巻を住民に展示する方法について話し合う。	8

## 本時の学習活動の展開

### 本時授業の目標

- あらつの街の移り変わりを表現する絵巻の構成について意欲的に追究することができる。
- 唐人町、荒戸、西公園などの変遷を表した物語の内容について、郷土のすばらしさが伝わるかを観点として検討することができる。

1 あらつの街の変遷を絵巻で残すために気をつけることについて話し合う。

○ 印象深いエピソードを絵と文でわかりやすく伝えること

- ☆ (唐人町) 中国の人がたくさん住んでいたことやお寺が多く集まっていることをはじめに紹介しよう。
- ☆ (荒戸・大濠) 遣唐使が出発した荒津の港や、中国からの使節を迎えた鴻船館について調べたことを詳しく表せるといいね。
- ☆ (西公園) 荒津山とよばれた場所が西公園として整備された様子を物語にしたいな。

### 本時のめあて

それぞれの地区で残したいエピソードをわかりやすく伝えることができる物語について検討しよう。

2 各地区ごとに絵巻の内容を検討する。

(1) 唐人町、荒戸、西公園などのグループに分かれて、集めた情報から絵巻にしたい物語の内容を検討する。

○ みんなが思い出せるエピソードを中心にする

唐人町	荒戸・大濠	西公園
☆ 中国の人が多く住むようになった理由とその名残が今でも伝わっていることを中心に物語を考えよう。	☆ 鴻船館を中心とした中国とのかかわりがわかるように貿易の様子を中心に物語を考えてみよう。	☆ 荒れ果てていた荒津山を花見の名所にした住民の努力を中心にした物語にしてみよう。

(2) 各グループでの印象深い特徴を表すエピソードが不足していないかを全体で検討する。

○ わかりやすく、おもしろく伝えられそうかを確認すること

- ☆ (唐人町G) 現在の商店街の人達も昔の中国人と同じように集客の努力を行っていることをラストに入れたらつながってくると思う。
- ☆ (荒戸G) 当時はとても危険だった中国への船旅だから、別れを惜しむ人の気持ちが伝わる物語になるといいね。
- ☆ (西公園G) 荒れ果てていた西公園が桜で満開になったときに住民の人がどんなことを考えたかについて、もっと詳しく調べた方がいいね。

3 それぞれのグループで収集する方法について確認する。

○ 根拠が確かな情報を集める場所、人であること

- ☆ もう一度空さんにこれからの企画について聞いてみよう。
- ☆ どんな魚がたくさん捕れていたのかを聞いてみよう。

○ 準備

教師側：絵巻（複製）ホワイトボード

あらつ各地区の拡大地図

児童側：情報収集ノート

### <各活動の子どもの見取りと支援>

【子どもの見取りの観点】

◎ 絵巻でのこしたい各地区での印象深いエピソードを選んで活動への見通しを立てている。

【支援】

※ 各地区の拡大地図に物語にしたい場面の場所を記入しておき、紹介したい物語の説明場所を確認させる。

【子どもの見取りの観点】

◎ 唐人町、伊崎、西公園などのグループごとにそれぞれで集めた情報を比較して組み合わせたり、選んだりして物語の内容を具体的に考える。その際、起承転結をはっきりさせて見る人にその地区のよさが伝わるものになるよう検討している。

【支援】

※ 事前に集めた情報を加工してイラストや文章にしたものを使いながらグループ内で説明を行い、ホワイトボードに内容を書き込ませる。

【子どもの見取りの観点】

◎ 郷土のすばらしさが伝わるかを必要な条件として他グループの内容を検討している。

【支援】

※ その地区をよくするために努力した人物の業績や、昔はその場所が現在と全く違っていたという事実が物語の中心になっているかをもとにして他グループの内容を検討させる。

【子どもの見取りの観点】

◎ 絵巻に表したいことで不足している情報について調べる見通し（内容、方法）を立てている。

【支援】

※ 空賢さんが作成したあらつ地区を紹介するガイドマップを提示して、掲載されている内容をもとに、物語にするために必要な情報がどこにあるかを確認させ、足りない情報の収集に向けての計画を立てさせる。

滞在国と日本のスープを調べ、その国の文化を見つめていく「問い」の複合型の学習  
**第3・4・5・6学年・3組 国際交流タイム学習指導案**

指導者 永尾 健・有川 陽子

単 元 **世界のスープ博覧会**

指 導 観

本単元について

本単元は、滞在国と日本のスープについて比較することで、それぞれの文化のよさに気付くことをねらいとしている。具体的には、①日本のスープとして味噌汁について調べたり、調理したりする体験を通して、日本の食文化や生活習慣などをとらえ、日本のよさに関心をもつこと、②滞在国のスープについて調べ、調理、試食体験をすることで、多様な食文化の観点から違いや共通点をとらえたりすること③日本や滞在国の食文化を実感し、より一層、愛着と誇りをもつことである。

本学級の子どもたちについて

本学級の子どもたちは、3～6年生の学年が集まった19人で構成される帰国子女学級である。また滞在国はヨーロッパ、アジア圏と8カ国に分かれている。従って、滞在国で食していたスープも国によって様々であり、味付けや食材、調理の仕方などの違いも感じられると考える。そこで、滞在国と日本のスープからそれぞれの食文化をとらえ、自他国の文化を多面的に理解していこうとする態度を育成する上でも意義深いと考える。

本題材の指導について

本単元の指導にあたっては、日本とそれぞれの滞在国のスープを食べ、食材や味等の違いによる気付きをもたせることからスープについて多面的な見方をし、食材、調理方法、歴史的背景、地理・風土といった視点から追究することで、滞在国の食文化のあわせてとらえていかせたい。そして、滞在国に対する愛着を深めさせ、「世界のスープ博覧会」を開き、スープを通して滞在国の食文化や特徴を広めさせたい。本単元では、スープについて多面的にとらえていくとともに、博覧会を成功させたいという視点でも学習が展開していくことから、問いの複合型の学習となる。

目 標

- それぞれの滞在国と日本のスープについての気付きから課題を追究し、友達や外国の方と交流することで、自他国の文化を尊重し理解を深めることができる。
- 日本や滞在国のスープについて情報を収集したり、調理したりしたことを生かして、世界のスープ博覧会でまとめたことを発信したり調理したスープをふるまったりすることができる。

計 画 (約20時間)

階	主 な 学 習 活 動	単 元
つ か む	1 日本や滞在国のスープに関する気付きを話し合い学習課題と計画をつくる。 (1) 日本と滞在国のスープを食べ比べる。 ○ 共通点や相違点から、自分の考え(気付き、発見)をもつこと ※ それぞれの国のスープを準備する。	8 ④
	(2) 滞在国のスープについての課題と調べる計画を立てる。 ○ 調べる内容や方法の見通しをもつこと ※ 追究する視点や学年を配慮してグルーピングをする。	④
追 究 す る	2 滞在国のスープを調べて、まとめる。 (1) 滞在国のスープについて調べる。 ○ 特徴を支える要因(食材、地理、風土、歴史的背景、調理方法等)をとらえること ※ GTを招聘し、調べたスープを作る体験の場を設定する。	8 ⑤
	(2) 滞在国のスープについて調べたことを発表する。 ○ それぞれの国の特徴をとらえること ※ 世界のスープ博覧会のリハーサルを設定し、それぞれの発表について質問や意見が言えるようにする。	③ 本 時 2 / 3
つ く る	3 世界のスープ博覧会を開く。 ○ 滞在国の食文化・特徴を伝えること ※ 発表、試食コーナーの場を設定する。	4

## 本時の学習活動の展開

### 本時授業の目標

- リハーサルとして、滞在国のスープの特徴から選んだ観点について調べたことを、わかりやすく説明したり、友達の発表や日本の味噌汁との共通点や相違点に気を付けて聞いたりすることができる。
- 友達の滞在国の文化を理解したり、世界のスープ博覧会で発表する内容や展示方法について改善点を発表したりすることができる。

### 1 調べてきた滞在国のスープを紹介し合う。

- それぞれのグループの問いをもとに、滞在国のスープの特徴を支える根拠をとらえること

☆ フィリピンのスープの特徴は、酸っぱいことです。これには理由があるんですよ。私たちは、シニガン ナ ヒボンを調べました。  
 ☆ アメリカのクラムチャウダーについて調べました。二枚貝を使うところが特徴です。このスープがアメリカの方にとってのみそ汁といえます。

### 本時のめあて

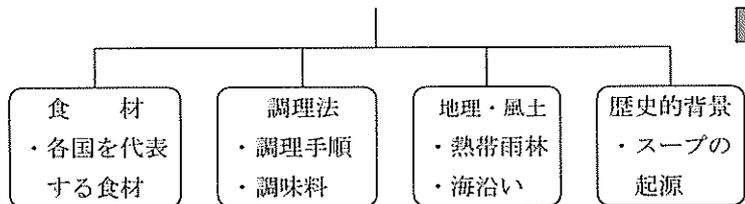
世界スープ博覧会のリハーサルを行い、意見や疑問に思ったことを発表し、「世界のスープ博覧会」の発表内容を見直そう。

### 2 「世界のスープ博覧会」のリハーサルを行う。

- (1) 各国のスープについて調べたことを発表する。

- 各国のスープから食材、調理法、地理・風土、歴史的背景などの共通点や相違点をとらえること

#### 「世界のスープ博覧会」の内容として考える観点



- (2) 友達の発表についての疑問点や意見を出し合う。

- お客さんの立場に立って疑問点や意見をとらえること

☆ どうしてフィリピンのスープは、酸っぱいんですか。  
 ☆ クラムチャウダーがおいしかったのですが、作り方を知りたかったです。

### 3 世界のスープ博覧会に向けて、見なおす点について話し合う。

- 発表内容の改善点をとらえること

☆ 味を伝えるために、試食コーナーをつくらう。  
 ☆ 作り方コーナーをつくってレシピを準備しよう。

#### 「世界のスープ博覧会」の展示方法として考える観点



### ○ 準備

教師側：学習ノート、板書用資料、学習の流れ図

児童側：発表資料、作ったスープ

### <各活動の子どもの見取りと支援>

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 滞在国のスープの特徴の観点（食材（メニュー）、調理法（調味料）、マナー（食べ方）、生活習慣等）を発言している。
- ◎ 友達が発表を聞きたくるように、興味を持てるような内容を入れて、紹介文を作り発言している。

#### 【支援】

- ※ グループで調べたスープが分かるように、拡大写真を提示させたり、実物（スープ）をグループ毎に準備させたりしておく。
- ※ 学年や実態に応じたグルーピングを行っておく。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 調べたことを資料を使いながら分かりやすく説明している。
- ◎ 友達の発表を聞き、自分の考えや疑問点をもち、学習プリントに書き込んでいる。
- ◎ 自分の国のスープや味噌汁と比較して発言している。

#### 【支援】

- ※ 滞在年数や言語能力を考慮して、発表の観点を設定しておく。
- ※ 日本との比較ができるように、味噌汁についての掲示をする。
- ※ 実物があるよさを実感させるために、それぞれの国のスープを準備しておく。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 友達の発表から自分の国との共通点や相違点、意見や疑問点を発言している。

#### 【支援】

- ※ 調べた内容を提示したものを指し示すことで、全員で疑問点や意見を確認できる場を設定する。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 見直す点を学習プリントに書いたり発言したりしている。

#### 【支援】

- ※ 世界スープ博覧会への意欲付けを図るために、GTからの評価をもらう場を設定する。

友達と一緒に楽しんで量を比べながら、量の概念や比べ方を身に付けていく学習  
**第3・4・5・6学年さくら・梅組（Aグループ）算数科学習指導案**  
 指導者 諏訪原佳子

題材 **くらべっこの森へ 出かけよう!**

指導観

本グループの子どもたちについて

Aグループは、さくら組2名、梅組2名、計4名で構成されている。子どもたちは人とのかかわりを好み、友だちと一緒に活動したり競争したりすることで、意欲を持続し楽しく活動できるという特性がある。さらに、繰り返し活動をしていく中で、まねをしたり、実際にやってみたりすることで、体験と知識を結び付けていくことが比較的得意である。このような子どもたちの実態から、友だちと一緒に楽しんだり、教師が扮する魔女と対決したりしながら量にかかわることができる本題材を設定した。

目標

- 1 長さに着目して比べることがわかり、意欲的に取り組むことができる。
- 2 複数の物の直接比較や間接比較ができる。
  - ・ aグループ：重ねたり並べたりして2つの物の比較ができる。
  - ・ bグループ：並べて3つの物の比較ができる。
  - ・ cグループ：並べたり、任意単位を使ったりして比較ができる。

計画(約5時間)

本題材について

本題材は、森の魔女に持ち去られた宝物を取り返すために、魔女が住むくらべっこの森へ出かけ、魔女から出される問題に答えて、宝物がある森の奥深くまで進んでいくというお話を基にして活動していく。その中で、魔女から出された長短に関する問題に答えることで、複数の物の長短を繰り返し比べるようにしていく。そうすることで、楽しみながら目的意識をもって量を比べる活動を繰り返し行うことができ量の概念や量を比べときの技能を確実に身に付けることができる。このことは、生活の様々な場面で比較をすることができる力につながっていく、意義深いものである。

本題材の指導について

本題材の指導にあたっては、複数の物の長短を比較することで、量を表すことばを意識すること、量の概念や比較の技能を身に付けることをねらいとしている。見通す段階ではお話を提示し活動への意欲と見通しをもたせる。つかむ段階では、①物の様子とことばを結び付ける、②差が多いものを比べる③差が小さい物を比べるようにしていく。広げる段階では大きさ、長さ、形、太さなど複数の要素の中から必要な要素に着目するようにする。

段階	主な学習活動	時間
つかむ	1 魔女が宝物を奪ってくらべっこの森の奥深くに隠してしまったので、みんなで取り返しに行くという話を聞く。 ○ 長さを比べて、森の奥に進み宝物を取り返すという見通しをもつこと ※ 子どもたちが出てくるお話の提示	1
	2 くらべっこの森で長短を比べて魔女と対決する。 (1) ゴムやスライムなど、長さが変わる物を魔女の言いつけ通りに長さを変える。 ○ 長短と言葉を結び付けること ※ 長さが変化する物の提示	3
ひろげる	(2) 差が大きい物の長短を比べる。 ○ 見て判断できる物での長短をとらえること ※ 長さを比べるための補助具の提示	①
	(3) 差が小さい物の長短を比べる。 ○ 差が小さい物での長短をとらえること aG：2つの物での長短をとらえること bG：3つの物での長短をとらえること cG：任意単位の使用をとらえること ※ 長さを比べるための補助具の提示	① 本時
いかす	3 宝の地図をもとにして宝を探す。 ○ 大きさや長さ、太さ、形、色など複数の要素から必要な要素をとらえること ※ 複数の要素が入った物の提示	1

## 本時の学習活動の展開

### 本時授業の目標

- 見通しをもって、友達と一緒に意欲的に取り組むことができる。
- 複数の物の長短を比べることができる。  
(aG)重ねたり、並べたりして2つの物の長短, (bG)並べて3つの物の長短, (cG)任意単位を使って長さをとらえたりすること

1 くらべっこ森で長さ比べをして、宝物に近づいたことを思い出し、今日することについて話し合う。

○ 魔女からの問題に答えて、先に進むという見通しをもつこと

☆ 前の時間は、長い、短いを比べたぞ。

☆ 今日も、比べて先に進むぞ！

### 本時のめあて

まじょからの もんだいに こたえて たからのちずを てにいれよう！

2 くらべっこ森に行き、魔女からの問題に答える。

(1) くらべっこ森で、差が大きい物の長さを比べる。

○ 見て長さのちがいをとらえること

aグループ	bグループ	cグループ
○ 2つの物の長さの違いをとらえること	○ 3つの物の長さの違いをとらえること	○ 長さの違いをとらえること

☆ この 2つは 長さが ちがうな。

☆ まえにやった 比べ方と一緒にだぞ！見ただけで わかるぞ！

(2) 見た目だけでは判断できない差が小さい物の長短や直接比べられない物の長さを調べる。

○ 端をそろえて並べたり重ねたりして長さの違いをとらえること

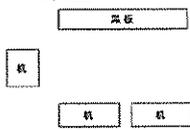
○ 端をそろえて重ねて比べ長い、短いをとらえること	○ 端をそろえて並べ一番長い、短いをとらえること	○ 任意単位を使って長さをとらえること
---------------------------	--------------------------	---------------------

☆ 大きさを比べたときと同じで そろえて重ねたり 並べたりすると どちらが 長いかが よく わかるな。

くらべっこ森



なぞときの部屋



- ① 魔女から問題をもらう。
- ② 謎解きの部屋や森の中で比べる。
- ③ ①～②を5回程度繰り返す。
- ④ 全問解いたら次の地図をもらう。

3 みんながもらった地図を合わせて、先の地図をつくる。

○ 重ねたり、並べたりして長さを比べられた達成感を味わうこと

☆ やった！次の地図を手に入れたぞ。次もがんばって比べるぞ！

### 準備

教師側：紙芝居 補助具 手順表

様々な長短の果物、葉っぱ、蛇

魔女からの手紙 魔女の杖

4つに分けられた森の地図

### <各活動の子どもの見取りと支援>

#### 【子どもの見取りの観点】

◎ 長さを比べることに着目した発言をしている。

#### 【支援】

※ 前時の続きのお話しの提示

※ 前時比べた差が大きい物の提示と比べてみる場の設定

#### 【子どもの見取りの観点】

◎ 魔女からの問題の手紙を読んで、問題の答えである、長い、短いを選んでいる。

#### 【支援】

※ 一人一人への魔女からの問題の提示と個に応じて長さの差を変えた物の提示

#### 【子どもの見取りの観点】

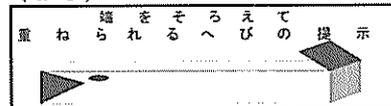
◎ 端をそろえて、重ねたり並べたりして長さを比べている。

◎ 魔女の手紙に従って、長い順、短い順に並べている。

◎ 任意単位を使って、いくつ分で長さをとらえている。

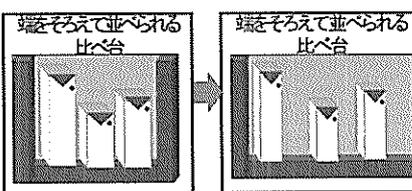
#### 【支援】

※ 直接比較するための補助具の提示 (aG)



(b, cG)

※ そろえることを意識できるための比べ台の提示



※ 直接比較できない物の提示

※ 個に応じた手順表の提示

#### 【子どもの見取りの観点】

◎ 重ねて比べた、並べて比べたなど比較方法について発言している。

#### 【支援】

※ 全員の地図を合わせる場の設定

宝探しの活動を通して、間接比較や任意単位を用いて測定する力を付ける学習

## 第3・4・5・6学年さくら・梅組 (Bグループ) 算数科学習指導案

指導者 弘松英樹

題材 はかってみつけよう! ひみつのたからさがし

### 指導観

#### 本グループの子どもたちについて

Bグループの子どもたちは、さくら組3名、梅組1名の計4名で構成されている。子どもたちは、情報を視覚的にとらえ、手順に沿って学習を進めていくことが得意であるという特性がある。このような子どもたちの実態から、一定の手順にそって始点から終点までの長さを視覚化し、間接比較したり任意単位で測定したりする本題材を設定した。そして、宝探しのヒントとなる情報をもとに長さをとらえる。このことは、生活の中での身近な遊びに算数の学びを活かす経験をもたせる上でも意義深い。

#### 本題材について

本題材は、箱の中に埋められた宝探しができる場を用意し、宝もののありかを示す手紙をヒントに、宝を探す活動を通して、長さの間接比較による測定や任意単位での測定ができることをねらいとしている。具体的には、①宝探して宝のありかまでの長さを調べて探すことに意欲的に取り組むこと、②始点から終点までをまっすぐに、間接比較や任意単位を選んで測定すること、③長さを正確に測定し、宝を見つけられたことに自信をもつことである。このような学習は活動の目的をもたせながら長さのとらえ方や量の基本的な概念を具体的な操作を通して身に付けさせる上で価値がある。

#### 本題材の指導について

本題材の指導にあたっては、宝探しができる場を用意し、目印となる場所から宝のありかまでを間接比較や任意単位で測定する。動機段階では、試しの活動を行い、測定の手順や仕方を理解させる。熱中段階では、様々な場所からの距離を間接比較や任意単位で測定させる。この際、向きや長さを意識して選択するヒントカードを準備し、視覚的な情報を制限する場の構造化を行う。達成段階では、運動場での宝探しを行い、長い長さの測定に活かしていく。

#### 目標

- 1 宝のありかを探するため、長さを調べる活動に関心を持ち、意欲的に間接比較や任意単位で自己選択しながら測定することができる。
- 2 宝のありかの情報をもとに長さを測定する活動を通して、(aG)間接比較で長さを測定すること(bG)任意単位のいくつ分で長さを測定することができる。

#### 計画 (約5時間)

階	主な学習活動	時間
つ か む	1 宝探し遊びについて話し合い、試しの活動を行う。 ○ 目印となる場所から宝のありかまでの長さを測定する手順がわかること ※ 身近な物の長さを間接比較や任意単位に用いて、手順に沿って測定させる。	1
ひ ろ げ る	2 宝探しの場で、長さを測る物や個数を自分で選んで宝のありかを探す。 (1) 目印から1方向への長さを調べる宝探しを行い、宝を見つける。 ○ 間接比較や任意単位に用いる物、個数を自分で選んで長さを測定すること (2) 目印から2方向への長さを調べる宝探しを行い、宝を見つける。 ○ (aG)情報をもとに左右を考えて、様々な物を使って間接比較で測定すること (bG)情報をもとに左右を考えて、様々な物を使って任意単位のいくつ分で測定すること ※ 情報によって、左右の向きや長さの基準が変わりそれに応じた物を準備する。	3 ② ① 本時
い か す	3 運動場での宝探しを行い、これまでの学習を活かして長い長さを調べる。 ○ 対象の長さが長い場合でも、間接比較や任意単位で測定できること ※ これまでの活動と共通した手順で測定させるようにする。	1

## 本時の学習活動の展開

### 本時授業の目標

- 長さを測って宝のありかを調べる活動に関心をもって、意欲的に間接比較、任意単位のものや個数を選んで長さを測ることができる。
- 情報をもとに長さを測定する活動を通して(a G)左右の向きに気を付け、様々な物の間接比較で測定すること、(b G)左右の向きに気をつけ、様々な物を任意単位として用いて測定することができる。

1 宝探し遊びをして、これまでにした宝を探す仕方や、前時との活動の場の違いについて話し合う。

○ 前時に行った活動の手順がわかること

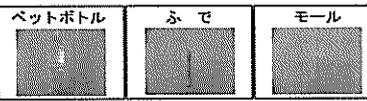
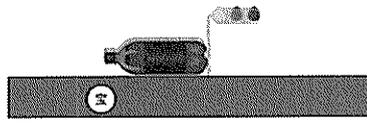
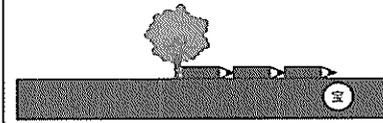
- ☆ さくらの木から、消しゴムの5個分と数えて長さを調べたよ。
- ☆ ポストから、筆箱を置いて長さを調べたよ。
- ☆ 今日も宝ものを見つけたいな。

### 本時のめあて

ながさをしらべて たからものを みつけよう。

2 左右の向きがある場で宝探しを行い、長さを測って宝を見つける。

(1) 各自の場で、宝のありかまでの長さを測って宝を見つける。

aグループ	bグループ
ヒントとなる情報の提示	ヒントとなる情報の提示
① 左右の向き 例：左か右か、長い方はどっち	① 左右の向き 例：左か右か、短い方はどっち
② 測定に使う物 例：1番長い物を選んでね	② 測定に使う物の個数 例：2番目に長い物を選んでね
	
	
○ 左右の向きを考え、間接比較に使う物を選んで測定すること	○ 左右の向きを考え、任意単位の数を選んで測定すること

☆ ペンの3本分で長さを調べたよ。

☆ ロープをまっすぐにはって長さを調べたよ。

(2) みんなで協力して長さをつなげ、最後の宝のありかを探す。

○ 自分の与えられた情報をもとに、長さを友達とつなげて長い長さでも宝の場所を見つけられることが分かること

☆ やった、みんなで宝を見つけられたよ。

☆ 長さをつなげても、長さを調べられるんだね。

3 長さを調べて宝を探すときに気が付いたことを発表し、次時の活動について話し合う。

○ 情報に応じて向きを考えたり、間接比較や任意単位で用いる物を変えたりして長さを調べられたことに自信をもつこと

☆ 次は、もっと広い運動場で宝探しをしたいな。

### 準備

教師側：各自の宝探しの場

間接比較や任意単位に用いる物

宝もの

全員での宝探しの場

ヒントカード

### <各活動の子どもの見取りと支援>

【子どもの見取りの観点】

◎ 宝探しの遊びをしたいという意欲をもっている。

【支援】

※ これまでの遊びに左右の向きの条件を付け加えるようにし、難しくなっても前時までの手順を活かして宝を探そうという見通しをもたせるようにする。

【子どもの見取りの観点】

◎ 前時の活動を想起し、活動の手順が分かっている。

【支援】

※ 情報をヒントカードとして提示し、実際に実演しながら手順を理解させる。

【子どもの見取りの観点】

◎ 情報に応じて、左右の向きを判断したり、間接比較や任意単位で用いる物や個数を変えたりして長さを測定することができている。

【支援】

※ (aG) 手順を示したヒントカードに左右の向き、使う物の順番を示す。  
(bG) 手順を示したヒントカードに左右の向き、使う物のいくつかの順番を示す。  
※ 視覚的な情報が制限できるように場を構造化し、1試行毎の空間を準備する。

【子どもの見取りの観点】

◎ これまでの活動を活かし、友達と情報を共有し、長さを調べる物を用いて長い長さを測定することができている。

【支援】

※ 1人1人の役割が分かる情報のヒントカードを準備する。

【子どもの見取りの観点】

◎ 長さを測定するときに気を付けたことやわかったことを表現している。

【支援】

※ 使う物や向きが変わっても、長さを調べる手順を活かして同じように宝を見つけられたことを評価する。

おかし材料をはかりながら、計器の使い方を身に付け量の概念を深めていく学習  
**第3・4・5・6学年さくら・梅組（Cグループ）算数科学習指導案**

指導者 下川 勝彦

題材 **ただしくはかって おかしづくり**

指導観

本グループの子どもたちについて

Cグループは、さくら・梅組の3名で構成されている。子どもたちは学習することに意欲的で、いろいろな体験を積極的に行おうとする特性がある。算数の学習でもたし算・ひき算などの計算や九九などもできるようになってきている。しかし、生活経験の実態により算数の学習で学んだことが実生活で活用することまでには至っていない。そこで、体験と知識を結び付けていくことができるように、子どもたちの興味・関心の高い「おかしづくり」という生活場面を取り入れ、数量を活用することができる本題材を設定した。

本題材について

本題材は、みんなでおいしいおかしをつくるという活動を通して、おかし材料を正しくはかることや重さに応じたはかりを選んで使い方に慣れることをねらいとしている。主な学習内容としては、重さをはかって種類ごとに分けること、レシピを見ながら正しく材料をはかること、はかりの使い方を身に付けることなどである。このような実生活でも興味・関心のあるおかしづくりを取り入れることで、子どもたちは量の数値と実際の材料の重さを結びつけ、具体的な活動を通して数量感覚を養うことができる。

本題材の指導について

本題材の指導にあたっては、複数の物の大小、長短を比較し、量を表すことばを意識すること、量の概念や比較の技能を身に付けることをねらいとしている。つかむ段階では、活動の手順を提示し、おかしづくりへの意欲と見通しをもたせる。ひろげる段階では、おかしづくりを通して、①正しくおかし材料を測定する、②材料の量に応じてはかりを選んで測定する。いかす段階では、実際につくったおかし材料の量を測定し、重さの普遍性などに着目するようにする。

目標

- 1 おかしづくりを通して、材料の重さをはかりを使って意欲的に測定しようとすることができる。
- 2 複数の材料を測定しながら、量の大小を理解したり正しくはかりを使ったりすることができる。
  - ・ a グループ：重ねたり並べたりして2つの物の比較ができる。
  - ・ b グループ：複数のメモりのはかりから材料の量により選んで測定することができる。

計画(約5時間)

階	主な学習活動	時間
つかむ	1 おかしづくりの計画を立て、必要な材料を選びその量を測定する。 ○ 必要な材料の重さをはかりを使って測定する仕方を理解すること ※ はかりと使い方のの提示	1
	2 レシピにそっておかしづくりをしながら材料の重さを測定する。 (1) ホットケーキづくりでの測定をする。 ○ 小麦粉や砂糖などの材料を50グラムや10グラムごととしてとらえること ※ 比較のための天秤やはかりの準備と重さをよむための補助具の準備	3 ①
	(2) スイートポテトづくりでの材料の測定をする。 ○ サツマイモや砂糖など10グラムや5グラムごととしてとらえること ※ めもりを選べるはかりの準備	①
ひろげる	(3) クッキーづくりでの材料の測定をする。 ○ 小麦粉や砂糖など5グラムや1グラムごととしてとらえること ※ めもりを細かく選べるはかりの準備	① 本時
	いかす 3 材料を測定したことを生かして、おかしづくりレシピを完成する。 ○ 測定の仕方をまとめて、測定の仕方などまとめること ※ 複数の要素が入った物の提示	1

## 本時の学習活動の展開

### 本時授業の目標

- クッキーづくりを行いながら、意欲的に材料を正しくはかることに取り組むことができる。
- はかりのメモリのよみ方や使い方を身に付け、材料を正しくはかることができる。
  - (a G) 5グラム単位までの量を正しくはかることができる。
  - (b G) 1グラム単位までの量を正しくはかることができる。

### ○ 準備

教師側：はかり 補助具 手順表  
 様々な重さの材料  
 メモリ 活動計画書

### <各活動の子どもの見取りと支援>

1 これまでのおかしづくりを振り返って、オリジナルクッキーをつくりながら材料をはかっていくことについて話し合う。

○ クッキーの材料について測定の仕方の見直しをもつこと

☆ 前の時間は、注文された材料を正しくはかることができた。

☆ 今日、注文通りに材料を正しくはかるぞ。

#### 本時のめあて

ちゅうもんされた クッキーの ざいりょうを はかりをつかって ただしく はかるう。

2 材料のはかり方の手順をとらえながら、はかりを使って注文されたクッキーの材料を正しく測定する。

(1) はかりを使って、正しいはかり方の手順を行いながら試しの測定をする。

○ はかりのメモリのよみ方やはかりの使い方をとらえること

aグループ	bグループ
○ はかりに材料をのせて、10グラム単位や5グラム単位のメモ리를正しくよみながら、はかりの使い方をとらえること	○ はかりを材料にのせて、5グラム単位や1グラム単位のメモ리를正しくよみながら、はかりの使い方をとらえること

☆ このまえより ちいさな メモリを よむんだな。

(2) それぞれ注文されたクッキーの材料を正しくはかる。

○ 5グラム単位や1グラム単位の量をはかりを使って正しく測定すること

○ 実際の材料をはかりにのせて、メモリが10グラム単位や5グラム単位までを正しくよむこと	○ はかりのメモリを見ながら、メモリが1グラム単位までを正しくよむこと
--	-------------------------------------

☆ 試しに はかった やりかたで はかれば いいんだな。

- 活動の手順
- ① 注文票をよんで、材料を選ぶ。
  - ② 注文票の材料の量をはかりにのせてはかる。
  - ③ はかった材料の量のメモ리를よむ。
  - ④ 正しい量かどうか確認する。

3 正しくはかることができたことを発表する。

○ はかりを使って正しく材料をはかることができたことについて達成感を味わうこと

☆ やった。材料を 正しく はかることが できたぞ。

#### 【子どもの見取りの観点】

◎ これまでの活動からはかりを使うことに着目した発言をしている。

#### 【支援】

- ※ 前時までの活動を活動計画から提示すること
- ※ クッキーづくりの手順の提示とはかりを使う場の設定

#### 【子どもの見取りの観点】

◎ はかり方の手順を見ながら試しの活動で正しくメモ리를よんでいる。

#### 【支援】

- ※ 材料をはかりにのせてはかる手順表の提示
- ※ 前時まではかりの提示と5グラム単位や1グラム単位のメモ리를よむための補助メモリによる支援

#### 【子どもの見取りの観点】

◎ 注文票を正しくよんで、注文に書いてある量の材料を選んではかりにのせている。

◎ 補助メモリを見ながら、5グラム単位のメモリや1グラム単位のメモ리를正しくよんでいる。

◎ 注文の材料を準備し、正しくはかることができたか確かめている。

#### 【支援】

- ※ 正しく測定するためのメモ리를よむための補助具の提示
- (a G) 5グラム単位をよむための補助メモリの提示
- (b G) 細かな量のはかりのメモ리를よむための補助メモリの提示

#### 【子どもの見取りの観点】

◎ 正しくはかることができたことについて発言している。

#### 【支援】

- ※ 一人一人のがんばりを賞賛するための発表の場の設定

## テーマ別ディスカッション

## テーマ別ディスカッションのまとめ

テーマ

「『習得』『活用』『探究』の授業づくりについて」

○登壇者

教育報道出版社 代表取締役社長 梶 浦 真 氏

福岡教育大学 教授 津 川 裕 氏

本校研究部 田 中 健 悟

# 第2日目 午前の部

## 学習指導案

### ▼ 学習指導 (9:15~10:00)

学年 組	教科領域等	単元・題材・主題名	授業者	会場
2年2組	算数科	三角形, 四角形, ステンドグラスづくり	永尾 健	2年2組教室
3年1組	総合	エコロン池かいぞう作せん	今泉 伸一郎	3年2組教室
3年2・3組 4年3組	体育科	ゴールをめざせ キックチャンスゲーム	毛利 拓也	附属中体育館
4年1組	道徳	見つめよう, 思いやりの心	三浦 研一	4年1組教室
4年2組	総合	つくろう 我らの附属小ふくこい	高良 祐治	子どもスタジオ
5年1・3組	音楽科	ジャズにチャレンジ!	有川 陽子	音楽室
6年1・3組	理科	みつめよう 暮らしの中の火	福原 伸治	理科室
6年2組	社会科	清盛と頼朝~二人の武士が描いた「この国の形」~	高瀬 雄大	6年1組教室

### ▼ 特別支援教育学習指導 (9:15~10:00)

3・4年くら組	算数科	かたちをくみあわせて わくわくたなばたかい	弘松 英樹	特学棟音楽室
---------	-----	-----------------------	-------	--------

# スタンドグラスづくりによる三角形、四角形の定義を活かした「問い」の拡充型の学習 第2学年2組 算数科学習指導案

指導者 永尾 健

## 単元 三角形・四角形，スタンドグラスづくり

### 指導観

#### 本単元について

本単元は、三角形と四角形の定義をとらえ、三角形や四角形を点で構成したり、線で構成したりして三角形や四角形をつくることができるようにすることをねらっている。そのために、三角形と四角形を組み入れたスタンドグラスづくりを教材化する。そして、この製作活動を進める中で三角形と四角形を自らつくり出したり、直線をかき入れて図形を分解しながら意図的に三角形と四角形をつくり出したりして三角形と四角形の数のバランスのよいスタンドグラスづくりを行うことができるようにする。

#### 本学級の子どもたちについて

本学級の子どもたちは、「さんかく」「しかく」というように概形をとらえて、形を弁別をすることはできるようになってきている。しかし、三角形や四角形のように辺や角といった構成要素に着目して図形を性質からとらえるまでには至っていない。そこで、身の回りの中での形を図形として性質からとらえて分けたり、つくり変えたりして生活にいかしていくことができるこの期に本単元を取り上げる。

#### 本単元の指導について

本単元の指導にあたっては、三角形や四角形の意味をとらえ、デザインの中に三角形や四角形を置き換えながら三角形や四角形の構成を見取っていくことができるようにする。まず、三角形と四角形のできたスタンドグラスを提示し三角形や四角形の特徴に関しての問いが生成され、定義を習得する。次に、製作活動1では、三角形、四角形をつくるためのドットへの直線をかき入れる方法を問う。最後に、製作活動2では、これまでにつくったスタンドグラスの模様を、さらに三角形や四角形の模様のバランスを考えながら直線をかき入れて、三角形や四角形を意図的に分解していくにはどのようにしたらよいのかと問いを拡充させていく。

#### 目標

- 1 三角形や四角形でつくられた型紙から、三角形や四角形を弁別するための定義が分かり、三角形と四角形を弁別することができる。
- 2 三角形や四角形を組み合わせたり、分けたりして三角形や四角形の構成がわかることができる。

#### 計画 (約5時間)

階	主な学習活動	時間
見 い だ す	1 三角形や四角形のできたスタンドグラスを見て、三角形や四角形の特徴について話し合う。 ○ 三角形や四角形の定義がわかること ※ 直線の数に着目させて弁別させる。	1
試 み る	2 製作活動1で三角形と四角形だけのスタンドグラスの型紙づくりをする。 (1) 点(ドット)をつなぎながら、三角形・四角形だけのスタンドグラスの型紙づくりを考える。 ○ 間隔が広い点(ドット)を直線で結び、3本の直線で囲み、三角形ができること ※ 三角形、四角形をつくる時にはドットをいくつ結べばいいのかを考えながらスタンドグラスの型紙づくりをさせる。 (2) 点(ドット)をつなぎ、三角形、四角形のスタンドグラスの型紙づくりを行う。 ○ 点の数と線の数とを関連づけながら三角形や四角形をつくられること ※ かどとへり(頂点と辺)の数に着目しながらスタンドグラスのデザインづくりをさせる。	2 ①
広 げ る	3 製作活動2で、製作活動1でつくった型紙の模様をバランスよく配置する。 ○ 三角形・四角形のバランスよく分けるためにかどやへりに着目すればよいこと ※ かどとへりに着目して三角形や四角形を直線で分割し、多様に変形させられることをとらえさせる。	2 ② 本 時

## 本時の学習活動の展開

### 本時授業の目標

- ステンドグラスの三角形や四角形のバランスをよくするために、へりやかどに着目し、意図して四角形を切り分けることができる。
- 正方形の型紙を辺や頂点に着目してステンドグラスにするための三角形や四角形に意図的に切り分ける活動に取り組むことができる。

1 前時の三角形を分割するためにかどやへりに着目して直線をかき入れて三角形や四角形をつくることのできた経験について話し合う。

- 直線をかき入れることによって四角形を三角形に分割することができるという見通しをもっていること

☆ 四角形も三角形と四角形に分けることができそうだ。でも、どんな直線を入れたらいいかな。

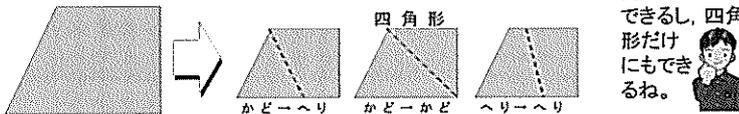
### 本時のめあて

かどとへりに目をつけて、せんをかき入れて三角形、四角形のふやかたを考えよう。

2 三角形や四角形の数が揃ったステンドグラスの型紙にするためにかどやへりに着目して直線をかき入れて、三角形や四角形を意図的に増やす方法について話し合う。

- (1) 一般的な形をした四角形を調べ、直線をかき入れて三角形、四角形のバランスのよいステンドグラスにできるのかを調べる。

- 四角形に直線をかき入れて、三角形や四角形を意図的につくるためにかどやへりに着目して直線をかき入れること



☆ 四角形のかどとへり、かどとかど、へりとへりを直線で結べば3通りの分け方ができて、思い思いのステンドグラスができるよ。

- (2) 製作活動1でつくったステンドグラスの型紙を振り返り、三角形や四角形の数の揃わない不十分さから、さらに、直線をかき入れて三角形や四角形につくり変えていく。

- かどやへりに着目して直線をかき入れれば、四角形は三角形2つ、四角形2つ、三角形と四角形に分けられること



☆ 四角形は、思い通りの形が作れるけど、三角形は、三角形と四角形しかできないよ。四角形は、三角形だけの型紙をつくれるよ。

3 自分の進めていくステンドグラスの型紙づくりについて話し合う。

- 直線のかき入れ方によって三角形だけ、または、三角形と四角形の混ざった型紙ができることをとらえること

☆ 三角形や四角形に直線をかき入れれば、三角形だけ（三角形と四角形）のカラフルなステンドグラスができそうだ。

### 準備

教師側：モデルの型紙，学習ノート

児童側：定規，自分のつくった型紙

### <各活動の子どもの見取りと支援>

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 製作活動1でつくった模様だけでは、三角形や四角形の数のバランスが悪いので、線をかき入れて、三角形や四角形の模様をバランスよく増やそうとしている。

#### 【支援】

- ※ 製作活動1でつくった三角形や四角形の模様を振り返り、直線を描き入れれば三角形や四角形の数が均一になり、色のバランスもよくなることをとらえさせる。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 製作活動1でつくった自分の型紙を見て、三角形や四角形のデザインの不十分さをつかみ、意図して三角形や四角形を増やせばデザイン性のあるステンドグラスになることをとらえている。

#### 【支援】

- ※ かどやへりからいくつもの直線を描き入れることができるようにするためにドットを入れて直線を入れやすくする。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ かどとかど、かどとへり、へりとへりを結べばいくつもの三角形の作り方がわかっている。

#### 【支援】

- ※ かどとへりを結べば三角形や四角形に分ける方法があることをとらえさせる。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 四角形は、四角形のかどとへり、へりとへりを結べばいくつもの三角形や四角形の作り方がわかることに気付いている。

#### 【支援】

- ※ 四角形のかどとへり（頂点と辺）を結べば三角形や四角形に分ける方法があることをとらえさせる。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 三角形は、四角形だけのデザインに統一できないことに気付く。

#### 【支援】

- ※ かどやへりから出す直線に着目させる。

教科で習得した見方考え方や新たな知見を活用する「問い」の拡充型の学習

## 第3学年1組 総合的な学習指導案

指導者 今泉伸一郎

単元 エコロン池かいぞう作せん

### 指導観

#### 本単元について

本単元は、エコロン池の改造を教材化する。エコロン池の問題点やそれを変えていくまでの方法やアピールなどの「問い」を解決し、評価していく過程で生きものもつ生態に向かう探究心と自然の素晴らしさを伝えようとする外に向かう意欲が高まる。また、方法のリサーチを通じて社会科や理科などで培った資料の調べ方を活用していく力を発揮できる上で意義深い。

#### 本学級の子どもたちについて

本学級の子どもたちは、生活科の学習で生きものを育てる計画を立て、飼育・栽培をとおして生きものと触れ合う経験をしてきている。そのことで生きものに対する興味・関心は高い。しかし、身の回りの自然環境にはたつきかけ、それを変えてよりよいものにしていこうとする態度は育っていない。そこで、身の回りの自然を観察し、「問い」をもたせることが大切であると考え。

#### 本単元の指導について

本単元の指導にあたっては、まず、エコロン池をさらによいものへと変えていく求めをもつことをねらう。そこで、現在のエコロン池の状態と問題点についてアンケート調査を行い、その結果をもとに話し合う活動を設定する。次に、エコロン池について明らかになった問題点を個の課題としてとらえていくことをねらう。そこで、課題の選択や決定を行い、多面的なリサーチ活動や計画作りを行う。その際、必要な資料提示と課題別に応じた支援を行う。そして再度エコロン池の改造を行う。その際、生きものの生態とその面白さを伝える視点から「問い」を深化していくようにするためにリサーチを行う。最後に、校内において水族館の生きものの紹介を行い、アンケート調査をもとに自己評価を行う。

#### 目標

- 1 エコロン池の問題点を明らかにし、個の課題としてとらえ探究することができる。
- 2 生きものの生態を調べ、それを伝える表現方法をリサーチをもとに工夫することができる。

#### 計画 (約15時間)

階	主な学習活動	時間	
課題設定	1 エコロン池の観察とアンケート調査を行い結果について話し合わせる。 ○ エコロン池の問題点を明確にすること ※ エコロン池の観察やアンケート調査の結果をもとに課題を整理していく。	2	
	課題探究	2 エコロン池の改造について計画を立て課題探究に向けてのリサーチを行う。 (1) エコロン池を改造する計画を立てる。 ○ 生き物の多様性と児童の意識を視点に解決策について自分の考えをもつこと ※ エコロン池改造の視点を整理する。 (2) 課題別に改造計画について必要な情報をリサーチする。 ○ 生物の同定や花壇作りなどの課題に必要な情報を改造計画に活用すること ※ 子どもの課題達成に向けて必要な情報を準備し、取り出しやすく整理する。 (3) 第1次エコロン池の改造を行う。 ○ 新たな問題点を明らかにすること ※ 計画通りにエコロン池を改造し、アンケートをもとに活動を評価する。	8 ② 本時 2/2 ③
		課題達成	3 再度エコロン池の改造を行う。 (1) 再度エコロン池改造計画を立てる。 ○ 問題解決の糸口を見出すこと ※ 解決困難な点について助言する。 (2) 第2次エコロン池の改造を行う。 ○ エコロン池の改造を自己評価すること ※ エコロン池の継続観察と全校アンケートをもとに問題点の評価を行う。

## 本時の学習活動の展開

### 本時授業の目標

- エコロン池の問題点を明らかにし、その解決に向けての視点をもとに個の課題としてとらえ、選択・決定することができる。
- 観察したことやアンケート結果をもとにエコロン池の現状を見直し、探究していく視点を明確にすることができる。

1 現在のエコロン池の観察のしづらさとそれに伴う全校児童の関心を視点にして話し合う。

○ 本時学習の問題点を明らかにすること

- ☆ エコロン池にはメダカなどの生き物がいるのはわかるが観察がしづらく他にどんな生きものがあるかわからない。
- ☆ 全校児童を対象にしたアンケート調査によると一部の人以上あまり関心が無いことがわかった。

### 本時のめあて

みんながかんさつしやすく、みりよくのあるエコロン池にするためのかいぞう計画を立てよう。

2 エコロン池の改造計画について話し合う。

(1) エコロン池の問題点を解決する方法についてノートに書く。

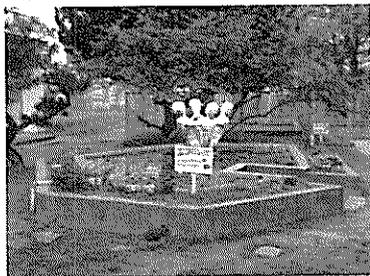
○ エコロン池改造計画に向けての視点を明確にすること

- ☆ 観察のじゃまになっている藻を片付け、どんな生き物があるのかをわかりやすくしたらいいんじゃないかな。

(2) エコロン池をどのように改造していけばいいかアイデアを出し合い、具体的に話し合う。

○ 本単元の見通しをもつこと

- ☆ エコロン池の観察するきまりを考えて、誰もがエコロン池の生きものを大切にできるようにしたらどうかな。
- ☆ 水底にたまっているヘドロや藻を掃除しながらどんな生きものがあるのかを調べ、みんなに紹介できるようにしたらどうだろう。



【エコロン池の現状】

←生きものは住みやすいか

←観察しやすいか

←周囲を活用できないか

←エコロン池の生きものを大切に

3 エコロン池改造計画をもとに自分が解決できる課題を選び、内容と方法を課題別グループで話し合う。

○ エコロン池の改造計画をもとに個の課題を選択・決定すること

- ☆ エコロン池を観察しやすいようにみんなで藻を片付けよう。
- ☆ 僕は、エコロン池の掃除をしながら中にどんな生き物があるのかを調べる。エコロン池が完成するまで水槽で飼育する。
- ☆ エコロン池の生きものを調べ、みんなに解説できるようにする。

○ 準備

- 教師側：エコロン池の現状写真  
アンケート調査集計結果
- 児童側：学習ノート

### <各活動の子どもの見取りと支援>

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ エコロン池を観察して明らかになった問題点を観察のしづらさと全校児童を対象に行ったアンケート調査結果から考察できることをもとに自分の考えをノートに書き込んだり発言したりしている。

#### 【支援】

- ※ エコロン池についての意識調査のデータを提示する。
- ※ エコロン池の現状を示唆する写真を提示する。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ エコロン池の現状について写真や体験をもとに発言している。
- ◎ エコロン池の問題点について生きもの生態の立場と観察する者の立場から発言している。

#### 【支援】

- ※ メダカが藻に絡まっている写真、水底が見える写真と見えない写真を提示し比べさせる。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 生きものにとって住みやすい環境の視点からエコロン池の環境改善について発言している。
- ◎ エコロン池を観察するものの視点から改善について発言している。

#### 【支援】

- ※ 問題点をもとに自分達で解決可能なものを課題として判断して取り上げ板書で整理していく。
- ※ 方法の見通しをもてるように情報の提供を行う。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 生きもの調査と看板作り、水草や隠れ家、藻取りと水底のヘドロ掃除と生きもの採集から自分がやりたいこと、できそうなことから選択の根拠を見出し、発言やノート記述を行っている。

#### 【支援】

- ※ エコロン池の改造計画に当たって明らかになった課題ごとに板書で整理する。課題グループごとに具体的な方法や問題点について発問し、課題を明確にすることができるようにする。

友達とかかわりながら、楽しく動きを高める「問い」の深化型の学習

## 第3学年2・3組 第4学年3組 体育科学習指導案

指導者 毛利 拓也

### 単元 ゴールをめざせ キックチャンスゲーム

#### 指導観

##### 本単元について

本単元は、チームで協力して、ボールを足で操作しながら、パスやドリブルを使って、ゴール前に運び、シュートすることで得点を競い合うゲームである。そして、みんなでルールや作戦について話し合いながら、選択した場の中でゲームを楽しむことをねらいとしている。具体的には、①スペースを見つけてドリブルしたり、味方とタイミングを合わせてパスをつないだりして、ゴールにシュートできること②簡単なルールや作戦をみんなで考えて、ゲームを楽しむことが学習内容である。

##### 本学級の子どもたちについて

本学級の子どもたちは、1・2年生で「ボールけりゲーム」などのボールゲームに慣れ親しんできている。また、このボールゲームは、みんなが好むゲームであり、ゴールを決めたり、自分のチームが勝ったりすることに喜びを感じて運動することができる。しかし、状況に応じたパスやドリブル、シュートを行う判断力や技能は不十分である。そこで、ルールや作戦の工夫を取り入れたゲームを設定して、適切な判断力や技能を高め、友達と協力しながらルールや作戦づくりを工夫できるようにしたい。

##### 本単元の指導について

本単元の指導にあたっては、問いを深化させる学習に重点を置き、やってみる段階において、試しのキックチャンスゲームを紹介したり、させたりしてフットサルの楽しさを感じさせることで、意欲付けを行い、自分の課題を理解させる。ひろげる段階では、人数や得点数などのルールをチームで話し合いながら、ゲーム（パスやドリブル・シュートなどの技能を高めながら、ルールや作戦を考えて対戦）をする。ふかめる段階では、今までの成果を試すために大会を開き、達成感や満足感を味わわせる。

##### 目標

- 1 空いているスペースを見つけて動いたり、ドリブルしたり、タイミングを合わせてパスをつないだりして、ゴールにシュートすることができる。
- 2 簡単なルールやチームごとの作戦をみんなで考えて、チームで協力しながら練習やゲームを楽しむことができる。

##### 計画（約7時間）

段階	主な学習活動	時間
やる	1 キックチャンスゲームを見たり、したりして、フットサルの楽しさを感じるとともに、自分や友達のよさや課題を見つける。	1
みる	○ キックチャンスゲームを見たり、行うことによって自分の課題を見出し、解決の見通しをもつこと ※ 3対3中心のゲームを通して、自分や友達のよさや課題に気付かせる。	
ひる	2 自分やチームの課題を解決するためにルールや作戦をみんなで考えて、練習をして、ゲームを楽しむ。	4
げ	(1) スキルアップ練習を行って、ゲームを楽しむ。	②
る	○ パスやドリブルやシュートの正しい方法及び対人攻防の仕方を身に付けること ※ キックチャンスゲーム1を行わせる。	
	(2) 簡単な作戦やルールを考えながら、キックチャンスゲーム2を楽しむ。	②
	○ みんなが楽しめるルールや作戦を考えて、プレーすること ※ キックチャンスゲーム2を行わせる。	本時1/2
ふかめる	3 キックチャンスゲーム大会を行う。	2
る	○ 今までの練習の成果を発揮してゲームを楽しむこと ※ ノートにまとめを記述させて、今までの学習の満足感を味わわせる。	

## 本時の学習活動の展開

### 本時授業の目標

- 有効なパスやドリブル、シュートの正しい判断をしながら、練習やゲームをすることができる。
- 今までに作ってきた作戦やルールを生かしながら、友達と協力して、練習やゲームを楽しむことができる。

1 前時までの作戦やルールを確かめる試しのゲームを行い、本時のチームで頑張ることについて話し合い、めあてを考える。

- 前時までの作戦・ルールを見通すための試しのゲームを行い、本時のめあてを把握し、学習の流れをつかむこと

- ☆ 今までの作戦やルールを生かして今日もゲームができるかな
- ☆ 前にはなかったゴールにうまくシュートできるかな。
- ☆ シュート練習をしたら、点数がたくさんとれそうだ。

### 本時のめあて

作戦を工夫する話し合いや練習をして、点をたくさんとろう。

2 今日の作戦や練習メニューをチームで話し合い、チーム練習をし、その練習を生かしてキックチャンスゲーム2を楽しむ。

- (1) 今日の作戦やルールを話し合い、試合形式中心の練習メニューを決めて、チーム練習をする。

- 練習メニューをチームで選択し、練習で作戦を生かすこと

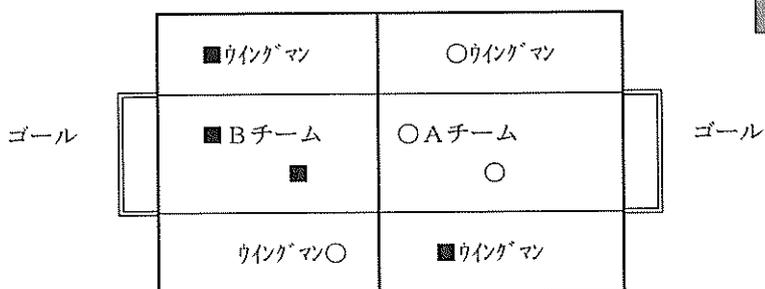
- ☆ ○○練習や△△作戦をすれば、もっとゴールできる。(勝てる)

- ・ワンツーアタック
- ・外からセンタリング

- ・全員にパスが回ってゴールしたら、3点入る。

### 【作戦例】

### 【ルール】



### 【キックチャンスゲーム2】

(2) 練習やチームで考えた作戦を使って、ゲームを楽しむ。

- 練習したことや考えた作戦を生かしてゲームをすること

- ☆ 練習したことや考えた作戦を使ってゲームに勝ちたいな。

3 今日の学習を振り返り、自分やチームのがんばりを評価し合う。

- 楽しかったことを実感し、次時への意欲をもつこと

- ☆ シュート練習をがんばったので、前より点がたくさん入った。

- ☆ 今まで練習してきたことをいかして、次もがんばろう。

### ○ 準備

教師側：作戦例・ルール変遷表

フットサル用ボール

ビブス、ゴール

児童側：学習ノート

### ＜各活動の子どもの見取りと支援＞

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 前時までの活動をもとに、本時のめあてをもち、学習への見通しと意欲をもっている。

#### 【支援】

- ※ 前時までの作戦例・ルール表を提示し、本時の流れを説明したり、試しのゲームを行ったりして、本時学習のめあてをつかませる。
- ※ グルーピングは5～6人×8チーム、コートのはさは体育館半面を1コート分と考える。(同時に8チームがゲーム、3人対3人のゲームで前後半で交代、待機の方はチームカード記述)

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ チームで今日の作戦やルールについて交流し、意欲的にチーム練習に取り組んでいる。

#### 【支援】

- ※ 今までの作戦・ルールを提示して、本時の作戦・練習メニューが選択できるような学習ノートの項目の工夫をする。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ チーム練習したことや考えた作戦を使って、ゲームを行っている。

#### 【支援】

- ※ 作戦ボードや作戦たしかめカードに、作戦がうまくいったこと・動きのよさなどをチーム内で記述させて、作戦タイムなどで友達の頑張りやチームの作戦のよさ・課題などの観点で交流させる。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 今日の学習を振り返り、評価として、自分やチームの頑張りや学習ノートに記述している。

#### 【支援】

- ※ 自己評価できる項目を学習ノートにつくり、記述後交流させる。

# 把握した価値をもとに、実生活へ向けて新たな問いを生み出す「問い」の深化型の学習 第4学年1組 道徳学習指導案

指導者 三 浦 研 一

主 題 見つめよう!思いやりの心

## 指 導 観

### 本主題について

本主題は、誰に対しても温かい心で接し、親切にすることで相手も自分もうれしくなるということに気づき、親切にしようとする心が自分の心の中にもあることを自覚することをねらいとしている。相手のことを思いやり親切にすることは、集団生活を送っていく上で、好ましい人間関係を築いていくには欠かすことができない。思いやりの心をもって、他者の気持ちを推し量り、親切な行為をすることが、よりよく生きることの実感に結びついていることを主体的にとらえることが大切である。

### 本学級の子どもたちについて

本学級の子どもたちは、公共交通機関を利用して登下校する機会があり、その中で、障がいのある人やお年寄り、幼い子など、様々な人に接したり、目にしたりする機会が多く、それらの人々と空間を共有しながら生活している。実生活の中でそれらの人々と共に生きていく必要があるこの時期の子どもたちに本主題を行い、思いやりの心をもって接することで、相手も自分もうれしくなることができることに気づき、自分の心の中にもそのような価値が内在することを自覚することは意義深い。

### 本主題の指導について

本主題の指導にあたっては、自分と障がいのある人とのかかわりから見いだした問いをもとに、資料『心の信号機』の問題場面から、主人公が葛藤している場面の判断内容について考えることを通して、相手のことを思って親切にしようとする心が自分の中にあることに気づき、把握した価値を実生活に向けて発展させていく「問い」の深化型の学習で行う。さらには、障がいのある人と自分のかかわりについての新たな問いを見出し、事後学習において、障がいのある人との交流会を開き、把握した価値を主体的に実現させていきたい。

### 目 標

- 1 思いやり親切にかかわる自分の生き方を振り返ることで、これからの自分の生き方について見直すことができる。
- 2 相手のことを考え、進んで親切にすることの大切さをつかみ、実践意欲を高めることができる。

### 計 画 (約2時間)

段階	主 な 学 習 活 動	時 間
見 つ め る	1 ゲストティーチャーと出会い、アイマスク体験をして、目の不自由な人とのかかわり方について話し合う。 ○ アイマスク体験を通して、目の不自由な人の立場を共感的にとらえること ※ ゲストティーチャーとの交流を通して、思いやり親切にかかわる自分の傾向性を把握することができるようにする。	1 本 時
	2 資料『心の信号機』を通して、相手のことを考えて親切にする価値について考え、話し合う。 (1) 主人公が男の人の手助けをしようか迷っているときの判断内容について考え、話し合う。 ○ 主人公の状況を分析しながら、迷う心を追究すること ※ 葛藤している理由を話し合い、分類させる。	
	(2) 思いやり親切にかかわる、これからの自分の生き方について考え、話し合う。 ○ 困っている人とどのように接していくのか考えること ※ 自己内対話をさせ、自己を見つめさせる。	
い か す	3 障がいのある人との交流会をして、自己の生き方について考える。 ○ 把握した価値を実現しようとする事 ※ 交流会を設定し、把握した価値を実践させる。	事 後 学 習

## 本時の学習活動の展開

### 本時授業の目標

- 資料『心の信号機』を通して、思いやりや親切に関する自分の生き方を見つめ、把握した思いやり親切の大切さやよさを実生活へと実現していこうとすることができる。
- 相手のことを考え、進んで親切にしようとする心が自分の心の中にもあることを自覚し、その大切さをつかむことができる。

1 アイマスク体験をしたときの感想や衛藤さんのインタビューのVTRから、目の不自由な衛藤さんの考える親切な心とは何かについて話し合う。

○ インタビューのVTRから、衛藤さんが町の中で、たくさんの知らない人々からの親切に支えられていることを把握すること

☆ 衛藤さんは、太宰府からふくふくプラザまで遠いのによく来ることができているな。困ったことや大変なことはないのかな。

☆ 衛藤さんがもらった親切な心とは、どんなことなのかな。

### 本時のめあて

知らない相手に対して、手助けをするときの大切な心について考えよう。

2 資料『心の信号機』を通して、主人公の迷う心情や、男の人の後ろ姿を見送ったときの心情を推し量り、相手のことを思いやり、親切にすることの大切さについて考え、話し合う。

(1) 主人公が目の不自由な男の人を助けようか迷っているときの心情を推し量り、話し合う。

○ 目の不自由な男の人を助けようか迷っているときの主人公の心を分析すること

☆ 知らない人だし、はずかしい。

☆ どうやって声をかけたらいいのかわからない。

☆ 男の人が心配だけれど、勇気がわいてこない。

(2) 目の不自由な男の人の後ろ姿を見送った主人公の心情を推し量り、話し合う。

○ 迷いの心を乗り越えて、行為に移すことができた主人公の心情をとらえること

☆ はずかしい気持ちもあったけど、声をかけられてよかった。

☆ 親切にすると相手も自分も気持ちがいいな。

☆ 不安やはずかしさを乗り越えて声をかけることが大切なんだ。

3 思いやり親切にかかわる、これからの自分の生き方について考え、話し合う。

○ 困っている人とどのように接していくのか考え、実生活へ向けて実践意欲を高めること

☆ 障がいのある人に接するときには、相手のことをしっかりと考えた接し方が必要だ。

☆ 様々な人に対する親切なかかわり方についても考えていこう。

### ○ 準備

教師側：場面絵、資料『心の信号機』、ゲストティーチャーのインタビューVTR、付箋紙、流れ図

児童側：道徳ノート、心のノート

### <各活動の子どもの見取りと支援>

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 目の不自由な衛藤さんが、自宅からふくふくプラザまで来るときの状況（困ったことや大変なこと）をアイマスク体験などと関連づけながら考え、共感している。

#### 【支援】

- ※ 衛藤さんの自宅からふくふくプラザまでの道のりを地図で提示したり、衛藤さんのインタビューの様子のVTRを視聴したりして、衛藤さんの生き方のすばらしさに気付くことができるようにする。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 主人公が葛藤している理由を主人公や目の不自由な男の人のおかれた状況などから判断している。

#### 【支援】

- ※ 主人公が葛藤している理由を話し合い、その心情を分析させるために、判断内容を分類させる。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 主人公の心情から、相手のことを思いやり親切にすることのよさを把握し、その心が自分の中にもあることに気付いている。

#### 【支援】

- ※ 主人公が迷っているときの心情と、男の人の後ろ姿を見送ったときの心情を比較して、主人公が親切な行為に踏み切ることができたときの心情について考えさせる。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 困っている人とどのように接していくのか考え、実生活に向けての自分の生き方を見出している。

#### 【支援】

- ※ これからの生き方について考えをもつことができるようにするために、困っている人とどのように接していくのか、本時学習をもとに考えをつくらせる。

# 郷土や学校文化を活かしオリジナリティあふれる「ふくこい」をつくる「問い」の複合型の学習 第4学年2組 総合的な学習指導案

指導者 高良 祐治

## 単元 つくろう 我らの附属小ふくこい

### 指導観

#### 本単元について

本単元は、郷土や学校文化をベースにしながら、自分たちの発想を取り入れた福岡のよさこい演舞である「ふくこい」をつくることをねらいとしている。主な学習内容は、①全国的にも盛んなよさこいの伝統や魅力についてとらえること②郷土文化や自分たちらしさを大切にした「ふくこい」を、地域の人々とかかわりながらつくること③つくった「ふくこい」を地域へ発信していくことなどである。このように、実社会とかかわりながら、各教科で習得した知を活用し、自らのゴールをめざすことは、追究意欲を高め学びの意義を実感させる上からも意義がある。

#### 本学級の子どもたちについて

本学級の子どもたちは、博多どんたくなど、祭りに参加した経験をもつ。しかし、それは観客としてであって、出演者として参加した子どもはほとんどいない。そこで、体を動かすことが好きな子どもたちに、自分たちの「ふくこい」を創り上げる喜びを味わわせたい。また、よさこい文化について調べたり、検討したりする過程や、実社会の人々とかかわるなかで、これまでの学習で身に付けた知を活用しながら課題を解決する経験をさせたい。

#### 本単元の指導について

本単元の指導にあたっては、郷土や学校文化を活かしながら、オリジナルのふくこいを子どもたちの手によってつくることを大切にしたい。そこで、本物のふくこいに出合わせ、参加させることで、「自分たちのふくこいをつくりたい」という目的をもたせる。そして、よさこい文化について調べたり、福岡の郷土色や学校文化を活かしたふくこいをつくっていくために、福岡のふくこいチームや、音楽や服飾の専門学校など様々な人々とコラボレーションしたり交渉したりして、オリジナルのふくこいをつくり、表現していく。

#### 目標

- 1 福岡に根付き始めた「ふくこい」や郷土文化を調べたり、自分たちのよさこいをつくったりすることで、郷土への愛着を深めることができる。
- 2 ふくこいの専門家などとかかわりながら、郷土の文化や自分たちらしさを取り入れたオリジナルふくこいをつくることができる。

#### 計画 (約19時間)

階	主な学習活動	時間
課題設定	1 「ふくこい」と出会い、どのようなふくこいをつくるか計画を立てる。 ○ 自分たちだけのふくこいをつくりたいという思いをもつこと ※ ふくこいチームの演舞を見たり参加したりする場の設定	3
	2 自分たちのふくこいをつくる。 (1) よさこい文化について調べる。 ○ 郷土文化を大切につつ、個性を認めている踊りであることをとらえること ※ 全国のよさこいの比較やふくこいアジア祭り実行委員会の方の招聘 (2) 附属小ふくこいのコンセプトを決め、専門チームに分かれてふくこいをつくる。 ○ 個々の関心をもとに演舞・音楽・衣装の各チームに分かれ、追究すること ※ ふくこいチームや専門学校とコラボレーションできる場の設定	14 ③
課題追究	○ 各チームの成果を合わせてオリジナル附属小ふくこいをつくる。 ○ 自分たちだけのふくこいのできたことを実感し、新たな課題をつくること ※ 校内で演舞の披露の場の設定および地域への発信の場の提示	③ 本時 5/8
	3 つくったふくこいを地域へ発信する。 ○ 地域へ自分たちがつくった新たな文化を発信する喜びを味わうこと ※ 唐人町商店街納涼夜市祭への参加	③ 2
発信		

## 本時の学習活動の展開

### 本時授業の目標

- 各専門チームで追究してきたことを試しに交流してみることで、どの部分をどのように修正するか、意欲的に話し合うことができる。
- 自分たちのふくこいへの思いと各専門チームの考え方を総合的に検討し、今後の付加・修正の方向性を明らかにすることができる。

1 「演舞」「音楽」「衣装」それぞれの専門チームの、これまでの追究の途中経過をお互いに発表し合う。

- 3つそれぞれの専門チームの成果を融合させ、自分たちのふくこいができるのだろうかという問題意識をもつこと

☆ かつこい振り付けができていな。でも、自分たちの考えた音楽に合わせて踊れるのかな。

☆ 3つの専門チームの成果を合わせてみる必要があるね。

### 本時のめあて

オリジナル附属小ふくこいをつくるために、それぞれのチームのこれまでの成果を出し合い、もっとよくしていこう。

2 各専門チームのこれまでの成果を合わせてみることで、自分たちがめざす附属小ふくこいに近付いているか検討する。

- (1) 3つの専門チームの成果を合わせてみたときに発見できた自分たちのふくこいのよさや問題点を話し合う。

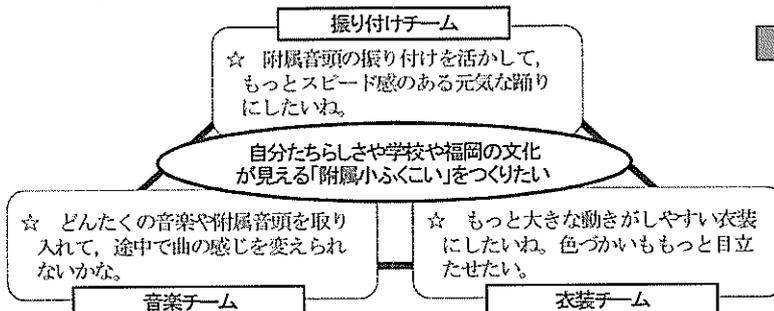
- 各専門チームの思いや工夫を合わせてみることで、見い出せるよさや問題点があることに気付き、整理すること

☆ この衣装であの振り付けをすると、とてもきれいだな。

☆ 曲がゆっくり過ぎるよ。もっと速く元気に踊りたいのに。

- (2) 話し合いから見てきた問題点をもとに、これから附属小ふくこいをどのようにつくっていくか話し合う。

- それぞれの専門チームの思いやねらいをもとに附属小ふくこいの完成イメージをつくること



3 話し合った附属小ふくこいのイメージから、自分のチームのこれからの課題について話し合い、整理する。

- 本時の話し合いから見てきた附属小ふくこいのイメージをもとに、自分のこれからの追究の見通しをもつこと

☆ 今日できたイメージをどうやって専門学校のお兄さんに伝えたいのかな。絵や文章でうまく伝わるかな。

### 準備

教師側：音響設備、各専門チームの追究のようすの資料

児童側：鳴子、各専門チームの追究資料

### <各活動の子どもの見取りと支援>

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 各専門チームの発表を見ながら、①「演舞」「音楽」「衣装」のそれぞれの主張は、そのままでは合体できない②調整をするためには、自分たちの追究を修正しなくては行けないかもしれないなどの問題点について発言したりノートに書いたりしている。

#### 【支援】

- ※ 今できているところまでの成果を全体の前で発表する場を設定する。
- ※ どのようなイメージでこれまで追究してきたのか各チームから発表する活動を設定する。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 3つの専門チームのこれまで取り組んできた主張を合わせて附属小ふくこいをつくるかとすると、何が問題となっているのか、また、自分たちの附属小ふくこいにかける想いを大切にしようとするれば、どこを変更することが可能なかを発言したりノートに書いたりしている。

#### 【支援】

- ※ 各チーム間での交流ができる活動を設定する。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 周りの友だちと一緒に踊ってみながら、変更しなくてはならない部分の修正を説明したり、実演したりしている。

#### 【支援】

- ※ 実際に踊ったり、音楽を流したりできる活動の場を各専門チームごとに設定する。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 今日の活動を経て、新たにつくられた附属小ふくこいのイメージを発言したり、ノートに書いたりしている。また、これからの自分の活動の見通しをノートに書いている。

#### 【支援】

- ※ 実際に演舞を行う場の写真を提示してイメージをふくらませる。

比較鑑賞活動を位置づけ、音楽表現を高めていく「問い」の深化型の学習

## 第5学年1・3組 音楽科学習指導案

指導者 有川陽子

題材 ジャズにチャレンジ!

### 指導観

#### 本題材について

本題材のねらいは、「聖者の行進」の曲の特徴を生かして旋律、副次的旋律、低音パートを変奏して表現の工夫ができるようにすることをねらいとしている。具体的には、①「聖者の行進」の提示した楽譜をもとに、リズムや旋律に着目してジャズの出るように即興的に変奏すること②自分たちでつくった演奏と友達の演奏を聴き合ってよさを取り入れて表現を高めること③つくり上げたオリジナルの「聖者の行進」を野外ステージで発表することである。ここではジャズの弾んだリズムについてやビートの取り方、拍の流れにのって演奏することと今までに習得してきたことを活用していくなかで、表現を高めるための問いを深化させていく学習を展開することができる考える。

#### 本学級の子どもたちについて

本学級の子どもたちは、第4学年で、2、4拍目を感じたり、弾んだリズムを意識したりしてジャズの曲の間奏（リズム伴奏）をつくる経験をしてきている。そこで本題材ではジャズの特徴（弾んだリズム、旋律、アクセント等）を生かして表現を追究していきたい。このことは、子どもたちの自由な発想を生かして表現を工夫させる上でも意義深い。

#### 本題材の指導について

本題材の指導にあたっては、色々な形態の「聖者の行進」を比較鑑賞させることで、多様な発想から演奏することができる楽しさを感じ取らせ、表現意欲をもたせたい。そこでリズムや旋律を工夫していくとともに、対旋律や低音も変奏していく。さらに友達の演奏との比較鑑賞を通してより高い表現への求め（問い）をもたせていきたい。最後に、つくり上げた音楽を野外ステージでの発表を通して友達に広げていきたい。

#### 目標

- 1 リズムや旋律の変化に着目して、繰り返し音を試しながら、創造的に表現することを楽しむことができる。
- 2 曲のもつ特徴を生かして、ジャズの出るようにリズムや旋律に着目して表現を工夫することができる。

#### 計画（約6時間）

時	主な学習活動	調
1	「聖者の行進」の比較鑑賞をして感じ取ったことを話し合う。 (1) 色々な演奏形態の「聖者の行進」の比較鑑賞をする。 ○ 演奏の多様性をとらえること ※ 色々な演奏形態の「聖者の行進」を比較鑑賞させることで、自由にリズムや旋律をつくりかえる楽しさに気付かせる。	2 ①
2	「聖者の行進」をジャズの出るように変奏する。 (1) グループ毎に変奏をする。 ○ 提示した楽譜をもとに、旋律とリズムに変化をもたせジャズの出るようをとらえること ※ 友達の演奏と聴き比べたり、GTの先生にアドバイスをもらったりする場を設定する。 (2) 友達の演奏と比較する。 ○ 奏法(アクセント、拍の取り方)の観点からよさをとらえること ※ 奏法のよさを表現している代表グループの演奏と比較する場を設定する。	3 ② 本時 2 / 2 ①
3	つくった曲を発表する。 ○ ジャズ演奏の楽しさをとらえること ※ 野外ステージを設定する。	1



ものが燃えるときの変化について分析することによる「問い」の深化型の学習

## 第6学年1・3組 理科学習指導案

指導者 福原伸治

単元 みつめよう 暮らしの中の火～ものが燃えるときの変化を調べよう～

### 指導観

#### 本単元について

本単元は、ものが燃える様子を観察し、ものが燃える前後による気体や物質の質的な変化についてとらえることをねらいとしている。そこで、燃える前と後での質的な変化を、子ども自身が課題意識をもって科学的に分析するために、ろうそくの火を燃焼の視点からとらえさせる。燃えるとうろがなくなったり、木を燃やすと炭などが残ることから燃焼の仕組みをとらえることができると考えた。

#### 本学級の子どもたちについて

本学級の子どもたちは、生活の中でものが燃えるときには、煙が出たりにおいがしたりすることから火のそばの空気が何らかの変化をしているようだという考えをもつことができている。また、第5学年「もののとけ方」において、水にとけて見えなくなった食塩を、粒子モデルなどをもとに分析することで、重さなどを調べることで目に見えなくても存在しているという考えをもつことができている。

#### 本単元の指導について

本単元の指導にあたっては、生活の中でよく使っているろうそくに注目させ、ものが燃えることで目に見えないところで起こっている化学変化をとらえさせたい。そこで、つかむ段階においては、ろうそく、木、スチールウールを提示し、燃える様子を比較させることで、「燃えることで見えなくなったろうそくや木などはどこにいったのか」という疑問から燃えた後の空気について調べてみようという問いをもたせる。つくる段階では、観察や実験を行うことで「燃焼によって周りの空気にはどんな変化がおこっているのか」、「目に見える残ったものはどうなったのか」と問いを深化させながら燃える時のきまりを理解させる。ひろげる段階では、「金属は他のろうそくや木と同じように燃えるのか」と問いを深化させることで違いについて考えられるようにする。

#### 目標

- 1 ものの燃焼による物質の変化に関心を持ち、燃焼のきまりについて進んで調べることができる。
- 2 燃えた後の空気をもとに燃焼の仕組みを説明する方法を考えることができる。

#### 計画（約8時間）

階	主な学習活動	編
つ	1 これまで生活の中で燃やしたことがある火を観察し、燃えるのに必要なものについて話し合う。	1
	○ ものが燃えることで変化するものについて問いをもつこと ※ 3種類の燃えるものを提示し、燃えたあとに残る様子を観察させる。	
か	2 燃焼によって空気や物質が変化することを、観察や実験を行い調べる。	5
	(1) 自分たちが生活している周りの空気について実験をして調べる。	①
	○ 空気中には、窒素や酸素、二酸化炭素などの気体が存在していること ※ 空気の組成表を提示し、気体検知管を使って空気を調べる実験を提示する。	
む	(2) ろうそくと木を燃焼させ、その後の空気の変化について調べる。	②
	○ ろうそくや木を燃やすと二酸化炭素が発生すること ※ 気体検知管や石灰水を提示する。	
	(3) 燃えるために必要な空気中の気体について気体検知管を使って調べる。	②
く	○ 燃えるためには酸素が必要なこと ※ 酸素を発生させる実験も提示する。	
	3 スチールウールを燃やし、他のものと	2
ひろ	○ 金属は光を出しながら燃え、酸素を使うが、二酸化炭素は出さないこと	本時
	※ ろうそくや木を燃やしたときのモデル図と比較させながら分析させる。	1
る		2

## 本時の学習活動の展開

### 本時授業の目標

- ものが燃えるときの変化の仕方について着目し、燃やした後に残っているものについて進んで調べることができる。
- 金属でも燃やすと状態が変化し酸素を使うが、二酸化炭素を出さないことを理解し、燃焼について考えをもつことができる。

1 金属の燃え方に関する燃焼の仕組みについて考えを出し合い、実験で調べたいことについてお互いに話し合う。

- 空気や物質の変化に目を向け、燃える前と後の変化について、自分がもった課題を明らかにするというめあてをもつこと

- ☆ ろうそくより激しいからたくさん酸素を使うと思うよ。
- ☆ ろうそくと同じように二酸化炭素も出しながら燃えると思う。

### 本時のめあて

スチールウールを燃やした後の空気を調べて、ろうそくや木の燃え方と比べてみよう。

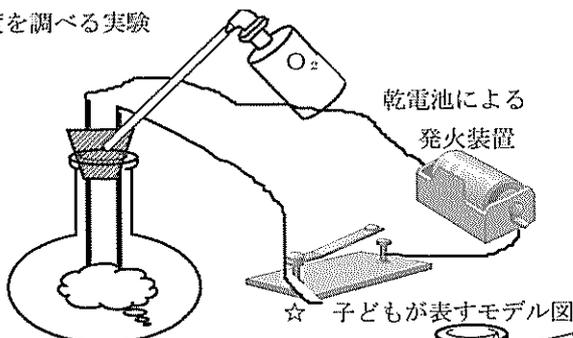
2 自分が課題としてもった燃焼させたいものを燃やす実験を行う。

(1) スチールウールを燃やし、燃える様子について調べる。

- 燃えるときには酸素を使うが二酸化炭素が出ないこと

- ☆ 予想通り酸素は減っていたから、使っていることが分かる。
- ☆ 二酸化炭素が増えると思ったけど増えないところが違うな。

※ 濃度を調べる実験



(2) 結果について、モデルを使い話し合う。

- スチールウールが燃えるときの仕組みについて考えをもつこと

- ☆ 二酸化炭素が出ていないところがちがうな。
- ☆ 燃えた後は固まりみたいになって変化するところは似てる。

3 スチールウールが燃える様子から、燃えた後の重さについて予想し、次の時間に調べてみたいと思ったことについて話し合う。

- スチールウールを燃やしたときの変化について問いをもつこと

- ☆ ろうそくや木を燃やしたときと違って、二酸化炭素が出ないところや固まりになるところなどが違うから、燃え残ったものについても何か違いがあるのかもしれない。

### 準備

教師側：丸底フラスコ、発火装置  
電池、スイッチ、気体検知管、  
学習プリント

児童側：前時までの学習プリント

### <各活動の子どもの見取りと支援>

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ これまで学習してきた内容に関わる言葉で発言できている。

#### 【支援】

- ※ 学習した活動の様子を想起する流れ図を提示し、どこに観点をおいて調べてきたかを思い出させる。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 燃焼と空気の変化について着目した予想を立てている。
- ※ 前時までの学習プリントをまとめたものをもたせておく。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 自分が考えた見通しに合わせて、実験を行っている。

#### 【支援】

- ※ 学習プリントに、自分が考えた実験方法を書かせ、予想をモデルによって表現させ、どこを明らかにしたいのか整理させる。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 燃え残ったものをフラスコも含めた全体の重さで量り、燃える前と後での変化を観察している。

#### 【支援】

- ※ 電子天秤を提示し、燃える前と後の重さが増えたり減ったりすれば、微量であっても分かるようにさせる。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 燃える前と後で酸素の量が減っていることについて、酸化した鉄の重さと関係付けながら分析をしている。

#### 【支援】

- ※ 燃焼させる前のスチールウールが入ったフラスコと燃やした後のスチールウールが入ったフラスコを天秤で比較することができるような実験方法を提示する。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ スチールウールが燃える様子とろうそくや木を燃やしたときの様子を比較しながら意見を出している。

#### 【支援】

- ※ 同じ実験器具の中でスチールウールを燃やす実験を提示する。

## 第6学年2組 社会科学学習指導案

指導者 高瀬雄大

小単元 清盛と頼朝～二人の武士が描いた「この国の形」～

### 指導観

#### 本小単元について

本小単元は、源平の戦いをきっかけとして、武士による政治がはじまったことを理解することをねらいとしている。具体的には、博多を日宋貿易の拠点として力を蓄えた平家一族が源氏に敗れ滅亡するまでの過程を取りあげ、自分の土地を支配することを願った武士の思いをつかんだ源頼朝により武士の政治がはじまったことをとらえさせる。また、本単元においては、第5学年の「工業生産と貿易」で習得したことを活用し、アジアの玄関口である博多を貿易拠点として商業を奨励した清盛の先見の明に価値を見出すことができるようにしたい。

#### 本学級の子どもたちについて

本学級の子どもたちは、貴族の暮らしを支えてきた農民が疲弊して公地から逃亡したことを学んでいる。そこで荒地を開墾し、集団で自衛する武士が生まれたことや、彼らが朝廷から独立しようとしたことをとらえさせたい。そのために日宋貿易で産業発展に努めた平清盛と、主従関係を基盤とする幕府政治を始めた源頼朝の業績を比較する。そして、世の中が中央集権から地方分権への時代へ移っていったことの意義を考えることができるようにしたい。

#### 本単元の指導について

本単元の指導にあたっては、武士として国を動かした平清盛と源頼朝が、武士としてどのように政治を行ったかを中心に追究することで、鎌倉時代以降約700年間に渡って行われた武家政治がはじまったことをとらえさせる。そのために、貿易による利益を中心として、現在の日本同様、海外とのかかわりを重視した清盛と、武士の命である所領の安堵を国家経営の基盤とした頼朝の政治に対する思いを比較して、二人の政策についての価値判断を行う。

#### 目標

- 1 博多を拠点とする日宋貿易で、莫大な富を得たにもかかわらず、頼朝挙兵からわずか5年で平家が滅びたことを意欲的に追究することができる。
- 2 所領安堵を基本にした政策を進めた頼朝に多くの武士が賛同したことをとらえることができる。

#### 計画（約7時間）

階	主な学習活動	時
出 合 う	1 同じ武士でありながら全く違う平清盛と源頼朝の違いについて話し合う。 (1) 清盛と頼朝のくらしぶりを比べる。 ○ 貴族的な清盛に対して質素を重んじる頼朝の違いに気付くこと ※ 二人の屋敷や衣装の様子を提示する。	3 ②
	(2) 全国を支配した平氏が5年で滅んだ理由について話し合う。 ○ 二人の政策の違いに気付くこと ※ 源義経の活躍について調べ、平氏への反感が募っていたことをとらえさせる。	①
	2 清盛と頼朝の国づくりを検証する。 (1) 日宋貿易について調べる。 ○ 貿易による経済効果をとらえること ※ 袖の湊跡近辺を見学する。	3 ①
探 る	(2) 頼朝の国づくりが支持された理由を調べる。 ○ 支持集めに奔走した半生に気付くこと ※ 義経を追討した理由を追究させる。	①
	(3) 平家滅亡の理由を検証する。 ○ 頼朝を選択した武士の思いをとらえること ※ 清盛一族の系図を提示し、貴族化しつつあったことをとらえさせる。	① 本時
	3 武士の政治についてまとめる。 ○ 約700年間続いた武家政治の基盤となった御恩と奉公の関係をとらえること ※ 鎌倉～江戸時代までの年表を提示する。	1

## 本時の学習活動の展開

### 本時授業の目標

- 清盛と頼朝が何を大切にしているのかを当時の資料や遺物から追究して考えることができる。
- 所領安堵を守ることによって武士の棟梁として認められた頼朝の構想が、以後 700 年に及ぶ武家政権の基盤となったことをとらえさせる。

### 1 博多の賑わいをつくった清盛の業績について話し合う。

#### ○ 清盛は日本で一番の権力者であったこと

- ☆ 西国だけでなく、東国の一部も平家の知行国になっているほど当時は平家が強かったんだ。
- ☆ 清盛は、安徳天皇の祖父になったことで「日本国王」でもあったことになるんだね。
- ☆ 清盛の政権は約 15 年だけど、頼朝の政権は約 130 年も続いている。こんなに力があつたのに、どうしてわずかな間で滅んでしまったのだろう。

### 本時のめあて

清盛の政治が長続きしなかった理由について、頼朝の政治と比べて考えよう。

### 2 清盛と頼朝の政治に対する考え方について比較する。

#### (1) 清盛と頼朝の政治に対する考え方について交流する。

#### ○ 一国の代表として貿易を行い国を豊かにしようとした清盛に対して、頼朝は家臣を惹きつけて国内統一を図ろうとしていたこと

- ☆ 清盛は宋との貿易を盛んにするために、国王になろうとしたと思う。そのために、一族で官位を独占したり、天皇の父になったりしたと思う。
- ☆ 清盛が博多に港を造って宋と貿易したのは、その利益で国を豊かにしようと思ったんじゃないかな。

- ☆ 頼朝は、まず家来を集めなければいけなかったから、戦で勝った者にはどんどん領地を与えていったんだと思う。
- ☆ 頼朝も、博多の街にお寺をつくって禅僧をたくさん留学させているから中国(宋)とのかかわりを大切にしていたと思う。

#### (2) 頼朝の考えが武士に受け入れられたことについて話し合う。

#### ○ 武士は自分の領地を守り広げること何よりも大切にしていたこと

- ☆ 清盛は、今の日本と同じように貿易で国を豊かにする政治だけど一族だけが繁栄したので反発されたんだ。だから、家臣を大切にしている頼朝に支持が集まったんだと思う。

### 3 源頼朝がめざした武士の政治についてまとめる。

#### ○ 「御恩と奉公」の関係が以後 700 年間続く武家政治の基盤となったこと

- ☆ 自分の領地を保障してくれる人に従うのが武士なんだね。
- ☆ 頼朝が鎌倉に幕府を開いたのは、朝廷にたよらない政治を始めたいということを武士に伝えたかったのかもしれないね。
- ☆ 清盛のおかげで博多は大都市になれたのに残念だな。

### ○ 準備

- 教師側：清盛と頼朝の年表、「袖の湊」の地図
- 児童側：発表資料

### <各活動の子どもの見取りと支援>

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 清盛の力が絶大だったことについて発表している。
- 【支援】
- ※ 平家の全国支配図や、朝廷との関係図と、頼朝・義経のおかれた状況(年齢、幽閉場所等)を比較して力の差をとらえさせる。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 清盛と頼朝がどのような国づくりをめざしたかについて調べた根拠を明らかにして発表している。

#### <清盛>

博多を中心に日宋貿易をさかんに行ったり、一族で官位を独占したりしたことから、貿易により利益を上げ、平家を中心に国を一つにしようと考えた。

#### <頼朝>

家来の支持を集めることを第一に、所領安堵を中心とした主従関係をつくった。

#### 【支援】

- ※ 調べた項目ごとにグループをつくり、その中で交流させる。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 自分の領地を保障してくれる頼朝に武士の支持が次第に集まっていったことを発表している。

#### 【支援】

- ※ 平家滅亡の最大功労者である義経を追討した理由を考えさせ、平家の失敗を避けようとした頼朝の考えに気付かせる。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 頼朝がつくった御恩と奉公という主従関係が武士の政治の基本となったことに気付いている。

#### 【支援】

- ※ 鎌倉、室町、江戸幕府と武士の時代が 700 年間続いたのは、「所領安堵」で結ばれた主従関係であったことを通してとらえさせる。

七夕会の準備活動を通して図形の形や向きに気を付け構成する力を付ける学習

## 第3・4学年さくら組 算数科学習指導案

指導者 弘松英樹

題材 かたちをくみあわせて わくわくたなばたかい!

### 指導観

#### 本学級の子どもたちについて

本学級の子どもたちは、3年生2名、4年生3名の計5名で構成されている。これまでの学習から、図形を弁別したり、簡単な形を描いたりする経験をしてきている。「図形」に対する特性の実態は(AG)辺や角を隙間なく敷き詰めていくことが得意な子ども、(BG)図形を物に見立てて形象化することが得意な子ども、と違いがある。また、図形の操作性においても、作業の速さ、正確さなどに個人差がある。

#### 本題材について

本題材は、特別支援学級の行事である七夕会を楽しくする飾り付けを作る活動を行い、それを同じ図形が連続する飾りや図形を様々に組み合わせて絵を構成する飾りを作ることにより図形の構成要素や向きに目を付けて、操作する力を身に付けることをねらいとしている。具体的には、①自分の飾りを美しく完成させて、七夕会の準備することに意欲的に取り組むこと、②図形の辺の長さ、角の大きさや向きに目を付けて、図形を並べて構成すること、③図形を規則正しく並べたり、組み合わせたりできたことに自信をもつことなどである。このような学習は日常生活と関連した活動の目的をもたせながら図形の性質を具体的な操作を通して身に付けさせる上で価値がある。

#### 本題材の指導について

本題材の指導にあたっては、特性に応じて同じ図形が連続する飾りや図形を様々に組み合わせて絵を構成する力を身に付けさせたい。動機段階では、七夕会の計画を話し合い、試しの活動を行う。そこで図形の基本的な組み合わせ方を理解させる。熱中段階では、飾り付けなどを自分の仕方、図形を選びながら作る。その際、子どもの特性に応じて、操作活動を複線化して行う。達成段階では、作った飾りを全部合わせて、七夕会の準備をする。

#### 目標

- 1 図形を使って模様や絵の飾りを作る活動に関心をもち意欲的に図形を構成する活動ができる。
- 2 七夕会に必要な飾り作りの活動を通して(AG)同じ図形が連続する飾りを向きに気をつけて規則的に作ること、(BG)図形を組み合わせて絵を作る飾りを構成要素に目を付けて作ること、ができる。

#### 計画 (約4時間)

階層	主な学習活動	時間
動機	1 七夕会の計画について話し合い、試しの飾りを作る。 ○ 図形を並べてつなげたり、組み合わせたりして飾りや絵ができることがわかること ※ 簡単な図形で連続する飾りや、絵ができることをモデルを示してイメージをもたせる。	1
熱中	2 図形を組み合わせて飾り付けを作る。 (1) 自分の飾りや絵を図形を選んで作る。 ○ (AG) 三角形や四角形などを同一の図形を同じ向きで連続につなげること (BG) 直角三角形や正方形、長方形など直角のある図形で組み合わせて作ること ※ 図形を自己選択する場を設定する。 (2) 違う図形での飾りや絵を作る。 ○ (AG) 平行四辺形などの図形を向きを変えながら規則的につなげること (BG) 平行四辺形など直角のない図形で組み合わせて作ること ※ モデルとなる試作品を提示する。	2 ①
達成	3 これまでに作った飾りを全部合わせて七夕会の準備を行う。 ○ これまでに作った物から、図形の規則正しく並んだ美しさや、組み合わせて絵ができる楽しさを感じる事 ※ 実際に飾り付け、鑑賞することを通して活動の有用感を味わわせる。	1 ① 本時

## 本時の学習活動の展開

### 本時授業の目標

- 図形を使った連続した模様の飾りや絵の飾りを作る活動に関心をもち、意欲的に図形を組み合わせることができる。
- 飾りや絵を作る活動を通して(AG)同じ図形が連続する飾りを図形の向きに気を付けて作ること、(BG)図形を組み合わせて絵を構成する飾りを、構成要素に目を付けて作ることができる。

1 七夕会をもっと素敵にするために、前時よりもいろいろな形を組み合わせて工夫した飾りや絵を作ることを話し合う。

○ 前時に行った活動の手順がわかること

☆ 形をずっとつなげて、長い飾りをつくったよ。

☆ 三角や四角を組み合わせて、お家や風車ができたよ。

### 本時のめあて

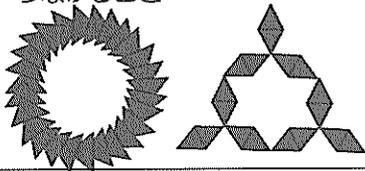
かたちをつなげて もようやえをつくって すてきな かざりをつくらう。

2 1人1人が自分の飾りや絵を作り、飾り付ける。

(1) 図形を組み合わせて、自分の飾りや絵を完成させる。

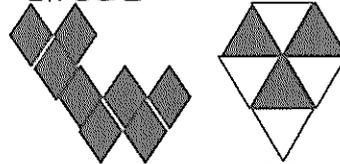
#### Aグループ

- 平行四辺形などの図形を向きを変えながら規則的に連続してつなげること



#### Bグループ

- 平行四辺形などの図形を様々な位置や向きで組み合わせて絵を作ること

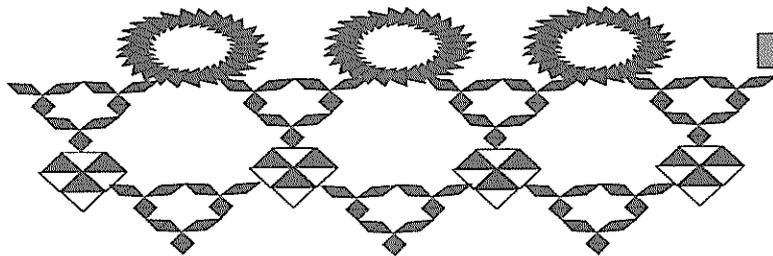


☆ 順に三角をつなげていったら、きれいな飾りができたよ。

☆ 四角や三角で、かわいいねこやアサガオができたよ。

(2) みんなが作った飾りを、形や向きを考えて飾り付ける。

- 図形の対称性や繰り返しを考えて、飾りを組み合わせること



☆ やった。素敵な飾りがたくさんできたよ。

☆ 面白い絵の飾りができたよ。みんなよろこぶかな。

3 飾りを作るときに気を付けたことを発表し、次時の活動について話し合う。

- 図形の辺の長さや角の大きさ、向きに気を付けて飾りを完成させられたことに自信をもつこと

☆ 向きを交互にしたら、きれいに並べられました。

### 準備

教師側：飾り用の図形

図形を選択する場

ヒントとなるモデル作品

飾り付ける場

### <各活動の子どもの見取りと支援>

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 七夕会の飾り作りをしたいという意欲をもっている。

#### 【支援】

- ※ 1人1人の飾りや絵を作る図形を選択できる場を用意し、個別の活動が行えるようにする。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 前時の活動を想起し、活動の手順が分かっている。

#### 【支援】

- ※ 手順表を提示し、実際にモデルで実演しながら手順を理解させる。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 図形の辺の長さや角の大きさ、向きに気を付けて並べ、飾りを作ることができている。

#### 【支援】

- ※ (AG) 図形の色を変えることにより、パターン化して並べる手順が分かる支援を行う。

(BG) 図形の組み合わせ方の例を数種類のモデルとして提示し、組み合わせ方を自己選択して操作できる支援を行う。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 作った飾りを友達と組み合わせて飾り、きれいに飾りができているかどうか見ている。

#### 【支援】

- ※ 全員の飾りを飾り付けられる場として立てかける背景を準備する。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 友達の飾りとの組み合わせ方を、図形の連続したパターンや、対象的な位置になるようにしている。

#### 【支援】

- ※ 対称な図形や同じパターンの繰り返しにしたり、星などの形を表すような配置にしたりするよう交流しながら並べ方を試してみる。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 図形を並べたり、組み合わせたりするときに気を付けたことやわかったことを表現している。

#### 【支援】

- ※ 実際に行った操作の仕方を実演させて発表させる。

# 全体会 (2日目)

▼ あいさつ(10:20~10:35)

初等教育研究部委員長

校長 鈴木 清一

▼ 教科等発表(11:05~11:25)

・自ら地域への気付きを深める生活科学習

ー協同活動位置付けた授業づくりー

生活科部 塚本 正典

▼ 主題発表(10:35~11:05)

・豊かな学びを育む学習の創造

ー子どもの「問い」を深化・拡充させる授業づくりー

研究副主任 下川 勝彦

▼ 児童発表(11:30~11:50)

・児童アピールー3年生われら附属小ちよボラ隊ー

指導者 塚本 正典

・創り出そう！私達のハーモニー

指導者 有川 陽子

# 第2日目 午後の部

## 学習指導案

### ▼ 学習指導 (12:45~13:30)

学年組	教科領域等	単元・題材・主題名	授業者	会場
1年1組	算数科	いくつといくつ?ビンゴでゲット	島川 二郎	1年1組教室
1年2組	生活科	すすめよう!がっこうガイドボランティア	塚本 正典	2階図書・ワークスペース
2年1組	体育科	あらつの森たんけんたい	渡邊 正則	附属中体育館
4年1組	国語科	相手をゆり動かす材料は?-どうぶつ保護シェルター募金をよびかけよう-	平川 洋一	4年1組教室
5年1・3組	家庭科	まかせてね 旬の野菜でオリジナルサラダ	緒方 敦子	家庭科室
5年2組	図画工作科	開店:和菓子屋本舗-和の心でおもてなし-	北田 尚雄	図画室・工作室
6年1組	学級活動	委員会活動活性化プロジェクト	黒澤 真二	6年1組教室
6年2組	算数科	体積から見える世界	田中 健悟	6年2組教室

### ▼ 特別支援教育学習指導 (12:45~13:30)

ふく くじ ら組	合同生活単元学習	みんなで作ろうセタフェスティバル	下川勝彦, 諏訪原佳子, 弘松英樹, 倉富 護	特学棟音楽室
----------------	----------	------------------	----------------------------	--------

ビンゴゲームをしながら、数をとらえる「問い」の深化型の学習

# 第1学年1組 算数科学習指導案

指導者 島川二郎

単元 **いくつといくつ? ビンゴでゲット**

## 指導観

### 本単元について

本単元のねらいは、数の合成分解の見方を深めることである。具体的には、①数の合成分解を通して10までの数の多様な見方ができるようになること、②1つの数を、他の数と関係付けて見ることができるようになること、である。

本単元では、10までの数でビンゴゲームを仕組み数を合成したり、分解したりする考えを活用していく。具体的には①ビンゴゲームの5マスをはやく○を付けることができるような数の分解の仕方を考えること、②引いたカードの数が大きくなると、分解された数の組み合わせが増えることに気付くことができるようにすること、である。

### 本学級の子どもたちについて

本学級の子どもたちは、これまでにものの集まりの大きさを具体物や図と数字と線をつないで、数をとらえることができるようになってきている。またおはじきなどの具体物や図を使って数を表すことができるようにもなっている。

このような時期に本単元を行い、分解してできる2つの数について理解し、その組み合わせの個数の変化にも気付くことができるようにしたい。このような学習は、加法の学習をする上で意義深い。

### 本単元の指導について

本単元の指導にあたっては、数の分解をどのようにしていけばゲームに勝つことができるかという問いをもち、10までの数の分解の数に対する見方を深化させる。そのために見いだす段階では、5までの数の「いくつといくつ」の考え方を導入する。試みる段階では6から10までの数の合成分解をブロックを操作しながら行うようにする。広げる段階では、10に近づくほど分解の数多くなることを分解された数の変化からとらえるようにする。

### 目標

- 1 ビンゴゲームに興味をもち、10までの数の合成分解を図を使って表すことに意欲的に取り組むことができるようにする。
- 2 ビンゴゲームを通して、10までの数は、数が大きくなるごとに、2つの数の組み合わせが1つずつ増えることに気付くことができるようにする。

### 計画 (約6時間)

階	主な学習活動	時間
見 い だ す	1 数カードを使って5までの数のビンゴゲームをする。 ○ 5までの数字でのビンゴゲームについて把握すること ※ 5までの数字でビンゴゲームを試し、ルールをつかませる。	1
	2 10までの数でビンゴゲームをする。 (1) 6, 7, 8を取り入れた、ビンゴゲームをする。 ○ 数の分解の仕方を把握すること ※ 6, 7, 8の分解の仕方をブロックで確かめ、何通りあるかを考えさせる。	4 ②
試 み る	(2) 9, 10を取り入れた、ビンゴゲームをする。 ○ 9と10の数がわかり、○の付け方を把握すること ※ ブロック操作をしながら「○と○」という言葉に気を付けてゲームをさせる。	②
	3 5から10までの数で、ビンゴゲームをする。 ○ 数が10に近づくほど数の分解が多くなることを把握すること ※ ビンゴのマスは、あらかじめ数字を記入したものを使い、カードを引いて出た数値を分解した数に○をつけし、たて、横、ななめ、どこの5つでもよいのでそろったら勝ちである活動を設定する。	1 本時

## 本時の学習活動の展開

### 本時授業の目標

- 引いたカードの数を自分で分解して、ビンゴゲームに意欲的に取り組むことができる。
- 引いたカードの数が大きくなると、分解された数の組み合わせが増えることに気付くことができる。

### 1 ビンゴゲームを行い、勝つための作戦を話し合う。

- ビンゴゲームを行い、数の分解に気を付ける必要があるという見通しをもつこと

4	②	7	③	6
5	3	4	6	3
3	7	6	1	8
4	6	2	1	2
2	3	6	4	5

(例) 引いていくカードと5×5のマスへの数字の書き方

やり方: 5のカードを引いたとき、○を付けることができるのは、(1, 4) (2, 3)の数のところになる。離れていてもよい。

- ☆ ビンゴゲームは、列が○で埋まればいいんだな。
- ☆ マスの中には、1から9までの数が入っているな。
- ☆ ○を付けることができなかった数字があるな。

### 本時のめあて

どのように○をするかかかずのくみあわせにきをつけて調べよう。

### 2 ビンゴゲームを振り返り、○の付け方を調べる。

- (1) 分解された数の組み合わせについて調べる。

- 10までの数の、分解された数の組み合わせの変化に気付くこと

5	6	7	8	9	10
1と4	1と5	1と6	1と7	1と8	1と9
2と3	2と4	2と5	2と6	2と7	2と8
	3と3	3と4	3と5	3と6	3と7
			4と4	4と5	4と6
					5と5

- ☆ 9や10のときにしか、8や9がでないんだな。
- ☆ 1はどの数の時にもでてくるんだな。

- (2) 10までの数カードについて全体で話し合う。

- 数カードごとに分解される数の組み合わせを並べ、数の出方の違いから作戦を立てること

- ☆ 9は10のカードを引いたときにしか○を付けることができない。8は、9と10のカードの時に○を付けよう。
- ☆ 1は、どんな数の時にも○を付けることができるので、どこに1があるかを考えて○を付けていけばよいんだな。

### 3 作戦を立て、ビンゴゲームをする。

- 勝つためにどのように○をたくさんつけることができる作戦を立ててゲームをおこなうこと

- ☆ マスに入れる数字は、どんな数の時にも○を付けることができる1をなるべく多く入れる。

### ○ 準備

教師側: 板書用5×5マス, 板書用合成分解絵図, 板書用ブロック, 板書用ドット図, 板書用10までの分解カード,

児童側: 5×5, 10までのカード

### <各活動の子どもの見取りと支援>

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ ビンゴゲームをしようという意欲をもち、数の分解が言える。

#### 【支援】

- ※ ビンゴゲームのやり方をルール表を使って理解させる。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ ゲームの中で10までの数の分解をしている。

#### 【支援】

- ※ 分解が分からない子どものために、ドット図やブロックを用意しておき、数の分解に気付くことができるようにしておく。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ ビンゴゲームの結果を振り、○がつけにくい数があることに気付いている。

#### 【支援】

- ※ ビンゴゲームがはやく上がるためには大きな数に秘密があることを、黒板にまとめたカードをもとに気付かせる。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 整理された数ごとに並べられた数カードを見て、カードの枚数の違いに気付くことができる。

#### 【支援】

- ※ ビンゴゲームを早く上げるために必要なのは、はやく大きな数に○をつけることであることに気付かせるために5から10までの数の分解を板書する。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 自分でつくった作戦をもとに、分けていくつになるかを考えて空いているマスに数字を入れることができる。

#### 【支援】

- ※ ビンゴゲームをする前に、数名の子どもにどんな作戦を立てたか、どんな○の付け方をするかを発表させ、はじめの○の付け方との違いを意識させてからゲームを行う。

学校施設や人を協力して分かりやすく紹介する、「問い」の複合型の学習

## 第1学年2組 生活科学学習指導案

指導者 塚本正典

単元 すすめよう! がっこう ガイド ボランティア

### 指導観

#### 本単元について

本単元は、学校施設の様子や学校生活を支えている人々や友達のことが分かり、楽しく安心して遊びや生活ができることをねらいとし、学校の施設や支えている人を取り上げ、教材化を図る。具体的な内容は、①学校の様々な施設の様子に気付いたり、自分とのかかわりから学校生活を楽しく安全な生活のため支えている人があるに気付くこと②学校の施設や人の様子を紹介できた、自分のよさに気付くこと、③楽しく安全な学校生活を過ごしたり、自ら学校に働きかけたりすることができることである。

#### 本学級の子どもたちについて

本学級の子どもたちは、学習や生活の中で様々な学校の施設を利用したり、養護の先生や給食の先生等、学校生活を支える人とかかわったりしている。しかし、様々な施設が自分の学校生活とかかわりがあり、気持ちよく安全に使えるように様々な人が支えていることには気付いていない。そこで、様々な施設がみんなのものであり、その施設をみんなのことを考えて使っていく大切さを実感的に気付くことができるようにする。このことは、学校生活や人とかかわりの気付きを深める上で価値がある。

#### 本単元の指導について

本単元の指導にあたっては、学校の施設や生活を支える人々の様子とかかわりについてとらえ、きまりを守って楽しく安心して学校生活ができるようにしたい。であう段階では、学校探検を進め、学校施設と支える人の様子を教生先生に紹介する問いを生み出すようにする。ふかめる段階では、探検をもとに学校を紹介する案内図づくりを繰り返し進め、学校のお気に入りの場所について案内図をもとに紹介をさせる。いかす段階では、自分のよさに気付くことができるよう、附属小を紹介するガイドボランティアを進める。

#### 目標

- 1 学校の施設や支える人々の様子に関心をもち、意欲的に探検やインタビューをして、楽しく安心して生活することができる。
- 2 ふ小を紹介するボランティア活動を通して、学校の施設には自分が楽しく安全に過ごせるように学習や学校生活を支える人があることを実感的に気付くことができる。

#### 計画 (約11時間)

階	主な学習活動	時間
1	1年生の学校生活とかかわりの深い施設や人を探す。学校探検をする。 ○ 学校の様々な施設や働く人の様子を自分と身近なかかわりから気付くこと ※ 学校施設で働く人に仕事の様子についてインタビューする場を設定する。	3
2	教生先生に紹介したい附属小の施設や先生の居場所がわかる案内図をつくる。 (1) 学校探検をもとに、お気に入りの場所探しを進め、学校案内図を作る。 ○ 学校の施設と人の仕事の様子の関係に気付くこと ※ 学校の施設や働く人の様子に気付く、案内図を作る場を設定する。 (2) 学校の施設や人のお気に入りの場所を案内図にまとめ、紹介する。 ○ 場所や時間に応じて変化する人の様子と学校生活とかかわりから気付くこと ※ 友達に施設や人の様子を紹介するコーナーや、写真やお気に入りの場所の説明を作りかえる場を設定する。	6 ③
3	学校案内図をもとに、教生先生に紹介するガイドボランティアを進める。 ○ 学校施設や支える人の紹介を自信をもって進める自分のよさに気付くこと ※ 教生先生を案内しながら附属小を紹介する場を設定する。	2 本時 2 / 3

## 本時の学習活動の展開

### 本時授業の目標

- 附属小学校の施設や先生がいる場所がすぐにわかる学校案内図を意欲的につくり出ることができる。
- 案内図づくりや附属小の紹介活動を通して、場所や時間に応じて変わる人の様子と学校生活とのかかわりに気付くことができる。

1 教生先生が附属小の様々な場所や先生を探す理由をもとに、時間に応じた先生がいる場所について話し合う。

- 教生先生に附属小の先生がいる場所をすぐに見付けるひみつを教えたい意欲を高め、学習の見通しをもつこと

☆ 教生先生は、附属小学校のことがよくわからないので、よくわかるように、くわしく教えてあげたいな。

☆ 学校のいろいろな場所が分かったので、附属小学校の中で、ぼくが大好きな、すてきな場所を教えてあげたいな。

### 本時のめあて

きょうせいせんせいに、がっこうやせんせいの、ひみつをしょうかいする、あんないずを つくろう。

2 学校探検マップやインタビューカードをもとに、附属小のお気に入りの場所を案内図にまとめ、紹介する。

(1) 学校探検マップやインタビューカードをもとに、学校案内図をつくったり紹介したりする。

- 自分とのかかわりから、附属小の施設や先生の活動の様子に気付くこと

☆ ぼくは、いろいろないきものがたくさんみつかるクローバーはたけをしょうかいます。ぼしよは、たいいくかんのまえで、パッタやだんごむしがたくさんいるのでだいすきです。

☆ ようごの先生は、保健室にいつもいます。それは、けがをした人をすぐにみてあげるためです。算数の先生は、1時間目や2時間目ごとに、授業をするクラスにいますので、場所がちがいます。

(2) 附属小の施設や先生がいる案内図をつくり、それぞれの先生がいる場所が違う理由について話し合う。

- 場所や時間に応じて施設や人の様子が変わることや、自分たちの学校生活とかかわりがあること気付くこと

☆ 保健の先生がいつも同じ場所にいるのは、けがやびょうきの時、すぐにお世話ができるようにしているからだね。

☆ 附属小学校の先生がいる場所は、ぼくたちの時間割ごとの学習に応じて様々な場所に行っているから、変わるんだね。

3 できた案内図をもとに、これからの学習について話し合う。

- 教生先生に附属小をもっと知って欲しいという思いをもって、わかりやすい案内図にする新たな問いをもつこと

☆ 教生先生に、この案内図を紹介して、附属小学校のいろいろな場所や先生がすぐに探せるといいな。この案内図を使って、附属小のすてきな場所や先生のいる場所がわかってくれるかな。

### 準備

教師側：探検マップ、先生の写真

各教室の写真、インタビューカード

児童側：案内図

### <各活動の子どもの見取りと支援>

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 時間に応じている場所が違う附属小の先生をすぐに探す問いをもっている。

#### 【支援】

- ※ いつも同じ場所にいる附属小の先生と、授業や仕事に応じて場所が変わる先生の写真の様子を提示し、いる場所が違う理由について話し合う場を設定する。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 附属小学校のお気に入りの場所の調べ方や案内図の作り方について見通しをもっている。

#### 【支援】

- ※ 学校探検マップやインタビューカードを提示する。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 学校の施設の様子や附属小の先生の活動の様子を意欲的に調べ、お気に入りの理由についてまとめながら案内図づくりや紹介をしている。

#### 【支援】

- ※ 案内図のまとめ方の提示や、施設や先生を紹介するコーナーの設定をする。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 附属小の施設の場所や先生がいる場所を自分の学校生活と関係づけて説明をしている。

#### 【支援】

- ※ 先生の写真や、施設の様子がわかる学校探検マップをもとに、場所や時間に応じている施設や人の様子がわかるよう、紹介の実演の場を設定する。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 教生先生に分かりやすく教えてあげたい思いをもち、場所や時間に応じてわかりやすい案内図になっているか、新たな問いをもっている。

#### 【支援】

- ※ 教生先生が附属小学校に来る日程を伝え、案内図をもとに附属小を紹介する日を伝える。

# バランス感覚を段階的に高める探検遊びの楽しみ方を探究する「問い」の深化型の学習 第2学年1組 体育科学習指導案

指導者 渡邊 正 則

単 元 あらつの森のたんけんたい

## 指 導 観

### 本単元について

本単元は、自然とスリルがいっぱいのあらつの森の中を友達といっしょに探検しながら通り、誰も行ったことのない場所に行くというストーリーの世界にひたり、体のバランスをとりながら移動する基本の動きを習得すること、それを生かして、友達と工夫した場で自分の動きを高めながら身体を動かす心地よさを味わうことをねらいとした学習である。具体的には、つり橋、飛び石、シーソー橋に見立てたコースをたどっていくことでバランスをとりながら移動できるようにすることである。主な学習内容は、①設定された条件に合った動きでいろいろなバランスをとった歩き方ができるようになること、②身に付けた動きを生かして、やや難しい場を工夫しながら友達と協力して動きを楽しむことである。

### 本学級の子どもたちについて

本学級の子どもたちは、これまでいろいろなコースを走ったり、簡単な障害物を跳びこしたりする動きづくりを楽しんだり、お宝冒険等を通して巧みな動きづくりを体験したりしている。バランスをとる動きに関しては、日常的に細い道の上を歩くことを好んで、両手をうまく使って歩いたりする体験をしている子どもが多い。また走・跳の学習を含めて調子よく走る等の技能や勝敗への態度、きまりづくりのよさを学んでいる。このような時期に本単元を取り上げ、動きを基本的な動きから系統的・総合的に高めたり、動きを発展させる規則を工夫したりしながら、楽しく運動ができるようにするとともに、体力の向上を図る。

### 本単元の指導について

本単元の学習において、これまでに他領域の中で身に付けてきた、走る・跳ぶ等の基本的な運動遊びの体験や日常生活の中で体験してきたバランスをとって歩くといった動きを生かしながら、初めはストーリーに沿って、「落ちないようにうまく通り抜けたいな」という問いのもとに活動を試させる。次に数が増えたり幅が変わって難易度が増した道、さらには障害物があって通りにくくなった道と難易度を変化させながら活動を繰り返させ、いろいろな状況の中で「バランスを崩さず行けるかな」と問いを発展させながら楽しく活動させ、その中で自然に運動感覚が高まるようにする。

### 目 標

- 1 険しい自然を克服する楽しい場を想像して遊びながら、いろいろな場の条件にあった動き方を試し、精一杯身体を動かす心地よさを感じることができる。
- 2 いろいろなバランスをとりながらの歩き方や障害をよける体の動かし方を身に付けたり、自分の動きにあった場を工夫したりすることができる。

### 計 画 (約6時間)

階	主 な 学 習 活 動	単
や っ て み る	1 あらつの森を通して活動するストーリーと出会い、基本の場での活動を試す。 ○ バランスをとりながら歩く動きを高めながら遊びを楽しむ本単元のねらいをつかむこと ※ モデルの動きとの比較活動や西公園の散策体験の位置付けによる学習の方向性の確認。	1
ひ ろ げ る	2 あらつの森の条件に応じて基本的なバランスをとりながら歩く動きを身に付けたり、お話に合った場を工夫したりして遊ぶ。 (1) ストーリーの設定に合わせて、コースを通り抜けたり、基本の場の数を増やしたり幅を変えたりして楽しく遊ぶ。 ○ 数が増えたり幅が変わったりしても、うまくバランスをとって歩く動きを身に付けること ※ ストーリーに合った状況を紙芝居で見せることで大きさを変える、道幅が変わる等の条件の変化を考えさせる。 (2) ストーリーの変化に合わせて、さらに障害物を付け加えて場を工夫し、バランスをとって歩きながら遊ぶ。 ○ 障害物を増やして場を工夫したり、その場所でうまくバランスをとって歩く動きを身に付けること ※ モデルとなる場から選択したり、参考にして工夫したりできるようにする。	4 ②
ふ か め る	3 あらつの森の探検遊びを振り返り、動きの変化を感じ、楽しく遊ぶ。 ○ バランスをとって歩く動きの高まりを確認すること ※ アイデアを生かした場を組み合わせ、みんなで楽しく活動できるようにする。	1 本 時 1 / 2

## 本時の学習活動の展開

### 本時授業の目標

- 友達と協力してこれまでに身に付けた動きを活用しながら、障害物のある森という活動の場を工夫して楽しく遊ぶことができる。
- 身に付けた基本的な動きに障害物をこえる、かがみ込んで起き上がる等の動きを変化させて、より複雑な動きに高めることができる。

### ○ 準備

教師側：あらかの森の場、さまざまな自然に見立てた教具

児童側：学習ノート

### <各活動の子どもの見取りと支援>

1 これまでに身に付けた動きをふり返るとともに、険しくなったあらかの森について話し合い、動きを試す。

- 険しくなるあらかの森のお話に合わせて自分たちで道を変化させながら楽しく活動するという学習の方向性を理解すること

☆ あらしの後の森は木が倒れたり、通りにくいぞ。

#### 本時のめあて

あらしの後でけわしくなったあらかの森の中を、しぜんにあわせてうごきをくふうしてじょうずにとおりぬけよう。

2 お話に合わせて障害物を付加した場で、自分の動きも合わせて変化させながら楽しく遊ぶ。

- (1) みんなで考えて険しくした場を試しながら、楽しく遊ぶ。

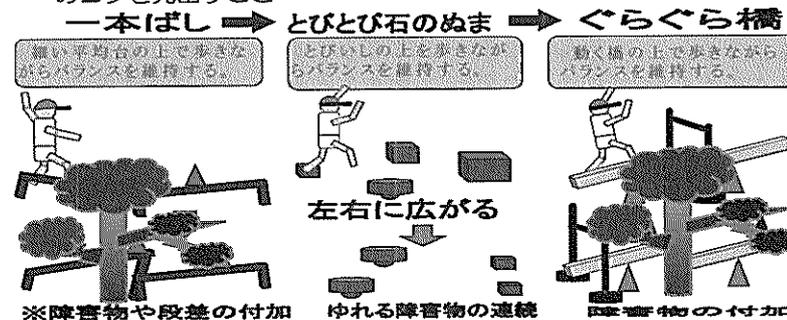
#### 【基本の場】



- 障害物のある森を通るときのバランスのとりの方のコツを見出すこと

- (2) 1回目の活動のよさや工夫点について話し合い、グループごとの工夫を加えたり、難しかった動きを練習したりして楽しく遊ぶ。

- お話に合わせて障害物を付加したり、その活動の場にあった動きのコツを見出すこと



☆ 大雨や風で通りにくくなった森なら、もっと難しい道がよさそうぞ。

☆ 障害物の数や置き方が変わってもうまくわたれるかな。

3 今日の活動をもとにうまくいった動きや楽しかった場を紹介し、動きのよさを話し合ったり紹介したりする。

- 工夫した活動の場のよさや動きの高まりを実感すること

☆ みんなで工夫した場で遊んで楽しかったな。今までよりも動き方が速くなったり、かがんだりしても上手に動けたりしたよ。

#### 【子どもの見取りの観点】

◎ 前時の動きや活動を振り返り、本時の場面設定の資料をもとにめあてをもち、本時学習への意欲を高めている。

#### 【支援】

※ 前時までの活動の様子をVTRや写真で掲示して、状況に応じた動きの変化について話し合い、動きの高まりのよさを賞賛する。

#### 【子どもの見取りの観点】

◎ 本時の場面設定に合わせて、今まで身に付けた動きを活用し、障害物をうまくこえてバランスをとって歩いている。

#### 【支援】

※ モデルの場の提示により子どもたちの工夫を焦点化する。

#### 【子どもの見取りの観点】

◎ これまでに身に付けた動きや工夫を生かして、コースを考えたり活動を楽しんだりしている。

#### 【支援】

※ フィードバックの場を準備したり効果音を活用し、場面を想像しやすくする。

#### 【子どもの見取りの観点】

◎ 1回目の場の変更と違った視点での場のつくりかえを行い楽しく活動している。

※ 工夫の観点を示し、観点のコース別に協力して場をつくりかえ、楽しく遊べるようにする。

#### 【子どもの見取りの観点】

◎ 今日の学習を振り返り、よさを見出し、次時への意欲を高めている。

#### 【支援】

※ 今日よかった動きを見合い、お互いの考えのよさを相互評価する。

相手と交信しながら書き表し方を活用していく「問い」の深化型の学習

## 第4学年1組 国語科学習指導案

指導者 平川 洋一

単元 相手をゆり動かす材料は？ ～どうぶつ保護シェルター募金をよびかけよう～

### 指導観

#### 本単元について

本単元は、「どうぶつ保護シェルター建設」を推進する『NPO法人福岡どうぶつ会議所』が展開している募金活動への参加を呼びかける依頼文を、これまで身に付けてきた書き表し方の技能を活かして様々な相手に発信しながら練り上げていくことができるようにすることをねらいとしている。指導の重点としては、伝えたいことの手中心を決め、相手に応じて中心的な材料を選ぶこと、選んだ材料の軽重を考えながら組立てることである。

#### 本学級の子どもたちについて

本学級の子どもたちは、経験したことの順序にそって、伝えたいポイントを加えてくわしくしながら説明書にまとめる学習を行ってきた。3年生までの学習をふまえ、事柄の手中心を明らかにすることや目的や相手に応じてそれに合う材料を選ぶことの定着を図り、それらの書き表し方を活かして、ことばの有用感を味わわせていく必要がある。

#### 本単元の指導について

つかむ段階において、まず福岡県で捨てられた犬や猫の救に出合わせ「動物の命」への気がかりをもたせる。そして、福岡どうぶつ会議所からGTを招聘し、会議所が取り組んでいる「どうぶつ保護シェルター」を建設するための募金活動の趣旨を説明していただくことで、自分たちもより多くの人へ募金活動参加を呼びかけていこうという思いを高めていく。次に、つくる段階において、募金を呼びかける依頼文の構想を、身に付けてきた選材・組立ての仕方を活かして立てていく。その際には、他者や他の表現と比較する活動を通して「呼びかけたい内容」と「そのための材料」との妥当性や整合性、構造性を練り上げていく。いかす段階では、「全校→あらかの町の人々」へと対象を広げ、相手に応じて材料や組立てを再構想し、表現の仕方を活用する力を培うとともに、達成感を味わわせていきたい。

#### 目標

- 「どうぶつ保護シェルター建設」の募金を呼びかけたいという求めをもって、身に付けた書き表し方を依頼文に活かしていこうとすることができる。
- 体験や取材を通して明らかにした「呼びかけたいことの手中心」を意識しながら、材料の取り上げ方や説明の仕方、組立て方を活かして、相手に応じた依頼文に書きまとめることができる。

#### 計画 (約9時間)

階	主な学習活動	時
つ か む	1 福岡県の動物保護数に出会い、保護シェルター建設のための募金を呼びかける依頼文を書いていく学習課題をつくる。 ○ 保護数や募金活動の目的をもとに、呼びかけたい内容をもつこと ※ 他県と比較した保護数のデータを提示したり、どうぶつ会議所からGTを招聘し趣旨を聞いたりする場を位置付ける。	2
つ く る	2 目的や相手に応じて、依頼文に取り上げる材料や呼びかけを練り上げる。 (1) 目的や相手に応じて、構想をつくる。 ○ 相手に応じて、中心に合った材料を選択し軽重を考えながら組立てること ※ 材料と中心の整合性・妥当性・構造性が際だつモデルを全体で検討した後に、ペア、個の検討場面を位置付ける。 (2) 依頼文を記述する。 ○ 既習の記述の仕方、練り上げた構想を活かして書きまとめること ※ 相手に応じて記述の仕方を変えるモデルを提示する。	5 ③ 2 3 本 時 ②
い か す	3 依頼する対象を広げて発信する。 ○ 目的を達成できた自分や書いて伝えることの手有用性を実感すること ※ 全校に発信する場、唐人町商店街で発信する場を位置付け、学習後の感想を書きまとめさせる。	2

## 本時の学習活動の展開

### 本時授業の目標

- どうぶつ保護シェルター建設のための募金を多くの人に呼びかけたいという求めをもって、呼びかけたいことを中心をはっきりさせて、表現していく材料を高めていこうとすることができる。
- モデル構想や他者の構想との比較を通して、自分が伝えたいことの中に合う材料を見直し、妥当性を高めることができる。

1 自分が立てた構想をふり返り、できている点と不十分な点について確かめ、見直していく方法について話し合う。

○ 依頼したいことの中に合う材料を高める必要感をもつこと

☆ 「募金活動と呼びかける」という依頼を伝えるために、どんな材料がより有効かはっきりさせていきたいな。

### 本時のめあて

どうぶつ保護シェルター建設を進める募金活動へのよびかけが、全校のみんなにはっきり伝わる依頼文になるように、モデルや友だちの構想と比べて、材料を見直そう。

2 自分で立てた構想の材料、呼びかけの妥当性・整合性を見直す。

(1) モデル構想をもとに、呼びかけたいことの中点と選ぶ観点について学級全体で吟味し、ペアでそれぞれの構想について話し合う。

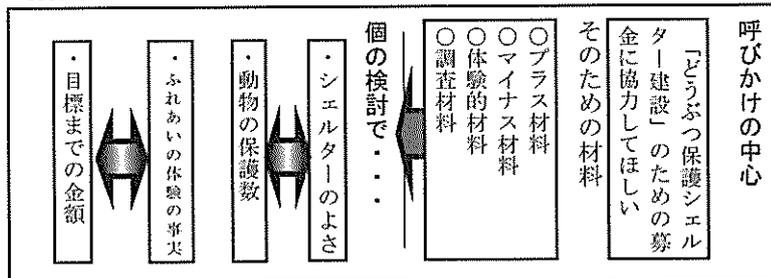
○ 中心を決める観点として、「プラス面の材料」「マイナス面の材料」「体験的な材料」調べて分かった材料をとらえ、自分の構想の不十分な点はないか確かめること

☆ 全校のみんなの心を動かす材料にするために、プラスとマイナスの2つの材料を組合わせて中心につないでいこう。

(2) 全体とペアで吟味した観点をもとに、個で中心と材料を見直し、材料を書いた付箋紙を構想に位置付ける。

○ 観点をもとに伝えたいことの中点をはっきりさせ、それに合う材料を考えたりその材料のよさをとらえたりすること

☆ どれだけの動物が命を失っているかは、きっと心を動かす材料になりそうだ。保護シェルターの効果を表す材料も必要だぞ。



3 呼びかけの中心の決め方、それに合う材料の選び方がうまくできたかペアや個で確かめ、GTからのアドバイスを聞く。

○ 中心や材料の決め方、再取材の内容を整理すること

☆ 呼びかけたいことははっきりしたけど、動物のよさを訴えるような体験的な材料を見つける必要ができたぞ。

### 準備

教師側：学習の流れ図、モデル構想、付箋紙、学習プリント

児童側：材料メモ、構想メモ

### <各活動の子どもの見取りと支援>

#### 【子どもの見取りの観点】

◎ 呼びかけの中心とそのための材料に課題をもって発言している。

#### 【支援】

※ 体験材料と調査材料、プラス材料とマイナス材料を位置付けたモデル構想を提示する。

※ モデル材料と呼びかけのつながり、モデル材料の意味について話し合い、自分の構想と比較させる。

#### 【子どもの見取りの観点】

◎ モデル構想をもとに、材料と呼びかけの中心とのつながりの整合性について、発言している。

◎ モデル材料をもとに、中心に合う材料を選んでいく必要性を感じ、発言している。

#### 【支援】

※ 学級全体でモデル材料をどう選ぶか、話し合う場を位置付ける。

※ 学級全体で吟味した構想の立て方をもとに、ペアでそれぞれの材料と呼びかけの中心とのつながりを確かめる場を設定する。

#### 【子どもの見取りの観点】

◎ 学級とペアでの吟味を受けて、自分の構想を見直し、材料と中心の整合性や材料の妥当性を見直している。

◎ 伝えたい中心をもとに、集めた材料をプラス面とマイナス面、体験と調べたことという観点から構想メモに位置付けている。

#### 【支援】

※ 2つの観点をもとに、個で材料を書き込んだ付箋紙を貼り付ける場を位置付ける。

#### 【子どもの見取りの観点】

◎ 中心としたわけや書き加えた理由や思いを友達に説明している。

#### 【支援】

※ どうぶつ会議所のGTから、動物と触れ合う体験ができるか、マイナス・プラス材料についてどんな再取材をすべきか、示唆をいただく。

実践意欲を高めるオリジナルレシピづくりを活用した「問い」の深化型の学習

## 第5学年1・3組 家庭科学習指導案

指導者 緒方 敦子

題材 まかせてね 旬の野菜でオリジナルサラダ

### 指導観

#### 本題材について

本題材は、よりよい食生活を送るために、オリジナルサラダづくりを通して、簡単な調理に必要な基礎的技能を身に付けるとともに、家庭生活の中に自分ができることがあるということを実感し、自分が家族の一員であるという所属感や有用感を味わわせることをねらいとしている。そのために日々の食生活を見直し、よりよい食生活を送るために、野菜本来の味を最も味わえ、栄養価の高い旬の野菜を使って調理を行う。また、オリジナルサラダをつくる上で必要な情報を、オリジナルレシピに加えていき実践に役立てられるようにする。

#### 本学級の子どもたちについて

本学級の子どもたちは、今までに生野菜のサラダづくりを通して、調理の手順に沿って、つくる楽しさや喜びを実感してきている。しかし、自分たちの食生活上で、バランスのよい食事への必要感や季節のものを取り入れた食事のよさに対する気付きは充分ではない。そこで、旬の野菜を使ったオリジナルサラダづくりを通して、自分や家族の食生活改善のために調理する楽しさや、家族の一員としての有用感を味わわせたい。

#### 本題材の指導について

本題材の指導にあたっては、子ども一人一人がオリジナルレシピを活用し、実践への意欲を高めることができるようにする。そこには、旬の野菜や栄養についての情報や、サラダづくりに必要な簡単な調理に関する知識や技能が盛り込まれていくようにする。また、旬の野菜が生では食べられない必要感から「ゆでる」調理法に出合わせ「ゆでる」ことのように気付くことができるようにする。更に試しの活動の結果を友達と交流し合い、家族のためのオリジナルサラダについて、追究できるようにしていく。

#### 目標

- 1 家族のためにオリジナルサラダをつくることを通して、調理の楽しさや家族の一員としての有用感を味わうことができる。
- 2 調理に必要な材料の分量や手順や調理用具の使い方を理解し、「ゆでる」調理法を使って調理することができる。

#### 計画（約9時間+課外）

時	主な学習活動	時
つ	1 一週間分の家族の食事調べを行い、食生活についての課題をもつ。	2
か	○ 食事調べからバランスのとれた食事の必要性に気付くこと	
む	※ 食事バランスガイドを使って、バランスのとれた食事の必要性に気付かせる。	
	2 試しの活動の結果をオリジナルレシピに記入し、家庭実践の計画を立てる。	6
	(1) サラダをつくるための自分の課題について把握し、計画を立てる。	②
追	○ 家族のためのオリジナルサラダづくりについての見通しをもつこと	
究	※ 味や栄養の視点から、旬の野菜に注目させる。	
す	(2) 計画をもとに、試しの活動を行う。	②
る	○ 試しの活動を通して、野菜に応じたゆで方についてわかること	本時
	※ 試しの活動で得られたことをオリジナルレシピに書き込ませる。	2/2
	(3) 家庭実践の計画を立てる。	②
	○ サラダづくりを実際に行い、家庭実践への見通しをもつこと	
	※ 情報をもとに計画を立てさせる。	
い	3 家庭実践を行い、実践交流会を行う。	1
か	○ 家族のために工夫すること	+ 課外
す	※ 家庭実践をオリジナルレシピに記録させ、意欲の継続を図る。	

## 本時の学習活動の展開

### 本時授業の目標

- 自分の課題に応じて野菜をゆで、家庭実践に向けて意欲を高めることができる。
- 家族のために作る「オリジナルサラダ」に使いたい野菜をゆでることを通して、サラダづくりについて追究することができる。

1 家族のために作る、「オリジナルサラダ」に使いたい野菜をゆでることについて話し合う。

○ 「ゆでる」調理を通して試したい自分の課題を把握すること

- ☆ ゆでることで固い野菜が柔らかくなったよね。
- ☆ 野菜のゆで時間はどうすればいいのかな。
- ☆ ゆで方はどうすればいいのだろう。
- ☆ ゆでるときに気をつけることはあるのかな。

### 本時のめあて

旬の野菜をおいしく食べるために、オリジナルサラダに使う野菜をゆでて、じょうずなゆで方を見つけよう。

2 それぞれの活動とその結果を交流し合い「ゆでる」ことについて話し合う。

(1) 自分の課題に応じて、野菜をゆでる試しの活動を行う。

○ 「ゆでる」ことの基礎的な知識や技能がわかること

- ☆ ぼくは、ゆでる時間について調べてみて、どのくらいゆでればいいのか分かったよ。
- ☆ アスパラガスは、沸騰してから入れて、ゆでるのだね。
- ☆ 水からゆでるとうまかったよ。
- ☆ 野菜によってゆでるときに、塩を入れてもいいみたいだね。

(2) それぞれの課題に対する試しの活動の結果を交流し合い、「ゆでる」ことについて話し合う。

○ ゆで方、ゆでるときの注意点、ゆでるよさについてわかること

- ☆ ゆで時間がわかったから、家庭でもできそうだな。
- ☆ 水からゆでる野菜と、沸騰してからゆでる野菜があるのだね。
- ☆ 他に使いたい野菜については、友達の情報役立ちそうだ。レシピに付け加えよう。
- ☆ 家庭によってゆでるときに塩を入れるところもあるそうだよ。
- ☆ ゆでることで色や風味が変わってくるね。
- ☆ 友達のやり方を実践で取り入れてみよう。

3 家庭実践でつくってみたいオリジナルサラダへの新たな課題についてまとめる。

○ 自分のつくりたいオリジナルサラダへの新たな問いをつかむこと

- ☆ 家族全員分の分量はどのくらいかな。
- ☆ 盛りつけの仕方、食欲に違いは出てくるのかな。
- ☆ 味付けは何がいいかな、家族の好みを調べてみよう。
- ☆ 野菜の彩りや器についてもいろいろ試してみたいな。

### 準備

教師側：包丁、まな板、ふきん、取り皿  
児童側：オリジナルレシピ、筆記用具  
エプロン、帽子、試しの活動で使用する野菜

### <各活動の子どもの見取りと支援>

#### 【子どもの見取りの観点】

◎ オリジナルレシピを見て、自分の課題について発表している。

#### 【支援】

※ 自分の課題をレシピで確認させる。

#### 【子どもの見取りの観点】

◎ 自分のゆでることを通して試したいことの手順を確かめている。

#### 【支援】

※ 課題に応じた手順を黒板に提示し、見通しがもてるようにする。

#### 【子どもの見取りの観点】

◎ 自分の試したい内容や目的を理解し、手順に沿って試しの活動を行っている。

#### 【支援】

※ 課題に応じた場を設定する。

#### 【子どもの見取りの観点】

◎ 同じ課題の友達と協力して活動している。

#### 【支援】

※ 課題に応じてグループ化し、試しの活動ができるようにする。

#### 【子どもの見取りの観点】

◎ 友達との結果の交流を通して、自分に必要な情報をオリジナルレシピに付け加えている。

#### 【支援】

※ 参考となる情報がすぐに書き留められるように、付箋紙を各班ごとに用意しておく。

#### 【子どもの見取りの観点】

◎ オリジナルレシピを見ながら、オリジナルサラダについて、新たに追究したいことを発表している。

#### 【支援】

※ それぞれのオリジナルサラダについて追究したいことを交流できるような場を設定する。

対象の形や色について対話しながら造形活動を行う問いの深化型の学習

## 第5学年2組 図画工作科学学習指導案

指導者 北田尚雄

題材 開店!和菓子屋本舗—和の心でおもてなし—

### 指導観

#### 本題材について

本題材は、和菓子職人として、提供する和菓子やパッケージ、敷物を、色や形、材料の特徴を生かしながらつくることを通して、創造的なデザインの能力を育てることをねらいとしている。和の心は「めでる」という言葉のように、視覚的な美をつくり楽しむことが大切である。具体的内容としては①自分の好きな和菓子の味や色、形から提供するテーマを発想し、材料や方法を選択しながら楽しく表現すること②和菓子の味や表現テーマから材料や方法を発想し、表したいことに合わせて色や形を構成していくこと③和菓子の提供者や和菓子屋の方と対話しながら表現を練り上げていくことである。

#### 本学級の子どもたちについて

本学級の子どもたちは、これまでに色の組み合わせによる感じの違いや、にじみやぼかしによる美しい色の組み合わせ方、あるいは形の組み合わせによるおもしろさについて習得している。また、生活科や社会科において、地域の商店街のお店である和菓子店や古くから伝わる和菓子についての追究もしてきている。そこで、知識や技能を生かして、実社会の場面で他者に伝えるために、創造的に表現していくことで活用力を育むことになる。

#### 本題材の指導について

本題材の指導にあたっては、題材全体を通して、視覚的コミュニケーションの活動を取り入れていく。構想段階では、和菓子の色や形についての特徴を同和菓子でのグループ内で話し合い、表したいテーマから、表現活動への問いを創出させる。表現段階では、材料や対象の色や形の関係について、その作品や対象と話し合ったり、グループ内で評価し合ったりし、装飾表現へと問いを深化させる。最後に和菓子提供の際の場や空間の装飾やライティングについての問いへと深化させる。

#### 目標

- 1 和菓子やその周りのディスプレイの美しさに気付き、表現テーマをもとに、和菓子が引き立つような造形活動を楽しむことができる。
- 2 和菓子や装飾材料の特徴を生かして、色や形の組み合わせによる美しさを工夫して、新たな表現をつくることができる。

#### 計画 (約8時間)

階	主な学習活動	時間
構想段階	1 自分が好きな和菓子を選び、色や形、味や和菓子の意図から、人に提供する際和菓子のテーマについて話し合う。 ○ 色や形、和菓子のコンセプトから発想すること ※ 地域の和菓子店で、実際に試食したり和菓子職人と対話したりする活動の設定	1
	2 和菓子やそのパッケージやディスプレイのデザインをつくる。 (1) 表現テーマに合わせて、提供する和菓子をつくる。 ○ パルプ粘土の特徴を生かして、色や形で構成すること ※ 実物の和菓子を実際に見ながら表現 (2) トレーやパッケージなど装飾の材料を選び、和菓子の周りを装飾する。 ○ 装飾材の特徴から、色や形の組み合わせによる感じの違いを生かして飾り付けすること ※ グループ内で実際に提供する場を設定し、表現テーマと作品について話し合わせる。	6 ③
表現追究段階		③ 本時 1 / 3
鑑賞段階	3 5の2茶会を開催し、それぞれディスプレイされた和菓子を鑑賞する。 ○ 自他の作品の美しさや表現の意図や工夫について気づくこと ※ 茶会を開く場の設定と、和菓子ディスプレイをめぐる活動の設定	1

## 本時の学習活動の展開

### 本時授業の目標

- 和菓子をトレーに置いたときの感じから、テーマとこれまでの表現を関連させて見直し、新たな装飾を行うことができる。
- 自分や友達作品や表現のよさに気づき、そのよさを生かして新たな表現を思いつくことができる。

1 自分たちの作品を鑑賞の場におき、表現テーマとこれまでの作品を比べながら、今後の表現の方向性について話し合う。

○ 和菓子とトレーの組み合わせから、表現テーマに合わせた装飾表現の問いをもつこと

☆ 私は、夏の涼しげな和菓子というテーマなので、みずみずしさがある飾り付けはどんな材料や色を組み合わせればいいのか。

### 本時のめあて

自分の表現テーマに合わせて、材料や色、形の組み合わせを工夫しながら、和菓子ディスプレイの飾り付けしよう。

2 和菓子とトレーの組み合わせから、思いついた表現方法で、もっと自分の表現テーマが表されるように作品の飾り付けをしていく。

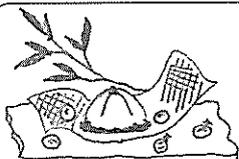
(1) 和菓子とトレーを組み合わせたときの感じから、これからの表現方法について話し合う。

○ 対象と作品や表現の組み合わせた感じから、新たな表現方法を発想し、これからの表現の見通しをもつこと

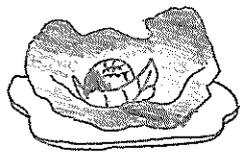
☆ 和菓子を創作トレーにおいてみたけれども、まだ、和菓子を引き立てるまでになっていない。表現テーマに合うように、涼しい感じがでるようなディスプレイの飾り付けをしよう。

(2) 新たに思いついた表現方法に合わせて、材料や方法を選択し、もっと表現テーマが表されるように、和菓子のパッケージやディスプレイの飾り付けをする。

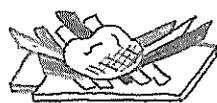
○ 表現テーマに合わせて、材料の特徴や色の組み合わせによる効果を感じの違いを生かして、装飾表現をすること



ビー玉やおはじきでみずみずしさを！



和紙に、水彩絵の具で色をにじませて！



色画用紙を構成してパッケージを！

3 これまでできた作品から、自分の表現テーマについて、どのような材料選択や表現の工夫をしたかを話し合う。

○ 本時の表現活動を振り返り、選択した材料や方法のよさについて明らかにし、次時への表現の見通しをもつこと

☆ ビー玉やおはじきなどを水色に彩った和紙にのせると、涼しげになったので、今度はそこに自然材を組み合わせたい。

### 準備

教師側：和菓子のディスプレイ鑑賞の場  
自然材や和紙などの装飾材

児童側：和菓子ディスプレイレシビ  
スモック、造形バック

### <各活動の子どもの見取りと支援>

#### 【子どもの見取りの観点】

◎ 自分の作品を、鑑賞の場に展示し、これまでの表現で気に入っているところや、まだ不十分なところを、これからやっていきたい表現について、友達と話し合っている。

#### 【支援】

※ 和菓子をめぐる雰囲気や鑑賞の場を設定する。  
※ 同じようなテーマで表現している子どもたちで同質グループをつくらせて話し合わせる。

#### 【子どもの見取りの観点】

◎ 鑑賞の場における試しの活動や話し合いをもとに、材料選択やその材料の特徴を生かした、新たな表現を思いつき、自分の表現の見通しをもっている。

#### 【支援】

※ 鑑賞の場を準備し和菓子をめぐる雰囲気をつくるとともに、参考作品をもとに、表現テーマに合わせて、どのような装飾表現ができるか話し合わせる。

#### 【子どもの見取りの観点】

◎ 鑑賞の場においたときの作品の感じを確かめながら、選んだ材料や色の特徴や、これまで身につけた色の組み合わせ方や、水彩絵の具などの技法を生かしながら、自分の表現テーマに合うように、飾り付けをしている。

#### 【支援】

※ 表現テーマに合うような、塊材や線材などの自然材や人工材、和紙や色画用紙などの面材を提供する。

#### 【子どもの見取りの観点】

◎ 本時の活動からできた作品を見て、自分の表現からどのように作品が変わっていったか、そのよかったところや、頑張ったところを発表したり、聞いたりしている。

#### 【支援】

※ 実際に鑑賞の場に展示し、どのような表現を表現をしたかを、全体で交流できるようにする。

# 委員会活動と関連させながら学校生活を充実・向上させていく「問い」の複合型の活動 第6学年1組 学級活動指導案

指導者 黒澤真二

## 題材 委員会活動活性化プロジェクト

### 指導観

#### 本題材について

本題材は、委員会活動の内容を創造的な活動にすることを通して、全校児童とかかわり、よりよい学校生活づくりに自主的に参画することをねらいとしている。具体的には、①委員会活動活性化プロジェクトを計画・実践していくことで企画力を高めること②プロジェクトの内容や方法を話し合うことで、友達の考えのよさに触れ、新たな考えを学級で合意形成しながら集団決定できること③委員会活動を通して、リーダー性を発揮し、下学年のことを考え、学校生活への参画力を高めることである。このことは、友達同士で話し合い、実践していくため、人間関係形成力を高めるうえでも価値がある。

#### 本学級の子どもたちについて

本学級の子どもたちは、最高学年としての自覚をもって意欲的に委員会活動を実践している。

しかし、活動内容を見ると、当番的な活動が多く自分たちで学校生活をより楽しく、充実させていく創造的な活動を実践するまでには至っていない。

そこで、各委員会でもリーダーとして活躍している今、委員会活動で学校生活をより楽しくできるような企画を考え、代表委員会や各委員会同士で連携し合い、実践していくことができるようにする。

#### 本題材の指導について

委員会活動で学校生活を充実させていったG Tと交流し、委員会活動をもっと活性化させたいというゴール像をもつことができる。まず、自分たちの委員会活動のよい点や不十分な点を話し合う。次に、このプロジェクトを成功させるために、各委員会で何を取り組むか、どのように提案するかなどの「問い」が拡充する。そして、早急に解決すべきことを学級会で決めることで「問い」が深化していく。さらに、中間報告後に各委員会同士の連携をどう取るかといった新たな「問い」が発生し解決していく。

#### 目標

- 1 委員会活動を創造的な活動にしていくために、「全校児童にとって楽しくかつ役に立つ内容か」という観点で話し合い、自主的な活動ができる。
- 2 学級全体での話し合いや違う立場や同じ立場の友達との少人数交流のやり方を理解するとともに、役割を分担しながら協力して実践活動ができる。

#### 計画（約5時間）

階	主な学習活動	時間
つ	1 委員会活動活性化プロジェクトの目的や組織について話し合う。 ○ 創造的な活動として委員会活動の活性化やそのための原案を考えること ※ 委員会活動を活性化させているG Tの方との交流や、自分たちの常時活動の成果や課題から実行計画を立案させる。	2
	2 委員会活動活性化プロジェクト案について話し合い、実践の準備を行う。 (1) 委員会活動活性化プロジェクトの各委員会の内容と方法を話し合う。 ○ 原案から全校を楽しませ、委員会で実践できそうなことを付加・修正すること ※ 自分とは違う委員会の友達と少人数で意見交流を行わせ、ホワイトボードに自分の考えを絵図や言葉で表し、説明できるようにする。 (2) 「各委員会同士や学年の連携をどう図るか」という新たな問題点を話し合う。 ○ 中間報告後の問題点を出し合うこと ※ チェックリストを用意しておく。	2 ① 本時
決める	3 委員会活動活性化プロジェクトの実践を振り返り、成果と課題を話し合う。 ○ 委員会活動を通して学校生活が充実・向上していった成果を出し合うこと ※ 全校児童が喜んでいるプロジェクトの感想を紹介し、これからも学校生活を向上させていこうとする意欲をもたせる。	1 ①

## 本時の学習活動の展開

### 本時授業の目標

- 「全校児童が楽しくかつ役に立つ内容か」という観点から話し合い、新たな委員会活動活性化プロジェクト案を決めることができる。
- 全体交流、違う委員会の友達との少人数交流、同じ委員会の友達との集約、全体交流という本時の話し合いの進め方がわかる。

### 1 教師の話を聞き、学級会のめあてについて話し合う。

- 原案説明会後に各委員会でどんな取り組みを行うのか情報収集し、全体で友達の考えのよさを共有したことをとらえること
- ☆ 委員会活動活性化プロジェクトの内容や方法を決めるぞ。

### 本時のめあて

- 委員会活動で学校生活がより楽しくできる取り組みを決めよう。
- ・全校児童にとって楽しくかつ役に立つ内容か

### 2 違う委員会の友達と少人数交流し、付加・修正した自分の考えを同じ委員会内で出し合い、新たな案を創り、全体場で話し合う。

- (1) 違う委員会の友達と同じ委員会の友達と少人数交流を行う。
- 自分の考えていた委員会活動での取り組みが友達の考えにより変化し、新たな案として付加・修正していったことをとらえること

- ☆ 各委員会で創意工夫した取り組みになっているので他の委員会のアイデアも参考になるね。

### 各委員会の活動内容例（運営…プロジェクトリーダー）

運営…各委員会の提案を代表委員会で集約し、実践していく	
給食…縦割り交流給食	⇔ 図書…紙芝居の読み聞かせ
環境…ガーデニング体験	⇔ 飼育…うさぎと触れ合い体験
体育…相撲綱引き大会の紹介	⇔ 保健…夏の健康アイデア
放送…各学級紹介の放送	⇔ 広報…全校への広報記事募集
集会…学級集会の紹介	⇔ 学芸…楽器演奏体験

### (2) 同じ委員会の友達とまとめた案を全体場で再説明を行い、プロジェクト案とするために話し合う。

- 最初の原案との付加・修正点を述べ、改善点を明らかにしておくこと

- ☆ 友達の考えを聞いて、自分の考えとの共通点や納得いかない点もあったぞ。自分の考えを伝えてよりよいものを創っていこう。

### 放送委員会と広報委員会の少人数交流から全体での話し合いの活動例

学級で流行っている遊びの紹介  
 広報委員会から のアドバイス  
 すごい人の取材も学級紹介で放送

の  
記事  
を  
放  
送  
の  
原  
稿  
に  
使  
っ  
た  
ら  
ど  
う  
か  
な。



### 3 教師の話を聞き、本時の話し合いを書きまとめる。

- 委員会活動活性化プロジェクトの中間報告に向けて、各委員会で役割を分担し、準備物をとらえること

- ☆ 新たな取り組みも決まったので、自分たちで中間報告までに準備を行い、委員会活動を活性化させていきたいな。

### ○ 準備

- 教師側：学習の流れ図、ホワイトボード、ワーキングボード、ビデオ、付箋紙
- 児童側：話し合いノート、情報収集ノート

### ＜各活動の子どもの見取りと支援＞

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 学校生活を楽しくする委員会活動という明確なゴール像をもち、情報収集している。

#### 【支援】

- ※ 学校行事において、各委員会の6年生が活躍している様子を学習の流れ図のなかに入れる。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 2つの違う委員会の友達と少人数交流を行い、納得した意見を取り入れ、自分の考えを変化させている。

#### 【支援】

- ※ 2つの委員会同士を2つのグループに分け、内容や方法の取り組みが似ている委員会同士で意見交流できるようにする。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 違う委員会の友達との少人数交流で変わった自分の考えを同じ委員会内で出し、友達の考えとの共通点から新たな原案を創っている。

#### 【支援】

- ※ 少人数交流では、自分の考えを絵図や言葉で示しながら説明できるホワイトボードを一人一枚用意する。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 各委員会の再説明を、学級としてのプロジェクト案にまとめている。

#### 【支援】

- ※ 原案との違いがわかるようにワーキングボードを用意し、付加・修正した点を明らかにする。

#### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 自他の考えのよさを認め合い、よりよい案にできたことを喜んでいる。

#### 【支援】

- ※ 委員会での6年生の活動に感謝している他の学年のメッセージビデオを紹介し、意欲付けを図る。

空間の大きさを組み合わせの思考でつくり出す「問い」の深化型の学習

## 第6学年2組 算数科学習指導案

指導者 田中健悟

### 単元 体積から見える世界

#### 指導観

##### 本単元について

本単元は、体積の意味について理解し、立方体や直方体等の簡単な場合の体積を求めることができるようにすることをねらいとしている。具体的には、①体積の単位と測定の意味を理解すること、②立方体や直方体の体積の求め方を考え用いることができるようにすること、③体積という新たな単位を用いて身の回りのものを分析することができるようになること、などである。ここで、実生活への活用の視点から、容積が大きくなる箱づくりの活動を教材化し、体積だけでなく既習の公約数や面積、展開図などの知識・技能が複合的に用いられるようにする。

##### 本学級の子どもたちについて

本学級の子どもたちは、体積に関する学習としてこれまでに第4学年で正方形や長方形の面積、第5学年で三角形や四角形及び円の面積等を学習してきた。その中で、平面図形を分割したり、移動したり、補完したりする見方も同時に活用し問題解決を図ってきた経験がある。そこで、本単元では、そのような平面図形の見方を立体図形の場合においても適用し、筋道立てて考える力を伸ばしていく。

##### 本単元の指導について

本単元の指導にあたっては、身の回りの事象を取り扱い、現実の世界の事象と結びつけて体積の内容を捉えることができるようにしたい。そのために、まず「見いだす」段階と「試みる」段階では、箱づくりを取り扱い、体積の意味や求め方に加え、体積と周りの長さや面積との関係を追究し、問いを深化させる。さらに、1枚の紙で箱をつくる活動の中で既習の面積や展開図の知識・技能を体積の求め方と組み合わせて発揮させる。最後に「広げる」段階では、身の回りのさまざまな形を取り扱うことで、長方形の複合立体や大きな体積の求め方を追究し、実生活の中の量を数値化して量感を育てていく。

##### 目標

- 1 身の回りにある立体の大きさを体積の単位を使って数値化して表し、分析することに意欲的に取り組みることができる。
- 2 体積の意味をとらえたり、立方体や直方体の体積の求め方を面積の求め方と結びつけて考えたり事象を体積に換算して考察したりできる。

##### 計画 (約9時間)

階級	主な学習活動	時間	
見 い だ す	1 紙で箱をつくる課題を話し合い、形の異なる場合の大きさについて調べる。 ○ 単位体積を用いて数値化する体積の意味をとらえること ※ 複数のモデルの箱に積み木を詰め込み個数で比べる活動を設定する。	2	
	試 み る	2 体積に関係していそうな要素（長さや面積）と体積の大きさの関係を調べる。 (1) 箱の中に詰め込まれる単位体積の総数のよりよい求め方について調べる。 ○ 長さを利用して公式化すること ※ 複数の箱のモデルを利用させ、公式化したことが検証できる教具を準備する。	5
		3 身の回りの箱を基準とした形の体積について調べる。 ○ 体積についての量感を養うこと ※ 実測できる場面を多く設定する。	2
広 げ る	(2) 周りの長さや周りの面積（表面積）が体積の大きさに関係があるかを調べる。 ○ 体積の誤概念を取り除くこと ※ 体積が同じで形が異なる直方体のモデルを準備し、実測して確かめさせる。 (3) 一枚の工作用紙（面積）を使って、できるだけ大きい立体の空間を設計する。 ○ 体積と面積に関する知識・技能と図形の見方を組み合わせて活用すること ※ 展開図から、底面の面積を基準に側面が紙面に配置できるかを考えさせる。	① ② 本 時 2 / 2	

## 本時の学習活動の展開

### 本時授業の目標

- 使える材料が一定で、できるだけ大きな空間の体積を設計する場面を調べることに意欲的に取り組むことができる。
- できるだけ大きな空間の体積をつくり出すために、体積と面積の知識・技能と図形の見方を組み合わせて活用することができる。

1 一枚の画用紙を使って箱をつくる場面で、できるだけ大きい空間の体積をつくり出す方法について話し合う。

(1) 一枚の画用紙でできるだけ大きな体積をつくる方法を話し合う。

○ 立体図形の面の数と体積との関係に見通しをもつこと

☆ できるだけ大きな体積をもつ箱をつくるには、6面を切り取らないといけなない。

(2) 箱の完成状態の体積について話し合う。

○ 立体図形の面の枚数と体積とを比較すること

☆ 立方体に近い方が大きな体積になりそうだな。

### 本時のめあて

1枚の画用紙で箱の体積が一番大きくなる場合を、たて・横・高さの数字をできるだけを紙面の長さに近づけて見つけ出そう。

2 立方体に近い箱の形の見取図や展開図をかきながら、材料の画用紙1枚の使い方やできあがりの体積について調べる。

(1) いろいろな直方体や立方体をかいて、それに必要な面と面積とについて求め比較しながら調べる。

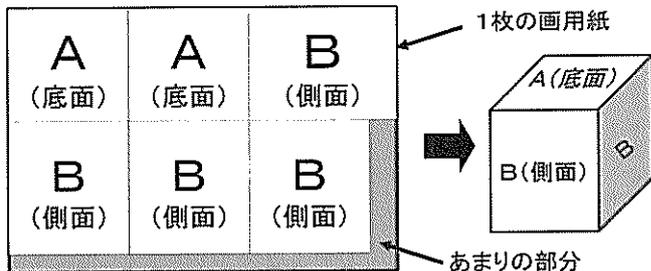
○ 体積が一番大きくなる空間を筋道立てて見つけ出すこと

☆ 直方体も立方体も面が6枚必要だから、一枚の画用紙から上手に6枚の面積を見つけたらよさそうだな。

(2) 1枚の画用紙から面を取り出してつくった空間の体積について話し合う。

○ できたいろいろな空間について比較すること

☆ 画用紙のいろいろな面の取り出し方があるな。僕が考えたものよりも大きな空間の体積が出てきたぞ。



最大公約数   展開図   面の面積   体積の求積

3 面積が異なる画用紙を用いた場合の結果について話し合う。

○ 展開図で、底面にあたる面を中心に長さを決定すること

☆ 材料の大きさ（面積）が変わっても、展開図を考えて、公約数を考えながら一辺の長さを見つけて出せば、うまくいくんだな。

### 準備

教師側：学習ノート、直方体や立方体の立体模型、工作用紙、テープ

児童側：ものさし、はさみ

### <各活動の子どもの見取りと支援>

#### 【子どもの見取りの観点】

◎ 箱を設計するための体積への見通しをノートに書き込んでいる。

#### 【支援】

※ 図形を載せた学習ノートを配付したり、立体模型を観察させたりすることで、見通しを具体化させる。

#### 【子どもの見取りの観点】

◎ 設計した立体図形の縦・横・高さの長さと展開図との関係があることを発言している。

#### 【支援】

※ 既習の展開図の学習と立体の体積とが関わっていることを気付かせるために、いろいろな展開図を掲示しておく。

#### 【子どもの見取りの観点】

◎ 底面積にあたる部分から体積を考える方法を用いて、立体の体積を何通りか考えている。

#### 【支援】

※ つくり出したいいくつかの平面図とそれに対応した立体図形とを対応させることができるように、見取図をかかせる。

#### 【子どもの見取りの観点】

◎ 出された立体の体積について式を見比べながら、底面にあたる部分の長方形や正方形から、必要な長さが取り出されることに気付いている。

#### 【支援】

※ 立体図形の側面や底面にあたる部分を設計図に表すことができるように、出てくる数字の種類の共通性について発問する。

#### 【子どもの見取りの観点】

◎ 底面積×高さという見方を用いて別の画用紙の大きさの体積を求積しようとしている。

#### 【支援】

※ 底面積×高さの計算で求めた方が材料の画用紙とのつながりがわかりやすいので、展開図で同じ形になる面をまず先に考えさせる。

# 七夕フェスティバルに向けて、異学年の友達とかかわりながら、課題を解決する学習 ふじ・さくら・梅組 合同生活単元学習指導案

指導者 下川 勝彦 諏訪原 佳子  
弘松 英樹 倉 富 護

単元 みんなでつくろう 七夕フェスティバル

## 指導観

### 本学級の子どもたちについて

ふじ・さくら・梅組の子どもたちは、上級生が下級生に短い言葉や態度で行動を促したり誘ったりするとともに、下級生は、働きかけに応じて返事をするができるような、異学年でのかかわりを経験してきている。しかし、行動につながるまでにはいたっていない。AGはペアの友達からの要請に応じて協力して制作する。BGは、制作活動において、協力してほしいことをペアの友達に要請する。

### 本単元について

本単元は、七夕祭で使われている笹飾りに対する感動から、自分たちもすてきな笹飾りを作って、七夕フェスティバルをしたいという目的のもと、異学年の友だちとかかわりながら、課題を解決していくことをねらいとする。具体的には、①七夕フェスティバルを行うために必要な事柄について見通しをもつこと②七夕フェスティバルに必要なものを準備して、七夕フェスティバル運営に関する事柄を身に付けること③互いに意志を伝えたり応じたりすることが主な内容である。七夕フェスティバルをつくりあげるとは他者とかかわりが必然的に発生するよさがある。

### 本単元の指導について

本単元の指導にあたっては、つかむ段階では、七夕祭で使われている大きな笹飾りを梅組がまず制作し、同じような飾りをみんなで作って、七夕フェスティバルをしたいという期待をもたせる。つくる段階では、七夕フェスティバルに向けて、笹飾り、招待状、出し物といったフェスティバルを実行していくために必要なものを準備していく。いかす段階では、制作した笹飾りに願いを書いた短冊をつけ、七夕の話の聞いたり、自分の願いをみんなに伝えたりする七夕フェスティバルを開き、達成感を味わう。

### 目 標

- 七夕フェスティバルを達成するために他者とかかわりながら課題を解決し、目的が達成できた満足感を味わうことができる。
- 七夕フェスティバルに必要な笹飾りを作るとともに、お世話になった方を招待し、開催に必要な知識や技能を身に付けることができる。

### 計 画 (約12時間)

時 間	主 な 学 習 活 動	時 間
つ	1 笹飾りを作った梅組の提案で、七夕フェスティバルの計画について話し合う。	3
か	○ 七夕フェスティバルをつくる目的と内容のイメージと意欲をもつこと	
む	※ 上川端商店街に飾られている七夕飾りの具体物や七夕祭の写真の提示をする。	
つ	2 ふじ・さくら・梅組七夕フェスティバルに必要なものを準備する。	7
く	(1) 七夕フェスティバルで使う、笹飾りを作る。	④
る	○ 必要な飾りを作り、笹飾りを組み立てることで他者とかかわりをふかめること	本
	※ 3つのグループに分かれて制作、運営環境面からヒントカードを提示する。	時
	(2) 保護者、GT、他のクラスの友達を招待するための招待状を作る。	3
	○ かかわりを深めながら、開催に必要な知識や技能を身に付けること	／
	※ 招待状や場作りの図のヒントを提示	4
	(3) グループごとに出し物の準備をする。	①
	○ かかわりを深めながら、出し物に必要な知識や技能を身につけること	
	※ 出し物の役割や進め方について助言	
い	3 ふじ・さくら・梅組合同七夕フェスティバルを開く。	2
か	○ 目的を達成した達成感を味わうこと	
す	※ 場作りや会の進め方について助言	

# 本時の学習活動の展開

## 本時授業の目標

- セタフェスティバルに必要な笹飾りを作ったり、組み立てたりするという課題のもと、異学年の友達や先生に尋ねたり、ペアの友達と力を合わせたりして、課題を達成する喜びを味わうことができる。  
AG：ペアの友達からの要請に応じて協力して制作することができる。  
BG：協力してほしいことをペアの友達に要請することができる。
- 笹飾りを作ったり、組み立てたりするために教えたり、頼まれたりする役割を果たすことができる。

1 モデル作品と自分たちで作った作品を比較したり、GTの原さんの話を聞いたりしてめあてについて話し合う。

- セタフェスティバルで飾る笹飾りを作るという課題を理解し、願いに応じた笹飾り作りをするという意欲をもつこと

- ☆ みんなの願いが叶うような大きな笹飾りが作りたいな。
- ☆ みんなで一緒に作って、フェスティバルがしたいな。

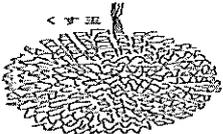
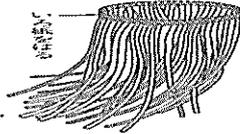
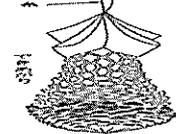
### めあて

たなばたフェスティバルで かざる ささかざりをもっときれいにするために ちからを あわせて つくろう。

2 3つのグループにわかれて、セタフェスティバルの笹飾りを作る。

(1) 作るもののグループごとに分かれ制作する。

- 笹飾りに飾るもの作りを通して友だちとのかかわりを深めること

【くす玉】	【ふきながし・おりずる】	【つなぎのかざり】
笹飾りの上の部分	笹飾りの下の部分	笹飾りの中の部分
		
A ○ 要請に応じた花紙をおさえること	A ○ 要請に応じて和紙や色紙をつなぐこと	A ○ 要請に応じて色紙の切り方を教えること
B ○ 花紙おさえを頼むこと	B ○ 色紙のつなぎ方を頼むこと	B ○ 色紙の切り方を頼むこと

(2) グループで作った飾りを組み合わせて笹飾りを作る。

- 飾りを組み合わせることによって友達とのかかわりがきること

- ☆ みんなが協力したから大きな飾りが仕上がった。

3 組み合わせてできた笹飾りについて話し合う。

- セタフェスティバルに向けての自信をもつこと

- ☆ みんなで力を合わせて、笹飾りができてよかった。
- ☆ 笹飾りができあがってきたので、セタフェスティバルが楽しみだな。

## 準備

- 教師側：学習の流れ図、計画表、写真、モデルの笹飾り、材料、セタの音楽、ヒントパネル

## <各活動の子どもの見取りと支援>

### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 梅組からの依頼やモデル作品との比較、GTの方の話や学習の流れ図からのふり返りをもとに、本時学習への意欲と見通しをもっている発言をしている。
- ◎ モデル作品を指さしながら、作りたい部分について、発言している。

### 【支援】

- ※ GTの方の作品の提示と評価
- ※ セタフェスティバルの成功への見通しがもてるようにするために、モデル作品を提示
- ※ モデルの作品を提示

### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ AG：ペアの友達からの要請に応じて協力して制作することができる。
- BG：協力してほしいことをペアの友達に要請することができる。

### 【支援】

- ※ 他者とのかかわりの視点からペアやグループづくり（役割づくり）。
- ※ 作る手順や困った状況を絵や写真と言葉で表したヒントパネルの準備
- ※ GTからの作り方に対する助言
- ※ くす玉やふきながしなどの具体物の準備

### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ グループごとに作った飾りをグループをこえてかかわりながら組み合わせて、大きな笹飾りを作っている。

### 【支援】

- ※ 組み合わせ方の手順やポイントを提示
- ※ 組み合わせるときの役割の確認
- ※ グループごとで、目的意識、かかわり、作品の視点からの評価

### 【子どもの見取りの観点】

- ◎ 満足感をもって本番のセタフェスティバルへの意欲を高めている。

### 【支援】

- ※ 感想を発表させかかわりのよさの価値付けと、次時への方向付け
- ※ 作品のよさについて、GTからの評価

学習指導協議会

全体講演

演題

「学ぶ意欲と

活用する力を育む」

—全国学力調査から考えるこれからの授業づくり—

講師

国立教育政策研究所

次長

惣脇 宏 先生

# 研究紀要の部

# ■ 研究紀要目次

## ◎ 研究主題構想 ..... 94

### ・豊かな学びを育む学習の創造

—子どもの「問い」を深化・拡充させる授業づくり—

国語科学習の構想 .....	112
・思考と表現を練り上げる国語科学習	
社会科学習の構想 .....	116
・社会の一員としての価値判断をする社会科学習	
算数科学習の構想 .....	120
・筋道立てて数理を活用する算数科学習	
理科学習の構想 .....	124
・科学的な思考力を発揮する理科学習	
音楽科学習の構想 .....	128
・自ら音楽表現を高める音楽科学習	
図画工作科学習の構想 .....	132
・自他のかかわりから価値ある表現を創り出す図画工作科学習	
家庭科学習の構想 .....	134
・家族の一員として楽しい家庭生活を創り出す家庭科学習	
体育科学習の構想 .....	138
・価値ある動きを生み出す体育科学習	
生活科学習の構想 .....	142
・自ら地域への気付きを深める生活科学習	
特別活動の構想 .....	146
・合意形成しながら生活づくりに参画する学級活動	
道徳学習の構想 .....	150
・他者とのかかわりをひろげる道徳学習	
総合的な学習の時間の構想 .....	152
・実社会や実生活とのかかわりを創る総合的な学習の時間	
外国語活動の構想 .....	160
・進んでコミュニケーションを図る英語活動	

## ◎ 特別支援教育部主題構想 ..... 164

### ・共生社会を豊かに生きる子どもを育てる学習の創造

—「かかわり」と「自己決定」を重視した授業づくり—

国語科学習の構想 .....	166
・状況に応じてことばを活用する国語科学習	
算数科学習の構想 .....	170
・数量的対象に多様に働きかける算数科学習	
生活単元学習の構想 .....	174
・他者とともに生活を創る生活単元学習	

## ◎ 帰国子女教育部主題構想 ..... 178

### ・自信と誇りを育む帰国子女教育

—言語と活動を重視するコース別学習を取り入れた授業づくり—

算数科学習の構想 .....	180
・数量・図形の知識・技能を確かにする帰国子女算数科学習	

## 豊かな学びを育む学習の創造

—子どもの「問い」を深化・拡充させる授業づくり—

### ■ 豊かな学びを育む学習の創造について

#### ○ 豊かな学びを育むとは

「豊かな学びを育む」とは、子どもが学習の意義をとらえ、学ぶ意欲を高めながら、知識や技能を身に付けるとともに、現実社会や自分の生活の場面において、それら複数の知識や技能を選択したり、組み合わせたりしながら問題解決していくことを通して、実社会・実生活に生きる力を高めていくことである。

子どもの学習意欲が低下しているのは、『学習への必要感』の低下が考えられる。それは、学習材と子どもの内面との『内的関係性』の薄さがある。学習内容と現実社会はもともと有機的につながっていたはずである。しかし、子どもにとって、今、学んでいる学習内容の日常生活での必要性を感じることができなくなっている。そこで、子どもが教科・領域の学習において、自分の力で獲得した能力（実体的学力、機能的学力）を個人内で高めるだけではなく、社会で生きていく上での力として活用できるようにすることを考えなければならない。つまり基礎・基本としての知識や技能を身に付けるだけでなく、それらを活用しながら追究していく学習が求められる。それは、教科の基礎・基本を明確にし身に付ける習得型学習と知識や技能を活用し社会生活と一元化する活用型、あるいは総合的な学習では探究型の学習を構想することで実現すると考える。

#### ○ 豊かな学びには、どんな力が必要か？

##### ○ 学ぶ意欲を高める「自分が学ぶ意味・価値をとらえる力」

子どもの学ぼうとする力（学習に対する関心、意欲、態度等）は、①学習に対する知的好奇心、②学習のやる気・展望（目標設定力・達成力等）、③学ぼうとする姿勢・態度（自己管理能力）のことである。このことを各教科等において分析し、学習活動に具現化していく必要がある。そのためには、子ども自身が学んでいることに対する目的意識を明確にもつことや学んだことが生活に活かされるという実感をもつことができる学習を構想することが大切である。

##### ○ よりよく生きるための「自分の願いや求めの実現や問題の解決に活用できる力」

学ぶ力を2つの学力で整理する。この学力は両方とも文部科学省の「確かな学力」として提唱されているものであり、実体的学力は、教科学習で身に付くことが多く、学習の結果得られる力であり、読み書き能力、計算力、語学力、情報処理能力、時事的な知識などが含まれる。機能的学力は、領域や横断的・総合的学習で高めることができ、学習を通して得られる力であり、情報収集力、問題発見力、問題分析力、問題解決力、コミュニケーション力などが含まれる。2つの学力を整理するものの実体的学力、機能的学力は不可分であり、学力の2側面としてとらえ、教科・総合的学習で調和的に身に付けていくものとする。

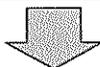
##### ○ 人間性を含む「自分のよさをとらえる力＝自信」

社会のなかで他者との互恵的なかわりができ、自分の立場や役割を自覚するとともに、自分自身を自己内からと客観的な側面からの両面で評価できるようにすることである。そして、自分の導き出した「応え」が他者に認められ、社会に活かしていける可能性や実感をもつことができる学習体験・経験を積むことも必要である。自己を育てる学びは、他者との関係で成立する。

## ○ 豊かな学びを育む学習の具体的方途は？

— 昨年度までは・・・ —

今、自分が行っている学習（部分）が、生活のなかでどのように活かされているか、また、社会（職業）、人間とのかかわりに対してどのようなつながりがあるのかを子どもが意識できる状況下（学習の場）で、子どもの学習に対する「内的必要感」を高め、学習と自分との「内的関係性」を明らかにする学びの過程をつくることである。



— 今年度の主張は！ —

昨年度までの「学びの体験を統合する、関連・系統・補完による授業づくり」を基盤としながらも、実生活（くらしや学習）に活用できる状況をつくり出すことで、子ども自ら学び、自ら考える学習をすすめ、自分にとって、切実な問題を解決していく力を身に付けていくために、「子ども自ら問いを創り出し広げたり、深めたりしていく授業づくり」を行っていく。

昨年度まで、その目的は、学びによって獲得することができる様々な知識や技能を統合することで、新たな知識を創造し活用できるようにしていくことであった。ここでの知識は、子ども一人一人が身に付けた自分の生活者として生きるための知識、文化の担い手として生きるための知識、人間として生きるための知識のことである。

これら3つの学習内容の統合のさせ方の可能性を考えていくことと、学習場面の設定、自己追究やその手だて明らかにすることを考えていくことで、子どもの学ぶ意味と関係性を生み出し、学ぶ意欲の向上を図ってきた。そして、つくり出した単元・題材の調和的展開を通して本校のカリキュラムの構想づくりにつないできた。

本年度は、子どもが「真の問題解決力」を身に付けていくことができるように、「子どもの問いを深化・拡充させる」授業づくりを主張していく。

## ○ 豊かな学びを育むために、子どもの「問い」を深化・拡充させる。

ここでいう「問い」とは、「応え」が決められた数だけ存在するようなものではなく、子どもたち一人一人に対応して生まれてくる、子どもたちにとって切実な問題をいう。そのような「問い」を生み出すためには、教師または他から与えられた課題や問題に対して、子ども一人一人が、疑問やジレンマ、思いや願いをもち、主体的な学びを進めながらも、一人一人の子どもの生活実感に根ざした疑問やこだわりを大切に、それぞれの思いやこだわりを活かした学習課題から出発することが大切となってくる。この「課題」や「こだわり」を子ども自身がかかむことで、主体的な学びが展開できるのである。子ども自らの感覚や意欲、知識、能力、行動力などすべての力をそこに結集して、学習のねらいや対象の価値に自らの力で迫っていくことができるとともに、そこで感じ取ったことや考えたことを、自らの言葉で表現するというように、個々の内面に創り出される「問い」から、個性的・意欲的な活動が展開される。

どんな素晴らしい知識も、「問うことで引き出される」ということがなければ、顕在化することはありえない。他者に問う、他者から問われたことを問い返す、問い合うという視点では過去の研究の

「協働」が生きる。既習の知識が使えないか、どの様に使うと目的が達成できるかという問いでは、昨年度の研究「知の統合と活用」が生きてくる。そこで、次のカリキュラムではこれまでの「協働」と「統合」での研究を活かした研究を基盤に、その授業の中味を具体的に追究していく研究を進めていくようにする。

## ○ 子どもの「問い」を深化・拡充させる授業とは

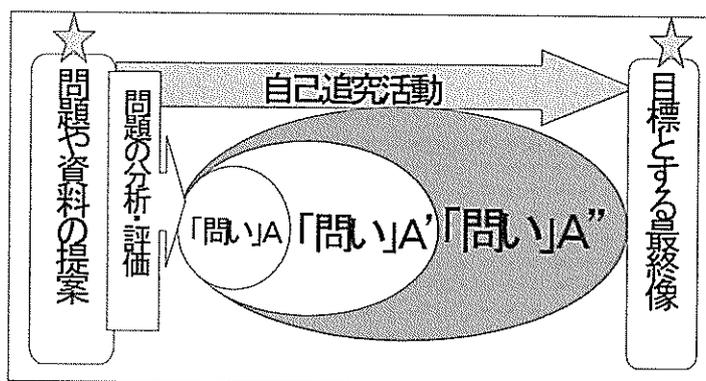
子どもの「問い」は、教師が一方向的に与えるものではない。もちろん、そのきっかけづくりは教師の資料や問題等の提示が大切である。その提示や提案について子ども自身が吟味し(分析・評価)、子どもたち一人一人が、自らの「問い」を創り出していくことを大切にしていく。

下の図は、その「問い」を深化・拡充させながら展開する学習過程である。この学習過程で大切なことは、☆印がついている単元・題材のスタートとゴールである。これを教師だけでなく、子ども自身も明確にしていないと、子どもの「問い」は生まれず、「学び」も成立しない。特にスタートにおいては、ただ教師が提案する問題に出合わせるのではなく、その出合った問題について、子ども自ら分析し、「何がわかっていて(できていて)、何がわからないのか(できていないのか)」「何を一番明らかにしたいと思うのか。」というような問題に対する自己評価が大切である。そのためには、子ども自身が、それまでの自分の学びをふり返り、自分自身をメタ認知的に見取ることができるようにしておかないといけない。それができてはじめて、子ども自ら、自分にとって切実な「問い」を創り出すことになるのである。その点を大切にしながら、以下の3つの授業づくりのパターンで学習過程を構想していくようにする。

### □ 「問い」を深化させる授業づくり

1つめは、子どもの「問い」を深化させていくパターンである。「問い」の質を高め、ひとつのことがもっとよくわかる、もっとよく表せるというように、自分の考えや表現を練り上げていくように、学習過程を構想していく。

右の図1は、「問い」が深化していく学習過程のパターンである。単元(題材)の導入段階において創出された子どもの「問いA」



▲図1 「問い」が深化していく授業

は、追究活動が展開されるに従い、「問い」を生み出す対象は変わらなくても、その「問い」自体が質的に高まっていくように教材化や、学習活動、あるいは支援を構想していくものである。この質は教科等の認識過程、あるいは身につけるべき内容によって変わるものである。

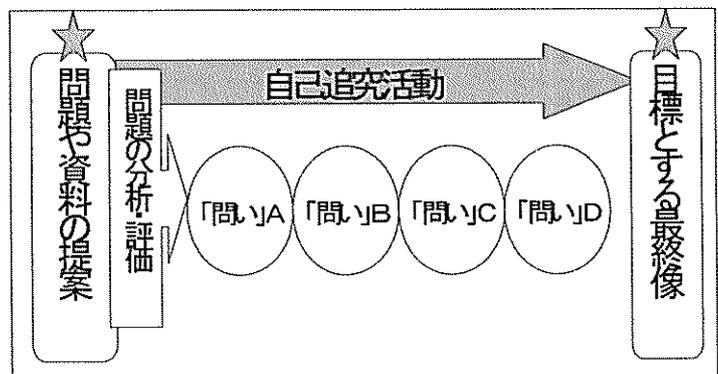
子どもは、対象との出会いから、明らかにしたいこと、創りたいもののイメージ(目標や目的)をもつことで、「何をどのように解決するか、表現するか問う」ことから「問題となっている事物・事象そのものの特徴等に対する『問いA』」が創出される。さらに「自分の考えをまとめたり、作品を創造・表現しながら問う」ことから「問題の対象とそれを取り巻く事物・事象との関係から生まれる『問い』」「自分の考えや創作・表現した作品を問う」「自分の応えあるいは鑑賞、表現そのものの価値と意味を問う」といった「表現したものや導き出した考えなどの価値に関する『問い』」というように、

同じ「問いA」が、子どもの追究活動における段階に応じて、質的に高まりながら変容していくのである。これにより、繰り返しこれまでに身につけた知識や技能を活用しながら、問題解決していくことで、それらの習得が強化されるとともに、主体的な学びが展開される。

### □ 「問い」を拡充させる授業づくり

2つめに、子どもの「問い」を拡充させていくパターンである。「問い」の量を増やしていくことで、「いろいろなことがわかる。」、また「多面的にわかる。」というように、様々な問題を解決しながら目的達成をしていく学習過程を構想していく。

その具体的な型として、図2が、「問い」を拡充される学習過程のパターンである。単元(題材)の導入段階において創出された子どもの「問いA」から、追究活動が展開されるに従って、「問いA」とは質的に違う「問いB、C」等が量的に高まっていくように教材化や、学習活動、あるいは支援を構想していく。例えば、単元の導入場面で目的達成や課題解決のために、最初にいくつかの「問い」が生み出される場合や、他との交流や試しの活動、あるいは明らかになった考えや、新たに出合った対象、新たにつかんだ情報から、追究活動が進むに従って多様な「問い」が生み出

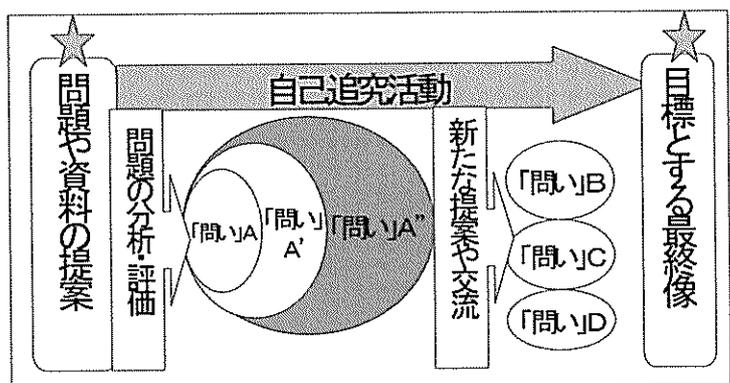


▲図2 「問い」が拡充していく授業

される場合がある。いくつかの「問い」を、個人であるいは協働で解決し、目的を達成していく活動のなかで、子どもの「問い」は量的に高まっていく。

### □ 「問い」を深化・拡充させる複合パターンの授業づくり

3つめは、子どもの「問い」を深化・拡充させる複合パターンである。例えば、プロジェクト的な学習では、課題を達成していく際に、「問い」の質を深め、表現や考えを練り上げていくとともに、目的達成のために、「問い」の量が増えていく。これは、単元・題材の導入段階において、創り出された子どもの「問いA」から、追究活動が展開されるに従って、問題の対象が変



▲図3 「問い」が拡充・拡充していく複合型の授業

化し、「問いA」とは違う「問いBやC」などが創り出され、量的に高まっていくように、教材化や、学習活動あるいは支援を構想していく。

以上のように、子どもの「問い」を深化・拡充させることで、子どもたちは学んで得た知識や技能、あるいは考え方を、実生活に即した問題場面で使いこなしながら、自ら主体的に解決方法を探究していくことができるのである。「自分が学んだことが、他の学習やくらしの中で活かすことができた。」という実感は「このことを学んでいきたい。」という、次の学びの必要感(学びの意欲)を生み出すことにつながる。さらに、学習材と自分の関係を考えることで、実社会や現実のくらしの文脈に沿った問題解決に活用していく力を身に付けていくことができるのである。

## ○ 子どもの「問い」を深化・拡充させる授業づくり

以上のような授業をつくっていくときに、子どもの「問い」を生み出すような、①教材化の工夫、②学習過程や支援の工夫といった2点が大切になってくる。

### □ 教材化について

ここでいう「問い」とは、単に、教師が提示した学習問題ではなく、それらを解決したり、学習目標を達成したりするときに、子ども自身で解決あるいは達成できないことに対して、どうしても解決したい切実な問題である。このような「問い」を子ども自身が生み出すためには、①子ども自身が明確な目的や目標といったゴール像をもつことができるものや、②子どもの実生活や実社会の文脈にそったものといった観点で教材化を図らなければならない。これは、昨今行われている全国学力・学習状況調査におけるB問題に近いものである。それぞれの教科等で身に付いた力を活用していけるように、問題場面やその素材は、実際に子どもが生活の中で出合うようなものである。つまり、これは実際の社会生活における「生きる力」にもつながっていくのである。そういう意味では、新学習指導要領のキーワードである「習得」「活用」「探究」の学習からいうと、「活用型」と「探究型」の2つの学習活動が考えられる。

### □ 学習過程や支援について

子どもの「問い」が連続的に深化・拡充していくためには、学習過程の各段階で、新たな「問い」が生み出されるような学習活動を仕組まなければならない。

#### ○ 「問い」を生み出す導入段階

単元・題材の導入段階では、「問い」の創出による学習活動の方向づけが大切である。その「問い」を創出させるためには、既存の知識・理解や経験と未知の分野とのズレ、生起している事象と思い描いているイメージとのズレ、学習しようとしている対象と現にある対象とのズレなど、それぞれの食い違いが「気がかり」となり、続いて「なぜ、そのような食い違いが起こるのか、そのわけは。」というような原因をさぐる「疑問」が生まれる。この疑問を解決することで、自分がめざす目的や目標が達成できることから「どうしても調べてみたい、解決していききたい。」という動機が生じ、「問い」が創出されるのである。この「問い」を創出させるためには、子ども自らが教師から提示された資料や材料、あるいは学習問題に対し内容分析をしておかなければならない。また、教師は、それまでの知識や経験を引き出し、子どもが出合った学習対象や事象と比較させるために、具体的操作活動を設定し、学習活動の場の工夫や、教材・教具や発問の工夫などから支援を考えていくことが大切である。

#### ○ 「問い」を深化・拡充させる展開・終末段階

導入段階で生み出された「問い」を深化・拡充させるために、各段階ごとに、子ども自らが、それまでの追究活動において「何を、どのようにして、どんなことがわかったか、できたのか。」という考察・評価していくことが必要となってくる。そのためには、学習の各段階ごとに、単元・題材を通してめざすべきゴール像と比べたり、学習の当初、子ども自身が立てた解決への見通しと照らし合わせて、「どんなことが明らかになって、どんなことがまだわからないのか、また、一つのことをわかったことで、新たに明らかにしたいことは何か。」など、メタ認知的に自己評価する活動を設定する。また、問題の対象に対して、新たな要因を提供する支援をしていくことで、新たな問いが生まれるようにする。その「新たな問い」が生まれることによって、事物・事象を多面的にとらえることができ、見方・考え方を練り上げていくことができるのである。

## ■ 特別支援教育研究「共生社会を豊に生きる子どもを育てる学習の創造」

これまで特別支援教育部では、個別の教育支援計画をいかした授業づくりを中心に研究を進めてきた。本年度は、子ども一人一人の将来の自立的な生活を見通し、身の回りのもの、人、こととのかかわりを通して、できることやわかることを増やし、自分から働きかけることができる子どもをめざしている。そこで「選ぶ力、かかわる力、知識・技能」を育むために取り組んできた。具体的には、一人一人の特性をいかした授業づくりを行っていくために、次のことを具体的に構想していく。

- ① 個別の教育支援計画から指導内容を明確にし重点化を図る。
- ② 一人一人の特性に応じる学習スタイル(教材開発・学習過程)の具体化
- ③ 障害の特性や個の特性に対応した指導形態、学習形態、学習空間、教材・教具などの具体的な支援の工夫

以上の3つのことを大切にしながら、現実社会や生活場面を取り入れた単元や題材の開発、学習過程の工夫、個別の教育支援計画から学習を構想し、支援の在り方を明らかにしている。

## ■ 帰国子女教育研究「自信と誇りを育む帰国子女教育」

学習適応と特性伸長をめざし、国語科、算数科、社会科での知識・技能を整理し国際交流タイムと関連を図り、個に応じた学力を確実に身に付ける方向で教育課程の編成の研究を進めてきた。

本年度は、学習適応・個性伸長を調和的に図るために、各教科等での実態把握をもとに個人差を重視したコース別活動と国際交流タイムで発揮される個性を重視したコース別活動を仕組む授業づくりと支援の工夫を行っている。また、個人差を重視する、国語科、算数科、社会科のコース別活動においては、一人一人に応じた個別のカリキュラムを作成している。その個別のカリキュラム作成の主な手順については、次の通りである。

- ① 各教科等の指導内容表を作成する。
- ② 指導内容表から、一人一人の未習内容と既習内容を明らかにする。
- ③ その教科等の柱となる領域の内容について系統性に配慮して配列する。
- ④ 柱となる領域の他の領域との関連を考慮して、関連付けられる内容について検討する。
- ⑤ 関連付けられる内容については柱の領域の内容と合わせて指導する。
- ⑥ 卒業までの残日数から配当時間を決める。
- ⑦ 学習内容が、通常学級に追いついた場合は、通常学級との交流を図る。

(研究主任 北田尚雄)

### <参考文献>

- (1) 奈須正裕／福岡教育大学附属福岡小学校「子どもが本気になる授業づくり  
～各教科等・領域の単元づくりから発問・板書まで～」 明治図書 2007年
- (2) 奈須正裕 学校を変える教師の発想と実践 金子書房 2002年
- (3) 奈須正裕 学ぶ意欲を育てる 子どもが生きる学校づくり 金子書房 1996年
- (4) 安彦忠彦 著 「カリキュラム開発で進める学校改革」 明治図書 2003年
- (5) 安彦忠彦 編 新版カリキュラム研究入門 勁草書房 1999年
- (6) 山極 隆・無藤 隆 編 自ら学び自ら考える力の育成 ぎょうせい 1998年
- (7) 市川伸一 編 学力から人間力へ 教育出版 2003年
- (8) 梶田徹一 〈自己を育てる〉真の主体性の確立 金子書房 1996年
- (9) 梶浦 真 協働学力～知の創造とこれからの学び～ 教育報道出版社 2005年
- (10) 梶浦 真 「学べる力」を伸ばす授業 教育報道出版社 2006年

第1学年のくふくおかプラン (平成20年度 構想プラン) (習得を重視した単元・題材 ——)

時数	4月	5月	6月	7月	9月				
国語 272	えをみて はなそう	おはなし きかせて うたに あわせて あいうえ お (10)	いろいろな くちばしのわ けをみつけよ う	どんなしごと でどんなつく りかな じど うしゃくらべ	みんなに おしえよう	ほんよみ はっぴょうか	げきをしよう 大きな かぶ (22)	くらべ てみよ う (16)	がっこうでみつけた 知らせよう (18)
算数 114	なかよしの はなしを つくろう (6)	10までのか ずをかぞえ よう (9)	わかざりを つくろう (ながさ) (9)	いくつといく つ?びんごでげ っと (6)	たしざん えほんを つくろう (7)	ひきざん えほんを つくろう (10)	20までのかずを かぞえよう (13)		
音楽 68	うたとともだちに なろう (4)	森のどうぶつ のリズムをつ くろう (4)	わくわくり ずむでたの しくあそぼ う (6)	どれみと ともだちになろう (10)	どんなようすか うかべてえんそう				
図画工作 68	すきな ものがつ まったポ ケット (2)	しんはなかし (2)	ここは、ぼくの わたしのいきもの ランド (6)	キラキラゆらゆら かぜのおまつり (6)	わたしのすてきな とうめいパック (6)	ペーパーボットで おもちゃづくり (8)			
体育 90	うんどうの ですと (4)	おしだし あそび (6)	おにを かわして ボールを はこぼう (8)	ウォーターランドで あそぼう (11)	リズム 変身 あらつ ランド (4)	ジャン グル リレー (6)			
生活 102	おおきくそだてよう! こころをこめたはなのおくりもの (14)					わくわく おもちゃらんどであ そぼう (11)			
	みんなだいすき ふぞくしょうがっこう (7)	つくろう! コトコトカーレース (12)		にしこうえんのむし とふれあおう (6)					
学級活動 34	○学校のいきかえり (1) ○学校のきまり (1)	◎係を決めよう (1) ○給食のようい (1) ○よいあいさつ (1)	○虫歯きんをやっ ける (1) ○雨の日の すごし方 (1) ◎教生先生かんげい 集会 (2)	◎学級の歌をつくろう (2) ○水はこわいぞ (1) ○はじめての夏休み (1)	○きょうから2学期 (1) ◎2学期の係をきめ よう (1) ○はじめての運動会 (1)				
道徳の時間 34	・学校ってどんな ところ? (1) ・時間のきまり (1) ・元気な声で (1) 「おはよう」	・学校ってすてきな ところだね (1) ・ともだちパワーを あつめよう (1) ・さいごまで がんばろう (1)	・わき出る力を 感じよう (1) ・きまりは だれのもの (1)	・危険から 身を守る (2) ・自分の成長を 見つめよう (1)	・わがままを しないで (1) ・黙って いかないで (1) ・やさしい心って あたたかいね (1)				

(活用を重視した単元・題材——) ※探究型は総合的な学習の時間、教科での活用型と本校ではとらえています。

10月	11月	12月	1月	2月	3月
おんどく はっぴょう かい (16)  ものをいえの人に	あつめたふ ゆのことば でカルタを つくろう (18)	ふじだなぶんしゅうをつく ろう(10)  本はともだち「ともだちの どうぶつさん」(10)	おみせやさん ごっこを しよう (20)	どうぶつの赤ちゃん のちがいをかんがえ てよう(20)	かみしばいを つくろう (読書活動) (20)
たしざんを しよう (12)	かたちげえむを しよう (10)	ひきざんをしよう (13)	かずづくりゲーム をしよう(11) (100までのかず)	かずづくりゲームをし よう(8) (100までのたしざん ひきざん)	
おもい しよう (10)	すてきなおとを みつけよう (6)	あそびうたを えらんであそぼう (8)	にっぽんのうた みんなのうた ランド(6)	おんがくで おはなししよう (8)	みんなであわ せて (6)
ぺたぺたどろど ろへんしんねんど (6)	すてきな たいようさん (6)	つづきえ どんだん (8)	すてきな かたちが あつまると (4)	たまごパックが たくさんあつまると (8)	かみのつつが うたっておどっ て (6)
とびっこ ランドであそぼう (7)	てつぼうで あそぼう (8)	マットで つぼうとび ばこランド であそぼう (8)	うまくあ てようころ ころドッジ ボール(8)	なわとびあそび かけっこあそび(10)	ゲーム大かいを しよう(10) ※けりっこあそびを ふくめて
大すきかぞく (9)	にしこうえんの あきとあそぼう (10)	学校のお正月をつ くろう (11)	花いっぱいそつぎよ うをおいわいしよう (12)	みんな大す きにしこう えん(6)	せいちょうにつき をしようかいしよ う(5)
○みんな友達 (1) ◎教生先生さよな ら集会 (1) ○正しいせい (1) ○きれいな片付け (1)	○本の借り方返し方 (1) ◎好きな本のしよ う かいをしよう (2)	◎クリスマス集会を しよう (2)  ○冬休みのくらし (1)	◎3学期の係を決め よう (1)  ○ありがとう給食 (1)	○もし火事になっ たら (1)  ◎ありがとう6年生 (2) ○もうすぐ2年生 (1)	◎新1年生へのプレ ゼントをつくろう (2)
・いつも正直に (1) ・進んで手伝う (1) ・ありがとうの気持 ちを伝えよう (1)	・美しい心を 見つけよう (1) ・ぼくの町って すてきだよ (1) ・命の温かさ (1)	・みんなにもあるね 温かい心 (1) ・自分の成長を 見つめよう (2) ・大切に使う(1)	・何度も ねばり強く (1) ・礼儀正しい生活 (1) ・お世話になっ ている人 (1)	・正直で素直な心 (1) ・正しい行い (1) ・きまりを守って 使う (1)	・家族の人の願い (1)  ・自分の成長(2)

第2学年のくふうおかプラン (平成20年度 構想プラン) (習得を重視した単元・題材 ——)

時数	4 月	5 月	6 月	7 月	9 月			
国語	280	よんで楽しもう 「ふきのとう」 (20)	作り方を教えます わたしのすてきな アクサラー！(20)	どのようなかわり合っ ているのかな？～サン ゴの海の生き物たち～ (20)	仲間とふれあう生き物の お話を読もう「スイミー」ほか(選 択読書) (20)	はっぴよ う名人に なろう (21)		
		とっておきニュース (20)						
算数	155	とけいを見なが ら生活しよ う (7)	たし算を しよう (10)	ひき算 をしよう (10)	身体ものさ して見つも り名人にな ろう (8)	三角形・四角 形！ステンド グラスづくり (5)	つかみ取りゲームを しよう (9)	たし算と ひき算を しよう (16)
音楽	70	歌と友だちになろう (8)	わくわくリズムや ドレミであそぼう (8)	曲に合わせて、パ ンパーダ ンスを踊 ろう (4)	夏をかんじて歌おう (6)	音を合わせてえんそ うしよう (10)		
図画 工作	70	ローラーから 生まれた カラフルせかい (8)	ナイトサファリへ ようこそ (8)	ぼくのわたしの すてきなぼうし (8)	にじ色のせかいへ ようこそ (8)			
体育	90	うんどうの テスト (6)	おしあいひき あいあそび (7)	あらつの森の たんけんたい (6)	ウォーターランドで あそぼう (11)	まねっこ パークで あそぼう (8)		
生活	105	あらつの町を たんけんしよう (10)		大きくそだて、みんなの夏野さい (継続 12)	はっけん！ すてきなあらつの あきのまち (13)			
				つくろう！ ようちえんとなかよしフェスタ (12)				
学級 活動	35	○学級目標を決めよ う (1) ◎係を決めよう (1) ○学習中のやくそく (1)	○さそいにのらない (1) ◎学級のシンボル マークをつくろう (2) ◎教生先生のかんげ い会 (1)	◎2の○ランド に1年生を 招待しよう (4)	◎七夕集会をしよう (2) ○もうすぐ夏休み (1)	○2学期のめあてを 立てよう (1) ◎楽しい係を決めよ う (1) ○運動会に向けて (1)		
道徳 の 時間	35	・心を結ぶあいさつ てどんなもの (1) ・自分できちんと (1) ・自分の成長(1)	・町のひみつ をしようかい しよう (1) ・やさしい心 (1) ・相手を思いやっ て (1) ・進んで きれいに (1)	・きまりはだれのも の？ (1) ・みんな一生懸命 生きてるね (1) ・たった一つの命 (1) ・心強いね (1)	・やりぬく心 (1) ・楽しい家族 (1) ・気持ちのよい あいさつ (1) ・自分の成長 (1)	・小鳥たち 元気でね (1) ・動植物にもやさ しい心で (1) ・友達への親切 (1)		

(活用を重視した単元・題材——) ※探究型は総合的な学習の時間、教科での活用型と本校ではとらえています。

10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
読書をつなごう～たんぼぼのちえを比べて～ (20)	「がまくんとかえるくん」シリーズを読もう(20)	ふじだな文集を書こう (10)	ことばのおもしろさ発表会をしよう (25)	2年生の思い出を書きまとめよう (25)	お話を楽しもう「スーホの白い馬ほか」 (22) (選択読書)
お話大好きはっぴょうかいをひらこう (35)					
かけ算をしよう I (23)	かけ算をしよう II (26)		かけ算九九表のクイズをつくろう (14)	長いものさしを作ってみよう (10)	大きい数をかぞえよう (10) へんしん形づくりゲームをしよう (7)
	すてきな音を見つけよう (6)	きせつをかんじて歌おう (8)	にっぽん歌 みんなの歌ラント (5)	ビンゴにおくるリズムをつくろう! (5)	ようすを思いうかべて歌おう (7)
	つくろう森の音楽会 (3)				
あきをあつめたのしくあそぼう (8)	おしゃれなすてきな紙テープ (8)	きらきらシャボンから何が見えた (4)	ねん土であそぼう (2)	すてきなペンケース～おりぞめ和紙～ (10)	ありがとうの気持ちをこめて (6)
ジャングルリレーを楽しもう (8)	てつぼうチャンピオン (7)	マット・とびぼコランドであそぼう (8)	ころころドッカン! ターゲットゲーム (9)	なわとびあそびかけっこあそび (7)	つくろう! わくどきランド (6)
					ボールけりゲームを楽しもう (7)
大きくそだて、みんなの秋やさしい (継続 13)					
おもちゃランドを作って1年生とあそぼう (10)		つくろう! ぼくらはふ小 ちょボラたい (12)		あらつ博物館をつくろう (13)	ぐんぐんのびる、ぼく・わたし (6)
あらつフェスタをもちあげよう (5)					
◎教生先生とのお別れ会 (2)	◎言葉のひみつ (1)	◎友達のよさを見つけよう (2)	◎3学期の係を決めよう (1)	◎心の鬼をおいだそう (1)	◎学級文集をつくろう (2)
◎学習への心がまえ (1)	◎友達と仲良くしよう (1)		◎楽しくなる食事 (1)	◎さようなら6年生 (1)	◎もうすぐ3年生 (1)
◎目の健康 (1)	◎本のあつかい方 (1)	◎冬休みの過ごし方 (1)			
・うそと正直 (1)	・感謝の気持ち (1)	・清らかな心 (1)	・上手に使う (1)	・生き物の気持ちを考えて (1)	・支えられる生命 (1)
・自分の健康を見つめよう (1)	・助け合う友達 (1)	・自分の成長 (1)	・ねばり強くがんばる (1)	・美しさに感動する心 (1)	・やさしく親切に (1)
	・勇気をもって (1)	・学級の仕事 (1)	・みんなのものを大切に (1)	・見つめよう自分の生命! (1)	・自分の成長を見つめよう (1)

第3学年の〈ふくおかプラン〉 (平成20年度 構想プラン) (習得を重視した単元・題材 ——)

時数	4月	5月	6月	7月	9月	
国語	235 3学年の読書計画をつくろう (13)	まとまりに気をつけて読もう 道具を使う動物たち 「きつつきの商売」(8)	昔話から読書を広げよう 日本の話・世界の話 (選択読書) (25)	めざせ プレゼンターI (10)	どの特長が大事なのかな? (25)	
算数	150 全部でいくつ (かけ算九九) (8)	表とグラフに表そう 3年調査隊 (13)	あなあきクイズをつくろう (15)	ばたばた絵をつくろう (12)	わり算をかたちで考えよう (6)	生活の時間や時こくを (8)
社会	70 あらつの町たんけん! 附属小のまわりの特色を見つけよう (6)	しょうかいしよう わたしたちのまち福岡 (10)	発見! スーパーマーケットのひみつ (11)	福岡市の仕事をまとめよう (5)		
理科	70 植物のそだちをついせきしよう (種から発芽へ) (1)	わくわく昆虫ワールド (8)	磁石のはたらきを調べよう (10)	植物のそだちをついせきしよう (花の咲くころの様子) (2)	植物のそだちをついせきしよう (花の咲くころの様子) (3)	
音楽	60 楽き大好き! うたうの大好き! みんなで合唱そう (7)	ふしとリズムを楽しもう (8)	リコーダーと友だちになろう (4)	場面を音楽で表そう・ふしの流れやリズムにのって歌おう (8)		
図画工作	60 くねくね、ぐによぐによ絵の具のダンス (4)	発見! まほうのつぼ (4)	つくろう! 教室のなかのふしぎな世界 (8)	水の世界を描こう カッパアーティスト (4)	とう明カップから生まれたものは (6)	
体育	90 スポーツテスト (4)	チャレンジてつぼう (4)	あらつすもう (6)	ゴールをめざせ～キックチャンスゲーム (7)	めざせ! カッパ大賞 (9)	楽しく表現・ダンスをしよう (6)
総合	70	あらつかッパ伝説～昔話から探検 あらつの町～(18)			夏休み自由研究 (7)	
英語	35	Let's ask the possession one. (3)	Let's ask a favorite thing. (4)	Let's do the touch game. (3)	Let's ask the hour. (3)	
学級活動	35	○ぼくは○○です(1) ○学級目標を決めよう (1) ◎係を決めよう (1)	◎教生先生ウェルカム集会をしよう (4)	◎学級の旗をつくろう (2) ○雨の日のすごし方 (1) ○けじめのある学習 (1)	◎1学期の係活動をふり返ろう (1) ◎1学期の集会 (1) ○夏休みの生活 (1)	○2学期のめあて (1) ◎月見学芸会の計画を立てよう (1) ○運動会に向けて (1) ◎2学期の係 (1)
道徳の時間	35	・新しい気持ちで(1) ・きまりのある生活 (1) ・真心をこめてあいさつを(1)	・すばらしいお母さん(2) ・正直のよさ(1)	・わたしたちのふるさと(2) ・生き物を大切に(1)	・身の回りをきれいに (1) ・自分の成長を見つめよう (1) ・本当の友達 (1)	・お年寄りに感謝(1) ・生命を大切に (1)

(活用を重視した単元・題材——) ※探究型は総合的な学習の時間、教科での活用型と本校ではとらえています。

10月	11月	12月	1月	2月	3月			
「盲導犬の訓練」	あらつフェスタのパンフレットをつくろう(20)	ふじだな文集をつくろう(10) 詩を読もう(10)	「福岡のうまかもん」を説明書に書きまとめよう(20)	想ぞうをふくらませて書こう(20)	自分の力で読もう(選択読書活動)(27)			
長いものさし作りをしよう(11)	かけ算九九をひろげよう(11)	大きな数を調べよう(9)	長方形と正方形(9)	ドールハウスをつくろう(10)	同じ数ずつわけよう(10)	なんでも重さダービー(10)	かけ算をひっ算でしよう(11)	そろばんで計算しよう(7)
3年キク部会を開いてこれからのキク作りについて考えよう(14)	あらつ今と昔 ～あらつ昔図かんをつくろう～		考えよう！福岡市紙ごみげんりょう作戦(15)					
あかりのくにへようこそ 豆電球とかん電池(11)	昆虫や植物のせい長図かんをつくろう(11)	太陽の動きを調べよう(11)	さぐろう！日光のはたらき(12)	自分たちが育て虫や草花は…(4)				
曲の感じをとらえよう・リコーダーと友だちになろうⅡ(7)	日本と世界のあそび歌集をつくろう(8)	リコーダーと友だちになろうⅢ(6)	ふしや音をえらんで表そう(5)	6年生への思いをこめて歌おう(7)				
光とかげのハーモニー(6)	とびらを開くと見える世界(6)	ダンボールアーティスト(8)	集まれ！ すてきなカラフルなかま(8)	にじ色花畑をつくろう ※卒業式をかざろう(6)				
つくって楽しもう！探検マップ(9)	あらつ障害物リレー(6)	チャレンジとび箱(8)	バウンドゲームを楽しもう(10)	ちょうせん！なわとび遊び かけっこ遊び(10)	つくろう！わたしの元気もりもりブック(4)	つくろうラグハンドボール(7)		
うちの自まん！博多のまんじゅう(15)	あらつフェスタ(10)		あらつなんでも会社(20)					
Let's shopping! ~at vegetableshop and fruitshop~(6)	Let's make a X'mas card(6)		How does the physical condition :?(5)	Can this sports?(5)				
○正しい言葉づかい(1) ◎教生先生とのさよならパーティー(2) ○忘れ物をなくそう(1)	○ぼくわたしのいいところ(1) ◎係新聞コンクールをしよう(2)	○男女なかよく(1) ◎2学期の集会(1) ○夏休みの生活(1)	◎3学期の係を決めよう(1) ○給食への感謝(1)	◎係発表会をしよう(2)	○6年生へのプレゼントの内容を決めよう(1) ◎3学期の集会(1) ○4年生に向けて(1)			
・みんなの使うもの(1) ・真心の行い(1) ・励まし合う友達(1)	・困っているだれかのために(2) ・みんなが使う場所(1) ・やさしい心(1)	・正しい心、強い心(2) ・自分の成長を見つめよう(1)	・友達よさ(1) ・命を大切に(1) ・不思議なものに感謝する心(1)	・みんなクラスの仲間(3) ・わたしたちのふるさと(1)	・くじけない心(2) ・自分の成長を見つめよう(1)			

第4学年のくふくおかプラン (平成20年度 構想プラン) (習得を重視した単元・題材 ——)

時数	4月	5月	6月	7月	9月			
国語 235	4学年の読書計画を立てよう (10)	詩を読もう (10)	相手をゆり動かす材料は? 話し合ってみよう (20)	松井さんの人柄を読み広げよう (25)	読書リレーをしよう (選択読書) (20)	めざせプレゼンターⅡ (10)		
算数 150	大きな数を表そう (9)	コマをつくろう (14)	収納名人～円の直径と半径をのまわり方を調べて (7)	生活情報をブックレットにしよう (8)	変化をグラフに表そう (7)	整数のわり算をしよう (12)	およその数を表そう (10)	考え方と式に表そう (11)
社会 85	わたしたちの住んでいる福岡県 (3)	ぼくらが守る!福岡市の水 (12)	あらつ防災調査レポート (10)			星野村み力探検隊 (11)		
理科 90	春の生き物を調べよう (6)	空気のパワーを体感しよう (9)	自然の中の水の行方を探ろう (12)	夏の生き物を調べよう (6)	会編や水のあたたまり方①熱気球② (15)	夏の星の神秘にふれよう (6)		
音楽 60	みんなのアンサンブル 作りだそうⅠ ※さくらさくら (4)	ボイスリズムアンサンブルをつくろう! (6)	お祭りの音楽めぐりをしよう (8)	ふしやリズムの流れのにつて演奏しよう (6)		みんなのアンサンブルをつくりだそうⅡ (10)		
図画工作 60	形や色から生まれたものは (6)	唐人町ランタンフェスティバル (10)	ストローと針金でおもちゃをつくろう (6)			トントンギョギョふしぎな生きもの (6)		
体育 90	スポーツテスト (4)	私たちの成長ブックをつくろうⅠ (2) かわそう! つなごう!オリジナルタグラグビー (6)	あらつ場所 (5)	つくろう! 楽しもう! リズムピクス (5)	いろいろな泳ぎに挑戦しよう (10)	リズムダンスレポリレーション (6)		
総合	つくろう!我らの附属小ふくこい (19)			夏休み自由研究 (7)		アジアの		
英語 35	Let's introduce a favorite thing. (3)		What one is it? (3)		Have a nice trip! (6)		Let's ask the hour. (3)	
学級活動 35	○学級目標を決めよう (1) ◎係を決めよう (1) ○はじめてのクラブ活動 (1)	◎学級のシンボルマークを決めよう (1) ◎開催, 4の○ブックトーク会 (2)	◎開催, 4の○ブックトーク会 (3)	◎第1学期◎◎集会 (2) ○たばこと健康 (1) ○チャレンジ夏休み (1)	◎2学期のめあて (1) ◎2学期の係を決めよう (1) ○運動会に向けて (1)			
道徳の時間 35	・4年生になって (1) ・生きた礼儀 (1) ・目標をもって ・まっすぐな心 (1)	・身近な動植物を大切に (1) ・友達のために なるのは? (2)	・見つめよう!思いやりの心 (2) ・生きるI (1) ・命を守る仕事 (1)	・ふるさとを思う (1) ・自然や動植物へのやさしさ (1)	・自分のことは自分で (1) ・古いものを大切に する心 (1) ・目標に向かって (1)			

(活用を重視した単元・題材——) ※探究型は総合的な学習の時間、教科での活用型と本校ではとらえています。

10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
バリアフリーについて考えを发表しよう (26)	目的に合わせた伝え方について読み深めよう (30)	ふじだな煤 (10) 学校づくりに参画しよう 「1枚の写真から」(10)	発信しよう～すてきな附属福岡小学校～ (23)	言葉遊びを作って遊ぼう (25)	自分の力で読もう (選択読書) (21)
はしたの数の表し方を調べよう (10)	三角形のモビールをつくろう (15)	いろんな数で同じずつ分けよう (20)	角度当てクイズをつくろう (10)	はしたの数の表し方を調べようII (分数) (8)	面積の求め方を工夫しよう ～面積ランキング～ (16)
大島不思議隊探検隊 (11)	どうする?これからの八女ちゃん (15)	広めよう! ひきつがれる博多の行事 (7)	明太子を博多名物にした川原俊夫 (7)	「福岡県」にピッタリのキャッチフレーズを付けよう! (9)	
体積変化のなぞ (6)	秋の生き物を調べよう (4)	月の不思議を調べよう (6)	冬の生き物を調べよう (6)	モーターカーパワーアップ作戦 (8)	
	曲の感じをとらえて歌おう (4)	にっぽんの歌 みんなの歌ランド (2)	ジャズの曲によって間奏をつくろう (13)	オーケストラの音楽を楽しもう (4)	6年生への思いをこめて歌おう (5)
	もみじ他にからのおくりもの (8)	心の四季を版に込めて (10)	オリジナルタングラムをつくろう (10)	かんしやの気持ちを色と形に込めて (6)	
2種競技に挑戦しよう (8)	チャレンジマット (8)	つくろう! ハンドジャンプ (8)	セストボールを楽しもう (10)	私たちの成長ブックをつくろうII (2) チャレンジ持久走 (5) チャレンジチームジャンプ (5)	スリーゴールサッカー楽しもう (9)
	あらつフェスタ (10)		附属小樹木調査隊 (15)		
ひみつを探ろう (19)					
Where are you going? (6)	Let's ask a price. (3)	Let's go shopping for Christmas. (3)	Let's play card game. (4)	Let's introduce doing. (5)	
○目を大切に (1) ◎学級文庫をつくろう (2) ◎教生先生さよならパーティーII (2) ・日本のすばらしさ (1) ・思いやりの心をもって (1) ・学校によさ (1) ・家族みんなで (1)	○友達のおいところ (1) ○献立と栄養 (1) ◎係活動発表会をしよう (2) ・進んで活動する (1) ・きまりを守る心 (2)	○男女仲良く (1) ○冬休みの計画 (1) ・勇気ある行動 (1) ・目標をもって生きるII (1)	◎3学期の係を決めよう (1) ◎ボランティア作戦をしよう (2) ・何が大切かを考えて (1) ・みんなのために働く (2)	○食物の秘密 (1) ◎学級文集をつくろう (1) ・おとしりを大切にする心 (1) ・みんなのために (1) ・本当の友達 (1)	○さようなら6年生 (1) ○もうすぐ高学年 (1) ・真心の美しさ (1) ・自然を大切に (1) ・目標をもって生きるIII (1)

第5学年のくふくおかプラン (平成20年度 構想プラン) (習得を重視した単元・題材 ——)

時数	4 月	5 月	6 月	7 月	9 月
国語	180 5 学年の読書計画を立てよう (10)	詩を読み味わおう (13) 筆者の意図を読み取ろう「サクランソウとトラマルハナバチ」 (13)	言葉の研究レポート (15)	千年前の不思議を読み深めよう (16)	めざせ！プレゼンターⅢ (10)
算数	150 整数と小数の関係を調べよう (14)	四角形を調べよう (20)	角度あてクイズをつくろう (9)	つくろう！分数カードゲームの攻略法 (14)	小数のかけ算やわり算をしよう (13)
社会	90 国土に生きる人々Ⅰ・発見！日本の地形 (3)	国土を生かし、食料生産に励む人・どうする？これからの米づくり (7) ・おいしい給食の向こう側～ほうれん草、だれがどこからどうやって？～(10)		われら食料安全調査隊 (8)	国土を生かし工業生産に励む人々・発見！くらしの中の工業製品 (9)
理科	95 植物の成長の秘密を探ろう 発芽と養分 (8)	植物の成長の秘密を探ろう 肥料と日光 (9)	おもりの動きを調節する秘密 (11)	メダカの成長やひとの誕生 (11)	生命のつながりを探ろう植物 (10)
音楽	50 豊かな表現をつくり出そうⅠ (5)	ジャズにチャレンジ！ (6)	歌い継ごう！博多の歌・博多の心 (5)		豊かな表現をつくり出そうⅡ (4)
図画工作	50 ギザギザベクタンから生まれたものは (6)	スチロールのカーニバル (6)	附小のわたしの自慢 (6)		夏の思い出を絵手紙で届けよう (2)
家庭	60 見つめよう！家庭生活 (7)	まかせてね 旬の野菜でオリジナルサラダ (9)	オリジナルワッペンをつくろう！ (6)		日本の伝統的な食事わおう！～ご飯をたみよう～ (8)
体育	90 スポーツテスト (3) スリーコースリレーを楽しもう (5) 得点力アップ大作戦～2 ゴールハンドボール～ (10)		安全マップをつくろう (2)	あらかつ水泳に記録に挑戦 (10)	ダンスを楽しもう (5) ソフトバレーボールを楽しもう (5)
総合	75 挑戦！わたしたちの米づくり (18)			夏休み研究レポート (7)	米から広がるわたしたちの生活 (11)
英語	35 Let's guide our school. (5)	Let's expand the circle of friends. (5)	Where would you like to go ? (4)		LIFE & TIME (4)
学級活動	35 ○学級目標を決めよう (1) ◎学級の組織を決めよう (1) ◎学級の合い言葉をつくろう (1) ◎つくろう！5の○プロジェクト (1)	◎5の○集会の計画を立てよう (1) ◎学級のシンボルマークをつくろう (1) ◎5の○係の内容を見直そう ◎○○集会の内容を決めよう (1)	◎教生先生の歓迎会をしよう (2) ◎5の○集会をしよう (2)	○アドベンチャースクールに向かって (1) ◎アドベンチャースクールでの遊びを決めよう (1) ○夏休みの計画 (1)	◎2 学期の学級組織をつくろう (1) ○運動会に向けて (1) ◎5の○係活動をしよう (1)
道徳の時間	35 ・5 年生としての自覚 (2) ・あいさつの大切さ (1) ・ふるさとを大切に (1)	・男女の理解 (1) ・日本人のすばらしさ (1) ・約束や規則の尊重 (1)	・危機的な生命？仕事の責任？ (2) ・生きがいを見つけて (2)	・広場はだれのもの (1) ・自分の成長を見つめるⅠ (1) ・友達のために (1)	・工夫して新しいことを (1) ・困難を乗り越えて (2)

(活用を重視した単元・題材——) ※探究型は総合的な学習の時間、教科での活用型と本校ではとらえています。

10月	11月	12月	1月	2月	3月
筆者の意図を読み取ろう～インスタント食品と私たち～(25)	人ともものつきあい方 (23)	人物の生き方を読もう わらぐつの中の神様(15) 藤棚文集を作ろう (10)	言葉の研究レポートⅡ (8)	自分の考えを広げまとめよう「コマースと私たち」(10) 本の世界を旅しよう(選択読書) (12)	
計算ゲームで小数のかけ算を考えよう (15)	小数の割り算をしよう (15) 割合をグラフで表そう (15)		面積ハンドブックをつくろう (21)	樹冠面積エコ調査隊(8) ～円の面積を調べて～	形をつくって面積取りをしよう (6)
国土を生かし工業生産に励む人々 ・徹底追究！わが国の自動車生産 (15)		国土を結ぶ人々 ・発見！情報を活用する私達 (8) ・挑戦！コンビニ一日店長 (12)		つくろう！日本列島紹介マップ(10)	取り戻せ！青空 (8)
流れる水のはたらき (8)	天気の変化と自然災害(6)	てこを使ったリフトゲーム (14)	つくろうミネラル結晶 (14)		ジャガイモを植えよう (4)
豊かな表現をつくり出そうⅡ (2) 音楽の形や仕組みを生かそう(7)		心をいやす音楽をつくろう (6)	ふしとリズムを組み合わせて (6)	音楽でえがこう(4)	6年生への思いをこめて歌おう (5)
切り抜き！切り立て！フィッシュレリーフ (8)	みんなでつくろう！ライトセラピーの世界 (10)		ペットボトルとスチレンポールから (10)		美しい色、楽しい形(2)
を味わって	マイカフェエプロンをつくろう (8)	地域の野菜を味わおう！～博多なすを使った秋の1品～(10)	スッキリピカピカ大作戦 (10)		できるようになったことを生かして (2)
ソフトバレーボールを楽しもう (3)	ハイジャンプのひみつをさぐろう(7)	あらかつ場所 (5)	心の健康 (3) つくろう！ロープジャンプ (6)	つくろう！器械運動 (8)	なわとび・クロスカントリーに挑戦しよう (10)
				サッカーを楽しもう (10)	
つくろう！みんなにやさしいまちづくり(14) あらかつフェスタ (10)			チャレンジ！ほくらの菰川浄化プロジェクト (15)		
Where do you go out? (6)	Let's make a X'mas card. (4)		Let's go to the restaurant in the world. (4)	How do you say? (3)	
◎教生先生とのお別れ会をしようⅡ(2) ◎5の○ボランティアの計画を立てよう (1) ○5の○環境会議 (1)	◎省エネプロジェクト (4)	○これが5の○遠行会(1) ◎5の○ボランティアをしよう(1)	◎3学期の学級組織をつくろう (1) ○最高学年に向けて (1)	◎縦割り清掃プロジェクト (3)	◎縦割り清掃プロジェクト (1) ◎5の○プロジェクトを振り返り、お祝いをしよう(2)
・力強く生き抜く (2) ・健康と安全 (1) ・自分に誠実に(1)	・私の学校じまん (2) ・本当の親切とは？ (1)	・高い目標をもって (1) ・温かい家族 (2) ・自分の成長を見つめるⅡ (1)	真のリーダーとは？ (2)	・希望をもって(1) ・広い心(1) ・自然を愛する心 (2)	・本当の思いやり (1) ・自分の成長を見つめるⅢ (1)

第6学年のくふうおかプラン (平成20年度 構想プラン) (習得を重視した単元・題材 ——)

時教	4月	5月	6月	7月	9月	
国語	175 6学年の読書計画を立てよう (5) 短歌と俳句を読み味わおう (8)	筆者の意図を解き明かそう～なぜ、イースター島だったのか～ (12) わたしはこう考える～優先席は必要か?～ (15)		広げよう! 読書ネットワーク、本の楽しさお届け隊 (18)	めざせプレゼンターⅣ (10)	
算数	150 整数のなかまづくり (12)	見積もって調べよう (5)	平均データで比べよう (10)	体積から見える世界 (9)	ブロックパズルのピースをつくらう (12) 分数のたし算・ひき算クイズをつくらう (15)	
社会	100 I 日本のあゆみ (67) 時代を創った人々Ⅰ 福岡市博物館 (4) 板付遺跡 (4) 時代を創った人々Ⅱ 聖武天皇 (4) 藤原道長 (3)	時代を創った人々Ⅲ 清盛と頼朝 (7) 北条時宗 (4)	文化を創った人々Ⅰ 日本文化源流をさぐる (8)	時代を創った人々Ⅳ 天下統一 (4)	時代を創った人々Ⅴ 徳川家光 (4)	文化を創った人々Ⅵ 日本文化の源流を探ろうⅡ 町人文化 (5) 時代を創った人々Ⅶ 伊藤博文 (5)
理科	95 私たちの周りの環境を見つめよう (4) 養分のつくられ方について考えよう (4)	生活で活かされる水溶液の性質 (14)		みつめようくらしのなかの火 (14)	生きるために必要な養分のつくられ方について考えよう (6) (動物) 生きるために必要養分のつくられ方について考えよう (10) (植物)	
音楽	50 豊かな表現をつくり出そうⅠ (12)	世界の音楽めぐりをしよう (6)		音楽の発展につくした音楽家たち (6)		
図画工作	50 ぼくの私のすてきなフェイス (4)	形と色のファンタジー (6)	くらしにおしゃれな空間を～創造インテリア～ (8)		すてきなオブジェ展を開こう (4)	
家庭	55 私にできることを見直そう (2) おいしいごはんとおみそしるを作ろう! (12)	さわやかライブをコーディネート (9)		我が家のオリジナル		
体育	90 スポーツテスト (4) あらかつ場所 (6)	つくろう! ユニバーサル・ホッケー (10)	あらかつ水泳記録に挑戦 (10)	テーマ表現 21 (6)	ハイジャンプの秘密をさぐる (7)	
総合	75 つくろう! あらかつ大絵巻 (20) 命の輝きを (10)	夏休み自由研究 (5)				
英語	35 Let's enjoy breakfast! (5)	Let's introduce oneself. (3)	Let's introduce the event in the region. (5)	Memories during summer vacation? (3)		
学級活動	35 ○最高学年としての役割 (1) ○学級目標を決めよう ○1学期のテーマを決めよう (1) ○学級組織をつくらう (1)	◎1年生のお世話をしよう (1) ◎わたしたちの委員会活動をつくらう (1) ◎教生先生の歓迎会 (1) ◎委員会活動活性化プロジェクト (1)	◎委員会活動活性化プロジェクト (4)	○アドベンチャースクールに向けて (1) ○夏休みの計画 (1)	○2学期のめあてを立てよう (1) ◎2学期の学級組織 (1) ○最後の運動会・月見学芸会 (1) ◎下級生と交流しよう (1)	
道徳の時間	35 ・最上級生として出発 (2) ・感謝と難の境 (1)	・かがやけ生命 (2) ・何のために生きるⅠ (1)	・親切とは? (2) ・本当の友達 (1)	・素直な反省 (1) ・感謝する心 (1) ・男女の友情と協力 (1)	・生きる輝きをもつて (1) ・公德を守る心 (1) ・自分らしさって? (2)	

(活用を重視した単元・題材——) ※探究型は総合的な学習の時間、教科での活用型と本校ではとらえています。

10月	11月	12月	1月	2月	3月
ともに生きるために筆者の考えをもとに伝え合おう(15)	ふじだな文集をつくろう (10) 表現を味わおう「やまなし」 (15)	文化について考えを発信しよう (18)	情報を使って考えよう～人類よ、宇宙人になれ～ (24)	「ことば」について考えよう (10)	卒業するあなたたちに(選択読書活動)「海の命」、「生きる」ほか (10)
単位量あたりの大きさで比べよう (16)	分数のかけ算・わり算の仕方を調べよう (29)	比を使って比べよう (10)	比例するものを調べよう (9)	算数のまとめ (23)	
文化を創った人々Ⅱ 日本文化の源流をさぐるⅢ 文明開化(5)	時代を創った人々Ⅲ 陸奥宗光 (5)	時代を創った人々Ⅳ 15年戦争 (5)	Ⅱ 生活と政治(15) ふくふくプラザができるまで(7) 日本国憲法(8)	Ⅲ 世界中の日本 (18) 世界の国を訪ねよう (8) スポーツ交流会 (4) 世界はひとつ 国際連合の働き (6)	
電磁石パワーアップ 作戦 (13)	私たちの体の不思議を探ろう (13)	土地のつくりと変化 (12)	私たちの周りの環境を見つめよう (8)		
豊かな表現をつくり出そうⅡ (8)	日本の歌 みんなの歌 ランド (4)	室内楽の音楽を楽しもう (4)	音楽でえがこう (5)	6年間の思いをこめて歌おう (5)	
ベニヤ板のカーニバル (8)	木版画アーティスト (6)	伝えよう! 私たちのポスターメッセージ(6)	お世話になった方に絵手紙をおくろう (6)		
バッグをつくろう (15)	家族も元気! マイオリジナル弁当をつくろう (9)	家族の一員としての自分 (2)	伝えよう! ありがとうの気持ち (6)		
ソフトボールを楽しもう (10)	器械運動 発表会を開こう (8)	健康な生活をしよう病気の予防 4 リラックス運動をつくろう (5)	縄跳び・持久走に挑戦しよう (10)	サッカーを楽しもう (10)	
つくろう! あらつ座(17) あらつフェスタ(7)			あらつコーポレーション(16)		
Let's enjoy communication! (5)	Let's play foreign music! (5)	What's wrong? (4)	Memories of elementary school?(5)		
◎学習環境をつくろう (1) ◎さようなら先生Ⅱ (2) ◎読書の幅を広げよう (1)	◎進めようボランティア活動 (3) ◎第2学期の○○集会の計画を立てよう (1)	◎心も体もリラックス (1) ◎第2学期の○○集会 (1)	◎3学期の学級組織をつくろう (1) ◎アルバムクラス用ページの内容を決めよう (1)	◎思い出をつくる修学旅行 (2) ◎後輩へ思いを伝えよう (1)	◎第3学期の○○集会 (1) ◎中学校へ向けて (1)
・深い思いやり(1) ・世界の中の私 (1) ・すぐれた文化財 (1)	・奉仕する心 (2) ・環境と資源を大切に (2) ・集団の中での役割 (1)	・生きることの素晴らしさ (1) ・過ちを許す (1)	・家族の一員として (2) ・何のために生きるⅡ (1)	・地球を救えるか? (2) ・人間の力を超えたもの (1)	・礼儀は心の表れ (1) ・何のために生きるⅢ (2)

## ○ 国語科学習の構想

### 思考と表現を練り上げる国語科学習

#### ○ はじめに

国語科において豊かな学びとは、言語が本来もつ機能である「思考すること」と「伝達すること」を調和的に高めていくとともに、言語を駆使することの効力感や言語を駆使して目的を達成した自分に有用感をもつことである。そのためには、言語で伝え合う目的意識を明確にもつことができるように、言語で伝え合わざるを得ない状況をつくりだすことが不可欠である。そのような状況のなかで、国語科において、子どもが言語能力を高めながら、「自分の意見が深まり自分のために役に立った」という実感、「自分の意見が他者に伝わり役に立った」という実感、「自分の意見や表したことが継承されていく文化になった」という実感を味わわせることで、日常の言語生活をよりよいものにしていくのである。本校では、国語科がすべての教科等の基盤となる教科であり、〈ふくおかプラン〉の土台としての役割・立場を担っているということをふまえ、他教科等との関連を図りながら、心の内から言語を駆使しようとする状況を生み出し、言語の機能である思考と伝達の両面をバランスよく高め、基礎・基本を確実に定着させ、自らの生活に生きて働く国語科学習を創造していく。

#### 1 主題について

思考を練り上げるとは、言語を通して事柄と事柄等の関係を多面的に絡ませながら、価値ある内容にしていくことである。表現を練り上げるとは、事実と意見等の関係や配列を強いものにして、自分の意見を分かりやすいものにしていくことである。思考と表現を練り上げるとは、「自らの意見は読み手に訴えることができるか」と、事実と意見の関係を繰り返し見直し、説得力のある文章に高めていくことである。思考と表現を練り上げる国語科学習とは、事実と意見との関係を強めていくために、次の3つの特性をもたせて展開する学習である。①事実を選んだり配列したりするなかで、事実と意見につながりがあるかという整合性、②事実から導かれる意見に飛躍はないか、だれもが十分に納得できるかどうかという妥当性、③意見の根拠となる事実は十分か、不足しているものはないか、つながり合っているかという構造的性である。

- 解決すべき課題を自らが意識して、自分から進んで課題解決にあたり、課題に照らし合わせて理解・表現を高めていこうとする子ども (学ぶ意欲)
- 国語科や他教科等で学んだ知識・技能を駆使しながら相手の伝えたいことや情報の意味を正しく理解し、自分の解釈・評価を加えて自分の意見をつくる子ども (能力)
- つくった自分の意見が他者に認められ、言葉への有用感をもつとともに、言葉で伝え合うことができた自分に自信をもっている子ども (自信)

# 内容構成と文章構成のフィードバック活動を位置付けた授業づくり

平川 洋一

## 2 副主題について

内容構成とは、自らの意見の是非を多角的な視点から事実と意見の関係を見直しつくりあげることである。文章構成とは、説得力を増すために、まとまりの順序・中心（軽重）・構造を工夫していくことである。内容構成と文章構成のフィードバック活動とは、グループ活動や文章モデルを取り入れ自己と比較する活動を通して、自らの意見や文章の課題に気付き、納得いくまで改善していくことである。内容構成と文章構成のフィードバック活動を位置付けるとは、取材－構想の段階に、「内容構成のフィードバック活動」と「文章構成のフィードバック活動」を設定することである。内容構成と文章構成のフィードバック活動を位置付けた授業づくりとは、何をどのように書き表すかという表現目的を追究する過程において、初めの意見を支える事実を集め、選んだり並べたりしながら、説得力ある意見文を書くことができるように活動構成を工夫していくことである。具体的には、内容構成のフィードバック活動では、グループ活動（異質・同質）を仕組み、他者との考え方を比較しながら多角的に整合性・妥当性を検討していく。文章構成のフィードバック活動では、モデルとの比較活動により、効果的な文章にするために事実をどう配列するか、組み合わせるか等の構造的性を検討していくように活動構成を図る。

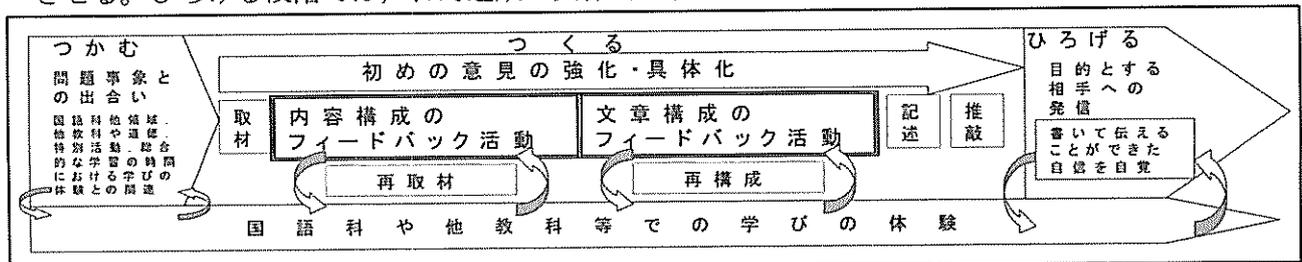
## 3 具体的構想

### ● 内容構成と文章構成のフィードバック活動の具体像

活動	ねらい	活動の詳細
①内容表現のフィードバック活動	事実と意見とのつながり、事実の不足を意識させる。	事実－意見のつながりの同質・異質グループによる吟味、体験的な事実の提示によって、自己の表現との比較させる。
②文章表現のフィードバック活動	よりよい構成の在り方への求めを生み出す。	構成モデルの提示、学級全体での構成操作による吟味によって、自己の表現と比較させる。

### ● 内容構成と文章構成のフィードバック活動を位置付けた授業づくりの具体像

- (1) 教材化の工夫を次の3点から行う。①直接体験が可能であること、②共通体験や認識をもっていること、③意見に多様性があること
- (2) 単元を、つかむ、つくる、ひろげるの3段階で設定する。つかむ段階では、追究課題をもたせる。つくる段階では、まず「内容構成のフィードバック活動」を位置付ける。同質・異質グループで吟味し合う場を位置付けたり、体験的な事実を提示したりすることで、意見の内容や根拠の不十分さを意識させ、必要に応じて再取材活動へと展開する。次に「文章構成のフィードバック活動」では、構成モデルを学級全体で吟味し、自己の結論や構成への問いをもたせ、文章の構造を意識して構成させる。ひろげる段階では、目的達成の具体的な相手や場に発信していくようにする。



## 4 指導の実際

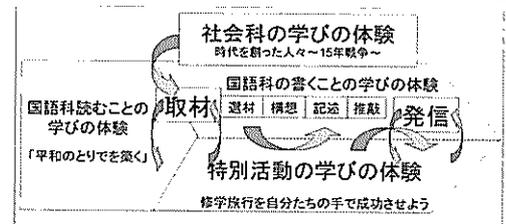
### 第6学年 単元「訴えよう、この思いを! 広げよう、みんなに!～「戦争と平和」を考える～」

#### (1) 目標

- 1 「戦争と平和」についての考え明らかにして広げたいという求めをもって、原爆投下にかかわる情報を調べること通して、「戦争と平和」について考えを深め、多面的に追究することができる。
- 2 収集した材料を意味付けて選択したり事実と事実を効果的に配列したりしながら、12才の今考える「戦争と平和」についての意見を明確にした文章に書きまとめることができる。

#### (2) 単元の考え方

- 他教科等との統合により、追究課題を生み出し、フィードバック活動を位置付けることで、①自分の意見に間違いはないか、②意見を支える事実は十分か、本当にその事実でいいのか、③効果的に訴えるためにどう構成したらいいか、という問いが深化するように活動構成を図る。
- 「内容構成のフィードバック活動」では、「同質グループによる吟味活動」、「平和の泉の碑文」との比較活動により、より体験的な材料、より具体的な結論を求めて再取材する活動を設定する。「文章構成のフィードバック活動」では、事実の配列の仕方の違いをもとに、構成モデルを提示して、学級全体で吟味する場を設定し、個で見直す場を位置付ける。



#### (3) 学習の流れ

##### つかむ段階：1～3/10時

戦争と平和についての考えを深める学習問題をつくり、初めの考えをつくる。

「人間を返せ」に出演していた被爆された方々は、思いを伝えるために、本当は出たくないのに出演していました。これこそ正に「平和のとりでを築く」ことだと思います。戦争は人々の心の中で起こることだから、わたしたちも今の思いを一人でも多くの人に伝えていきたいと思っています。

そして、わたしの初めの意見は、戦争が始まって数年で核兵器が使用され、一瞬のうちに多くの人の命を奪われたという事実から、「核兵器を廃絶を訴えよう」です。

資料1 A児の問いと初めの意見

##### つくる段階：3～7/10時

「戦争と平和」についての考えを深め、読み手の心に訴える意見文にまとめる。

つかむ段階では、国語科前単元「平和のとりでを築く」と、社会科「時代を創った人々～15年戦争～」のそれぞれの気がかりをまとめて学習課題をつくり、「戦争と平和」についての初めの考えを明らかにすることをねらいとしている。

##### 【教師の支援】

- ※ 2つの学習をもとに、その共通点から自らの行動について話し合う活動を設定した。
- ※ 「戦争と平和」に関する既存の知識・経験を出し合い、初めの意見を書きまとめる場を設定した。

##### 【子どもの様子】

- 戦争と平和に関する自分の意見を明らかにし、発信していく必要感をもつことができた。

つくる段階では、「戦争と平和」についての初めの意見をもとに、事実と意見の整合性・妥当性・構構性を高めることをねらいとしている。

初めの考え・題名  
 世界から核兵器を廃絶しよう。  
 原因（社会科からの補充）  
 なぜ戦争があるのか？  
 なぜ核兵器があるのか？  
 惨状（社会科からの補充）  
 広島・長崎の原爆  
 日本の悪い面  
 意見  
 日本は唯一の被爆国として訴えるべきである。  
 現在（既知の知識）  
 世界には今も恐ろしい数の核兵器がある  
 結論  
 いつどんな形で核兵器が使用されるか分からないことを考え、核兵器廃絶を訴えよう。

資料2 A児の初めの構想

わたしが選んだ事実と比べると、平和の碑文には訴える何かがあると思います。わたしたちも長崎に行って見学して、直接感じたことを意見文に入れると説得力が増すと思います。



戦争を止めるために、わたしたちにできることはどうでしょうか。

資料3 再取材への求めと再取材の実際

題名  
 知って、語り継いで、大きな力にしよう  
 書き出し  
 ガイドさん、おはよう。お久しぶりです。お元気ですか？  
 原因  
 どうして戦争になつてしまったのか。まいったのか。他人の幸せをふみにじることは絶対にいけない。  
 惨状  
 個人より戦争。原爆資料館で見た悲惨さ。溶けたガラス、黒いけいこ。なつた死体。二度とあってはならない。  
 現在  
 ・今も世界には恐ろしい数の核兵器が被爆国であるから世界に伝えなければならぬ。  
 結論  
 それを知らずにできること、大きな力にすることがある。

資料4 フィードバック活動後のA児の再構想

ひろげる段階：8～10/10時  
 練り上げてきた意見文を発信する。

戦争を経験した人がどんどん高齢化し、語り継ぐ人が減ってきています。でも戦争はいつでも人の心に起こるし、決してあってはならないことだから、戦争を経験していないわたしたちもいろんな人に考えをまとめて発信し、大きな力にしていくことが大切だと思います。はじめは「戦争はいけない」ということは分かっていたけれど、この学習を通して、まずは「戦争のもつ本当の意味を知ること」そして、「伝えること」で、「大きな力」にしていくということが大切だということが分かりました。

資料5 A児の学習後の感想

【授業づくりのポイント】

◎ 2つのフィードバック活動を位置付けたことで、事実と意見への問い、意見そのものへの問い、意見と文章構成への問いへと深化させながら、説得力のある文章へと高めることができた。特に、体験が可能な題材で教材化したことが、子どもの意見を深め、表現を高める姿につながった。

【教師の支援】

- ※ 「内容構成のフィードバック活動」で、意見の同質・異質グループによる交流活動、及び、「平和の泉に刻まれた碑文」との出合いにより、体験的な材料の不足、意見の不十分さを意識させるようにした。
- ※ 修学旅行において、原爆資料館・史跡等の見学、ボランティアガイドさんへの聞き取りによる再取材活動を設定した。
- ※ 「文章構成のフィードバック活動」を位置付け、事実の配列モデルをもとに、学級全体で書き出しから結びにいたるまでの構成の仕方を吟味し合う場を設定した。

【子どもの様子】

- 「内容構成のフィードバック活動」をもとに、より体験的な意見を求めて、修学旅行での再取材計画を立て、旅行地での取材、ガイドさんへの聞き取りを行い、体験をもとに事実と意見の整合性を図り妥当性を高めることができた。
- 「文章構成のフィードバック活動」をもとに、資料4のように、帰校後の再構成において、書き出しの工夫をし、具体から抽象という配列で構造化し、結論を具体化することができた。

ひろげる段階では、意見文を発信し、達成感や満足感を味わうことをねらいとしている。

【教師の支援】

- ※ 追悼祈念館や原爆資料館へと意見文を発信し、学習後の感想を書きまとめる活動を位置付けた。

【子どもの様子】

- 取材中に得たガイドさんの言葉を取り上げ、自らの意見と感想をまとめることができた。

## ○ 社会科学習の構想

# 社会の一員としての価値判断をする社会科学習

## ○ はじめに

社会科において豊かな学びとは、子どもたちが出合った社会的事象とかかわるなかで、自分の方法で知識や技能を身に付けたり、それらを選択し、組み合わせたりすることで学び取ったことを実社会、実生活に活用していくことである。2008年1月に出された中教審答申では、よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培うこと、そのための知識・技能の確実な習得とそれらを駆使して得た情報を比較、関連づけ、総合化できるようにするなどが改善の具体的事項として示された。つまり、これからの社会科は、知識の習得を重視しながらも、それらをもとに新たな知識を活用する学びを展開していく必要がある。そこで、子どもたちが出合った社会的事象にかかわるなかで「知りたい」「解決したい」「創りたい」といった思いや願いをもち、見通しをもって追究するなかで知識や技能を身に付けつつ、よりよい社会の実現に向けてそれらを活かしていく学習を意図的、計画的にカリキュラムへ位置付ける必要があると考える。

## 1 主題について

社会の一員としての価値判断するとは、よりよい社会のあり方を求めて方策を考えたり、根拠をもとに自分の立場を明らかにしたりすることである。具体的な姿として、社会的事象と出会い、解決したい問題を発見する姿、追究活動で得た情報から考えを深める姿、学んだことから自分の生活を見直す姿が考えられる。そのためには①判断するための情報を収集する力②情報を正しく読み取る力③解決に向けて立てた仮説に合う情報を取捨選択する力を育成する必要がある。

社会の一員としての価値判断をする社会科学習とは、実社会と出合って生み出した問いを追究したいという願いをもち、どちらがよりよい社会の実現にするのかを決めたり、社会のしくみやかかわる人の思いや願いに価値付けを行う学習の構想である。そのためには問題の原因を現地に足を運んで情報収集したり、他者と自分の考えを比較したりして、考えを深めていく必要がある。また、そのなかで集めた情報を選択したり、組み合わせたりして、自分の考えをつくることで解決の方途を明らかにしたり、多くの人が賛同する考えをつくっていき学びが求められる。

- 社会向上に努力する人々の思いや願いに寄り添い、その価値を追究する子ども (学ぶ意欲)
- 事実をとらえ、構造化し、価値付けすることで社会向上のあり方を考える子ども (能力)
- 社会を形成する一人としての信念をもって生きようとする子ども (自信)

# ～実社会での検証活動を行う授業づくり～

高瀬雄大

## 2 副主題について

実社会での検証とは、写真や統計資料などの情報だけではわからない社会的事象を、それが起きている現地の観察、調査によって確認したり、新たな事実を発見したりすることである。実社会での検証を取り入れることで、地理的、社会的な状況や変化、そこに暮らす人の思いなどを実感をともなうとらえることができ、社会向上に向けての価値判断をおこなうことができるよさがある。

実社会での検証活動とは、よりよい社会実現に向かって立てた考え（仮説）の有効性を明らかにするために行う活動である。仮説の有効性を検証するためには、文献・写真などの資料と、現地でしか得られない情報（そこで暮らす人の思い、地理的、歴史的変遷など）を収集し、それらを比較・関連するなどの分析を行って、他者と結果を交流する必要がある。

実社会での検証活動を行う授業づくりとは、学習問題の解決に向けて立てた仮説の有効性を確かめることを通して、よりよい社会の実現に寄与する価値判断を行う学習の構想である。具体的には社会的事象と出会い、学習問題を設定する「出会う」段階、情報収集、分析を行って友達と交流し、価値判断を行う「探る」段階、判断した考えで実社会を振り返る「高める」段階によって構成される。

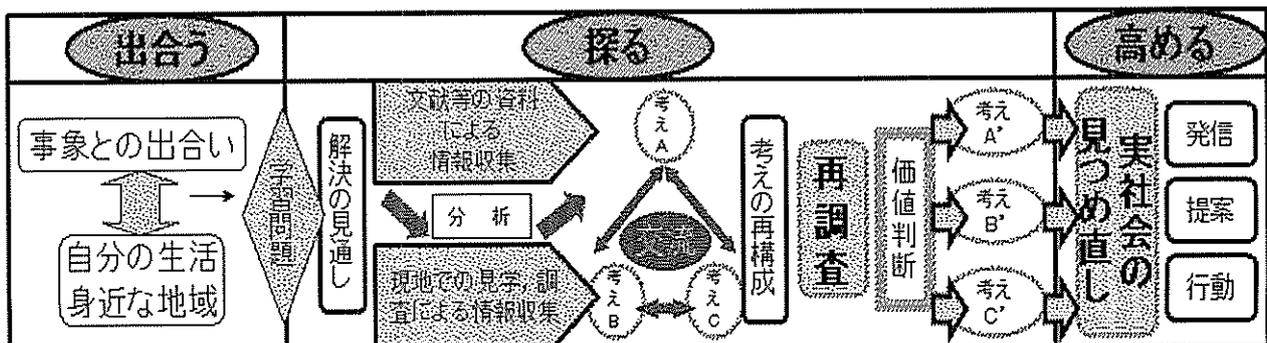
## 3 具体的構想

### ● 実社会での検証活動を行う授業づくりの教材化について

出合った社会的事象が自分たちの生活に強くかかわっていることから、解決したい、明らかにしたい課題を生み出し、そのための問いをつくりだすことができることや、現地を実際に観察、調査、体験によってとらえることで、強い実感をともなう理解を深めることができる。

### ● 実社会での検証活動を行う授業づくりの活動構成

まず、「出会う」段階において、提示した資料などの驚きや疑問から追究課題を設定し、解決のために明らかにしたい問いをもたせる。次に「探る」段階において、個々の追究に必要な資料や現地での活動を通して情報収集、分析を行い、友達と交流することで自分の考えを再構成し、価値判断を行う。最後に「高める」段階では価値判断したことから学習した実社会を見つめ直し、社会の一員としての自覚を深めさせていく。



第5学年 小单元「考えよう! ぼくらの菰川浄化プラン」

(1) 目標

- 1 汚れた河川をきれいにしようと努力する人々の思いや願いに寄り添い、自分たちの生活と自然環境のかかわりの大切さについて追究することができる。
- 2 公害をなくした事例について調べ、有効性や課題を明らかにしながら菰川を浄化することに有効かどうかを追究することができる子ども

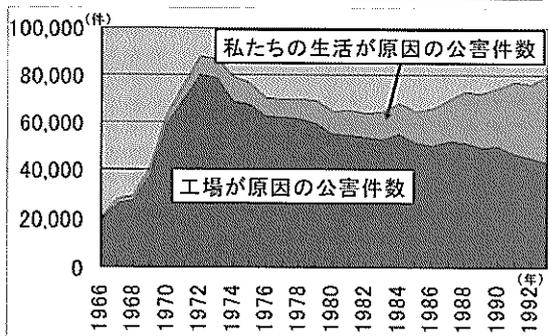
(2) 小单元の考え方

- 私たちの生活が原因で起きている都市型公害をなくしていきたいという切実な思いをもたせることで、実際に川をきれいにする取り組みの難しさを実感させる。
- 生活廃水で汚れた菰川の水質をよくするための方法を全国の河川浄化の事例を参考にして追究したり、実際に菰川での浄化活動を体験したりして考える。

(3) 学習の流れ

出会う段階： 1～5/11時

菰川の水質汚染の状況から、新たな公害したい意欲をもつ。



資料1 都市型公害が増えていることを表したグラフ



菰川は、明治通りに近いほど水が汚れているね。人が多いところほど生活廃水が流れ込む量も多いんじゃないかな。

出会う段階では、水俣病などの企業型公害が法の整備や技術開発によって減少傾向にあるなかで、増加している都市型公害によって私たちの生活する環境が脅かされていることに気付くことをねらいとしている。

【教師の支援】

※ 都市型公害が増加する傾向にあるグラフを掲示したり、実際に生活廃水で汚れている菰川を見学したりして、自分たちの生活が原因で環境を破壊していることの深刻さに気付き、学習問題を設定した。

【子どもの様子】

- 多くの被害者を出した水俣病などの公害が減っているにもかかわらず、自分たちが公害をつくっていることに大きな問題意識を感じることができた。
- 菰川の様子を見学したり、水質調査をしたりして水の汚れを実感し、きれいにするための方法について考える学習問題を設定することができた。

### 探る段階：6～9/11時

菰川を浄化するために先進事例を参考にして個別の追究を行い、解決方法を比較検討する。



菰川は下水が流れ込んでいるから汚れているんだな。

他の地域ではどうやって汚れた川をきれいにしているのかな。



### 高める段階：10～11/11時

菰川浄化プランを実行して都市型公害の解決に向けた価値判断を行う。



完全に水質がよくなるには相当時間がかかりそうだ。

一度汚れた水をきれいにするのは大変だと思いました。だから、川を汚さない生活をしていく必要があると思います。そしてそのことを多くの人に呼びかけていきたいです。

資料2 活動後の感想

## 【 考 察 】

- ◎ 生活廃水で汚れた河川と実生活の結びつきをとらえさせたことで、子どもたちは切実感をもって学習問題の解決に向かい、やってみたい方法を広げたり深めたりしながら追究することができた。
- ◎ 水質浄化の仮説に対する有効性を探る検証活動を行うことを通して、情報収集、分析、交流をくり返し、市民一人一人の行動しか公害をなくせないという価値判断を行うことができた。

探る段階では、公害の防止は関係する諸機関が協力して行う必要があることや、その前提として公害から自然環境を守るには私たち一人一人の協力が必要があることをとらえさせることをねらいとしている。そのために菰川を浄化するための有効な解決策について個別に追究して友達と比べ、河川を浄化するための取り組みのよさや問題点を明らかにする活動を行った。

### 【教師の支援】

※ 河川浄化に詳しい福岡大学の渡辺先生や付近に住む人の話から生活廃水による水質汚染が40年ほど前から深刻であることに気付かせた。

### 【子どもの様子】

- 菰川の水質汚染について調べ、浄化に向けての方法を追究することができた。

高める段階では、資料による情報収集活動で明らかになった問題点に対して再追究を行い、自分たちの解決方法を実行し、実際に自分達の方法で菰川をきれいにすることができるかどうかを明らかにすることをねらいとしている。

### 【教師の支援】

※ 自分達が追究した浄化方法を実際に菰川で実行させ、水質の変容を確かめた。

### 【子どもの様子】

- 川の水質がそう簡単によくならないことから水を汚さないで生活することが一番大切なことであることに気付くことができた。
- 下水道局やボランティア団体の取り組みの重要性について理解することができた。

## ○ 算数科学習の構想

# 筋道立てて数理を活用する算数科学習

## ○ はじめに

算数科において豊かな学びとは、これまでの経験や知識をもとに身の回りの事象を算数の舞台にのせて考察し、身に付けてきた知識や技能を組み合わせることで発揮し、物事を考えながら問題解決を図り、生活の中で活用できるといった実感を伴うことである。つまり、身の回りの文脈にある課題から帰納的、類推的に考え、解決の見通しをもち様々な現実的な課題事象にも対応することができるような数学的な活用力、実践力をもちそなえた状態であると考えられる。そこで、算数科では、数学的な内容の獲得をねらいとするだけでなく、数学的な考え方をもとに解決の見通しをもつことを重視するのである。このように、これからの算数科では、実生活場面の課題を把握し、帰納的、類推的な考え方を活用しながら数理を獲得するとともに、数理の適用範囲を算数の学習場面だけでなく生活の文脈の中で使えるまでに拡張させていくことが重要である。

## 1 主題について

筋道立ててとは、これまでの学習の経験や知識をつかって帰納的に考えたり、類推的に考えたりしながら、方法的、結果的な見通しをもって解決に向け、思考をしている数学的な態度である。これは、実生活における課題解決を行うときにも、数図を抽象化して数学的に解決を図ることができるようにして、これまでに獲得した数理を帰納的、類推的な考えを使っていくことである。

数理を活用するとは、課題解決のための数量、図形の原理・法則をとらえ、獲得した数理を組み合わせたり、選択したりしながら新たな数学的な見方・考え方を広げたり深めたりしていくことである。実生活場面の課題を、これまでに獲得した数理の統合化を図りながら解決し、新たな数学的な見方・考え方をさらに一般化に向け利用することができるようになることである。筋道立てて数理を活用する算数科学習とは、実生活の場面の課題を数学化して、既習経験や知識をもとに見通しをもち、習得した数理を状況に応じて自ら条件や数値を変えながら課題解決を図り、数理を生かすことができたことに自信を深めていく問題解決をする学習のことである。そのために、数理を状況に応じて活用することができるような場面設定をして、数値を変数にしたり、数理を生活場面に当てはめ不足する条件を見抜いたりして課題解決の足がかりとなる数量、図形を読み取っていく場が大切になると考える。

- 実生活場面の問題に積極的に働きかけよりよい生活にするために算数を生かす子ども (学ぶ意欲)
- 既習の数理を組み合わせたり、選択したりしてより簡単により明確に表現し考える子ども (能力)
- 獲得した数理を実生活の問題事象に活用して解決することができた満足感を味わう子ども (自信)

# ～製作活動を取り入れた授業づくり～

永尾 健

## 2 製作活動を取り入れた授業づくりについて

製作活動とは、数理を使って解決が可能な生活場面にある表現物を製作することである。製作活動を行うことによって数量・図形の原理、法則、意味理解が確かになるとともに、獲得した知識や技能を繰り返し用いることによって、知識・技能を確かにすることができるのである。製作活動を取り入れた授業づくりとは、算数の内容を含んだ物作りを活動の中心に据え、知識・技能を獲得させたり、表現活動に活用させたりする授業づくりのことである。この製作活動では、大きく2つの製作活動で構成する。1つは、製作活動1として数理の習得段階として位置付ける。2つめは、製作活動2として、製作活動1で獲得した数理を活用する段階として位置付ける。製作活動2は、製作活動1で獲得した数理を繰り返し用いることによって知識・技能の習熟が図られる。また、製作活動1でできた表現物の不十分さや不確定なことを解決するために獲得した数理を用いるために新たな数学的な見方・考え方ができるようになる活動であることも特徴の一つである。

## 3 具体的構想

### ● 製作活動を取り入れた学習の教材化の工夫

- 多様性…多様な解決方法があり、解決には複数の数理を含んだ事象
- 活用性…複数の数理内容を実生活場面に生かし、用いることができた充実感を伴う場面の設定
- 関連性…製作活動1と2に条件不足や不十分さが認められそれを補う見方・考え方のできる事象

### ● 製作活動を取り入れた活動構成の工夫について

活動構成の工夫について、まず、「見いだす段階」では、モデルとなる表現物を提示し、自分なりの表現の目的をもつ。次に、「試みる段階」では、製作活動1として知識・技能の獲得を図る。「ひろげる段階」では、製作活動2として製作活動1で製作した表現物の不十分さを補うために、状況が変わった場面においても獲得した数理を用いて課題解決を図っていく。

【表1 製作活動を取り入れた活動構成の工夫】



## 4 指導の実際

### 第4学年 単元「社会にやさしい角度をさがそう～ユニバーサルデザイン計画～」

#### (1) 目標

- 1 身の回りにある事象と角度とを関わらせ、角度を生かして社会に優しい角度をつくることに関心をもって取り組むことができる。
- 2 角度の単位を知り、分度器を使って傾斜角を図るための計器をつくることができるとともに、製作物（ユニバーサルデザインマップ）を作るために角度のかき方を生かすことができる。

#### (2) 単元の考え方

- 傾斜というものが何をもって決まるのかといった疑問から、角度への問いを広げ、角の意味を捉え、角の測定方法、角のかき方へと問いの拡充をしていく。（製作活動1）
- 登頂のためのコース選択ができるようなユニバーサルデザインマップづくりを位置付け、角度という量の保存性を活かして西公園の傾斜角を測定することができるようにする。（製作活動2）

#### (3) 学習の流れ

##### 見いだす段階： 1/9時

西公園をだれもが集まる場所にするための工夫としてのユニバーサルデザインマップづくりをする課題づくりを行う。

おじいちゃんやおばあちゃんなどには、きつい角度などがあり何か手伝えることをしたいと思います。

資料1 総合的な学習「おじいちゃん、おばあちゃん応援生活」の感想



ぼくたちがいつも遊んでいる西公園をおじいちゃんやおばあちゃんと一緒に散歩できたらいいけど…。

##### 試みる段階： 2～6/9時

ユニバーサルデザインマップづくりの一つとしての製作活動1において西公園

見いだす段階では、西公園の角度を目的に応じて選択しながら集える場所にすることができるようにするために「西公園ユニバーサルマップづくり」をすることを課題として捉えることをねらいとしている。

##### 【教師の支援】

※ 他の地域にあるユニバーサルデザインを提示した。また、総合的な学習「おじいちゃん、おばあちゃん応援生活」から、階段や傾斜など、段差などを解決するといった問いをもたせた。

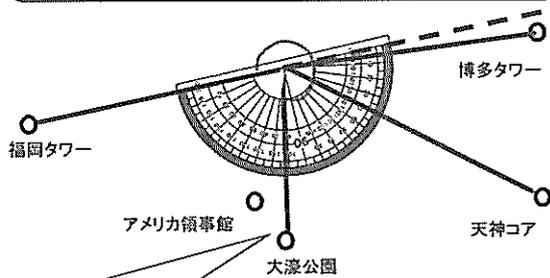
##### 【子どもの様子】

○ 子どもたちは、総合的な学習「おじいちゃん、おばあちゃん応援生活」からの課題にあった「おじいちゃんやおばあちゃんのために役に立ちたい」という思いから「角度とは…」という問いをもち、学習課題をもった。

試みる段階では、西公園からの眺望を紹介するためのマップづくりの中で、角度の意味や回転角の測定方法を理解することをねらいとしている。

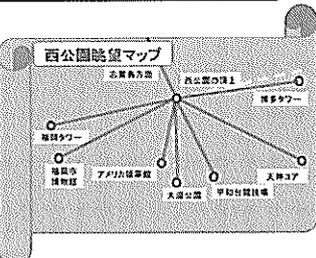
##### 【教師の支援】

の頂上から眺望を紹介するマップづくりをする。



180°、360°に近い角度の測定の工夫

場所	角度	場所	角度
福岡タワー	65	博多タワー	185
天神コア	220	大濠公園	255
大濠公園	280		

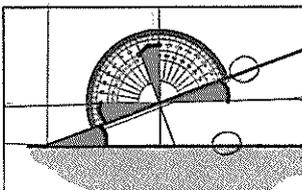


この頂上から眺めると、福岡タワーの360°に近い角度がわかる。

資料2 西公園の頂上から見える周辺の位置を書いた学習ノートと地図

広げる段階：7～9/9時

西公園登頂のコース設定を行うためにあらゆるコースの傾斜角を測定する。



資料3 補助線を入れて傾斜角と同じ間を探す子どものノート

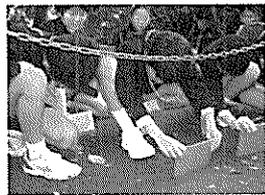


写真1 西公園の傾斜角測定器で傾斜角を測定する子ども

私は傾斜角の測り方を自分で作って、色々な場所をはかたことと、きまりと使って星形をつくったことかおれろかたてて、そして西公園の歩行コースと登山コースをつくったことも楽しかったのて、パンフレットが、使われるようにしたいと思いました。

**【考察】**

- ◎ 傾斜角を測定するために二辺の開き具合によって角度を測定できるという既習の教理から傾斜面とはちがうもう一辺見えない辺を補助線を入れることによって見えるようにして傾斜角を測定できるようになったのは、状況のちがう場面設定の中で製作活動1、2を設定したからであると考え。
- ◎ 製作活動1において、二辺の開き具合をもとに角度の測定技能を高めることができたのは、西公園の眺望を正確に、さらに効率よく角度を測定することを目的としたユニバーサルデザインマップづくりを位置付けたためであると考え。

※ 正確な位置を押さえるために、福岡タワーを0°として、基準を取らせた。

※ 180°を超えたばかりの地点の博多タワーの測定方法や大濠公園やアメリカ領事館など360°に近い回転角の測定方法などを考えさせる場の設定を行った。

**【子どもの様子】**

- 博多タワーが福岡タワーの正反対よりも、少し角度が付いて185°に位置していることから、福岡タワーの正反対の180°のところに補助線を入れて、残りの角度を測定すれば測定しやすいことが分かった。また、大濠公園を測定する際も、大濠公園から残りの福岡タワーまでの角度を1回転360°から差し引いて正確な角度を測定することができた。

広げる段階では、角度という量の保存性をもとに傾斜角を測定することをねらいとしている。

**【教師の支援】**

※ 傾斜を測定するためには、傾斜面と角度を成すもう一辺をどこに取ればいいのかを考えさせるために、傾斜角の測定器を製作する場を設定した。

※ 見えなかったもう一辺が見えるようにするために補助線を入れさせた。

**【子どもの様子】**

- 傾斜面と本来ある水平面が成す角度によって傾斜角が分かることから、水平面を平行移動させ対頂角をとらせ、さらには、水平面に対して垂直な線と傾斜面の垂直な線とが成す角度が傾斜角度であることが分かったとともに、量の保存性があることをとらえることができた。

## ○ 理科学習の構想

### 科学的な思考力を発揮する理科学習

#### ○ はじめに

理科では、子どもに身近な自然の事物・現象を対象とした科学的な見方・考え方を育てていくことが究極の目的である。しかし、昨今、子どもたちの科学的な見方や考え方について、観察や実験の結果から自然現象とその要因との関係を考察することが不十分であるといった実態が問題となってきた。これは、自然を調べる目的や見通しをもたずに活動し、学んだつもりになっていることが原因と思われる。また、中教審では、基礎・基本を習得し、それらを活用する学習が大切であるとしている。基礎・基本を習得し、活用していくためには、自然と出会い、解決しなければならない自然事象とその要因との関係を自らの問題として認識し、解決するまでの見通しをもち、納得のいくまで繰り返し自然にはたらきかける問題解決学習が有効である。

#### 1 主題について

科学的とは、自然を調べる対象が実証可能であること、自然現象が実験などで再現可能であること、事実に即した考察が学級の誰もが納得できる条件を満たしたものである。科学的な思考力を発揮するとは、既存の体験をもとにイメージを再現し、再現した視覚イメージを描写・移動・変形などの操作を行ったり2つの事象を比較したりする思考が、科学的な条件を満たされた手続きのなかで行われることである。科学的な手続は、自然との出会い→問題把握→予想や仮説→観察・実験・飼育・栽培・調査→結果処理→考察→一般化→活用といった一連の過程である。科学的な思考を発揮することで自然のきまりや規則性を習得し、それらを対象の量、形、質、条件、位置関係などを変えて確かめたり、自分の課題を達成するためのものづくりなどに活用したりすることができるのである。科学的な思考力を発揮する理科学習とは、自然を調べ、納得のいく応えを見出すことで科学的な見方や考え方が高まるという意味で意義深い。そのためには、物質の構造に着目したり、自然事象の連続や広がりを意識したりして思考するとともに、自他共に考えの共有が出来るように具体化していく必要がある。

- 自分の問題を自力解決することで知的好奇心が満たされ、知的葛藤が解消されることで自然のきまりの有効性を実感し、科学的に調べるよさを味わうことができる子ども (学ぶ意義)
- 自然事象と出会い、認識のズレと他者との対立から問題を見出し、見通しをもって観察・実験することで調べ、自然のきまりや学び方を習得していく子ども (能力)
- 習得した自然のきまりや規則性、探究方法を対象や条件を変えて適用したり、ものづくりなどに活用したりして自力解決できた自分の姿に有能感を味わうことができる子ども (自信)

# ～観察・実験・追試に説明活動を位置付けた授業づくり～

今 泉 伸 一 郎

## 2 副主題について

説明活動とは、①自然事象とその要因との関係を視覚イメージを手がかりにモデル図や言語で表すこと、②イメージを表出したモデル図をもとに自分の考えを相互に伝え合うことである。観察・実験・追試に説明活動を位置付けるとは、観察・実験・追試の①自然事象とその要因との関係付けを出し合いズレや対立から解決すべき共通の問題として認識していく場面、②個人やグループ内で調べた結果をもとに自然事象と要因との関係付けを確かめ、考えの変更や一部修正を行う場面、③結果から考察されることを一般化していく場面に説明活動を行うことである。観察・実験・追試に説明活動を位置付けた授業づくりとは、子どもが知的好奇心を高めて自然に意図的に繰り返しかかわり、問題解決のための科学的な方法や手続きを経ることで科学的な見方や考え方が高まっていく構想である。

## 3 具体的構想

### ● 教材化の工夫

素材の選定	問いが深化・拡充していく課題性
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既存の生活経験の差等から多様な考えの表出が期待でき、認識のズレや考えの対立が生じる自然事象</li> <li>・ 共通点や差異点がとらえやすく、視覚的に観察できる自然事象</li> <li>・ 発達段階を考慮した時、観察・実験などで実証することが可能な内容</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の生活や周りの環境を見直したり、広く調べたりしたりして解決できるテーマ</li> <li>・ 自然のきまりと科学的な方法を量、形、類、位置関係、はたらきかける要因や条件を変えて適用して解決できる課題、または、追試</li> <li>・ 科学的な方法と自然のきまりや関連する情報等を補完することで達成できるものづくり（1・2区分）</li> </ul>

### ● 活動構成の工夫

	つかむ段階	つくる段階	ひろげる段階
主な活動と内容	1 生活場面の自然現象を取り出し、考えの違いについて話し合う。 ○ 体験の共有化 ○ 自他の考えの比較による問題の焦点化	2 問題となる自然事象を既存の考えをもとに観察・実験・追試を行って調べる。 ○ 事象と要因との関係に絞った問題認識 ○ 予想や仮説、解決の見通し ○ 観察・実験の結果の考察を行うことでの考えの確証、反証及び仮説の再構成 ○ 自然のきまりや規則性の一般化	3 追試、自然のきまりの適用、ものづくり等の個別課題を達成する。 ○ 自然のきまりや規則性の適用による自然のきまりや規則性の確認 ○ 新たな視点での探究による科学的な見方や考え方の高まり ○ 科学的な学びのよさの感受
支援	※ 自然事象とその要因についてズレや対立が予想される事象提示と説明活動 ※ 共有体験の位置付け ※ 事前の実態調査	※ 事象と要因を視覚化する提示の工夫 ※ 手続きや観察・実験の技能的な指導 ※ 自然事象とその要因との関係を説明し定義する用語の伝達 ※ 事象と要因との関係付けに必要なキーワード、表現物の作成、具体物の活用	※ 自ら問題解決できるため適切な情報の提供、技能面での困難を回避する助言 ※ 獲得した科学的な見方や考え方を適用できる探究対象の紹介と自己選択の場の設定

## 4 指導の実際

### 第3学年 単元「あかりのくにへようこそ ～豆電球とかん電池～」

#### (1) 目標

- 1 「あかりのくに」の光ファイバーや豆電球を使った装飾やおもちゃを作りたいという求めをもち、電気のきまりを調べ、光ファイバー装飾や豆電球のおもちゃ作りに活用することができる。
- 2 豆電球、乾電池、導線が1つの輪になっていると電気が流れ豆電球がつくこと、ものには電気を通すものと通さないものがあることがわかる。

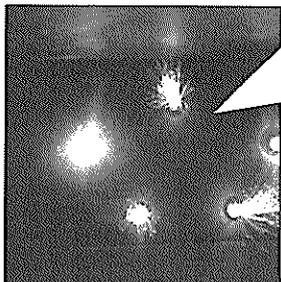
#### (2) 単元の考え方

- 「あかりのくに」のものづくりへの求めをもち、問題を科学的な思考をはたらかせて解決していくなかで電気のきまりと学び方を習得させる。さらに、習得した電気のきまりを他の事象で試したり、電気のきまりを活用したものづくりをしたりしながら科学的な思考を発揮して豆電球の点滅現象や遠隔操作のしくみを調べ、電気についての見方・考え方を高めていく。

#### (3) 学習の流れ

##### つかむ段階：1/9時

自分達も美しい「あかりのくに」を作りたいという求めをもち、



「あかりのくに」はとてもきれい。よく見ると豆電きゅうとかん電池を使っていました。これだとわたしにも作れそうです。

##### つくる段階：2～5/9時

電気の通り道のきまり、電気を通すもの通さないものがあることを習得する。



この図とこの図は同じ考えだと思えます。わけは、導線の長さは違うけれどつなぐ場所が同じだからです。

つかむ段階では、豆電球の「あかりのくに」を作る求めをもち、同時に豆電球に明かりをつける見通しをもつことをねらいとしている。

##### 【教師の支援】

※ 「あかりのくに」の美しさやおもしろさに出合わせ、ミニチュアの配線部の大まかなしくみを観察させる。

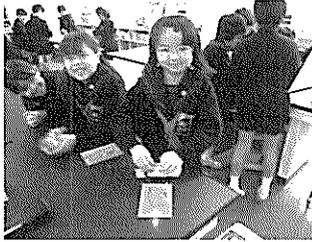
##### 【子どもの様子】

- A児は、ものづくりに求めをもち、これがわかる。これは豆電球に明かりをつけることや豆電球の点滅に間いをもち、知的好奇心や目的をもつことができた姿である。

つくる段階では、電気の通り道に電気が流れる条件とものには電気を通すもの通さないものがあることを習得することをねらいとしている。

##### 【教師の支援】

※ 豆電球に明かりがつける方法を調べる活動で簡略モデルを用いて考えをつくり、共通点に気付かせる説明活動を設定する。そのことで見通しをもって実験を行う。



あっ豆電球に明かりがついた。ということは、アルミでできているものは電気を通すんだね。

資料2 A児のノートから

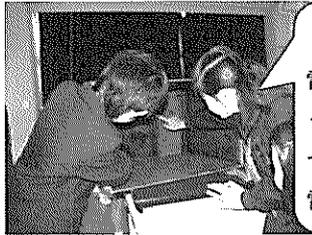
かん電池のプラスきょくとーきょくにどう線をつないだらいいと思っていたけれど、つなぐ場所のはんが思ったより広がった。

資料3 A児のノートから

ものには電気を通すもの通さないものがある。電気を通す空きかんに電気が通らないのは電気を通さないもので空きかんがおわれているから。

ひろげる段階： 7～9/9時

2つの電気のきまりを活用し「あかりのくに」のものづくりを行う。



長い導線を使っても豆電球に明かりがつくだろうか。電気の通り道が1つの輪になっているから電気は流れると思う。



光ファイバーと豆電球を使って明かりをつけて電気フラワーを作ろう。遠くから操作して見ている人を驚かそう。

資料4 A児のノートから

どう線が長いと遠くからスイッチを入れることができないと思ったけど、突さいに突けんしてみるとちゃんと豆電きゅうに明かりがついたので電気は通っているのです。

### 【教師の支援】

- ※ 電気を通すもの通さないものについて考えの対立が起こる交流を行い、見通しをもって実験を行うようにする。
- ※ 電気のきまりにズレを生じる金属でできているが簡易テスターが反応する時としない時がある空き缶を提示し「問い」を深化させて調べていく活動を設定する。

### 【子どもの様子】

- 資料2から対立から生じた「問い」を解決し自然認識の枠組みを変えていることがわかる。
- 資料3からズレから生じた「問い」を自然のきまりを活用して解決していることがわかる。

ひろげる段階では、電気のきまりを活用して自らの課題を探究することをねらいとしている。

### 【教師の支援】

- ※ 電気を通すもの通さないものや豆電球の点滅のしくみについて調べる活動でももの素材に着目できるようないくつかの結果を比較検討していく説明活動を設定する。
- ※ 電気のきまりを活用したものづくりの活動を設定する。

### 【子どもの様子】

- 資料4のA児のノートの記述から、子どもが、これまでの実験と違う10mもの長い導線でも豆電球に明かりがつくわけは、どんなに導線が長くても電気の通り道が1つの輪になっているから電気が流れているので豆電球に明かりがつくと説明していることがわかる。

### 【考察】

- ◎ 「あかりのくに」のサンプルを提示し、豆電球と乾電池による簡単なしくみを観察させたことから自分でもできそうだという見通しと意欲を高めることにつながった。
- ◎ 豆電球に明かりをつけるにはどうしたらよいかという問いと電気を通すもの通さないものは何かという「問い」をもたせるようなしくみのある豆電球のおもちゃ作りを位置付け、そのことを調べる際、豆電球が点滅するおもちゃの仕組みを調べる活動など「問い」が深化するしくみを単元の中に位置付けることで習得した自然のきまりを活用することができた。

## ○ 音楽科学習の構想

### 自ら音楽表現を高める音楽科学習

#### ○ はじめに

音楽科において豊かな学びとは、自分が表現したい楽曲のイメージが伝わるような演奏の仕方を身に付けたり、表現方法を工夫したりすることである。そのために、表現及び鑑賞の多様で幅広い音楽の直接体験を通して、音楽の美しさに感動したりあこがれをもったりして、「自分でも演奏してみたい。」や「どうして～な感じがするのだろう。」「～な感じにするには、どうしたらいいのだろう。」といった音楽表現への求めや問いをもち、音楽を構成する要素を感じ取る力を育てる必要がある。このことは、生活に潤いをつくり出すことができる力を高めていくことにもつながると考える。

#### 1 主題について

自ら音楽表現を高めるとは、出合った楽曲とのかかわりの中からとらえた音楽的特徴を工夫して、「もっと、～な感じに表現したい。」というこだわり（表現主題）のある音楽をつくり出していくことである。そのためには、音楽を求める学ぶ意欲、楽曲の音楽的特徴を聴き取る力、表現するための技能が必要となってくる。このとき、音楽的特徴の工夫の仕方には、一人一人の具体化された表現主題によって多様になってくる。ここでいう表現の工夫とは、表現要素を変化させたり（強弱・速度等）組み合わせたり（リズムパターン、音色等）することである。ここに創造性が発揮され、自分の求める表現を吟味しながら、主体的に表現をつくり出していくことになる。

自ら音楽表現を高める音楽科学習とは、子どもが、「表現してみたい。」と感じられるような、美しさや感動のある音楽との出会いがあり、「どうしたら、～な感じに表現できるだろうか。」という問いをもち、思いを実現できるような音楽的特徴を感じ取る力を習得したり活用したりすることができる場を段階的に位置づけた学習構想のことである。そのために、音楽的観点を根拠とした多様な表現と出会い、感じ取ったことを生かして、繰り返し音を試したり、友達と聴き合ったりしていく活動を展開していく必要がある。そうすることで、それぞれの表現のよさを感じ取ったり、新たな表現への求めが生まれたりして、音楽的特徴を根拠とした問いをつくり出すことができると考える。また、この問いをどの学習過程のどのような場面でつくり出さなければならないのか考えていかなければならない。このように自分で問いをつくり出し、思考、表現していく創造的な活動が必要となる。

- 音楽の美しさ・楽しさを感じ取り、繰り返し音とかかわって自分の求める音楽を見出している子ども（学ぶ意欲）
- 音楽に対するこだわりをもって、表現をつくり出すために表現方法を獲得していく子ども（能力）
- 学習したことを生かして、自分の生活をより潤いのあるものにしようとする子ども（自信）

# ～新たな表現への求めをもつ比較鑑賞活動を位置づけた授業づくり～

有川陽子

## 2 副主題について

新たな表現への求めをもつ比較鑑賞活動とは、①特徴となる音楽的要素が異なる楽曲の演奏を比べる。②比較鑑賞から感じた曲想の違いや想像したことを交流する。③交流したことをもとに、演奏体験をする。①～③の一連の流れのなかで音楽的特徴に着目し、自分の求める表現を追究していく活動のことである。

新たな表現への求めをもつ比較鑑賞活動を位置づけた授業づくりとは、音楽に対するあこがれや求めをもたせたり追究意欲をもたせたりするために、特徴となる音楽的要素が異なる楽曲を比較し、表現の多様性に気付かせ、表現要素を工夫したり、奏法など総合的な表現の質を吟味したりする活動を段階的に位置づけた学習過程を構想していくことである。

## 3 具体的構想

### ● 教材化の工夫

楽曲選択として、あこがれや感動を感じ取ることができる楽曲、音楽的特徴が聴き取りやすく工夫可能な楽曲、学習で学んだことを生かして自分たちで演奏することができる楽曲を考える。また、比較鑑賞活動の具体像として、比較鑑賞活動を①、②、③の順に行っていくものとする。それぞれのねらいを、音楽へのあこがれをもつための比較鑑賞活動①、多様な表現との出会いから表現内容を深める比較鑑賞活動②、奏法の観点から音楽の楽しみ方を見出す比較鑑賞活動③とする。比較対象としては、演奏形態、曲想（音楽的観点）の違うもの、身体表現、奏法の違うものをCD、DVD、VTR、教師、友達の演奏等を使って行う。

### ● 活動構成の工夫

「である」「つくる」「ひろげる」段階の3段階で構成する。特に、「である」段階に、比較鑑賞活動①、「つくる」段階に、比較鑑賞活動②、③を位置づける。

段階	である段階	つくる段階	広げる段階
活動	楽曲を比較する。	表現要素を比較する。； 奏法を比較する。	発表会を開く。
活動構成			
支援	※ 音楽的特徴の違う曲と出合わせ、興味や表現意欲をもたせる。	※ 観点を焦点化して、自分と友達のつくった表現を比較鑑賞させ、よさをとらえることができる場を設定する。	※ より多くの対象に発表する場を設定する。

第4学年 題材「ジャズの曲によって間奏をつくろう！」

(1) 目標

- 1 ジャズのリズムの弾んだ感じからくる楽しさを感じ取り、ジャズの楽しさを自分たちの演奏を通してみんなにも伝えたいという思いをもつことができる。
- 2 「茶色の小びん」やジャズメドレーの間奏を友達とリズムを組み合わせて、4小節～8小節のリズム伴奏をつくって学校の友達に発表することができる。

(2) 題材の考え方

- ジャズとジャズでない曲を比較鑑賞することで、ジャズの特徴をとらえたり興味をもったりする。
- ジャズのソロをつなぐ間奏を手拍子で体験することで、間奏づくりへの表現意欲をもち、曲想の違う楽曲をつなぐ間奏をつくる際の音楽的観点をとらえるため比較鑑賞をする。
- ジャズの楽しみ方をとらえるために、楽器の打ち方（奏法）に着目するための比較鑑賞をする。

(3) 学習の流れ

であう段階 1～3 / 13時

ジャズに関心をもち、ジャズの間奏をつくって発表したいという意欲をもつ。

- ・ ジャズは弾んだ感じがして楽しいな。
  - ・ 間奏を演奏して2, 4拍が強いと分かった。
  - ・ 楽器で演奏したいな。
- 生演奏によって、手拍子で間奏を打つ体験をして、ジャズの特徴をとらえさせたり、表現意欲をもたせた。

資料1 GTの先生の演奏を鑑賞した感想



2, 4拍で手拍子を打った方が曲にのれるよ。

であう段階では、ジャズの生演奏を鑑賞したり、生演奏によって1, 3拍を打つ, 2, 4拍を打つこの2種類の間奏を手拍子で参加したりする活動を通して、ジャズの特徴をとらえ、間奏をつくって表現したいという演奏意欲をもつことをねらいとしている。

【教師の支援】

- ※ ジャズに興味をもたせるために、GTを招聘し、生演奏を鑑賞する場を設定した。
- ※ 2, 4拍が強拍のビートをとらえさせたり、間奏のソロをつなぐ役目を実感させたりするために、1, 3拍と2, 4拍を実際に打って比較鑑賞させた。

【子どもの様子】

- ジャズの生演奏を自然と体を動かしたり、手拍子を打ったりして聴くことができた。
- 資料1のように、ジャズの特徴をとらえたり、次は楽器で演奏したいと表現意欲をもったりすることができた。
- 間奏の比較鑑賞で、2, 4拍を強く打つ拍のとり方を習得した。

つくる段階：4～1 2/1 3 時

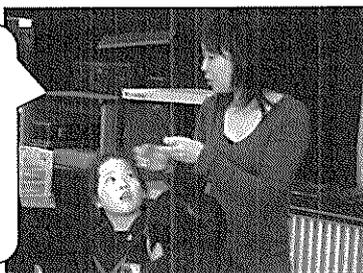
「茶色の小びん」やジャズメドレーの  
の間奏をつかって演奏する。

Drum score for '茶色の小びん' featuring a 4/4 time signature and a 1 2/1 3 feel. The score is written for four staves: ドンゴ (Drum), リスタ (Cymbal), ベンブ (Bass), and トライ (Tenor Saxophone). The notation shows a steady 4/4 rhythm with various accents and dynamics.

だんだん楽器を減らしていったら、リズムも簡単  
にしていったら、落ちついた感じになるね。

資料2 曲想の変化に合わせてつくった間奏

リズムを口ずか  
みながら演奏する  
ことが、曲にのっ  
て演奏するコツな  
んだな。



ひろげる段階：1 3/1 3 時

GTの先生と一緒に、全校に向けてジャズ  
コンサートを開く。



曲に合わせて踊り  
ながら演奏したら楽  
しいね。

コンサートでは、ワクワクして、とても  
楽しく演奏ができました。

資料3 コンサート後の子どもの感想

## 【考 察】

- ◎ ジャズを教材化したことは、ジャズの特徴である弾んだリズムや2，4拍が強拍であることに着目させ、子どもの自由な創造性を引き出すことができた。
- ◎ 比較鑑賞活動を3回繰り返したことで、段階的に自分の思いに合う演奏をしていくことができた。まず、ジャズの特徴をとらえ、どう表現していけばよいのか見通しもつことができた。次に、友達の表現と比べることで、音色、リズムの観点で新たな表現を取り入れて、曲想に合った間奏をつくりなおすことができた。最後に、奏法に着目して、曲にのった表現をしていくことができた。

つくる段階では、ジャズの曲の間奏をつかって表現することをねらいとしている。

## 【教師の支援】

- ※ 「茶色の小びん」でつくった間奏では、ジャズメドレーの間奏には合わないことをとらえさせるために、曲想の違うつながりの間奏に、「茶色の小びん」でつくった間奏を演奏して比較鑑賞する場を設定した。
- ※ 表現力を高めるために、パーカッションの先生と自分たちの演奏の仕方を比較鑑賞する場を設定した。

## 【子どもの様子】

- 「大きな古時計」への間奏づくりで、リズムを簡単にしていったり、弱く演奏していったりすることができた。
- GTの先生の演奏方法を見て、曲にのり、身体全体を使って演奏することができた。

広げる段階では、自分たちでつくった間奏を発表し満足感を味わうことをねらいとしている。

## 【教師の支援】

- ※ GTの先生と一緒に演奏する場を設定し、ジャズらしさをより実感できるようにした。
- ※ コンサートの様子を録画し、振り返りができる場を設定した。

## 【子どもの様子】

- 曲にのって、つくった間奏を発表することができた。
- コンサートで満足感を味わうことができた。

## ○ 図画工作科学習の構想

### 自他のかかわりから価値ある表現を創り出す図画工作科学習

#### ○ はじめに

新しい学習指導要領では、「生きる力」の育成については今後も継続的に取り組んでいくことになった。その中でも「創造性のある人間の育成」は重要な課題となるであろう。人は美しいもの、心地よいものを創り出していきたいと根源的に求める。それは未来志向的な求めであり、それを創り出すプロセスにおいて、あるいは創り出した結果について、自らも他からも認められたとき、自分の人間としての価値(自己効力)を見いだしたり、人間として生きることの喜び(生きがい)を見いだしたりするのである。図画工作科は、創造性をはぐくみ美の文化の継承や新たな創造の基礎を培っていくものである。そのような教科の特性から考えて、図画工作科が担う役割は、美の文化の継承や創造を通して、発想・構想力や創造的な技能といった創造性を育成し、さらに新たな文化創造への感性を高めていくことである。しかし、表現方法や表現技能の伝授により、それだけを知識として身に付けたとしても子どもたちのたくましく生きる力にはなりえない。その方法や技能を使っていく動機と目的とともに、それらを活用していく力が必要になってくる。そこで、これからの図画工作科では、他の学びと積極的にかかわりをつくりながら、自らの美を創り出していくことを通して、自分の表現に意味や価値を見だし、造形的に自分の求めを実現させていくことが大切となってくる。

#### 1 主題について

「価値ある表現」とは、自分だけでなく、他にとっても、美しさや心地よさを感じることでできる表現物を創り出すための、意味ある表現方法や表現内容のことである。「自他のかかわりから価値ある表現を創り出す」とは、自分にとってあるいは、他からも認められる造形的な美を創造していくために、自分自身や他者(もの・こと・人)と対話しながら、新たな表現の方法を見つけてそれを駆使したり(方法創造)、新たな表現の意味を見いだしたり(内容創造)しながら、自らの表現を練り上げていくことである。そのような表現のプロセスにおいて、それらを活用しながら、一人一人の創造性を高めていくことができるのである。

- 材料や造形対象あるいは他者とかかわり合うことを通して、自分にとってあるいは他者にとって、美しいもの、心地よいものを自ら意欲的に創り出していこうとしている子ども (学ぶ意欲)
- 材料と造形対象に対して多面的に特徴をつかみ、その特徴から表現の見通しをもって、形や色を構成したり、材料や用具を効果的に用いながら表現する子ども (能力)
- 自他の表現過程や表現物をふり返り、自他の表現の意味や価値を見だし、これからの自分の造形的な表現に生かしていく求めをもつ子ども (自信)

# くらしと造形をつなぐ視覚的コミュニケーション活動による授業づくり

北 田 尚 雄

## 2 副主題について

「視覚的コミュニケーション」とは、自分や自分の身近な人や身の回りの環境や材料と、双方向に對話することから、自分の考えを他者に伝えていくことである。場や空間(周囲)と作品を一体化していくためには、材料や造形対象の特徴、あるいは自分や友達の表現の意図を読み取り、その意図にあわせた表現が大切である。自分の身の回りの人やもの、環境を、自分の表現に取り入れながら、新たな表現内容や表現方法を生み出していくことで、自分にとって美しいもの、おもしろいもの、心地よいものを創り出していく活動になるのである。それにより、自他にとって価値のある作品となり、それを創り出した達成感や効力感を味わうことができる。色や形に意味をこめて表現する、想像をめぐらし、自分なりに考えて意味を見いだそうとする、対象を自分なりにとらえて表現するという活動は、創造的な思考を培いながら、繰り返し技能を駆使し、活用できたという自分への効力感を感じることができる。

## 3 具体的構想

### ● くらしと造形をつなぐ視覚的コミュニケーション活動の題材の条件について

子どもにとって魅力ある学びを具現化していくために、子ども一人一人の内発的な学びの意欲を引き出すことが大切である。そこで感性に訴えかける学びが展開できるように題材を選定する。

- 造形活動を行う上で、学習者全体に共通の目的(テーマ)、共通の対象物あるいは造形空間があり、それぞれの学年にあった、創造的な思考力や技能が高まるような材料を用いていく題材
- 学ぶ見通しや手順が明確で、「こうやってみたい」「こうすればどうか」など意欲を生み出す題材
- 身の回りのものや場所、環境とのかかわりから、新たな表現内容や表現方法が生まれたり、造形活動にかかわる人と、お互いの表現について積極的な情報交流が期待できる題材
- 創り出し表現や作品がくらしのなかで活かされるとともに、その美しさや心地よさが造形的な感性を高めていく題材

### ● くらしと造形をつなぐ視覚的コミュニケーション活動における活動構成について

	構 想 段 階	表 現 段 階	展 示 段 階
活動と内容	1 自分の表現のテーマに合わせて、材料や表現方法の構想を考える。 ○ 表現内容や方法を発想し、表現に対する「問い」から、表現の見通しをもつこと	2 自分が決めた表現構想にしたがって、材料や表現方法を選択しながら表現する。 ○ 材料や方法の特徴を生かし、形や色の構成の美しさやおもしろさの「問い」から表現すること	3 自分の表現テーマや作品をさらに生かすような展示表現をする。 ○ 作品を練り上げるための飾り付けや展示方法の「問い」から、造形対象や空間に表すこと
視覚的対話	◎ 身の回りの自然や環境、ものなどの対象にある美について書いたり話し合ったりする。 ◎ 造形の課題について、友達と話し合う。	◎ 作品や表現方法、材料について、その特徴や、よさを実際の作品や表現をもとに記述する。 ◎ 作品の題名や表現意図について友達に伝えていく交流活動	◎ 造形対象や作品と場所や環境などまわりとの調和やテーマ性を話し合う。 ◎ 作品全体から、表現の自慢についての交流活動
支援	※ 表現についての自他(友達や先人)の考えの交流活動 ※ 生活のなかの美について気付く、ヒント資料提示	※ 表現テーマに合った方法を選択するための材料提供 ※ 材料や場所、環境との組み合わせを試しながら表現する活動設定	※ 作品を引き立てていくための装飾材や展示環境の提供 ※ 自他の作品や表現の表現の価値に気付く鑑賞会の設定

## ○ 家庭科科学習の構想

# 自ら家庭生活をつくる家庭科学習

## ○ はじめに

家庭科における最終の目標は、「家族の一員として生活を工夫しようとする実践的な態度」を育てることである。つまり、子ども自身が自分の生活を見つめながら身近な生活上の問題に気づき、それを解決するために、これまで身に付けた知識や技能を活用して、自分の家庭生活をよりよいものにしようとする実践的な態度を育てることである。そのために、衣食住や家族の生活などに関する知識・技能を習得するとともに、それらの知識・技能を活用してよりよい生活を工夫するための思考力・判断力・表現力等の考える力の育成が求められている。家庭科において「豊かな学びを育む」とは、このように家庭生活に関する知識・技能の習得が、単なる知識・技能の獲得に終わることなく、それらが家庭生活の中で生きて働く力となり、家庭生活を日々更新していくものとなるような学びを展開するということである。

## 1 主題について

自ら家庭生活をつくるとは、家族のことを思い、自分や家族の生活を見直しながら、前とは違った見方やとらえ方をして問題を見出し、こうしたらもっと快適で楽しく暮らせるのではないかという問いをもちながら、自分1人で、また、家族と協力しながら家庭生活を更新しようすることである。

自ら家庭生活をつくる家庭科学習とは、自分の家庭生活を見直すことで見つけた課題を解決するために、学校の学習において必要な知識や技能を習得し、それらを実際に家庭生活の中で実践し、家族が喜ぶよりよい生活を目指す学習のことである。そのためには、子どもたちの追究する課題が、自分の家庭生活の文脈の中に見出され、子どもたちが解決しなければという必要性を感じるものでなければならない。また、自分の課題を解決するための学びの過程が、子ども自身にもしっかりと見取れ、これなら自分の家庭生活を工夫・改善できそうだという確かな学びを蓄積できる学習が不可欠であると考えられる。

- 家族の一員として、生活を見直し、家族や周りの人々と協力して生活を工夫改善しようとする子ども（学ぶ意欲）
- 衣食住等に関する実習や観察・実験などを通して、自分の課題解決に必要な基礎的・基本的な知識技能を獲得し、家庭実践で活かそうとする子ども（能力）
- 学んだ知識や技能を活用し実践することで、家族の役に立てるという有用感や満足感をもてる子ども（自信）

# ～家族の生活をコーディネートする学習の展開～

長門直子

## 2 副主題について

家族の生活をコーディネートするとは、家族がより健康で、楽しい家庭生活を送るために、生活の中に課題を見付け、その解決に必要な知識や技能について情報を収集すると共に、集めた情報の中から、自分の家族に必要な情報を取捨選択し、組み合わせながら工夫して生活を更新することである。

家族の生活をコーディネートする学習とは、家族1人1人が喜ぶ家庭生活づくりをするためには、どんな家族の情報やよりよい家庭生活に必要な情報は何か、どんな方法があるのかを調べたり、実習をしたりして家庭生活をよりよいものへと工夫し、改善していく学びを繰り返すことである。

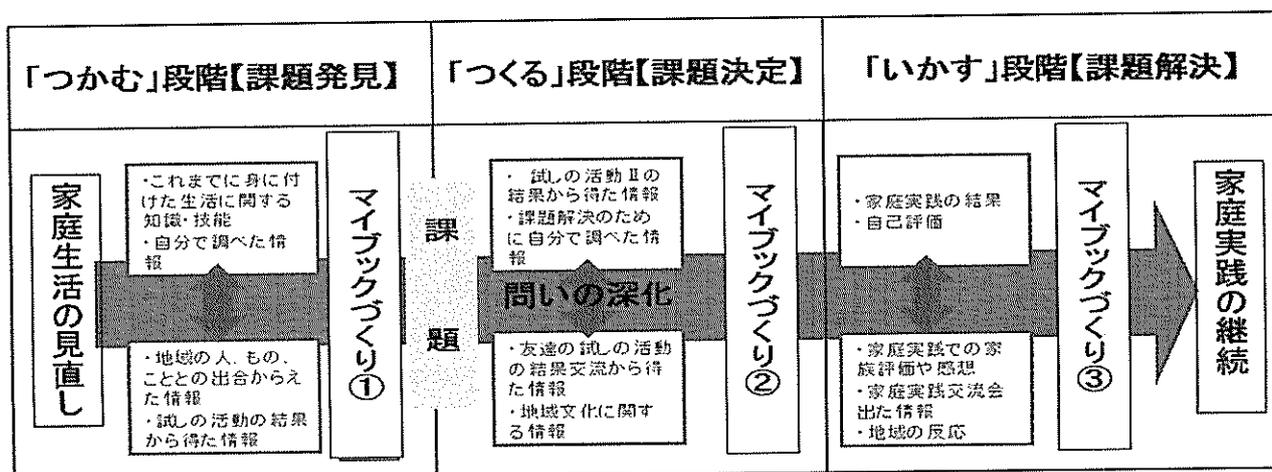
家族の生活をコーディネートする学習の展開とは、よりよい家庭生活をつくるために解決しなければならぬ課題を見出し、その解決に必要な情報を調べたり、実習や実験を通して実際に自分で確かめたりして、家庭生活を工夫し更新するための学びを積み重ねることである。そして、その学びがこれからも家族のよりよい生活の更新に活かされるように、活用できる情報源としてのマイブックづくりを学びの各段階に位置付けた学習を行うことである。

## 3 具体的構想

### ● 家族の食生活をコーディネートする学習の教材化について

- ① 子どもが家庭生活をよりよくするために、この課題を解決したいという必然性のあるもの
- ② 子どもなりに解決方法を考え、よりよい家庭生活の実現に向けて取り組める実現性のあるもの  
 <マイブックに入れる内容>
  - ・家族情報(聞き取り) ・課題解決に必要な情報 ・実習・実験の経過・結果 ・友達からの情報
  - ・家庭実践の計画・レシピ ・家族の評価・賞賛のことば ・自己評価や気付き・感想
- ③ 一回の家庭実践で終わらず、新たな課題を生み出すことができるような発展性のあるもの

### ● 家族の生活をコーディネートする学習を展開するための活動構成



## 4 指導の実際

### 第5学年 題材「地域の食材を味わおう！～博多ブロッコリーを使った旬の1品～」

#### (1) 目標

- 1 家族の健康や好みや栄養のバランスを考えながら、地域食材「博多ブロッコリー」を使った一品をつくることを通して、食事づくりの楽しさや家族の一員としての有用感を感じることができる。
- 2 これまで使った食材や「ゆでる」「いためる」の調理法に関する基礎・基本的な知識や技能をもとにして、栄養バランスを考えた食品の組み合わせや味つけを工夫することができる。

#### (2) 題材の考え方

- 本題材は、自分の家庭の食生活や調理に関心を持ち、家族の好みや栄養のバランスを考えながら、これまで学習してきた「ゆでる」、「いためる」の調理方法を使って、旬の野菜である博多ブロッコリーを用いて家族が喜ぶ朝食の一品をつくり、家庭の食事づくりに家族の一員として積極的に関わっていかうとすることをねらいとしている。

#### (3) 学習の流れ

つかむ段階：1～6/11時

自分の家の食事を見直し、家族のためのおかずづくりの課題をつかむ。



家族の食生活のよさや問題点を見直して課題づくり

資料1 おかずづくりに必要な情報を考えた図



博多ブロッコリーのよさがたくさん知りたいな。

写真1 博多ブロッコリーの茎も使えますか？

つかむ段階では、家族に美味しいおかずをつくるために、家庭の食生活を見直す活動を通して、家族の食生活についてのよさや改善したらよい問題点を見出し、家族に合った情報を収集したり、話し合いをしたりして、おかず作りにおける自分の課題をつかむことをねらいとしている。

#### 【教師の支援】

- ※ 自分や自分の家庭の食生活が野菜の摂取量や栄養バランスを考えた食生活ができているかどうかについて見直す場を設定した。
- ※ 地域の野菜に詳しい青果市場で働いているGTと出会わせ、博多ブロッコリーと他のブロッコリーと比較する場を設定した。

#### 【子どもの様子】

- 資料1のように、おかずづくりのために必要な情報を挙げることで、レシピだけでなく、他の情報も収集しようとする意欲が高められた。
- 写真1に見られるように、自分の調べたいことや疑問を積極的にGTと関わりながら情報収集をし、課題解決の意欲を高めることができた。

**つくる段階：7～9/11時**

自分の課題を解決する試しの活動を行い、家庭実践計画を立てることができる。



マイブックを見ると自信もついてくるよ。

写真2 マイブックを見ながら調理しなくちゃ。

これまでのレシピと違って食材や家族の情報もあるんだよ。

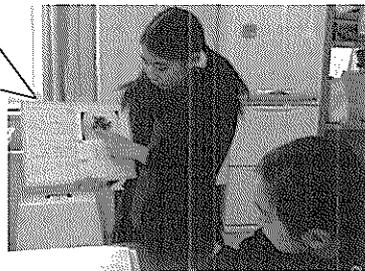


写真3 ここが家族のことを考えたんだよ！

**いかす段階：10～11/11時**

マイブックを使って家庭実践を行い、家族の一員としての有用感を味わう。

マイブックを見ながら、ブロッコリーの茎を薄く切ってスープにしたよ。



写真4 家庭実践に挑戦！

家庭実践では、マイブックを見ながら料理をしました。買ったブロッコリーは、スーパーの人が今日入荷したと教えてくれ、新鮮だと思いました。だから、茎も薄く切って使ったら、お母さんが「無駄がないね。」「味もいいよ。」と言われ、またつくりたいと思いました。

資料 A児の家庭実践後の振り返りから

つくる段階では、自分の課題を解決するための試しの活動を行い、博多ブロッコリーを使ったおかずづくりの家庭実践計画を立てることをねらいとしている。

**【教師の支援】**

- ※ 自分の課題解決のために、マイブックの情報を見ながら行う試しの活動を設定した。
- ※ 試しの活動の結果から得た新たな情報をマイブックに書き加え、家族のためにつくるおかずレシピをつくる活動を設定した。

**【子どもの様子】**

- 試しの活動を設定して自分の課題を明らかにした後、家庭実践を想定してマイブックに情報を整理する活動を設定したことは、家庭実践の取組みを明確にし、実践意欲が高められた。

いかす段階では、マイブックを使って家庭実践を行い、地域食材を使うよさや家族の一員としての有用感を実感することをねらいとしている。

**【教師の支援】**

- ※ 試しの活動から得た情報をもとにつくられた家庭実践レシピをもとに、家庭実践を行う場を設定した。
- ※ 互いの家庭実践の取り組みのよさから、自分の家庭実践に生かせる情報を書き留め、マイブックに添付する活動を設定した。

**【子どもの様子】**

マイブックを見ながら自信をもって家庭実践を行ったことで家族の中における自分の存在価値を感じ、家族の一員としての有用感を感じることができた。

**【考察】**

- ◎ 家族のために「博多ブロッコリー」を使った料理をつくる際には、単なる作り方だけを調べるのではなく、食材の特徴や栄養に関する情報、購入の仕方、他の食材と組み合わせた簡単な料理レシピからごみの処理等にまで関心を広げることができるマイブックをつくり、実習や家庭実践で活用するような学習を積み重ねていくと、家庭生活を自ら更新し、発展・応用へとつながる。
- ◎ 地域食材を取り上げる活動は、家庭や地域を改めて見直す機会となり、自分たちの家庭生活と地域とのつながりを改めて意識する学びを展開することができる。

## ○ 体育科学習の構想

### 価値ある動きを生み出す体育科学習

#### ○ はじめに

体育科において豊かな学びとは、出合った運動に対して「あこがれ」や「勝ちたい」「心地よくやりたい」などの求めをもち、それを達成するために、自分の実態を分析したり、友だちと比較したりして、楽しみ方や練習方法を選択・工夫しながら、場の状況や変化に応じた動きを楽しみながら繰り返し、生涯スポーツの基礎を培うことである。現代社会においては、体力低下、運動の二極化など、子どもの体を心配する声は後を絶たない。これは、楽しさや求めがないまま発育・発達の時期を逸している運動経験の横行や全身を使わなくても生活できる生活状況が原因である。体育科が究極的なねらいとしているのは、実生活において運動を豊かに実践していくための資質や能力の基礎を培うことである。そのためにも、健康や運動の楽しさといった運動の価値を求め、楽しみながら、発育・発達の時期と順序に沿って動ける体と動きをつくり・楽しむ場の創造を子どもが主体となって繰り返していくような豊かな学びを育む「楽しく確かな」体育科学習の実現が求められている。

#### 1 主題について

価値ある動きとは、子どもが、精一杯活動することで味わうことのできる楽しさや爽快感を含む運動のことである。それはまた、生涯にわたって豊かなスポーツライフを支える基礎となるものである。

価値ある動きを生み出すとは、子ども自らが必然性をもって運動遊びにひたりながら、さまざまな運動の基本となる動きを引き出す条件の中で、身体を自由に操作したり、条件にあった新しい動きを発見したりすることである。またそのことを通して身に付けた身体能力や知識を生かして、状況に合う動きを創り出したり実生活において活用したりすることである。

価値ある動きを生み出す体育科学習とは、「すごいな」「やってみよう」といったあこがれから「うまく動きたい」「こんなこともできるかな」といった問いをもち、楽しみながら運動の基礎を習得したり活用したりする活動を段階的に繰り返す学習のことである。またその過程ではモデルの動きとの比較や基本の動きをつくる場での活動を通して、自分の動きを吟味し、「ちがう方法でもできるかな」「難しくなってもできるかな」と問いを発展させ、探求する活動が位置付いている。

- 運動への強い願いをもち、その実現のために、身体を動かすことを楽しみながら、見通しをもって価値ある動きの習得、修正を繰り返す子ども (学ぶ意欲)
- 状況に応じた課題解決のための多様な価値ある動きやそれを獲得する知識を身に付けた子ども (能力)
- 精一杯の力を発揮して体を動かす心地よさや運動をつくるよさを味わう子ども (自信)

## ～チャレンジ活動を段階的に位置づけた授業づくり～

渡 邊 正 則

### 2 副主題について

チャレンジ活動とは、運動に対しての「楽しそうだ、やってみたい」「できるようになりたい」「ゴールしたい」などの求めに応じて、課題を自覚したり解決したりするための基礎的な動きや戦術的な動きの中から場や状況の高まりに合った必要感のあるものを選び習得・活用のための活動を行うことである。

チャレンジ活動を段階的に位置づけたとは、子どもがこれまでの体験で身に付けた動き方や新たな学習で身に付けた動きで、いろいろな運動の状況や場の変化に応じてそれを活用したり、新たに習得したりする活動を学習過程の各段階に意図的・計画的に配置し、動きを発展させていくことである。

チャレンジ活動を段階的に位置づけた授業とは、子どもたちの一般的な運動実態やその運動種目のレディネスやニーズに応じて、その運動種目の特性に触れた楽しみ方が十分に味わえるように、段階的に動きを獲得していくための活動と支援を効果的に関連づけた学習のことである。

### 3 具体的構想

#### ● チャレンジ活動を段階的に位置づけた学習の教材化の工夫

各運動種目の動き方を効果的に高める学習教材を以下の視点から選定し、その教材化を工夫する。

- ① 運動種目自体がもつ構造を、子ども自身が今もっている自分の動きと照らして、体験や比較活動から分析的に捉えることができる。基本の運動では、これまでの体験で身に付けた動きを十分に楽しむことができたり、獲得した基本の動きがいくつかの観点から複雑にできたり、それらを組み合わせたりして楽しい動きの場を創り出せるようにする。
- ② 目標設定や課題設定が子どものデータなどの根拠をもとに明確にでき、個の課題に応じた解決の場を保障し、その場は子どもたちが選択したりつくりかえたりすることができる。
- ③ 課題意識－課題設定－課題追究－課題解決－評価の活動を設定でき、このサイクルを繰り返すことで動きの質及び学び方が高まる。

#### ● チャレンジ活動を段階的に位置づけた活動構成

子どもの運動実態に応じて、効果的に動きの獲得をめざす支援を位置づけた活動を構成する。

段階	やってみる	ひろげる	ふかめる
活動	チャレンジ活動1 ◯ 今までに身に付けた動き ◯ 課題の把握 ◯ モデルとの比較	チャレンジ活動2 ◯ 習熟した動き ◯ 習得・活用 ◯ 新しい動き ◯ 動きの模倣・アナログ運動の体験	チャレンジ活動3 ◯ 評価活用 ◯ 価値ある動き ◯ 場や動きの創造
支援	◯ モデルの動きとの比較を位置づけ、ゴール像をつかませる。	◯ 動きを高める場や教具の工夫と選択を位置づけ、段階的に動きを身に付けさせる。	◯ 動きの自己評価、相互評価を位置づける。

## 4 指導の実際

### 第2学年 単元「ピッチャー島であそぼう」

#### (1) 目標

- 1 遠くまで投げたり，いろいろなものを投げたり，的をねらって投げたりして楽しむ冒険ゲームに興味をもち，できる動きで精一杯活動したり，より高得点の的をねらって挑戦したりして楽しく活動することができる。また，友達と協力して自分の課題にあった場を選んだり，規則を工夫したりして楽しみ方を広げることができる。
- 2 これまで身に付けた投の動きを生かして高得点をねらった遊びを楽しんだり，より速くに投げたり，的をねらってボールを投げたりすることができる。

#### (2) 単元の考え方

- ピッチャー島は，子どもたちにとって夢のあるお話に沿っていろいろな冒険活動をクリアすることをめざして楽しく遊びながら，低学年の子どもたちに身に付きにくい投げる動きを高めていくように用具を配置した場である。この中で子どもたちは，ストーリーの到達目標地点をめざして，楽しく精一杯活動しながら，いろいろな投げる場にあった動きを工夫したり高めたりしていく。そして，「強いボールを投げるにはどうしたらいいかな」「まっすぐとぶすにはどうしたらいいかな」と問いを深化させ，それに応じた練習や場の工夫を繰り返しながら投運動のゲームを楽しんだり，状況に応じた投げる技能を高めることができるようにする。

#### (3) 学習の流れ

##### やってみる段階：1/7時

ピッチャー島のストーリーを理解し，その到達目標をめざしていく見通しをもつとともに，試しの活動をする。



楽しそうだな。思い切り倒したいな。どうやって投げたら，うまくとぶのかな。

キャッチャー大王に当てるのはとても楽しかったです。でも，友達と比べるとうまくとびませんでした。私は，体育館の全体の中まで投げられるように頑張りたいです。そしてキャッチャー大王を突破したいです。

資料1 A児の試しの活動の感想と設定したゴール像

やってみる段階では，次の2点をねらいとした。1つめは，ピッチャー島のストーリーに出合わせ，投運動に対する関心意欲を高めること。2点目は，試しの活動にチャレンジさせ，自分のボールのとぶ距離や正確さを友達との比較を通して考え，「どうしたら，まっすぐとぶだろう」などの問いをつくり，ゴール像をもつことである。

##### 【教師の支援】

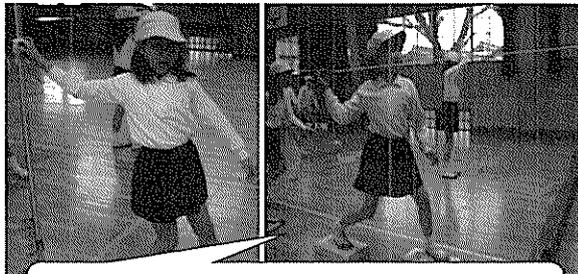
- ※ 実際のキャッチャー大王の的を示し，投げたい，たおしたいという意欲を高めた。
- ※ 2種類のボールと自作の“やり”を試させ，投げ方や飛び方の課題をつかむチャレンジ活動1を設定した。

##### 【子どもの様子】

- 資料1のように，友達との比較で投げ方，とび方の課題をつかみ，ゴール像を設定した。

### ひろげる段階：2～6/7時

ピッチャー島での冒険活動を楽しみながら、いろいろな投げる動きを高める。



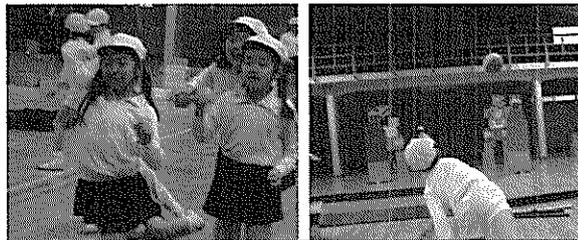
上手にとぶようになって、なんとなく投げ方がわかってきたぞ。

じょ走をつけて上の方に投げたら大王にあたりました。的にも当たって楽しくなりました。今度は顔にも当てたいので、もっとじょ走をつけて腕をふってあそびたいです。



### ふかめる段階：7/7時

ピッチャー島冒険大会で、高めてきた動きのよさを実感する。



私は思いきり投げたいな。ほくは遠くから投げてみるぞ。小さな的もおいてみたいな。

ほくは、ボールの投げ方、構え方をどうすれば的に当たるか考えてあそびました。何度もちょうせんして的に当たったのでとてもうれしくなりました。またピッチャー島であそびたいです。

### 【考 察】

- ◎ 本単元において、課題に気付くチャレンジ活動など3つのチャレンジ活動を子どもの動きの高まりに応じて位置づけたことは、子どもが基本の動きを身につけた姿が多く現れ、そのことで、子どもがさらに楽しく活動しながら、動きを習得し高めていくために有効であった。
- ◎ ふかめる段階での自分たちで工夫したコース設定や規則の設定をして活動させたことは、子どもたちが自ら楽しみ方を創り出し、主体的に活動することができる力を発揮させる上で有効であった。

ひろげる段階では、めざすゴール像にむかって、基本的な投動作を身に付けることをねらいとしている。

### 【教師の支援】

- ※ 思いきり投げる、ねらって投げる、組み合わせる投げるの3段階の活動を設定した。
- ※ 投動作の基本的な動きに必要な教具を配置し、動きが身に付くようにした。
- ※ 体育の時間と関連させて、紙鉄砲など、アナログ運動の体験をさせた。

### 【子どもの様子】

- 楽しく投運動の活動をする中で、動きを身に付ける場を活用して、体の使い方、腕の振り方などを身に付けた。
- 意欲的にキャッチャー大王にちょうせんする活動に取り組み、距離や的の置き方など楽しみ方を変化させて活動した。

ふかめる段階では、動きの高まりを実感したり、楽しみ方を広げることをねらいとしている。

### 【教師の支援】

- ※ 自由に的を配置して自分の動きの高まりを試すチャレンジ活動3を設定した。
- ※ 自己評価活動、相互評価活動を設定し、動きの高まりを実感させた。

### 【子どもの様子】

- 資料にあるように、動きの高まりを実感することができた。
- いろいろな楽しみ方を試し、活動をひろげることができた。

## ○ 生活科学習の構想

### 自ら地域への気付きを深める生活科学習

#### ○ はじめに

生活科において豊かな学びとは、自らの思いや願いの実現や必要感を強く感じて、解決に向けた見通しをもとに身近な人や社会、自然との出会いを通して、自分とのかかわりで対象の関係、価値に気付き、自分自身について考えながら新たに働きかけていく力を身に付けることである。しかし、現代社会においては、子どもが生活する環境は、多様に変化しており身の回りの人に自らかかわりながら協力し合って課題を解決していく社会体験が希薄化している状況である。そのため、子どもが自分の生活や環境を見つめ直し、よりよい生活や環境を求めて主体的に働きかけたり自分のよさに気付いて生活したりすることが十分にできていない状況である。そこで、生活科における豊かな学びを育むことにより、子ども自身の切実な思いや願いから見通しをもとに情緒的な働きかけを進め、対象や自分への気付きを実感的なものにしたり、思いや願いの実現から自分への自信や展望をもったりする子どもを育てることができると考える。そして、身近な人や社会及び自然を対象として繰り返しかかわる活動や体験をする中で、よき生活者となることをめざすことができると考える。

#### 1 主題について

自ら地域への気付きを深めるとは、切実な思いや願いの実現に向けた問題意識をもとに見通しをもって働きかけ、身近なものや人、ことを比べたり関連付けたりしながら、自分にとっての対象の持つ関係や価値を言い表したり、自分のよさや成長を実感的にとらえてこれからの生活に役立てたり活用したりしていくことである。

自ら地域への気付きを深める生活科学習とは、自分の思いや願いを実現したり問題を解決したりしようと切実感や必要感、こだわりをもって、解決方法についての見通しをもとに働きかけを繰り返しながら、自分や生活とのかかわりから対象の関係や価値をとらえるとともに、自分ができたことや自分の成長に自信をもって、これからの自分の生活に役立てたり活用したりしていくために働きかけを繰り返していく学習のことである。そのためには、他と協力的に課題解決を図ることで、自分の働きかけが地域のために役に立っていることを実感しながら、自分の働きかけの意味や自分のよさ、成長を実感的に気付いたり新たな課題を生み出したりすることができる条件をふまえた生活科学習づくりが大切であると考えられる。

- 身近な地域に対する切実感や必要感をもち、意欲的にかかわるよさを実感している子ども (学ぶ意欲)
- 地域との関係や価値に気付き、主体的な働きかけを繰り返しながら、自分の生活に活用する子ども (能力)
- 対象とかわるよさをもとに、自分の働きかけに自信をもち、自分の成長を実感する子ども (自信)

## ～協同活動を位置付けた授業づくり～

塚 本 正 典

### 2 副主題について

**協同活動**とは、自分にとってやりがいのある学習問題をもとに、自らの問いを見出し、友達や GT の思いや願い、考えに共感しながら互いに協力したり情報収集をしたりしながら問題解決を図る体験と、体験したことを比べたり関係付けたりしながら、達成感や成就感を実感する交流である。

**協同活動を位置付けた授業づくり**とは、人とのかかわりをもとに子どもの「なぜかな」「やってみたい」という思いや願い、問題意識から、試行的に意図的に働きかける体験と人と比べたり協力的に解決を図ったりする交流を通して、体験を根拠にしながら対象の関係や価値、自分のよさや成長に気付き、問題意識や活動の方向性を見いだす活動を繰り返すことである。

### 3 具体的構想

#### ● 協同活動を位置付けた授業の教材化の条件

- 切実感や必要感、問題意識をもって実際の生活場面における目的意識、相手意識をもとに問題解決を行う体験ができること
- 実社会や実生活の場において必要な力を駆使する場があり、新たな気付きが生まれること
- 自分のよさや成長に気付きながら、友達や地域の人と協力的に問題解決ができること

#### ● 協同活動を位置付けた活動構成

「である」段階において、価値ある人とふれ合う、出合いの体験をもとに、活動内容や見通しについて明確にさせる。「ふかめる」段階においては、友達や GT と協力して解決を図る試行的体験をもとに、新たな問いについて話し合ったり、本格的な体験をもとに、地域とのかかわりやよさについて話し合ったりする。「いかす」段階において、実践的・発信的体験と GT から活動の評価をいただく交流を進め、達成感や成就感味わわせる。

【表 協同活動①、②、③を位置づけた活動構成】

	である	ふかめる	いかす
学習活動	1 対象や対象を支える人に出合い、問いや活動の見通しについて話し合う。 「協同活動①」 (1) 対象と直接ふれ合う体験を進める。 (2) 人の思いや願いをもとに、問いや見通しについて話し合う。	2 自分の問いをもとに、試行的な体験を進め、新たな問題をもとに本格的な活動を進める。 「協同活動②」 (1) 友達やGTとともに試行的な体験を進め、新たな問題や見通しをもつ。 (2) 試行的な体験をもとに、新たな問いや活動の見通しについて話し合う。 (3) インタビューをもとに、本格的な体験を進め、新たな問題や見通しをもつ。	3 本格的な体験をもとに、実践的・発信的活動への課題や見通しについて話し合う。 「協同活動③」 (1) 実践的・発信的活動を進める。 (2) 自分の活動を振り返り、自分と対象との関係や対象のもつ価値、自分の成長について学習のまとめをする。
支援	※ 地域のよさや問題に気付く探検と、地域のために取り組む人との出合いから、思いや考えを、インタビューの場の設定 ※ 自分の生活とのかかわりから、問題の分析と解決の見通しを話し合う場の設定	※ 同じ問いをもつグループを編成し、自分の役割を地域の人とともに問いの解決を図る場の設定と、対象と自分との関係に気付き、新たな問いを生み出す話し合いの場の設定 ※ 新たな問いをもとに、本格的な体験にかかわる人にインタビューをする場や、新たな問題を見出す、GTとの交流やインタビューの場の設定	※ 目的意識や相手意識を明確にした、実践的・発信的場の設定 ※ 自分のよさや成長に気付くことができるよう、活動の成果について地域の方によかった点について評価をしていただく、インタビューの場の設定

第2学年 単元「すすめよう! ぼくらは ふ小 ちょボラたい」

(1) 目標

- 1 環境や人にやさしいまちづくりを目指すボランティアの方の取り組みに関心を持ち、意欲的にボランティア活動に取り組んだり、インタビューをしたりして、自らあらつのまちをきれいにしたり、活動の大切さを多くの人に広げたりすることができる。
- 2 ちょボラ活動を通して、あらつのまちを住みやすいきれいなまちにしたい思いや願いをもってボランティア活動に取り組む人々がいることや、環境や人にやさしいあらつのまちを願って継続的に取り組んである活動のよさや自分自身の成長に気付くことができる。

(2) 単元の考え方

- あらつのまちを美しく、人にやさしいまちづくりを目指して、ボランティア活動に取り組まれる、あらつのまちを対象として取り上げ、まちをきれいにするための課題をもとに、解決方法の問いが拡充から、深化する複合型の学習を位置付ける。
- ボランティアの方とともに自ら地域に働きかけるボランティア活動を通して、自分たちの生活は地域の様々な人々や場所とかかわっていることに気付き、あらつのまちやまちの人々に親しみをもって、適切に接することができるようにしたい。

(3) 学習の流れ

であう段階：1～3/12時

まちたんけんを通して、あらつのまちや人の様子に気付き、まちのためにできることについて見通しをもつ。



写真1 なぜ、ごみをあつめているのですか。

どうして集めているのかインタビューをして、ボランティアの人の願いや考えを気付いている。



写真2 ポストの落書きを見つけたよ。

インタビューをもとに、再び探検をして、まちの問題点に気付いている。

であう段階では、まちたんけんやボランティア活動に取り組む人とのふれあいを通して、あらつのまちの様子や人の様子に気付き、まちのためにできる見通しをもつことをねらいとしている。

【教師の支援】

※ あらつのまちのよさや問題点に気付くことができるように、ボランティア活動を実際に進めている場に出合わせる場と願いや願いを聞く場を設定した。

※ 探検をもとに、まちをきれいにする意味について交流する場を設定した。

【子どもの様子】

- ボランティアに取り組んである実の場に出会い、直接インタビューをする中で、自分にもかわりのある、あらつのまちをきれいにしていくための活動の見通しをもつことができた。

### ふかめる段階：4～7/12時

友達やまちの人と協力しながら、ちょボラ活動を進め、きれいになったまちの様子まちの人とのかかわりやよさに気付くことができる。



友達やGTと協力しながら落書き消しを進め、自分たちの活動についてどう思ったのか、インタビューにより、活動のよさに気付く。

インタビューからすみずみまでする大切さに気づき、高い所まで落書き消しを進める。



### いかす段階：8～12/12時

ちょボラ活動を進め、まちに対する親しみを持ち、自分のよさに気付く。



再びボランティアの人と落書き消しを進め、自分たちの活動について評価をいただくことにより、まちに対する親しみと自分の成長に気付くことができた。

## 【 考 察 】

- ◎ まちの人とのかかわりに気付くことができるよう、みんなにとって役立つ働きかけを進めながら、まちの人からのアドバイスや評価という反応がある双方向のやりとりがある、あらかのまちの教材化が有効であったと考える。
- ◎ インタビューをもとに、GTとのボランティア活動を中心的に位置付け、自分から問題を解決していく協同活動を繰り返し位置付けた活動構成は、あらかのまちに対する気付きを深め、親しみと愛着をもってまちやまちの人にかかわっていく上で成果があったと考える。

ふかめる段階では、ちょボラ活動を通して、きれいになったまちの様子まちの人とのかかわりやよさに気づき、ちょボラ活動の新たな問いを見出すことができることをねらいとしている。

### 【教師の支援】

※ 友達やGTと協力しながら、まちをきれいにするちょボラ活動の場を設定し、自分の活動とまちの様子との関係に気付く話し合いの場を設定した。

※ 自分の活動のよさに気付くことができるよう、まちの人にインタビューをしたり活動のアドバイスを聞いたりする場を設定し、新たな本格的体験の場を設定した。

### 【子どもの様子】

- まちの人にインタビューすることで、自分たちのちょボラ活動でまちがきれいになった関係やまちの人が喜んでくれているよさに気付くことができた。

いかす段階では、まちの人とちょボラ活動を進め、成就感や達成感を味わいながら自分のよさや成長に気付くことをねらいとしている。

### 【教師の支援】

※ ボランティアの人とちょボラ活動を進める場の設定と、まちの人にインタビューをして評価をしていただく場を設定した。

### 【子どもの様子】

- ボランティアの人と再びちょボラ活動を進めることで、まちの人に対する親しみや愛着を持ち、自分のよさに気付くことができた。

## ○ 特別活動の構想

### 合意形成しながら生活づくりに参画する学級活動

#### ○ はじめに

特別活動において豊かな学びとは、集団活動を進めるために必要な基礎的な事項や技能、態度などを体得し、実生活や実社会の各場面に即して活用していけるようになる力を付けていくことである。特別活動での指導の対象は、子どもの学級や学校生活そのものである。この特性を生かすことによって、自分たちの意志で多様に生活環境をつくりかえることが可能になる。現代社会においては、家族の少子化、家の中に閉じこもる子どもの増加などから見られるように、家庭や地域社会において、子どもの人間関係が希薄化している。また、次期学習指導要領改訂における特別活動で育てたい資質・能力としては、人間関係形成力や自治的能力、社会に参画する態度の育成などを挙げている。

#### 1 主題について

合意形成しながら生活づくりに参画するとは、学級や学校におけるよりよい実践を行い、学校という小社会のなかで望ましい人間関係を育みながら、自ら計画し、他者とかがわっていくことである。そして、話し合いの活動を通して、子どもたちの根底にある多様な考えに気付かせ、お互いに納得できる解決策を創造していく過程のことである。このことで子どもたちに育てたい力としては、

- ① 目標を設定し、目標を達成するための困難を解消し、最適なものを決定する企画力
- ② 相手と自分の意見の違いを理解し、互いの意見のよさを見付けようとする認め合う力
- ③ 自分の考えを根拠に基づいてわかりやすく説明したり、相手の話を傾聴し、双方の意見をすり合わせて妥協点を見付けたり、互いの思いを受け止めて言動したりする折り合う力である。

合意形成しながら生活づくりに参画する学級活動とは、特別活動の中心となる学級活動において、学級や学校の問題について自分から積極的にかかわり、最適な考えを採択し、自分も他者もよいと思える生活をめざして創意工夫をしながら問題を解決していくことである。学級や学校の生活づくりに参画する態度を育てるために学級活動の役割は、望ましい集団活動を通して、協力してよりよい生活を築こうとする態度を養うことである。このような経験を繰り返すことで、自主的、実践的な態度は育まれていく。そして、人は学級や学校、社会の成員として互いに協力し合い、支え合いながら自分も成長し、かつ学級や学校、地域社会の向上・発展にも貢献することが望まれる。

- |  |        |
|--|--------|
| ○ 明確なゴール像をもち、解決に向かって主体的に活動しつづける子ども       | (学ぶ意欲) |
| ○ お互いのよさを認め合い、他者と折り合いを付け、納得のいく応えを導き出す子ども | (能力)   |
| ○ 集団の一員としての達成感や所属感を味わい、次の実践意欲を高める子ども     | (自信)   |

# ～プロジェクトサイクルを活用した授業づくり～

黒澤真二

## 2 副主題について

プロジェクトサイクルとは、プロジェクトを成功させるためにマネジメントサイクルであるP（計画）D（実施）C（検証）A（改善）と同じ形態で活動を進めていくことで、「立ち上げ・計画・実行・コントロール・完了」という5つのプロセスで構成することである。

プロジェクトサイクルを活用した授業づくりとは、活動過程を「つくる」「決める」「行う」とする。そして、各段階に問いを解決するための視点に基づき自他の考えを出し合い、お互いの考えのよさを共有する話し合い、立場の違う友達との少人数での意見交流を通して、自分の考えを変化させる話し合い、変化した自分の考えを立場の同じ少人数で出し合い、共通点から新たな考えを創造し、学級での承認を得る話し合いを位置付け、プロジェクトを成功させるための授業づくりを展開する。

## 3 具体的構想

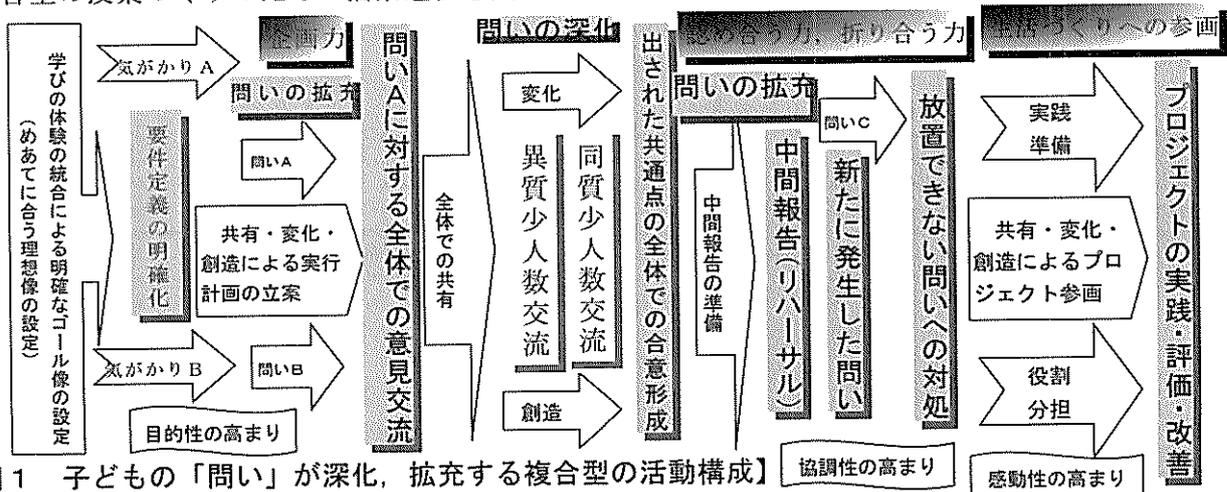
### ● 教材化の工夫

学級目標具現化に向かって、重点題材を題材のねらいや学年の発達段階に応じて意図的・計画的に設定する。このとき教材化するにあたっての視点は以下の通りである。

- 感動的体験や自分たちの生活の気付きから明確なゴール像が設定できるもの（目的性）
- 応えが相互に考えられ、お互いの考えのよさを付加・修正しながら実践できるもの（協調性）
- それぞれの過程で評価しやすく、やり遂げた達成感や有用感を味わえるもの（感動性）

### ● 活動構成の工夫

プロジェクトを成功させるために解決しなければいけないたくさんの「問い」が生まれる。そして、みんなで「問い」を解決していきながらリハーサルとしての中間報告を行うことで新たな「問い」が生まれ、「問い」が深化していく。このように、ゴール像に向かって自主的に活動していく「問い」の複合型の授業づくりのための活動過程を図1のように構成する。



【図1 子どもの「問い」が深化、拡充する複合型の活動構成】

## 第5学年 題材「省エネ発表会をしよう」

## (1) 目標

- 1 全校児童や保護者に省エネ発表会を開きたいという目的意識の下、伝える内容や方法を全体やグループで意見交流したり、友達と協力して決まったことの準備を行ったりすることができる。
- 2 省エネ発表会の取り組みを実践する過程で、全体やグループでの話合いの活動の進め方がわかり、決まったことをもとに役割を分担し、一人一人が責任もって活動することができる。

## (2) 題材の考え方

- 総合的な学習における福岡市の地球温暖化の現状に気がかりをもたせ、自分たちの日頃の光熱費の使い方についてよかった点や不十分な点を出し合い、原因から解決策を考え、個人で環境に優しい取り組みを自己決定させたり、学級としてできる取り組みを考えさせたりすることで、「全校児童や保護者に省エネを呼び掛けたい」というゴール像をもたせる。
- みんなで話し合う必要がある省エネ発表会の内容や方法を合意形成しながら話合いの活動を進めるとともに、決まったことをもとに実践準備を行い、中間報告を行う過程で新たに生じた問題を話し合いながら、全校児童や保護者に省エネ発表会を開くことができるようにする。

## (3) 学習の流れ

## 決める段階：3 / 5時（学級活動）

各ワーキンググループの体験コーナーでの取り組みを決める。

Y児： 下学年は簡単でしかも楽しませる説明がいいと思うけど。

N児： 楽しませることは大事なので、ゲームしながら劇をしてはどうか。

Y児： カルタに省エネのことを書いて、取った札はもらえるようにしたらどうか。

T児： それだと節水してもらえるかもね。

資料1 下学年のニーズに合わせた少人数交流



カルタどれにしようか

省エネ発表会を成功させるための問いとして①どんな内容や方法で発表するか②全体の進め方をどうするか③発表会での役割分担をどうするか④準備物をどうするか等が出された。

決める段階の前半では、学級全体や違う立場や同じ立場の少人数での意見交流で、新たに創り出した省エネプロジェクト案を合意形成しながら集団決定することをねらいとしている。

## 【教師の支援】

※ 参観者のニーズに合わせて説明を変える必要があることを共有し、違う立場のグループ交流でホワイトボードに楽しませるという観点から意見交流できるようにした。

## 【子どもの様子】

- Y児は違うグループの少人数交流で下学年には楽しませることも大切という考えが加わった。
- 同じグループの少人数交流で新たな案としてカルタや人形劇を集団決定することができた。

**決める段階：4 / 5時 (学級活動)**

中間報告の日にちをいつにするか、新たな問題を話し合い、中間報告を行う。



延期した方が目標を達成できそうだ。

**行う段階：(課外) 5 / 5時 (学級活動)**

全校児童や保護者に呼びかけ、省エネ発表会を開く。



今から「一滴の水が」についての紙芝居を始めます。

省エネ発表会の1日目、自分が発表しているときどこを読んでいるかわからなくなった。そのとき、友達が自然と指し棒で紙を示してくれたり、説明に使うペットボトルをさりげなく準備してくれたりした。このとき、友達の協力があつたからこそ発表会が成功したと思った。省エネ発表会は、学級目標への第一歩だ。だから、「学級目標のようにできれば。」と考えた。省エネ発表会のことを思うと何だか達成感とうれしい気持ちでいっぱいになった。「もっと伸ばしたい、もっと進みたい。」そんな気持ちになった。

資料2 省エネ発表会後のY児の感想

**【 考 察 】**

◎ 総合的な学習で地球温暖化の問題を補完させることで、学級として「省エネ発表会」を成功させたいというゴール像もたせることができた。そして、省エネ実行計画を立案し、企画力を高めていった。また、友達との話し合いを通して、認め合う力や折り合う力を付けていった。さらに中間報告を行うことで、その前後に新たに日程等の問いが生まれ、学級で解決していった。このように、プロジェクトサイクルを活用することで、学校の生活づくりに参画する態度を養うことができた。

決める段階の後半では、各グループの進捗状況を出し合い、中間報告を予定通り行うか、1週間延期するかといった新たな「問い」が発生し、みんなで決めることをねらいとしている。

**【教師の支援】**

※ プロジェクトリーダーの司会の下、自分たちのゴール像と実際の進捗状況を比べ、どのように進めていくかをワーキンググループごとに意見交流できるようにした。

**【子どもの様子】**

○ Y児は友達「中途半端に終わりにたくないし絶対成功させたい。」という発言からプロジェクトを1週間延期する考えに変わった。

行う段階では、学級として省エネ発表会を実践することをねらいとしている。

**【教師の支援】**

※ 参観者を集めるために自分たちでポスターをつくり、校内放送で呼びかけたりしながら、集客努力をするとともに、1日目の反省会をもち、体験コーナーの行い方等、不十分な点を改善できるようにした。

**【子どもの様子】**

○ ワーキンググループとして、電気・ガス、水道、買い物・ごみの4つのグループに分かれ、体験コーナーや展示コーナーを開いた。当日は1日目に200人、2日目に206人の参観者を集め、省エネを呼びかけることができた。

○ Y児は水道グループとして、節水を呼びかけるカルタや紙芝居で下学年を中心に、積極的に発表会に参加していた。

## ○ 道徳学習の構想

# 他者とのかかわりをひろげる道徳学習

## ○ はじめに

道徳教育が、究極的なねらいとしているのは、自他ともによりよく生きる人間の育成である。その基盤となるのが道徳性である。道徳学習での「豊かな学び」とは、子どもが自分自身の生き方に対しての課題を追究し、最終的に「自分はこのような生き方をしたい」という明確な自己像をえがくことである。ここでの知とは、人としてよりよく生きるための指針となる道徳的価値である。これからの道徳学習は、自尊感情をもって自分自身を大切にすること、他者とともに助け合うこと、それにとまって、他者との調和性や人間関係調整力などが必要になる。つまり、今後の道徳教育に求められるのは、自尊感情をもって自分自身を大切にす「自助」、かかわり支え合って生きる「共助」、その両面の「自分」と「他者」の関係を調整していく視点をもつことであり、共感性と推量を大切にしていく。

## 1 主題について

他者とのかかわりをひろげるとは、道徳的な問題場面において、自己のもつ道徳的な見方、考え方、感じ方を、自分と他者の視点を大切にしつつ、高めていく方向性である。その見方が、他律的な視点から「自分だったらこうしたい」という自律的な視点へ、自分という視点から他者をも考慮した視点へと変わる対自から対他的な視点、さらに公共の視点に立つ対象へとひろがりをめざす。具体的には、次の3つの側面でとらえる。①自他に関わる問題状況を正しく把握する姿、②問題場面において自分、他者の視点を考慮して、自己の見方、考え方、感じ方を分析、検討する姿、③自他ともに大切にするなりたい自己像をえがく姿である。特に、道徳的な問題場面においては、自分や他者の関係をみていく視点をもって、ともによりよい状態を考える道徳的判断力とそこに含まれる心情面である。

他者とのかかわりをひろげる道徳学習とは、道徳的場面において、自分と他者を比較して、自らの問いをもち、自己の道徳的な見方、考え方、感じ方を見直し、道徳的価値のよさから、自他ともによりよい生き方を選択していこうとする道徳学習である。このときに大切なのが、あの人のようになりたいなどという憧れや志であり、自己を向上させる指針となる。このモデルとなる他者を意識させ、その人の生き方を追求し、その人のもつ生き方の中に、自分との共通性を見いだすことで、自己に自信をもち、「このような自分になりたい」という自己内モデルを創造することができる。と考える。

- 他者の生き方をもとに、自分の生き方について課題をもち、自己の生き方を高めていこうとする子ども (学ぶ意欲)
- 資料の主人公や友達から大切な道徳的価値を理解し、自己の生き方を高めていく子ども (能力)
- 自分の中に、主人公と似た心情面の共通性に気づき、積極的に生かしていこうとする子ども (自信)

# ～自己吟味活動を位置付けた授業づくり～

木下美紀

## 2 副主題について

自己吟味活動とは、子どもが、道徳的な事象に出会い、「〇〇について知りたい」という問いをもち、自己内対話により、よりよい生き方を模索する活動である。その意義には、①「自分だったら」と常に自我関与を図ることができ、自分の体験と重ねながら主体的に学習に参加できる、②自分の中にある道徳的価値を見出しやすい、③学習した道徳的価値の大切さを実感できる、④道徳的な価値を実現しようとしている自分のよさに気づき、未来の自己像を描きやすい、といった4点が考えられる。

自己吟味活動を位置付けた授業づくりとは、自己吟味に関して、次の3つの活動で構成する授業である。①実生活の中の事象をもとに、今の自分を見つめさせ、自己を向上させるにはどんな心構えが必要なのかという内的な問いを生むために、具体的な道徳的事象と今の自分の道徳的な傾向性について比べる自己吟味活動Ⅰ、②それぞれの子どもの問いを解決させるために、自分の追求したい場面を選択し、自分と主人公の気持ちや行為を共通性や差異性から自己を吟味する自己吟味活動Ⅱ、③学習前に立てた問いが解決され、なりたい自己像をつくるための自己吟味活動Ⅲ。

## 3 具体的構想

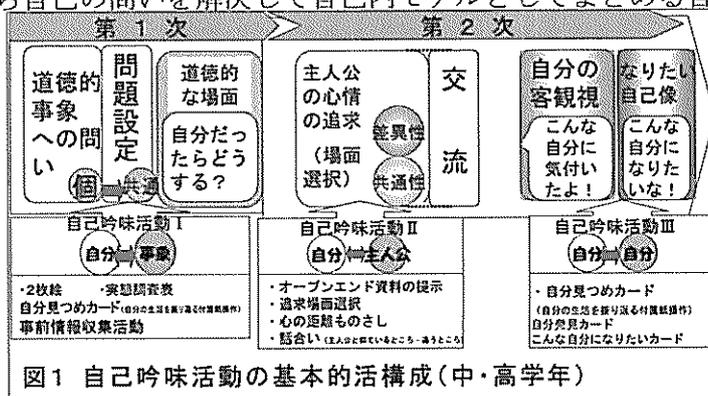
### ● 教材化の工夫

取り扱う資料は、右のような視点で選んでいく。自分の生活の中での疑問や気がかりをもとにした強い課題意識が生じる教材を選定する。資料の中の道徳的場面の問題を自分から他者へと視点ひろげることで問題解決に向かうような、解決の視点が明確になるものを選定し、子どもが主体的に問題を解決できるように資料を活用する。

- ①心理葛藤（弱さと道徳的価値）がおこるもの…両方に価値が含まれており、判断する場合に多様な視点による分析が必要なもの。（弱さへの共感）
  - ②道徳的な価値葛藤がおこるものの場合でも、どちらの行為や考えにも価値が含まれており、どちらをとっても道徳的価値からみて、間違いがない。
  - ③生活経験に近く、一人一人の経験や状況、価値観にズレが生じ、実際に考えてみたいと思うもの。
- ※葛藤については、①、②のどちらかを考慮する。

### ● 自己吟味活動を位置付けた活動構成の工夫

中・高学年では、人間を多面的に取り上げるということで、複数時間で構成する（図1）。第1次で、心の迷いが生じるような事象をもとに、個人の問いから、共通の問題をつくる自己吟味活動Ⅰを設定し、第2次で、主人公の心の葛藤場面で自分の心情との共通性と差異性をもとに友達と交流する自己吟味活動Ⅱ、他者への心情の押し量りから自己の問いを解決して自己内モデルとしてまとめる自己吟味活動Ⅲという問題解決的な過程を構成する。低学年では、発達特性から基本的に1単位時間とする。問いを深化・拡充する手だてとして、①自己内の葛藤を生む、できている自分とできない自分に気付かせような2枚絵の比較、②事前に情報を収集する活動の設定、③人物移動による心情の押し量りによる場面の設定、④オープンエンドの工夫、をする。



## ○ 総合的な学習の時間の構想

# 実社会や実生活とのかかわりを創る総合的な学習

## ○ はじめに

現実社会がめまぐるしく変化、進化するなか、そこに対応できる子どもを育てるために、PISA 型の学力育成が求められている昨今、総合的な学習が、各教科の中だけでは実現できない知の活用を担う役割は大きいと考える。特に新学習指導要領では、そのねらいが明確に示され、役割がはっきりしたといえる。そこで、これからの総合的な学習では、学ぶべき内容と付けたい力を明確にしなが、そこへ向かう方法をよりはっきりさせる必要が出てきている。つまり、各教科で学んだ知を選択・活用しながら、実社会や実生活とかがわった部分を学びの舞台として、育てたい力やゴール像を明らかにし、知を総合化しながら問題解決を図っていくプロセスを明確にしていく必要があるのである。そのようにすることで、学ぶことへの意義を実感し、学ぶ意欲の向上にもつながると考える。

## 1 主題について

実社会や実生活とのかかわりを創るとは、身のまわりの社会や日常生活において活動する際に遭遇する課題を解決するために、各教科等で身に付けた知識や技能が存分に発揮されることにより、学びの成就感を味わい、自己の生き方について考えを生み出すことである。具体的には①自らの課題を設定し、その解決のために既知の技能などの方法知を活用している②既知の知識や見方考え方を活用している③コミュニケーション能力などを駆使し、社会とかがわっている④自己実現を通して学習に取り組む意義を感じ、意欲を高めたり自信を付けたりしているなどの姿である。

実社会や実生活とのかかわりを創る総合的な学習とは、各教科等で身に付けた知を、これから生きていく現実の社会で実際に活用する経験をすることで、有用感や達成感を味わう学習である。具体的には、学習対象が所属する実社会を対象に活動を行ったり、実社会や実生活に自分達がつくり出したものを発信したりすることで、これまでの学びが実社会や実生活に「役に立つ」ことを実感することができる学習である。そのためには、価値ある文化や人々の営みに出会い、それらが存在する実社会や実生活と自己を重ねながら追究活動が展開され、課題達成のためには実社会と積極的にかかわりながら学校で学んだ知を活用していく必然性に迫られるような学習展開を構想することが必要となる。

- 学習対象から自分の課題を見出し、その解決に向けて、主体的に働きかけている子ども (学ぶ意欲)
- 課題の解決をめざし、追究していくなかで、自ら各教科等で習得した知を活用する必然性に気づき、求め、運用していくことで、自らの応えをつくりあげている子ども (能力)
- 実社会や実生活のなかで、自分の知を総合化することで課題解決を実現することを通して、自分自身の学びの意義を実感し、生活に積極的に生かしていこうとする子ども (自信)

## 2 総合的な学習のカリキュラムの考え方

### ● 実社会や実生活とのかかわりを創る教材化の条件

#### (1) 学習対象

学習対象は、子どもたちにとって価値高いものでなければならない。「子どもたちにとって価値高い」とは、対象を追究していくことで、自己の生き方の参考になったり、生活現実にかかわる事象に対しての認識が深まったりすることである。具体的には、①地域の文化や生活を創っている象徴的なものやこと（行事、色、学問、建築、芸術、スポーツなど）②自分の生き方を創っていく際にモデルとなったり参考となったりする人間やその生き方などである。

#### (2) 学習対象選定の条件

これからの総合的な学習では、学習対象そのものの追究だけではなく、それらの対象が存在する実社会の様子をとらえたり、その実社会で実際に自分たちもその立場になったり活動したりする経験が必要である。そこで、学習対象選定の際には、価値ある対象であることはもちろん、実社会や実生活で子どもがこれまでにとらえたことを活用できるような新たな課題を含んでおり、価値ある経験ができるようなステージが設定できることが必要となる。ここでいう価値ある経験とは、試してみたり、交渉したり、働きかけてみたりするなど子どもたちが実社会と本物のかかわりをもつことである。

#### (3) 身に付けさせたい力

総合的な学習でこそ身に付けさせたい学力がある。各教科の枠にとらわれない学習であるからこそ、各教科で身に付けている知を組み合わせながら、必然的に発揮できるように、各学年や単元で身に付けさせたい力の重点化を図り、単元を構想していく必要がある。特に、中学年では、総合的な学習の時間入門期ということで、情報活用力や実践力など活動そのものを重視していく。また、高学年では、中学年での経験を生かして、課題設定力や多面的な見方・考え方、自己評価力などを育て、一人一人が、より主体的に目的をもって学習を進めていくことができるようにしたい。

観 点	中 学 年	高 学 年
知識理解力	郷土文化、環境、福祉、生命健康、勤労・進路、国際理解を追究するなかで、見出すことができる具体的な知識を身に付ける。	郷土文化、環境、福祉、生命健康、勤労・進路、国際理解の知識を身に付け、もの・人・ことから生じる願いや取り組み、自分の具体的な行動の仕方などを知る。
課題設定力	気がかりや疑問から追究可能な課題を設定することができる。	追究の価値を考え、追究可能な課題を設定することができる。
情報活用力	課題解決のために、取材や体験から情報を収集し、必要な情報が取捨選択することができる。	施設や情報機器を有効に活用しながら、収集した情報を検索、選択、再構成することができる。
総合表現力	伝えたいことを順序や内容がわかるように工夫して、目的に応じた表現媒体を選択し表現することができる。	目的意識や相手意識、状況意識をもち表現方法を駆使して意図に応じた効果的な表現をすることができる。
多面的な見方・考え方	自分の経験や、各教科等で獲得した知識や技能をもとに、情報を比べながら、自分の考えを広げることができる。	各教科等で獲得した知識や技能を生かし、得られた事実を分析、関係づけて構造化し、自分の見方を高めることができる。
実践力	自分の目的に応じて、周りの状況や、条件を意識して活動内容を決定し、自分や相手の立場を考え、他者と協力しながら活動することができる。	自他の目的に応じて、周りに対する影響を考えながら活動内容を決定し、自分や相手の立場を明確にし、自分の活動を客観的な視点でとらえ活動することができる。
自己評価力	自分の追究を、他者から助言を受けながら客観的に見つめたり、自他のよさをとらえたりすることができる。	自分の追究を他者と比較しながら、客観的、分析的に見つめ追究の応えを肯定的にとらえることができる。

(4) 学習対象が備えるべき内容

	内 容	中 学 年	高 学 年
郷土文化	○ 日本の伝統文化に対する理解と愛情を育て、文化を受け継ぎ守っていく態度を育てる。	地域の文化に積極的に親しみ、地域やその文化への愛着をもつこと。 地域や文化を支える人の工夫や努力を理解すること。 地域の一員であることに気付き、郷土の文化を守るための考えをもつこと。	日本の文化や伝統の特徴に気付き、郷土や文化への愛着を深めること。 進んで文化行事や活動に参加し文化を支える人の工夫や問題点を理解すること。 文化を調べたり、つくったりして自分たちの文化として実践すること。
環境	○ 身近な自然や環境と積極的にかかわり、生活と環境の関係について理解し、よりよい環境をつくる。	身近な自然と自分の生活の関係に気付き、愛着をもって接すること。 環境問題を解決するための機関について知り、自然を守る人々の工夫や努力について理解し、自分にもできる方法を考えて試してみること。	地域の自然や環境の美しさ、大切さに気付き環境との共存について考えること。 環境問題の現状について、科学的な方法を用いて調べるとともに自分の生活との関係を理解し、環境創造をめざし日常生活に実践すること。
食育	○ 「食」に関する知識を身に付け、健康的な生活を実現できる食生活を実践できる態度を育てる。	食文化について調べることで、食についての正しい知識を身に付けること。 自分自身の食生活を振り返り、食生活と健康とのかかわりについて調べ、これからの食生活の在り方について考えること。	「食」の安全性などの知識を身に付け、選択する力を獲得すること。 「食」とそれを支える「農業」の関係を、体験を通して調べ、環境とのかかわりを合わせて考えることで、その重要性について考えること。
福祉	○ 自分を含め高齢者や障害者、年少者の存在のことを理解し、皆が幸せに暮らせる社会をつくらうとする。	身近な高齢者、年少者、障害者について理解を深め、身近なところの配慮や工夫に気付くこと。 身近な福祉問題解決のために、自分たちにできる方法を考えて実践すること。	毎日の生活が人々の支えや助け合いで成り立っていることに気付き、他者を思いやり大切にすること。 人々が幸せに暮らせる社会をつくるには、どうすればいいか解決策を考え実践すること。
生命健康	○ 生きることのすばらしさや生命の尊さに気付き、自他の生命を大切にし、心身ともに健康に生きる。	動植物の生態や生育環境に関心を持ち、生命の神秘さや大切さを感じることに気付き、よりよい生活習慣や態度を身に付けること。	生命の誕生について理解し自分の命と周りの人や環境との関係を理解すること。 生命や健康を維持するために、自分の生活を見直し、よりよい生活環境や生き方をつくること。
勤労・進路	○ これまでの自分やこれからの自分の将来の夢を考え、自分の個性を生かしていく。	家庭や学校、地域での身近な人々の働く姿や仕事に出会い、その営みが自分たちの生活を支えていることに気付き、職業に関心をもつこと。 身近な人々の職業や生き方に関心をもつとともに自分自信の姿を見つめること。	職業調べや職場体験を通してそれぞれの職業や働く人の生き方を理解し、働く意義を考えること。 自分の個性や将来の夢について考え、なりたい自分に向かって、自分の理想像をもった生き方を考えること。
経済金融	○ 健全な金銭感覚を養いものやお金を大切にし、資源を有効に活用する。	お金の役割を理解し、様々な目的や使い方や貯め方があり、お金や資源の大切さを感じることに気付き、よりよい生活習慣や態度を身に付けること。 少額のお金を使って金融に関する意志決定を学び、お小遣いや慈善への寄付を含む使い方を考えること。	将来のニーズは貯蓄によって実現されることを学び、お金や資源を取り扱う権利と責任をもつこと。 消費者の選択が他の人々の経済や環境に与える影響を含めお金の使い方についての社会観をもつこと。
法	○ 法への関心を高め、その役割や必要性を理解し法に基づいた社会参加意識を高めしていく。	学校や地域のルールや方途自分たちの生活とのかかわりに気付き、そのよさを感じることに気付き、よりよい学校生活や地域社会での生活を送るためにどのようなルールがあればいいか考えること。	社会生活を維持するための法がどのような目的でどのようにつくられているのか理解すること。 法がよりよく活用された社会の在り方について考えること。
国際理解	○ 日本や世界の国々に関心を持ち、文化や生活習慣を理解し、他の国々の人々とともに生きていこうとする。	様々な国のの人々と交流して文化を知り、互いのよさや違いに気付き、認め合うこと。 外国語に関心を持ち、様々な場面での歌や言葉に慣れ親しむこと。	様々な国の文化や歴史、生活習慣を理解するとともに互いの違いを認め尊重しようとする。 外国語におけるごく簡単な日常会話を使って話したり、聞いたりすることに慣れ親しむこと。

## ● 他教科とのかかわりについて

これまでの総合的な学習は、総合的な学習がつけられた際の目的から、必然的に「各教科で身に付けた知を活用できる場」を意識的に取り入れた学習を教師が設定してきた。しかし、これでは、学びの範囲に制限が生まれるだけでなく、子どもが見出した追究課題を変更せざるを得ない場合も出てくることが考えられる。本来、総合的な学習における子どもの問題意識や追究欲求は、既習のなかに制限されるものではなく、未習のものを求め、より総合的・拡散的になっていくはずである。そう考えれば、既習のなかから活用する知を選ぶという考え方だけでなく、未知のものを既知にするために各教科に学びを要求していくことがあってもよいと考える。具体的には、まず、学習対象を追究していくためにつくられた課題を解決する際に、生み出された多くの問いを①他教科で学習したことを活用すれば解決できそう②これまでに学習していない知が含まれているために解決は難しそう、という2種類に分類する。もちろんこの2種類が混在することも考えられる。そして、既知の場合であれば、他教科の知識や技能を求め、補完的に活用していく。さらに、未知の場合であれば、子どもは新たな知として関係がありそうな教科に学びを要求していくことが考えられる。その場合、教師は、教科カリキュラムを検討し、関連的に単元を設定していく。

## ● 問いを深化・拡充させていく総合的な学習スタイル

子どもたちは、総合的な学習の時間が大好きである。その理由は、他の学習や教室の中だけではできないような活動や体験ができるからである。そのためにも、学習対象との出会いにおける体験は①実社会や実生活における本物の体験であること②子どもたちの中に感動やあこがれを呼び起こすもの③自己を振り返ったときに課題を生み出すものであることが必要になってくる。つまり、学習対象との出会いの体験をもとに「学習のゴール像」と「ゴールまでの見通し」と「そのために追究していかなければならない課題」が明確になってくるのである。そしてこのとき、一人一人の子どもたちのなかには、個の課題がつくられ、その課題を達成していくための「問い」がつけられるのである。子どもたちは、実社会と旺盛にかかわりながら、何とかこの問いを解決していこうと試行錯誤を始める。つまり問いは深化していくのである。そして一人一人が追究し、明らかにしてきたものを全体で結集させたとき、学習対象に対する深い理解が可能になる。この理解したことを何らかの形でまとめたり発信していったりしようとするとき、今までとは視点が違った課題がつくられる。例えば、祭りを行いたいという課題をもったとき、まずは祭りそのものについて追究していく（問いの深化）が、実際に祭りを行おうとしたときには、「場所はどうか」「どうやって人を集めるか」「プログラムはどうか」など、様々な解決しなければならない問題が生まれてくる（問いの拡充）。このように、

総合的な学習では、「問い」の複合型の学習で学習を展開することによって、学びのゴール像に期待感やあこがれをもちながら追究活動を行い、その成果を実社会や実生活において発揮したり発信したり実感したりする探究型の学習を実現することができる。

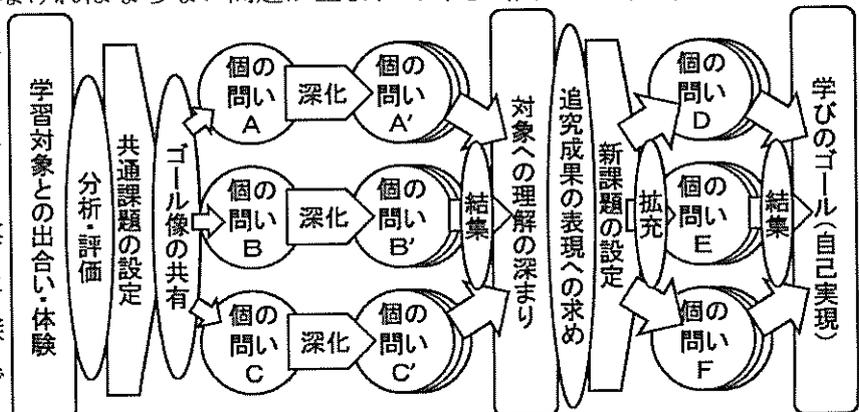


図1 「問い」の複合型の学習を取り入れた学習スタイル

(1) 目標

- 1 卒業を前に、自分のこれからの人生について設計し、そのための調査活動や交流活動に取り組むことで、これからの新しい環境でも、前向きにかつ主体的に行動できる態度を創ることができる。
- 2 自分の人生設計図づくりのために、社会で価値ある生き方をしている人に出会い、リサーチすることを通して、これからの生き方や学んだり働いたりすることの意義について考えることができる。

(2) 単元の考え方

- 卒業を間近に控えた子ども達に、10年前の卒業生との出会いの場や10年後に開けるタイムカプセルとの出会いを設定することで、10年後やこれから10年間の自分自身の姿に関心を持ち、個々の課題を設定し、追究の見通しをもたせる。そして、実際に社会で価値ある生き方をしている人と出会う場を設定し、参考にしていくことで、自己の人生設計図を創らせる。

(3) 学習の流れ

第1次：1～4/16時

10年前の卒業生と出会い、10年後の自分の姿に関心をもつ。



10年前の卒業生から、小学校6年生当時の様子や、間もなく就職し社会人となる直前の今のようすを聞き取る。

第2次：5～14/16時

今を精一杯生きている人から、人生設計のための情報をリサーチする。



ベスト電器の各支店長を務め、23年間にわたり営業一筋で頑張ってきた松田さんから組織の一員として働くことへのこだわりについてリサーチする。

第1次では、これから10年間の自分の生き方に関心を持ち、これから10年間の人生設計図を創りタイムカプセルに入れるという目的をもつことをねらいとしている。

【教師の支援】

- ※ 10年前の卒業生との出会いの場を設定して、交流させた。
- ※ タイムカプセルの容器を提示し、タイムカプセルを開封している学校の新聞記事を紹介した。

【子どもの様子】

- 10年後の自分のようすを思い浮かべ、10年後に出会う自分にどんなメッセージを残すか関心を高めた。

第2次では、こだわりをもって働いている3人の生き方と、自分の将来の夢とを比較して、追究していきたい人を選択し、その人と交流することで、生き方のこだわりについて情報を収集し、自分のこれからの生き方について考えをつくることをねらいとしている。

チェリストとして楽団に所属せず、ミニコンサートを開く八尋さんからソロ活動へのこだわりをリサーチする。

アイガモ農法を確立し無農薬で環境に優しい米づくりを続ける古野さんからもものづくりへのこだわりをリサーチする。

リサーチした人の情報やそこから見出した参考になる生き方について情報交換して、これからの自分の生き方をつくっていこう。

**第3次：15～16/16時**  
自分の「これから人生設計図」をつくり、タイムカプセルに入れる。

10年後の自分に伝えるメッセージを書きこんだわたしだけの「これから10年人生設計図」ができたぞ。10年後が楽しみだな。

今までのぼくは、頭では考えていても行動に移せない「有言無実行」だった。しかし、生き方にこだわりをもっている人に出会って、めげない自分にならなくてはと思った。これからの人生には、もっと高い山が待ちかまえていると思う。そこに登るためには、しっかりとした足場が必要。だから遠くを見ずに、今見える道を一生懸命生きることが大切だと思った。

資料 人生設計図にA児が書いた決意

**【 考 察 】**

◎ 10年前の卒業生と出合わせたり、タイムカプセルを提示したりすることで、10年後の自分自身に関心をもたせることができた。また、三者三様のこだわりをもった生き方をしている人物を紹介することで、自分の夢と重なる部分をもっている人物を選択させ、自分の生き方を深く考えさせることができた。さらに、10年後の自分に送る「これから10年人生設計図」づくりという課題をもたせ、その表現方法について問いを拡充させたことで、再追究の必要感をもたせることができ、今の自分自身の生き方を振り返り、精一杯生きることの大切さに気付かせることができた。

**【教師の支援】**

- ※ 組織人としてのこだわりをもつ人としてベスト電器外商部部長の松田さん、個人で活動することにこだわる人としてチェリストの八尋さん、ものづくりへのこだわりをもつ人として古野さんのプロフィールを紹介した。
- ※ 同じ人物を選択した者同士が情報や意見を交換できる場を設定し、FAX やメールなどを活用して再追究できる場を設定した。

**【子どもの様子】**

- 自分の夢と照らし合わせながらGTの話に耳を傾け、こだわりの内容について積極的に質問する姿が見られた。
- 収集した情報を交流のなかで吟味し合うことで、こだわる意味について、自分のめざす生き方を比較しながら考える姿が見られた。

第3次では、自分の「これから10年人生設計図」をつくり、タイムカプセルに入れることをねらいとしている。

**【教師の支援】**

- ※ 表現方法は、図絵に表したり、巻物風にしたり、各自表現を工夫できるようにした。
- ※ 10年後開封することに決めて封をした。

**【子どもの様子】**

- 「10年後の自分に今の思いを伝えよう」という意欲をもつことで、これからの自分自身の生き方を見つめ、自分だけの設計図づくりに取り組んでいた。

(1) 目標

- 1 大きなけがに打ち克ちながらいのちを輝かせて生きている人物を追究する課題を設定し、人物史をもとに、直接話を聞いたり、メールを交換して聞いたり、闘病の手記をインターネットで調べるなど多様な調べ方をもとに、人間を多面的・総合的に追究することができる。
- 2 一生車いす生活になるという現実と向き合い、車いすアスリートとして挑戦しようとした心情や、生命の危機に瀕しながらも生還した心情などを追究し、生命を輝かせるために努力し続けるすばらしさに気付き、自分の生命について見直すことができる。

(2) 単元の考え方

- 事故から生還し（生命の危機）、車いすアスリートとして世界で挑戦し続ける「副島正純選手」という生き方へのこだわりをもった人物との出会いから、副島選手が競技中に繰り出す速さの秘密を追究していく。その中で、副島選手の生命を輝かせるために努力し続ける生き方への憧れ、感動を抱かせる。そして、子どもたちは、自己の生き方を見つめ、副島選手と一緒に夢を実現する「夢実現隊」として活動したいという思いをもち、実現に向けて活動を進めていく。

(3) 学習の流れ

第1次：1～3/15時

副島正純選手の生き方に出会い、課題について話し合う。



副島選手は、どうしてそんなに速く走ることができのうか？その速さのひみつを知りたい！

第2次：4～10/15時

副島選手の速さのひみつを調べ、夢や希望から自分の生き方を見つめる。

第1次では、副島正純選手の生き方に関心をもち、前向きに生きる生き方に対する追究意欲を高めることをねらいとしている。

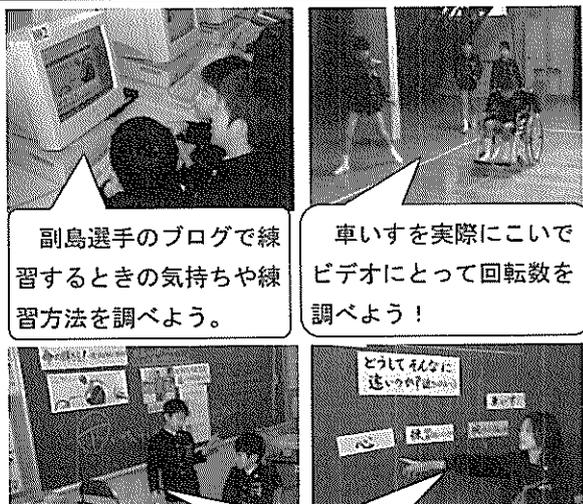
【教師の支援】

- ※ 副島正純選手との直接車いす競争をした後、副島選手の生き方について直接対話をする場を設定した。
- ※ 挑戦し続ける副島選手の選手略歴を提示し、それについての書き込みをさせた。

【子どもの様子】

- 副島選手の車いすをこぐ速さに驚き、その速さの秘密を知りたいという思いを強くした。

第2次では、副島選手の速さを支えるものとして、腕の回転数、支えるシステム、練習方法、競技用車いすなど、仮説をもとに、実験や取材を通して調べ、自己の課題を追究する中で、自己の生き方を吟味することをねらいとしている。



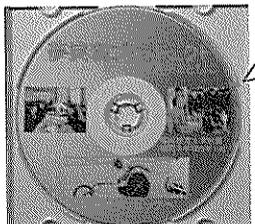
副島選手のプログで練習するときの気持ちや練習方法を調べよう。

車いすを実際にこいでビデオにとって回転数を調べよう！

副島選手の試合のビデオを見て、副島選手と他の選手の腕の回転数を計算して比べよう！

副島選手は、どうしてそこまで挑戦し続けるのだろうか？それぞれが関わりあっていると思う。

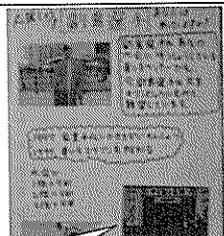
**第3次：11～15/15時**  
副島選手の生き方や自分たちの活動を紹介するプロジェクトを実践する。



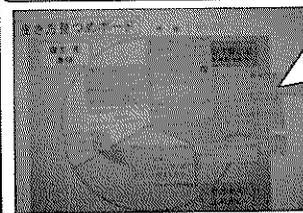
5年1組が副島選手の速さの秘密と夢を実現する応援隊を結成したドキュメンタリーDVDができました。



応援クッションで副島さんの生き方を紹介しよう！



生き方紹介新聞



副島選手から学んだことを、将来の自分像を生命の3つの視点を意識してボードに書いてみよう。

### 【教師の支援】

※ 副島選手の速さの秘密について、それぞれの追究方法にあった援助をする。

例：腕（回転）グループの場の設定

自分の腕の回転をVTR撮影し、副島選手と比較する。（比較1）副島選手と他の選手との比較する。（比較2）回転数を計算する。

### 【子どもの様子】

- 副島選手の速さの秘密を探る中で、「どうしてもそこまでして挑戦し続けるのか」という副島選手の生き方に関する問いへと深化した。
- 副島選手の生き方を副島選手のプログや取材で調べ、自分の考えとの比較をし、生き方見つけめボードに記述していった。

第3次では、自分たちの取り組みを振り返り、実社会へ発信していくことをねらいとしている。

### 【教師の支援】

※ 副島選手の生き方とそれに関する自分たちの考えやこれまでの活動の様子を紹介するプロジェクトを実践する場を設け、生き方見つけめボードに生き方の視点をもとに自己の生き方を記述する場を設定する。

### 【子どもの様子】

- 副島選手やそれを支えるシステムをつくっている方に自分たちの企画、ドキュメンタリー制作を見て、評価をいただくことで、これまでの取り組みの成果を実感していた。
- 自分のできる活動を振り返り、生き方見つけめボードに自己の生き方の視点を記述し、生命を意味の大切さを実感していた。また、副島選手を応援する夢実現隊を結成し、今後も活動する意欲を高めていた。

### 【考察】

- ◎ 生命の危機を乗り越えて生きる人物の生き方との出会いからスタートし、その人の速さの秘密を追究することで、その人の生き方の追究へと問いが深化し、「生命を輝かせて生きる」という生命の意義性をとらえ、夢や希望をもって生きる自己の生き方への考えをつくることができた。
- 生きる意味を考えて生きる方と直接交流させたことは、人の弱さを乗り越えて自己と向き合い、生きるという生命の視点を見直させることができた。

## ○ 外国語活動の構想

# 進んでコミュニケーションを図る英語活動

## ○ はじめに

私たちの身の回りには英語の環境があふれ、しかも中学校から大学卒業までの約 10 年間、英語を学び続ける場があるにもかかわらず、町で外国の人に話しかけられると、十分なコミュニケーションが図れないというのが現状の姿である。これは、従来の英語教育が「訳読・文法中心主義」等に見られるように、外国の文献や資料から新しい情報を得る手段として行われてきたことに原因があったと考えられている。この反省の上に、現在では、学習者である子どもたちの活発な表現行為を尊重し、意思伝達のための生きた言葉の習得が目指されるようになってきた。そこで、英語活動において「豊かな学びを育む」とは、意思伝達のための生きた言葉を子どもたちが友達や先生に向けて活発に使い、そのやりとりを通して英語に慣れ親しんでいる姿ととらえる。したがって、進んでコミュニケーションを図ることができるようになることに主眼をおいたカリキュラムを作成することが求められる。

## 1 主題について

進んでコミュニケーションを図るとは、自分の英語に対しての語彙が少なくても基礎的な単語や表現を使って、相手とあいさつをしたり自己紹介をしたりすることができることである。例え英語に関しての語彙が少なくても、相手とコミュニケーションを図ろうとする姿勢が大切である。相手に英語で話しかけられたからといって無言になったり、どぎまぎしてしまったりしては、簡単なコミュニケーションさえも図ることができなくなってしまう。

進んでコミュニケーションを図る英語活動とは、英語に関する簡単な単語と発想の基本表現（判断／希望・願望／要求等）を身に付け、それらを用いて、日常生活に必要なことを英語で話したり聞いたりすることに意欲的に取り組むことができる活動のことである。従来の英語教育の指導法の反省に立ち、使える英語にするには、日常生活に必要な場面でのコミュニケーションを重視した指導法が重要である。これは、学習者の発想と言葉のもつ機能を重視するもので、学習者の自然な表現行為を大切にし、意思伝達のための生きたことばの習得を目指している。そのためには、日常生活に必要な基本的な単語や構文を洗い出すとともに、単にそれを使わせるだけでなく、その単語や構文が子どもの興味・関心に基づいて楽しく意思伝達できるように、選択の自由性をもった活動が必要となってくる。

- 英語で話したり聞いたりするコミュニケーションの楽しさを感じることができる子ども (学ぶ意欲)
- 基本単語と基本表現で、日常生活に必要なコミュニケーションを図ることができる子ども (能力)
- 簡単な英語で話したり聞いたりができるようになった自分に満足感を味わう子ども (自信)

# ～タスク活動の選択性を重視した授業づくり～

田 中 健 悟

## 2 副主題について

タスク活動とは、ある特定の課題を、学習者が学習した言語形式のなかから選択しながら、相手との自然なコミュニケーションを通して遂行する活動のことである。このタスク活動には、子ども一人一人に応じて内容が変化する自由な選択部分（インフォメーションギャップ）が含まれる。

タスク活動の選択性を重視した授業づくりとは、個々のタスク活動を目的のある活動場面として関係付け一連の流れとして設定するとともに、子どもの興味・関心や自分の思い、自分の生活情報などが英語表現に反映し、自分以外の相手とコミュニケーションを図りたいという状況が生まれる題材選定とその位置付けを段階的に行うことである。

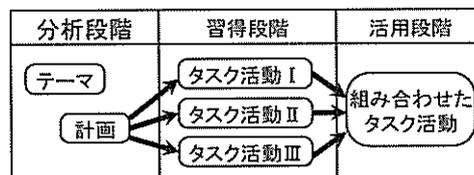
## 3 具体的構想

### ● 教材化の条件

- 【連続性】 一人一人が簡単な単語や表現を聞いたり話したりする場面が何度もあること
- 【相互性】 相手が入れ替わりながら単語や表現を聞いたり話したりする場面があること
- 【選択性】 基本表現のなかに、子どもの興味・関心に基づいて選ぶことができる要素があること
- 【関係性】 あるテーマのもとに、複数のタスク活動が関係付けられてとらえられていること

### ● 活動構成の工夫

単元を「分析」「習得」「活用」の3段階で構成する。「分析段階」では、今後の活動に必要な内容を大まかにとらえる。「習得段階」では、最終的な活動で必要となる内容を追究する。「活用段階」では、楽しくコミュニケーションを図りながら、それまでの内容を組み合わせて発揮させ、選択部分を徐々に増やした活動を展開していく。



【表1 タスク活動の選択性を重視した活動構成】

	分析段階（導入段階）	習得段階（展開段階）	活用段階（終末段階）
学 習 活 動	1 ミニテーマの内容に出会い、そこで必要となる内容について話し合う。 (1) ミニテーマの内容に出会う。 ○ 英語活動に対するゴール像を見通すこと (2) ミニテーマの活動を成立させるために必要となる内容について話し合う。(計画) ○ 学習する内容を見通すこと	2 ミニテーマのなかで必要となる新たな単語や表現について追究する。 (1) タスク活動Ⅰで習得する。 ○ 新たな内容に慣れ親しむこと ↓ (2) タスク活動Ⅱで習得する。 ○ 新たな内容に慣れ親しむこと ↓ (3) タスク活動Ⅲで習得する。 ○ 選択部分に慣れ親しむこと	3 習得段階で追究してきた単語や表現を組み合わせる使うタスク活動を行う。 (1) 関係する表現を口に出す。 ○ ウォーミングアップすること (2) 自分で選択した単語と表現を組み合わせる「タスク活動」を行う。 ○ タスク活動をつないで、楽しく英語でのやりとりを行い、組み合わせる表現に慣れること
支 援	※ Phonics 表と単語カードの活用 ※ ミニテーマの内容を把握させるための写真や映像の提示	※ Phonics 表と単語カードの活用 ※ 基礎的な表現を繰り返す遊び ※ 評価機能を取り入れた場の工夫	※ Phonics 表と単語カードの活用 ※ 活動量を支える場の設定 ※ 評価機能を取り入れた場の工夫

第4学年 題材「Let's go shopping for Christmas.～クリスマスの買い物をしよう～」

(1) 目標

- 1 クリスマスツリーづくりやクリスマスプレゼントの買い物ごっこの活動を通して、これまでに習得してきた英語表現を自分の興味関心に応じて選択し、活用の範囲を広げる楽しさを味わう。
- 2 お店での品物の注文の仕方や答え方などの英語表現、値段の支払い方の英語表現等に慣れ親しみ、それらを組み合わせて用いることができる。

(2) 題材の考え方

- 子どもたちが買い物場面に関する基本的な英語表現に慣れ親しむことができるように、2つのタスク活動（クリスマスツリーづくりとクリスマスプレゼント集め）を段階的に設定している。
- 2つのタスク活動において、どちらも子どもが自分の興味関心や状況に応じて英語表現を使い分けることができるように、選択可能な部分を多く設定している。

(3) 学習の流れ

分析段階：1/3時

クリスマスについて話し合い、買い物で必要となるお金の英語表現を使う。



写真1 ドル紙幣を用いたHow muchゲームの様子

【How much?】	
お客	How much?
店員	It's \$ 2.00.
店員	Here you are.
お客	Thank you.

資料1 お店で値段を尋ねる活動での英語表現

ふぞく小学校の紙のお金で、買い物ゲームをしたのが楽しかったです。買い物を上手にするには、お店屋さんに行ったときに、英語で話せないと、クリスマスの品物が買えないから、英語でうまく言えるようにしたいです。

資料2 授業後のA児の感想

分析段階では、日本と外国でのクリスマスに関する違い、お金の違いをとらえるとともに、本題材で取り組んでいく以後の英語活動についての見通しをもつことをねらいとしている。

【教師の支援】

- ※ ALTから外国のクリスマスの様子を聞く活動を設定した。
- ※ 買い物場面での英語でのやりとりを見る活動を設定した。
- ※ 英語表現を繰り返し慣れ親しませるために、How much ゲームの活動を設定した。

【子どもの様子】

- 写真1にあるように、子どもたちは2人組になって、How much ゲームを楽しんで行うことができた。
- 資料2のように、子どもたちは買い物ごっこの活動を行っていくための大まかな見通しと意欲をもっていった。

**習得段階：2/3時**

クリスマスツリーを飾り付けるために  
クリスマスグッズの買い物をする。



写真2 クリスマスツリーグッズの買い物の様子

英語で買い物をして、ツリーのかざりを全部集めることができました。ツリーにシールをはって完成させたら、とてもうれしくなりました。お客さんになったときは、何回もお店にならんでほしいものと言ったので、英語での買い物は、そんなにむずかしくないなと思えるようになりました。

資料3 授業後のB児の感想

**活用段階：3/3時**

英語表現を使いショッピングモールで  
クリスマスプレゼントの買い物をする。

B shop で：パソコンを指さして  
↓ 「This one, please.」  
D shop で：座椅子とマッサージチェアを指さして  
↓ 「This one and this one, please.」  
A shop で：DS と Wii (ゲーム) 及び ipod を指さして  
↓ 「Can I have DS, Wii and ipod, please?」  
C shop で：バッグを指さして  
「Can I have bag, please?」

資料4 買い物場面でのC児の英語表現の記録から

**【 考 察 】**

- ◎ 最終的な買い物場面でのやりとりに必要な部分的なタスク活動を設定し、カードゲームとごっこ活動を組み合わせながら、段階的に活動を仕組んだことは、子どもたちが、無理なく買い物場面における英語表現に慣れ親しむことに有効であった。
- ◎ タスク活動のなかで、商品に関する選択性や値段に関する選択性、商品の依頼の仕方に関する選択性をもたせることによって、抵抗無く、子どもたちが英語に関する語彙が少なくても、進んでコミュニケーションを図ろうとする態度につながることができた。

習得段階では、お店を開くために、必要な英語表現を習得していくことをねらいとしている。

**【教師の支援】**

- ※ 買い物場面でのやりとりに必要な英語表現を繰り返し使い、慣れさせるためにカルタ取りゲームの活動を設定した。
- ※ クリスマスツリーグッズのシール 11 種類を、英語表現を繰り返し用いながら、買い物ごっこを通して集めてまわり、ツリーに貼って完成させるタスク活動を設定した。

**【子どもの様子】**

- 写真2のように、買い物ごっこの場面で、英語表現を楽しみながら使っていた。
- 資料3のように、買い物ごっこの活動を繰り返すなかで、英語表現に慣れ親しみ進んでコミュニケーションを図ることができた。

活用段階では、これまでの英語表現を組み合わせることをねらいとしている。

**【教師の支援】**

- ※ クリスマスプレゼントの広告紙を配付し、家族のみんなにクリスマスプレゼントを選んで買うという設定で買い物ごっこの活動を設定した。
- ※ 買い物ごっこの活動で集めた商品を紹介する活動を設定した。

**【子どもの様子】**

- 資料4のように、商品に応じて、英語表現を使い分けながら楽しく活動することができた。

## ○ 特別支援教育部の全体構想

### 共生社会を豊かに生きる子どもを育てる学習の創造

#### ○ はじめに

2001年にWHO（国際保健機関）によって採択されたICF（国際生活機能分類）は、障害のある人を、活動に主体的に参加し、社会に能動的に参加する主体としてより一層明確にした。また、ICFの考え方は、教育と諸機関との連携、将来にわたっての支援の重要性を表している。このことは、我が国が特殊教育から特別支援教育に転換していくこと、すなわち障害のある子どもを将来にわたって諸機関と連携しながら育てていくといった考え方に深く関わっていると考えられる。さらに、次期学習指導要領において、ICFの視点、自立活動の内容において、「人間関係の形成（仮称）」が加わることなどがあげられている。このことから、これからは、子どもがこれから社会に積極的に参加して、様々な人々とかかわり、その中で自分らしく生きていくための資質能力を育てていくことが大切になると考えられる。

#### 1 主題について

共生社会を豊かに生きる子どもとは、子どもたちが現在、または将来にわたって、必要な支援を受けつつも生活の中で自然や社会の文化など身の回りの様々な事象とのかかわりを通して、できることやわかることを増やしていき、その中で自分らしく生きることができることである。このような子どもを育てていくためには、次のような資質、能力を育てていくことが必要となる。まず、学ぶことそのものを楽しむことや生活に役立ったと感じる「学ぶ実感」、次に、身の回りの事象（もの、人、こと）に自分からはたらきかけたり応じたりするために必要な知識、技能を活用させる「かかわる力」、さらには、自分ができたことやわかったこと、生活の中で積極的に知識、技能を活用したいと感じる心的なエネルギーである「やる気・自信」である。この3つの力（要素）を子どもの実態や将来像からねらいを設定していく必要がある。

共生社会を豊かに生きる子どもを育てる学習の創造とは、生活の目的を達成するために身近なもの、人、ことに積極的にはたらきかけ、身の回りの事象の意味がわかったり生活に必要な事柄を身に付けて活用したりできるように、教育活動の種類や配列を工夫して子どもが主体的に参加する環境を創っていくことである。

- 学びを通して、できるようになったことを生活にいかしながら、学んでいるよさを感じている子ども（学ぶ実感）
- 身の回りの事象とのかかわりを通して、知識、技能を判断して用いることができる子ども（かかわる力）
- 自分の考えや行動をできたこととつなげて、新たな事象に意欲的にかかわることができる子ども（やる気・自信）

## ～「かかわり」と「自己決定」を重視した授業づくり～

### 2 副主題について

「かかわり」とは、子どもが「やりたい。」「こうしたいなあ。」などの目的と見通しをもちながら目的となることを達成するために自分から積極的に人に尋ねたりものを扱ったりその場所に行って参加したりすることである。

「自己決定」とは、目的をもちながら活動していく中で、自分の経験やこれまでに習得した知識・技能をはたらかせて目的達成のための行為や考えを自分で決めることである。

「かかわり」と「自己決定」を重視した授業づくりとは、子どもたちが、人、もの、ことにかかわる場面を設定し、一連の活動を通して学習内容を習得しながら学んだことを実感し、生活に適應できるような力を育てる授業を創造していくことである。「かかわり」と「自己決定」を重視した授業づくりでは、生活に必要な事柄などをその場面に応じて身に付けたりこれまでの学習で身に付けた知識や技能を使って自分から活動に取り組む姿をめざしていく。

### 3 具体的構想

#### ● 授業づくりの視点と工夫

##### ① 教材開発の視点

教材開発においては、人とやりとりすることや自分で選択するような状況が可能な場面が設定できるように教材化を図る。具体的には、生活するのに必要な事柄や事象で子どもの興味・関心が持続するものや人やものと積極的にかかわるなどの場面設定ができるものである。

##### ② 学習過程の工夫

- ・かかわりの広がり と 自己決定場面を設定する学習過程

かかわる対象が増えていきながら、かかわる対象を選んだり、かかわる順序を決めたりしながら自分の課題を自己決定していくような活動を仕組む。

- ・かかわりの深まり と 自己決定場面を設定する学習過程

かかわる対象は決まっており、かかわりが深まってく。状況が変わったときに自分でかかわり方を決めていくような活動を仕組む。

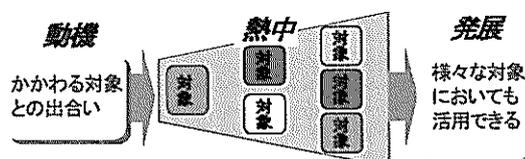


図1 かかわりが広がる学習過程



図2 かかわりが深まる学習過程

#### ● 授業づくりの視点と工夫

##### ① 子ども主体の学習になるための学び方の定着と工夫

- ・繰り返しの活動において学習内容を変化させる学習スタイルの定着と活動の場の工夫

##### ② 障害特性等をふまえた個に応じた支援

- ・人やものとのかかわり方についての特性への配慮
- ・活動における操作性や巧緻性への配慮（操作活動における補助具などの準備）

## ○ 特別支援教育国語科学習の構想

### 状況に応じてことばを活用する国語科学習

#### ○ はじめに

現代社会においては、障害者の積極的な社会参加・参画がいわれ、生活技能の向上とともに生活の質の向上が重視されている。そのためには、自分がどうしたいのか自分で決められるとともに、自己決定したことを回りが分かるように伝えることが必要である。国語科でねらいとするのは、ことばを使って人やものとかかわる力を伸ばし、積極的に表現しようとする気持ちを育てることである。さらに、社会生活に必要なコミュニケーション能力を身に付けることにより、集団生活への適応力と社会生活の拡大を図ることが大切である。社会生活の中で自分なりの生き方や生きがいを実現でき安定した気分で生活することが豊かに生きることだと考える。そのためには相手分かるように伝えることとともに、相手の気持ちや考えを受け入れることが大切である。やりとりの中で人に伝わる喜びや気持ちを共有する喜びを知り、回りとかかわっていくことができるようにすることが「共生社会を豊かに生きる」ということにつながっていくのである。

#### 1 主題について

状況に応じてことばを活用するとは、場面や相手に応じて、自分もっている語彙の中からことばを選んだり、ことばを言い換えたり、他のことばを添えて詳しくしたり、効果的な言い方をしたりすることである。そのためには、個に応じた表現手段をもっていることとともに、目的や相手意識があることが必要である。さらに必要な力としては、ことばを選択する力、正しいことばの使い方や話し方ができる表現力、どのようなことばをどのように使えばいいのかを状況と結び付けてとらえる状況をとらえる力が挙げられる。

状況に応じてことばを活用する国語科学習とは、目的意識をもって、回りにかかわる場面を設定し、実際にやりとりを行う中で、話すため・聞くための表現力や理解力、さらにはコミュニケーション技能を獲得するものである。実際にやりとりをすることで、自分が言っていることが相手に伝わっているのかがすぐに判断でき、より相手が分かりやすい話し方を考えていこうとすることができる。さらに、理解面だけでなく技能面も身に付き、生活の中で人とかかわるときに必要な力につながる。

- ことばを使って回りとやりとりをすることで、自分の要求が満たされたり目的が達成されたりすることが分かり、ことばを使うよさを実感している子ども (学ぶ実感)
- 自分の気持ちを伝えたい、相手の言っていることを知りたいと思って回りとかかわろうとする子ども(かかわる力)
- 自分から働きかけ、相手に伝わるように話そう、相手の話が分かるように聞こうとしている子ども(やる気・自信)

## ～共通の目的があるやりとりを取り入れた授業づくり～

諏訪原佳子

### 2 副主題について

共通の目的があるやりとりとは、共通の目的を達成するために知っていることをお互いに教え合ったり、協力をしたりしながら一緒に何かをつくりあげていくことである。共通の目的があることでやりとりが成立しやすくなる。また、実際にやりとりをすることで、相手に言ったことが正しく伝わっているのかすぐに確認することができ、うまく伝えられたかどうかを自分で判断することができる。

共通の目的があるやりとりを取り入れたとは、学習の「みとおす」「つかむ」「ひろげる」の各段階にやりとりを取り入れ、ねらいとすることばやことばの使い方を繰り返し使うことで、相手や場面などに応じて使うことができるようにしていくものである。

共通の目的があるやりとりを取り入れた授業づくりとは、共通の目的の中で実際にやりとりをすることで、ねらいとすることばを状況に応じて使うことができるようにしていく授業のことである。教師は適宜、モデルを示す、ヒントを与えるなどしてねらいとすることばを使ってやりとりが進むようにしていく。この授業では、最終目的としてお楽しみ会をするなど、生活単元学習と組み合わせて考えていくこともある。

### 3 具体的構想

#### ● 教材化の工夫

以下の視点から共通の目的とするもの、ことばを選んでいく。

共通目的の設定の視点	ことばの選定の視点
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生活の中での課題（お楽しみ会を楽しくしよう）など、子どもたちがイメージをもちやすいもの</li> <li>○ 制作ではやりとりできるような作り方が簡単なこと</li> <li>○ ねらいとすることばやことばの使い方が繰り返し使えるような場面の設定ができること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生活の中で、言い換えるなど場に応じて使えていないことば</li> <li>○ 人とのかわりの中から課題となることば               <ul style="list-style-type: none"> <li>・肯定・否定のことば</li> <li>・依頼要求を表すことば</li> <li>・気持ちを表すことば</li> <li>・詳しくすることば など</li> </ul> </li> </ul>

#### ● 活動構成の工夫

お楽しみ会を楽しくするための飾り作りを例にとると以下のような活動構成になる。

	みとおす段階（動機）	つかむ段階（熟中）	ひろげる段階（発展）
活動	1 教師の説明書をもとにしながら、自分が担当する物を作る。	2 友達などに作り方を説明したり、一緒に作ったりする。	3 相手を変えて、作り方を説明したり一緒に作ったりする。
ねらい	○ ことばの意味をとらえ活動の見通しと意欲をもつこと	○ 効果的なことばの使い方をとらえること	○ やりとりできた満足感を味わうこと
手だて	※ 教師作成の説明書の提示 ※ 生活単元学習とのつながり	※ 自分が作った説明書をもとに、友達に教える場の設定	※ 飾り付けをする場の設定 ※ 生活単元学習とのつながり

## 4 指導の実際

### 第5・6学年 単元「そつぎょうを おいらいしよう!」

#### (1) 目標

- 1 先生役、子ども役の役割を意識してお互いに意見を言ったり、道具づくりの説明をしたり、質問をしたりしてお楽しみ会の準備をすることができる。
- 2 (AG) 伝えたいことを身振りやカードを使って表すこと、(BG) 文を短くしたり、順番通りに言ったりして相手が分かるように伝えること、(CG) 相手に応じて、伝えたいことを順番や大切なところを意識して伝えることができる。

#### (2) 単元の考え方

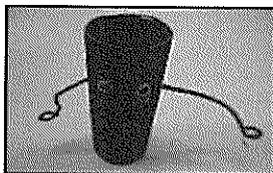
- 6年生の卒業をお祝いするためのお楽しみ会で使うゲームの道具を自分たちで作ろうという共通の目的をもたせる。
- 「みとおす段階」では共通の目的を意識させ、試しに道具を作ってみる。「つかむ段階」では友達に説明していくことでことばを活用していく。「ひろげる段階」では相手を変えて伝えることで、さまざまな相手に伝えられるようにする。また、生活単元学習とつなげ、実際のお楽しみ会でゲームをすることで達成感を味わうようにする。

#### (3) 学習の流れ

Aグループ a児 (5年女子)	Bグループ b児 (6年女子)	Cグループ c児 (6年男子)
(実態) 理解言語は多いが表現手段が確立していない。	(実態) 話が一方的であったり、とんだりしてしまう。	(実態) ポイントを絞って話すことが難しい。
○身振りやカードで自分の気持ち、して欲しいことを伝える。	○相手が分かるように主語述語を入れて話す。	○順番や大切なおとさないように話す。

みとおす段階：1/5時

今までのお楽しみ会を振り返り、なにがしたいか話し合う。



ゲームの道具を提示した。



こんなふうにと作れるんだね。作ってみたいね。

みとおす段階では、目的が分かることをねらいとしている。

#### 【教師の支援】

※ 卒業を祝うお楽しみ会でなにがしたいか話し合う場と実際に作る場を設定した。

#### 【子どもの様子】

- 今までのお楽しみ会を振り返り、自分たちでゲームの道具などを用意したことがないことに気づき、自分たちで作りたいと発言した。自分たちで作って楽しいお楽しみ会にしたいと発言し、共通の目的をもつことができた。

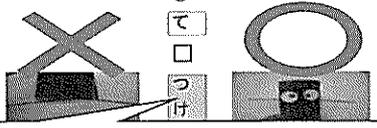
つかむ段階：2～4/5時 友達とペアになり、ゲームの道具の作り方を説明する。



①  
え  
ら  
ら

写真とことばでのヒントカード

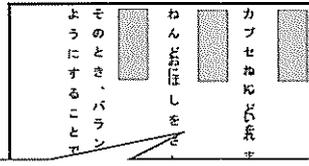
※ 写真とことばを載せた  
ヒントカードを提示した。



④  
て  
う  
け

視覚的に正誤がわかるヒントカード

※ 主語と述語がわかる  
ヒントカードを提示した。



どんなことばが入るか考えるヒント  
カード

※ 穴あきにしてことばを考  
えさせるようにした。

○ 友達が分からないと、身振りやことばを添えたり、具体物を示したりして分かるように伝えられた。

○ 「手をここに付けてください。」などと詳しくして相手がどこに付けばいいか分かるように伝えられた。

○ 相手が分からないところを繰り返したり「最初」や「1番」などのことばを使い分けたりできた。

ひろげる段階：5/5時  
他の友達に説明する。  
(生活単元学習につなげる。)



みんなにうまく説明できたから、ゲームの道具ができて、楽しいゲームができたよ。よかった。

ひろげる段階では、達成感を味わうことをねらいとしている。

【教師の支援】

※ つかむ段階でのペアとは実態が違う友達とのペアを設定した。

※ 生活単元学習「そつぎょうをお祝いしよう」でゲームをする場の設定をした。

【子どもの様子】

○ 友達が変わっても、相手の様子を見て説明を繰り返したり詳しくしたりすることができた。生活単元学習の場面では、「わたしが教えたのよ。」と、自信に満ちた発言が見られた。

【考 察】

◎ 子どもたちに共通の目的をもたせることで、活動への意欲と見通しをもつことができ、相手に伝えよう、相手が言うことを理解しようとすることができた。さらに、子どもたちのねらいとすることばを、相手の様子を見ながら使わなければならないという場面を設定することで、場に応じてことばを使うことができた。今後の課題としては、やりとりするために身に付けるべきことばを明確にしていくことである。

## ○ 特別支援教育算数科学習の構想

### 数量的対象に多様に働きかける算数科学習

#### ○ はじめに

私たちは普段いろいろな数や形に囲まれて生活しており、障害のある子どもが「共生社会を豊かに生きる」ためには、この数量や図形を他者と共有する情報として把握・理解したり、数量や図形を用いて自分の仕事を効率的に処理する能力を身に付けたりすることで、より豊かに生活していくことができる。子どもたちが社会の中で自分の力を発揮し、自信をもって生活していくためには、日常生活においても、自分の目的や意志をもって、主体的に解決していく力が必要になるであろう。このことから特別支援教育算数科においては、日常生活に必要な数量や図形へのかかわりを通して、課題解決に向かって自分なりの解決の仕方ができるようにすることが大切であると考え。子どもの生活に活かす力として算数科の内容を身に付けていくためには、子どもの興味・関心を事象と結び付け、主体的に数や量、図形にかかわる経験を積み重ね、その経験を生活を通して広げ、深めるようにしなければならない。そうすることで、その数量に関する知識・技能の範囲の拡大を図るとともに、その能力を発揮することへの自信を高めることが、豊かに生きることにつながると言える。

#### 1 主題について

数量的対象に多様に働きかけるとは、身の回りの事象から数や量及び図形を取り出して、算数科の学習素材として認識し、そうした対象に対して、明確な目的をもって選択したり、置き換えたり、組み合わせたりしながら自分なりの方法で活動することである。対象を選択することは、自分の選んだ具体的な操作や処理によって解決できたという自信をもたせることになり、対象を置き換えたり、組み合わせたりすることで経験を新たに広げていくことにつながると考える。

数量的対象に多様に働きかける算数科学習とは、子どもが目的をもって自己選択し、対象へ働きかけることにより、体験的に活動を通して算数科での個別の内容を獲得する学習である。そして、数理的な対象に働きかけた結果、目的を達成できた成就感を味わわせることで、その経験を今後の生活に活かそうとする態度を育てることをめざすものである。個別の内容設定は障害の特性や発達段階によっても異なる。例えば、連続した規則正しい操作が得意な子どもは、順序や規則性を認識し、変化のある操作が得意な子どもには、1つの内容から応用的に思考したりするよう設定するのである。

- 数量や図形に興味・関心を抱き、達成目的と活動の結果を意識して対象に働きかける子ども (学ぶ意欲)
- 操作の対象や材料を自分で選んだり、置き換えたり、組み合わせたりして活動する子ども (かかわる力)
- 数量や図形に働きかけることで、その行為や結果に成功感や成就感を味わい、自信をもつ子ども (やる気・自信)

# ～操作活動の複線化を位置付けた授業づくり～

弘 松 英 樹

## 2 副主題について

操作活動の複線化とは、身の回りの事象から数や量、図形などの要素を取り出し、その対象を動かして比べたり、数えたり、対応させたりしながら解決方法を工夫していく活動を子どもが自分なりの方法で行うことができるよう複数の内容で準備し、適切に行わせていくことである。操作活動は、子どもに身につけさせたい学習内容が個々に独立するように多様に設定し、その子どもの発達段階に応じて目標設定を行ったり、障害の特性に応じて、その子どもの得意とする操作や思考を行ったりできるようにする。学習における個別の役割を持たせた活動をさせることは子どもの主体性を喚起し、自分で解決できたという達成感を感じさせ、学習への自己有用感や自信へとつながると考える。

操作活動の複線化を位置付けた授業とは、ねらいとする学習内容の配列に応じて、操作する具体物や操作方法を個別の発達段階や障害の特性に応じて設定し、子どもが目的意識をもって対象を選び、その数や量や図形などに働きかけることで、学習内容を獲得していくよう活動を仕組むことである。

## 3 具体的構想

### ● 教材化の視点について

個別の操作活動を位置付けて教材化するための題材選定の条件を次のように考える。

- ① 操作するものが感覚的に美しさ、楽しさなどを感じさせるもの
- ② 操作するもので遊べる、日常生活に役立つなど活動の楽しみがあるもの
- ③ 操作活動をする目的があり、子どももその達成したイメージがもてるもの
- ④ 複数の操作活動が設定でき、子どもの実態に応じて仕組むことができるもの

### ● 活動構成の工夫について

題材を「動機」「熱中」「達成」の3段階で構成し、表1のように活動を構成していく。

【表1 操作活動の複線化を位置付けた学習における活動と支援】

	「動機」段階	「熱中」段階	「達成」段階
活 動	1 試しの活動を行う。 <b>動 機</b> 題材との出会い 興味・関心 基本的な操作 数の取り出し	2 対象に多様に働きかける。 <b>熱 中</b> <b>操作活動の複線化</b> 例A:連続した操作を行う活動 自己選択 例B:変化を伴う操作を行う活動 自己選択	3 新たな活動を行う。 <b>達 成</b> 自信・達成感 総括的な操作 数理の活用 題材の目的達成
内 容	○ 操作の仕方や、活動の目的が分かること	○ 対象に対して多様に、自分なりの方法で働きかけること	○ 数理の高まりを意識し、達成感を共有すること
観 念	※ 題材との出会い	※ 段階的に高まる数値の設定	※ 満足感を感じさせる評価

## 4 指導の実際

### 第1・2学年 題材「かぞえて つくろう でんしゃあそび」

#### (1) 目標

- 1 みんなで電車遊びをするために、客車の座席数や部品の必要数を示した数図や数字、数詞などを手がかりに、客車や線路、橋を操作する活動を意欲的に行うことができる。
- 2 電車遊びをするために、(AG) 乗客と座席を1対1対応させたり、(BG) 数字や数詞から線路を数えてつなげたり、(CG) 橋の橋脚を数のまとまりを使って作ったりすることができる。

#### (2) 題材の考え方

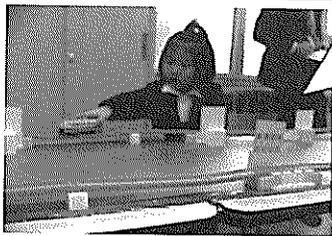
- 電車遊びをするための操作活動を通して数の理解ができるよう複線化した活動を設定し、客車や線路や橋脚など必要な部分を自分の役割に応じて作りながら対象に多様に働きかけるようにする。
- 「動機」段階において、電車遊びの試しの活動をして、もっと楽しく遊びたいという目的をもたせる。「熱中」段階においては、客車や線路の長さ、橋などの要素を変えながら自分の役割に応じて電車遊びに必要な物を作る複線化した活動を行う。「達成」段階においては、さらに長い線路をみんなで完成させ遊ぶことによって活動の達成感を感じることができるようにする。

#### (3) 学習の流れ

Aグループ c児(1年女子)	Bグループ b児(1年男子)	Cグループ e児(2年男子)
(実態) 数を意識しての1対1対応は難しい。	(実態) 具体物と数唱が一致せず、多く数えてしまう。	(実態) 数のまとまりの5が2つで10などは難しい。
○ 1対1対応して座席に乗客を乗せることができる。	○ 線路の空いた部分を、数えてつなげることができる。	○ 橋脚を5や10のまとまりを使って作ることができる。

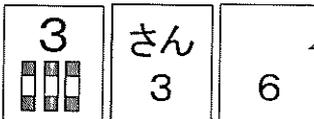
#### 動機段階：1/4時

電車遊びに出合い、試しの活動をする。



電車遊びへの意欲の喚起と、題材の学習の見通しをもたせる試しの活動

写真1 電車遊びって おもしろいな。



実態に応じた数情報の提示

資料2 数図や数詞、数字での情報の提示

**動機段階**では、電車遊びに関心を持ち、試しの活動を通してもっと工夫して遊びたいという目的をもつことをねらいとしている。

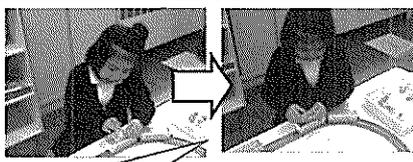
#### 【教師の支援】

- ※ 実際の線路に出合わせ、線路をつなげて電車を走らせる試しの活動を行った。
- ※ 必要な部品の数を、個の実態に応じて数図や数詞、数字で示した。

#### 【子どもの様子】

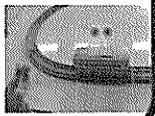
- 熱中して何度も電車を周回させて遊ぼうとする姿が見られた。そして、もっと楽しく遊ぶ工夫をしたいという目的をもつことができた。

熱中段階：2～3/4時 自分の役割に応じて電車遊びに必要な物を作り，電車で遊ぶ。

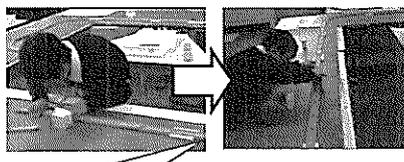


数え箱になっている客車へ，乗客を1対1対応させている様子

※ 客車自体が数え箱になるように作り，1対1対応ができるようにした。



○ 客車の座席数を意識し，乗客を座席に1対1対応するように乗せることができた。

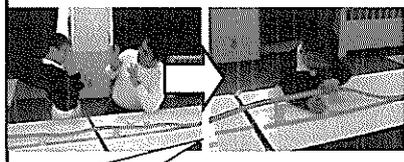


数を手がかりに線路の束を選び数えながらつなげている様子

※ 部品の数を選択できるようにし，評価機能をもたせるように設定した。

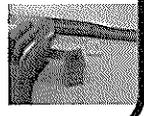


○ 線路の空いた部分に必要な数をとらえ，その数の線路を選んでつなぐことができた。



数のまとまりを使い，橋脚の部品を同じ数に積み上げている様子

※ 橋の高さを数のまとまりを使わないとそろえられないように設定した。



○ まとまりの使い方を理解し，10や5を使って橋脚の数を作ることができた。

達成段階：4/4時

もっと長い線路での電車遊びをみんなで完成させて遊ぶ。



各自が作った部品をつなげて，みんなで電車遊びを楽しんでいる様子

写真2 みんなで線路をつなげて遊ぼう。

達成段階では，これまでにできるようになった1対1対応の仕方や数の数え方を活かして，単元での学習の有用感をもたせることをねらいとしている。

【教師の支援】

※ さらに大きな線路を全員で作る活動を行い，学習してきた数理を活用しながら，子どもどうしのかかわりが生まれるようにした。

【子どもの様子】

○ 子どもたちは，それぞれが作った電車や線路，橋をつなげ大きな線路で遊ぶ活動に意欲的に取り組み，みんなでの活動の楽しさを感じながら遊ぶことができた。

【考察】

- ◎ 電車の動的な動きや大きな場での遊びなど，子どもが興味・関心をもちやすい題材を用いるとともに，子どもに最終的な活動イメージをもたせ，作った電車や線路で遊ぶという子どもの活動意欲を喚起する教材化の工夫をしたことは題材を通して意欲を継続させる上で有効であった。
- ◎ 熱中段階では，集合数という共通した内容でありながら，グループごとに細かな内容を設定することで，活動の中で対象を選んだり，数を対象に置き換えたり，数を組み合わせたりと多様に操作しながら数に働きかける姿が見られた。

## ○ 特別支援教育生活単元学習の構想

### 他者とともに生活を創る生活単元学習

#### ○ はじめに

誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合う社会において、能力や可能性を発揮して暮らしをよりよくすることが共生社会を豊かに生きることである。このとき、誰しも人とかかわり合って生きていくものであり、よりよい暮らしを進めていくには、他者からの協力を受けることが必要になる。つまり、共生社会を豊かに生きるためには、他者とのかかわりが必要なのである。また、生活単元学習が究極的なねらいとして目標を見つけ達成することで、生活に必要な知識や技能を身に付けさせていくのである。つまり、自立的な生活を送る基礎となる力を身に付けさせるのである。障害のある子どもは学んだことを他の場面に活用することが苦手で、そのために生活単元学習では、生活場面に即して活動して学習内容を身に付けたり学んだことを課題解決に活かしたりできるようにするのである。つまり、生活に即するということは、他者とかがわりながら、生活を創り出していくことに他ならない。

#### 1 主題について

他者とともに生活を創るとは、願いである目標を見出し、その目標を達成するための種々の課題について他者とかがわりながら解決に取り組み、自分たちの暮らしをよりよくし、生活に必要な知識や技能を身に付けることである。このときの他者とのかかわりには、わからないことを尋ねたり、アドバイスを受け入れたり、できないことをしてくれるように要請したり、要請を受けたことに応じて行動したり、役割を分担して果たしたりなどの往復的なものである。

他者とともに生活を創る生活単元学習とは、子どもが出合った場面の魅力を感じ、やってみたいという目的をもち、その目的を達成するための課題を他者とかがわりながら解決し、生活に必要なことがらを身に付けていくものである。このことは、共生社会で生きることにつながり、生活に必要なことがらを身に付けるという自立的な生活へとつながっていく上で価値がある。そのためには、意欲と見通し、かかわる力、知識や技能が必要になる。そのためには、課題解決に必要なとらえてくるもの・人・ことへのかかわりを必然的にもつことができるイベントに取り組ませることが大切である。

- 生活をより楽しくする目標と解決への意欲と見通しをもって、進んで他者とかがわりながら協力して活動し、工夫したり判断したりしながら課題解決を図り、自分たちの生活をよりよくする子ども (学ぶ実感)
- 目的を達成するために、他者と力を合わせて活動したり役割を果たしたりするとともに、他者へ働きかけたり応じたりして活動し、生活に必要なことがらを身に付ける子ども (かかわる力)
- 他者と協力し自分たちの力で目標達成したことへの充実感と自信をもち、身に付けてきた解決方法を新たな場面に活かそうとする子ども (やる気・自信)

# ～身の回りに働きかけるイベントによる授業づくり～

原 田 敏 男

## 2 副主題について

身の回りに働きかけるイベントとは、目的を達成するために必要に応じて自分からかかわる人物を変えていったり、よりよいものになるようにものやことを改めていったりしながら、その成果をお披露目する一連の活動である。具体的には、自分が取り組む課題の解決に向けて、取り組み方を尋ねたり協力を依頼したりして、解決に向けて取り組むことである。また、他者からの手助けが必要なときに、自分から手助けを要請することである。身の回りに働きかけるイベントによる授業づくりとは、強い思いをもって、対象に働きかけ、制作を行い、お披露目を行って達成感を味わうものである。その出会いにおいては、達成動機をもたせるような体験を行うようにする。身の回りの対象に働きかける際には、出会いの体験との比較を行いながら、不足感や必要感を感じさせ、主体的に働きかけが行えるようにする。このように、身の回りに働きかけるイベントによる学習を行うことで、課題を解決する手段を手に入れつつ、人とかかわるよさを感じ、自分たちの願いが達成できる。すなわち、他者とともに自分たちの生活を創ることができるのである。

## 3 具体的構想

### ● 身の回りに働きかける創作活動の教材化

学習活動に取り組むに当たっては、次の3点が含まれるように教材化を行う。

- 実際に行われている行事や似たような経験をもとにイベントが構成できるもの (参照性)
- イベントに感動するとともに、実施したときに相手に感動を与えられるもの (感動性)
- 種々の課題を解決する際に、一人では解決しづらく、他者への要請が発生するもの (関係性)

### ● 身の回りに働きかける活動構成

であう段階では、イベントの概観をとらえさせる活動のために見学などの体験を行う。同時に、分からないことがあれば解決のよりどころとなる人物との出会いをさせる。つくる段階では、働きかける対象を広げる活動と、働きかけるものを深める活動を行う。広げる活動では、創作活動を行うために協力を依頼する対象を広げる活動を位置付ける。深める活動では、イベントへの準備をする際に、段階的に技能的に高いモデルの品を提示する。このように、規模を大きくしたり、難易度の高いモデルの提示によりかかわりの広がりや深まりが行われるようにする。ひろげる段階では、披露する活動として、準備してきた創作物などを実際に披露したり遊んだりして目的を達成し、達成感を味わわせ、同時に他者を招待して見学や体験をしてもらい、評価を受けて自分たちの取り組んだ目標の一層の達成感を味わわせるようにする。

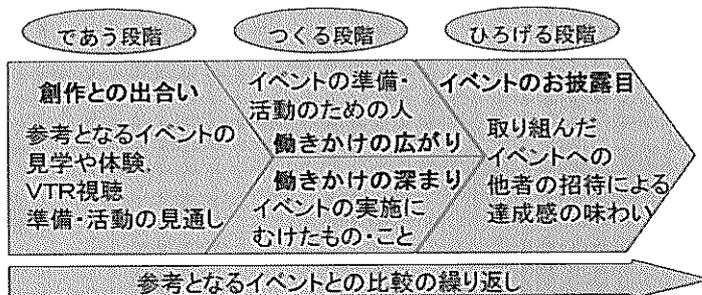


図1 身の回りに働きかける活動構成

## 4 指導の実際

### 第3・4学年 単元「とうみょうウォッチングをしよう」

#### (1) 目標

- 1 灯明ウォッチングを行うために見通しをもって、灯明作りや並べ方などについて友達とかかわりながら創り上げようとしている。
- 2 灯明の材料でを切ったり貼ったりしながら灯明を作るとともに、灯明を作るように友達に依頼したり、並べ方を友達と一緒に工夫したりすることができる。

#### (2) 単元の考え方

- 教材化として、実際に博多の町に灯明を並べて、その美しさを味わわせるイベントである博多灯明ウォッチングを参考に参照性、真っ暗な闇に火を灯した灯明の美しさを感じさせる感動性、灯明を作ったり灯明を飾るイベントを実施するために友達と協力したり、他者へ働きかけたりする関係性の3点が含まれるように「とうみょうウォッチング」を教材化する。
- 活動構成の工夫として、であう段階において、参考となるイベント、及びそのイベントにかかわっている人物との「出合う活動」を設定する。つくる段階においては、イベントを創り上げるために協力依頼という「働きかけを広げる活動」と、よりよいイベントに高めていくための「働きかけを深める活動」を行う。ひろがる段階では、創り上げてきたイベントに他者を招待して実施し、達成感を味わう「披露する活動」を設定する。

#### (3) 学習の流れ

Aグループ c児（3年女子）	Bグループ d児（3年女子）
○ 新たなことがらへの理解に時間を要して、すぐにできることは難しい。他者とは一緒に活動したりしようとする。しかし、相手に伝わるようにかかわりをもつことは難しい。	○ 新たなことへの理解が苦手で、できるには時間を要する。意欲のあることは、見通しをもてる。友達へ働きかけたり、一緒に力を合わせて活動したりすることは少ない。

#### であう段階：1/14時

灯明ウォッチングを見学し、提示した灯明を見て、灯明の美しさを感じ取り、きれいな灯明を作って飾りたいという目標を設定し、準備への見通しをもつ



きれいなとうみょうをつくって、ならべたいな。

であう段階では、灯明を作って飾るという目標を設定し、見通しがもてることをねらった。

#### 【教師の支援】

※ 実際に見学した際の博多灯明ウォッチングの映像と真っ暗な部屋で実際の灯明の提示を行った。

#### 【子どもの様子】

- 灯明のきれいさを感じて、自分たちも灯明を作って飾りたいという感想を言い、たくさん作る必要感を感じていた。

### つくる段階：2～13/14時

灯明の作り方を尋ねたり、灯明を作るために協力を呼びかけを行ったりする。



とうみょうをも  
っていてくださ  
い。



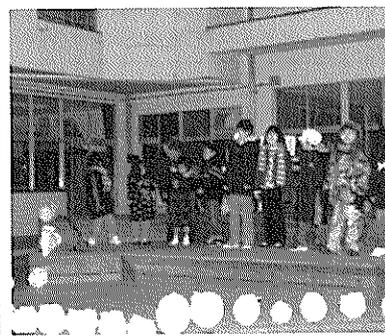
すきまができな  
いように、かみ  
をはってください。



みなさん、とう  
みょうウォッチ  
ングにきてくださ  
い。

### ひろげる段階：14/14時

出来上がった灯明を友達と協力して、中庭の舞台に並べ、招待した人の前でお披露目会を行う。



とうみょう  
ウォッチン  
グ、だいせい  
こう！！

### 【 考 察 】

- 参照性、感動性、関係性が生まれるように教材化したことは、灯明を作りたいという強い思いをもちながら他者へのかかわりをもたせる上で有効であった。
- かかわりが広がり深まるように活動構成したことは、灯明ウォッチングの美しさをもとに目標や見通しをもたせる上で有効であった。そして、灯明を作りながら人やものへの働きかけが行われる活動を設定したことは、友達に依頼する姿を生じさせ、目標達成につながった。

つくる段階では、他者とかかわりながら灯明を作ったり、たくさん灯明を作るために協力依頼をしたりして灯明ウォッチング開催のために準備をすることをねらいとしている。

### 【教師の支援】

※ 協力が生じる灯明作りを行ったり、通常学級の友達と共同開催として、一緒に灯明ウォッチング開催の宣伝を行ったりした。

### 【子どもの様子】

灯明の作り方がわからないときは、GTの方に進んで尋ねたりするとともに、灯明をたくさん作るために通常学級の友達への協力依頼をしたりすることができた。通常学級の友達に灯明を作ってもらった場面では、手順カードを見て説明したりアドバイスしたりして灯明を作り上げることができた。灯明ウォッチングの開催に向けては、通常学級の友達とともに話し合いをもち、アイデアをもらいながら、開催を呼びかける宣伝を進んで行うことができた。

ひろげる段階では、灯明ウォッチングを開催し、歌や灯明の作り方を発表してお披露目会を行い、達成感を味わわせることをねらいとしている。

### 【教師の支援】

※ 個に応じた役割の分担と通常学級との共同開催を行った。

### 【子どもの様子】

夕闇に浮かぶ灯明の明かりの中で、お披露目会を行い、みんな一緒に歌を歌ったり作り方を説明したりした。お客さんから「灯明がきれいだったよ」とお披露目会への賞賛をいただいた。

## ○ 帰国子女教育部の構想

# 自信と誇りを育む帰国子女教育

## ○ はじめに

帰国子女教育において豊かな学びを育むとは、日常生活の様々な課題を、特性を生かしながらコミュニケーションを図り、課題の解決を図ることができることである。つまり、これまでに身に付けてきた、特性としての滞在国の文化や習得してきた言語を生かしてさらに生活の場を広げ、自ら主体的に日本社会に参加していくことである。しかし、子どもたちの状況を考えたときに、子どもたち一人ひとりに、今後日本で生活していくための力として、課題解決力や特性を活かしたコミュニケーション力、さらには、事象と言語を関連付けたり、事象と事象そのものを関連付けたりしながら海外での貴重な経験を生かしていこうとする力を身に付けさせることが必要になってくる。また、学んだことを生活の生かすためには、教科特有の語彙の習得は必要だが、文脈から切り離れた単なる辞書的理解では学習活動に参加するための力は育っていかない。

そこで、帰国子女教育部では、日本で生きていくための「自信」と海外生活での貴重な体験を肯定的にとらえ、生かしていこうとする「誇り」を育てていくことにより、今後の国際社会を生きていく豊かな学びを育てていくことができるような人間を育成していくものである。

## 1 主題について

帰国子女教育において子どもたちにつけさせたい自信とは、自分自身の課題をとらえ、それを解決することを積み重ねることで、自分自身の成長をとらえ、学習や生活に対して「できる」という可能性を自覚することである。また誇りとは、海外で生活したり学習したりする中で身に付けてきた見方・考え方や経験そのものを学習の中で積極的に生かしていくことで、海外生活経験を肯定的にとらえ、積極的に活用していこうとする意欲をもつことである。

自信と誇りを育む帰国子女教育とは、個の実態を学習面と生活面の両面から把握し、それに応じた目標や方法を設定し、達成できるようなカリキュラムを編成し、実施していく学習活動である。以上のことから、次のような子どもの姿をめざす。

- 自分の課題をとらえ、日本でもよりよい生活を送るためには、生活や学習に対する課題を克服していく必要があることに気づき、意欲的に学習に取り組む子ども (学ぶ意欲)
- 未習の内容や習熟が不十分な内容を獲得し、海外生活で身に付けた経験をいかすことができる子ども (能力)
- 自分の課題を克服したり、その過程で海外での経験をいかしたりすることを繰り返していくことで、主体的に生きていこうとする子ども (自信)

# ～言語と活動を重視するコース別学習を取り入れた帰国子女教育の授業づくり～

永尾 健

## 2 副主題について

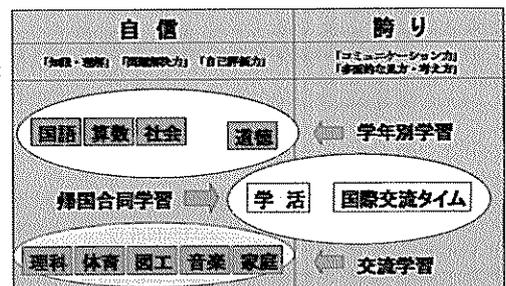
言語と活動を重視したとは、母語となる日本語の習得や滞在国で身に付けた第2母語の活用、学習内容の習得を図るために、活動と学習内容を結び付け、言語を学習内容の定着と生活適応に対する課題解決を図るための手だての中心とすることである。言語と活動を重視したコース別学習とは、教科における「学ぶ力」を獲得できるように言語環境や学習の内容に至るまでの活動を言語と学習内容とを相互に結びつけながら意図的、計画的に支援を行う学習過程の工夫である。子どもたちの知識・技能の習得は教科を支える具体的な活動（観察、情報の収集、思考、観測、操作など）によって担う部分が多く、また、知識・技能を意味づけながら語彙として身に付けることができるのである。そこで、個に応じたコース別学習の設定として子どもの日本語の理解状況と滞在国での学習内容の習得状況、そして、教科の特質的な語彙の理解などを考慮したコースを設定する。言語と活動を重視したコース別学習を取り入れた帰国子女教育の授業づくりとは、各教科や国際交流タイムでねらう力をもとに、子どもの身に付けている母語としての日本語や滞在国で身に付けた外国語の習得の実態から、学習活動に合わせて、必要な学習内容の獲得の場と活動を関連させながら授業を構成する。このように、個別カリキュラムは内容と活動が一体であることを意識したものであり、各教科、国際交流タイムの内容に即して活動（具体的な操作活動、表現活動）を展開していくことこそが、基礎・基本の定着を図ることとなり、より自分自身を誇りに思い、日本での日常生活を送る上での自信をもつことができるようになると思う。その際、学習を教科や国際交流タイムでを対象にバランスよく展開していくことが大切である。

## 3 具体的構想

### ● 言語と活動を重視したコース別学習の工夫

子どもたちの自信と誇りを育むために、日常生活における個の言語理解の程度から生活課題を重視した授業づくりと学習課題を重視した授業づくりの2つを帰国子女学級独自の学習の中で設定していく。帰国子女学級では、活動を中心にこれまでの経験を表出しやすい「理科」「体育」「図工」「音楽」「家庭」の教科については、交流学級での学習において、通常学級のカリキュラムで行っていく。子どもが自信と誇りを育んでいくことができるように、学習内容と言語を関連させたカリキュラムと言語的な特性を活かしたカリキュラムを帰国子女学級独自の学習の中で重点的に位置づけていく。

具体的には、自信につながる「知識・理解」「問題解決力」「自己評価力」を育てるために「国語」「算数」「社会」で学習内容と言語を関連させたカリキュラム編成を行い、誇りにつながる「コミュニケーション力」「多面的な見方・考え方」を育てるために「国際交流タイム」で言語的な特性を活かしたカリキュラムの編成を行っていく。



## ○ 帰国子女教育算数科学習の構想

### 数量・図形の知識・技能を確かにする帰国子女教育算数科学習

#### ○ はじめに

帰国子女算数科において自信を育むとは、数量や図形の用語や意味を捉え、学んだことを繰り返しの学習の中で活かしていることである。

帰国子女の子どもたちは、日常会話が行えるからといって必ずしも、算数の学習の中の知識を司る用語や技能を支える主たる活動の内容を理解しているとは限らない。そこで、算数科における知識・技能を支える用語や活動の方法や意味を理解させることは、学習を進める上での理解を支えるだけでなく、自信をはぐくむことになると考える。

帰国子女教育算数科学習では、算数的活動を通して数量についての知識を確実に身につけていくためには、操作活動を伴った学習過程を丹念に経て自ら知識を構成していくことが大切である。そこで、それぞれの滞在国のカリキュラムの相違による子どもたちの実態把握を行い獲得させなければならない知識を系統的に配列し直したり領域をまたいで横断的に学習を展開することが必要である。

#### 1 主題について

数量・図形の知識・技能とは、子どもの生活に関連のある様々な量について、その概念及び測定の原理・方法や図形の表現の技能（操作方法、測定方法など）や図形の意味、性質などのことである。それと同時に、必要に応じて適切な単位や計器を選択する等、測定に付いての基礎的な能力を伸ばすことも大切なことである。数量・図形の知識・技能を確かにするとは、数量・図形の知識が数式、記号と現実的な問題場面との往還が盛んに行われていることである。数量・図形の知識・技能を確かにする帰国子女教育算数科学習とは、子どもの生活に関連のある様々な量について、その概念及び測定の原理・方法などを理解したことをもとに、他領域の学習内容を補完的に扱いながら、獲得した知識・技能の適用範囲を広げていくことである。帰国児童の滞在国と日本のカリキュラムとの相違を把握し、系統性を逸した単元や内容配列を考慮した個別カリキュラムをもとに、具体的な操作活動による学習内容の構成を補充的、発展的に展開する。そのために、個に応じて概念や原理、法則、定義や性質の理解の獲得に重点化を図ったり具体的操作と用語等との関連を図ったりする。

- 日本の算数の学習や実生活場面に主体的に参加するために海外での学習経験を生かそうとする子ども（学ぶ意欲）
- 自分がこれまでに身につけた算数的表現を生かして、他者と意見交換を積極的に行い、課題追究をする子ども（能力）
- 海外での学習経験を生かすことのできる自分に気づき帰国子女としての誇りをもつ子ども（自信）

# ～繰り返しのある個に応じたゲームを取り入れた授業づくり～

永尾 健

## 2 副主題について

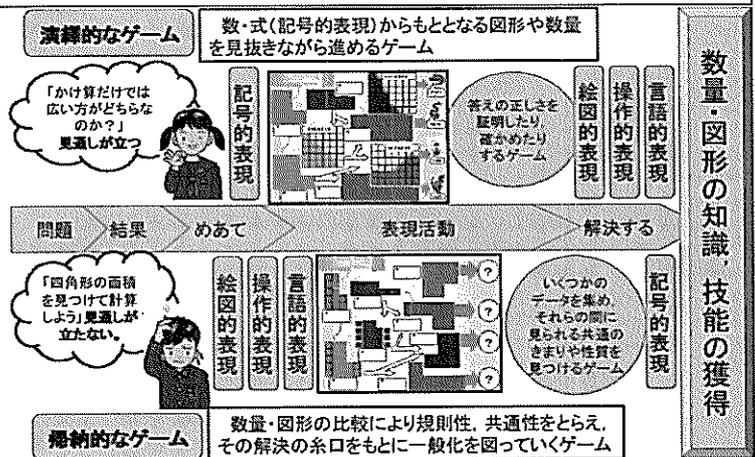
繰り返しのあるとは、子どもたちが意欲的に関心を持って既存の経験や既習の数理を使って課題解決を行う場が、意図的に仕組まれた場である。その仕組まれた場には、細かな状況の変化を設定されたり、様々な条件を付け加えながら、次第に解決の方法も複雑になる。

個に応じたゲームとは、ゲームの中にある状況を変えたり、数値を変えていったりした、個の学習課題である。これは、徐々に状況を変えたり、数値を変えることは、既習経験や類推的な考えを徐々に掘り起こし、子どもたちに自分なりの見通しをもたせるためである。また、発展的に学習を進められる子どもたちには、表現様式を置き換えながら、これまで滞在国で身につけた知識と日本との知識の整合性を図りながら確かな知識を獲得させるのである。繰り返しのある個に応じたゲームを取り入れた学習の展開とは、滞在国での学習スタイルや現地での就学状況、滞在経験等を考慮して、学習課題を考え、自分なりのペースで見通しをもったり、繰り返しゲームに当たる中で徐々に見通しを立てていったりしながら展開する学習のことである。そのため、子どもたちの滞在国での学習状況の把握は大切になるのである。

## 3 具体的構想

### ● 個に応じたゲームの工夫

滞在国で身に付けたストラテジー（課題解決のための手法）と滞在国の学習スタイル（フランス…内容を復習し発展させる。変換の重視、イギリス…数学の応用やコミュニケーションの重視）を子どもたちの身に付けてきた特性としてゲームの仕組みを考える。そこで、わかった子どもたちの実態をもとに、演繹的に思考することを中心としたゲームと、帰納的に思考することを中心としたゲームを提示する。



### ● 個に応じた知識・技能の獲得のための活動構成の工夫

個に応じた知識・技能の獲得や数学的思考方を高める工夫が必要になってくる。そこで、子どもたちの学習歴の実態を見ながら、獲得されるべき内容と表現とを関連させながら単元の中でねらう表現スタイルを決定する。滞在国によっては、ある程度の知識・技能の獲得した状態であったり、ストラテジーの獲得さえ成されていない状況の2つの場合が考えられる。そこで、知識・技能の獲得状況に応じて表現様式を往還的に関連を図りながら未習の数量・図形の知識・技能を補完していく。

## 第4学年 単元「面積めいろゲーム」

## (1) 目標

- 1 広さを直観的に比べたり、重ね合わせたり、また、普遍単位のブロックを敷き詰めたり、図形の長さを測定して求積したりして面積を比べめいろゲームを工夫して行うことができる。
- 2 めいろゲームを通して、普遍単位の必要性を実感し、面積の単位 ( $\text{cm}^2$ ,  $\text{m}^2$ ,  $\text{km}^2$ ) を知るとともに、複合図形やドーナツ型、L字型の面積を正方形や長方形の帰着して求めることができる。

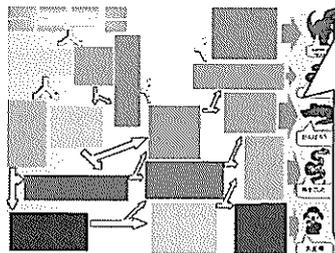
## (2) 単元の考え方

- 個の課題に応じて、面積めいろゲームの数値や複合図形の配置を考えたゲームシートにすれば、長方形に帰着して、L字型などの複合図形の求積ができ、また、補完的内容の習得もできる。
- 絵図の中で図形を変形させて抽象化した課題の中で求積できるようにすることをねらった学習を展開すれば、補完的、発展的な学習を個に応じて学習を展開できると考える。

## (3) 学習の流れ

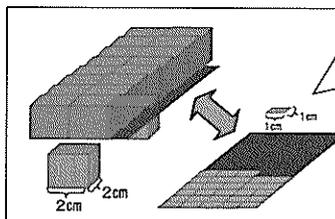
## 見いだす段階： 1～2 / 10時

直接比較，間接比較をしながら面積の意味をとらえ，効率のよい比較の方法について考えるめいろゲームを行う。



資料1 面積めいろゲームシート

数値を少しずつ変えながら普遍単位による比較が有効であることに気づかせる面積めいろゲームシート



資料2 普遍単位による比較

2cm×2cmのブロックでは端が出るが，普遍単位のブロックでは端が出ず，比べやすい。

## 試みる段階： 3～7 / 10時

普遍単位の効率的な数え方をもとにきまりを導き出したり，求積公式使いなが

見いだす段階では、面積めいろゲームのルールを把握し、多様な広さの比べ方なので、任意単位、普遍単位による比較のよさをとらえることをねらいとしている。

## 【教師の支援】

※ 面積めいろゲームでは、広い方の図形を選択して矢印にしたがって進みゴールに向かう遊びである。その際、個の実態に応じて図形の広さを変えたり、周囲の長さが同じ図形のみを揃えたり教具の工夫を行った。

## 【子どもの様子】

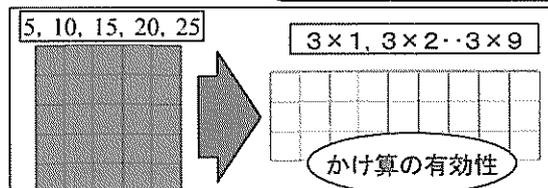
- 面積めいろゲーム2において、任意単位による比較では端の部分と比較するためには、細かい単位が必要であることをとらえた。そこで、普遍単位の紙片を提示し敷き詰めながら普遍単位のいくつ分として数値化して比較を行った。

試みる段階では、次第に普遍単位の数値が増えてくるために工夫をした求積の方法が必要になる場面を設定し、求積公式を導くことができるようにすることをねらいとしている。

ら面積めいろゲームを行う。



5ずつ増えるから「5, 10, 15…25。」今度は3ずつ増えるから「3, 6, 9…」…「難しい」…「あわかった」  
「 $3 \times 1 = 3$ ,  $3 \times 2 = 6$ ,  $3 \times 3 = 9$ … $3 \times 9 = 27$ 」



これはたてに5つ並んでいて、よこに5つ並んでいるので5の段を使って「 $5 \times 5$ 」をすればいいです。



### 操作的表現→記号的表現



簡潔、明瞭  
的確

$3 \times 1 = 3$   
 $3 \times 2 = 6$   
 $3 \times 3 = 9$   
 $\times 4 = 12$

単元で習得する内容

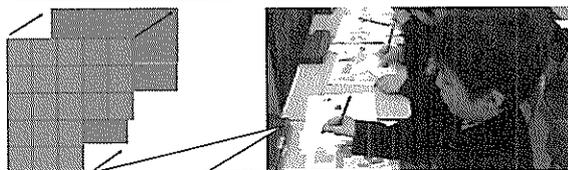
単元で補完する内容

面積の求積方法の習得

かけ算の意味・理解

広げる段階： 8～10/10時

長方形や正方形に帰着して、複合図形やドーナツ型、分離型の図形の求積をする面積めいろゲームを行う。



5マスがよこに3つ並んでいて、こっちは3マスがよこに2つ並んでいるから、「 $5 \times 3 + 3 \times 2 = 21$ 」になります。

### 【教師の支援】

※ 面積めいろゲーム3では、既習で扱った普遍単位のいくつ分で比較し、次第に図形の大きさが大きくなるにしたがって普遍単位を数える作業に手がかかるように仕組んだ。さらには、普遍単位のマスがまとまりになっている紙片を提示し、まとまりのいくつ分で考えられるようにした。

### 【子どもの様子】

- たて5 cmよこ5 cmの正方形の求積を行う際に、5マスのまとまりの紙片を敷き詰め、「5, 10, 15, 20, 25」と5のまとまりで数えた。
- たて3 cm, よこ9 cmの図形の面積を3ずつたしあわせることに、「難しい」とつぶやき、その後3の段を言い始め求積できた。
- 交流のとき、たてのマス目の並びが横にいくつ分並んでいるのかを数えて、それをもとにかけ算をすればいいことを発言した。

広げる段階では、長方形や正方形に帰着して、複合図形を分割したり、等積変形したり、倍積変形したり、また、補完して、空洞化した部分を差し引いたり、多様な考えで求積できるようになることををねらいとしている。

### 【教師の支援】

※ 色を付けた普遍単位のまとまりを敷き詰めて、L字型の図形が、2つの長方形で構成されていることをとらえさせる。

### 【子どもの様子】

- L字型の求積では、2つの求積の式をつくり、後で2つの面積をたし合わせることでできた。

### 【考察】

- ◎ 帰納的なゲームを行う中で、複合図形の求積を行う際にまとまりに着目させるために普遍単位の紙片を敷き詰めていく操作的表現を行わせることによって複合図形の中に長方形を見取り、複合図形が2つの長方形から成り立っていることをとらえ記号的表現（式に置き換えて求積）に置き換えて求積することができたと考える。このように、表現様式の関連を図ることによって操作と記号（数式）、さらには、言語（用語）等の結びつかせながら、知識の獲得が成されたと考える。

× ㄗ

# おわりに

副校長 三原英喜

本校は知的にそしてたくましく生きる子どもを育てることを目指して、「豊かな学びを育む学習の創造」を研究主題として授業実践に務めてまいりました。子ども自身が学んでいることに目的意識を明確に持ち、学んだことが生活に活かされるという実感を持つことができる学習を創造していくことが、これからなお一層求められると考えるからです。現行の学習指導要領の改訂の中にも、「基礎的・基本的な知識・技能はおおむね身に付いているものの、それらを活用することについて課題がある」という指摘と共に、さらに「思考力や判断力・表現力を育むために知識・技能を活用する学習活動を充実させる必要がある」と述べられています。

これらに応える授業を構築していくために、本校では「学びには必要性和切迫感が無ければ自己解決につながらず、生きて働く力になりえない」との言葉を実践の核として、子どもの問いを深化・拡充させる授業について検討してまいりました。この1年の間に延べ80回を超える実証授業を行ってまいりましたが、本年度それらの実践から3つの授業スタイルをもとに提案をいたしました。何よりも、子どもが学習に対して自我関与を持って解決に臨み、自他共に納得できる「応え」を創り出していく中に、本校が臨む学習に対する手応えを感じられるようになってまいりました。しかしまだ明確にする課題も山積しています。今後さらに見直しと改善に努めて参る所存です。

また本校には、特別支援学級と帰国子女学級を併設し教育研究ならびに実践を進めています。特別支援教育研究では、自分から働きかけることができる子どもを目指して「選ぶ力、かかわる力、知識・技能」を育むために社会場面や生活場面を取り入れた単元や題材の開発、学習過程の工夫や個別の教育支援計画について究明しています。帰国子女教育研究においては学習適応と特性伸長を目指して、各教科等における実態把握をもとに、コース別活動と国際交流タイムで発揮される個性を重視したコース別活動から授業づくりを提議しています。

以上の述べてきました研究の一端を12日・13日の両日を持って発表いたしました。参観していただいた皆様方に今後の教育に対する考え方や授業改善にお役に立てることができれば幸いです。

最後になりましたが、本校研究の充実のために、これまでご指導を賜りました福岡教育大学の先生方をはじめ、全体講演をお受けいただいた国立教育政策研究所 次長 惣脇 宏先生ならびに本校先輩、関係の皆様方に深く感謝申し上げます。さらにもうこれからも私たちの研究に厳しいご指導・ご助言を賜りますようお願い申し上げます。

# 福岡教育大学附属福岡小学校・福岡教育大学研究同人(平成20年度)

◎ 学 長	大後 忠志				
◎ 大 学					
(国 語 科)	河野 智文	(生 活 科)	津川 裕	(道 徳)	堺 正之
(社 会 科)	小川 亜弥子		寺岡 聖豪		小林 万里子
				(特 別 活 動)	高田 清
(算 数 科)	飯田 慎司	(音 楽 科)	平井 建二	(婦 子 女 教 育)	小林 万里子
	清水 紀宏		原田 大志	(特 別 支 援 教 育)	納富 恵子
	今井 一仁	(家 庭 科)	貴志 倫子		猪狩 恵美子
(理 科)	森藤 義孝	(図 画 工 作 科)	阿部 守		藤金 倫徳
	安藤 秀俊	(体 育 科)	相部 保美	(養 護)	照屋 博行
			兄井 彰		宮田 正和

◎ 附 属 小	(担 任)	(専 攻)	(氏 名)	(出 身 地 区)
(職 名)		理 体 国 国 国 生 算 音 体 社 道 理 算 体 理 音 特 別 社 算 特 別 特 別 特 別	鈴木 清一	大 学
校 長		体 育	三原 英喜	岡 市
副 校 長		国 画 工 作	平島 健二	岡 市
教 育 主 任		国 語	北田 尚雄○	岡 市
教 務 主 任		語 文	光延 正次郎	岡 市
教 諭	1 の 1	語 文	平川 洋一○	岡 市
教 諭	1 の 2	活 動	塚本 正典	大 川
教 諭	2 の 1	数 学	田中 健悟○	島 屋
教 諭	2 の 2	楽 会	高武 龍彦	像 屋
教 諭	3 の 1	育 会	毛利 拓也	市 市
教 諭	3 の 2	徳 科	高良 祐治○	福 岡
教 諭	4 の 1	教 育	三浦 研一	岡 市
教 諭	4 の 2	科 教 育	今泉 伸一郎	岡 市
教 諭	3・4 の 3	科 教 育	島川 二郎	小 郡
教 諭	5 の 1	科 教 育	渡邊 正則	井 小 郡
教 諭	5 の 2	科 教 育	福原 伸治	筑 紫
教 諭	5 の 3	科 教 育	有川 陽子	筑 紫
教 諭	6 の 1	活 動 会	黒澤 真二	筑 紫
教 諭	6 の 2	数 学	高瀬 健	大 川
教 諭	6 の 3	数 学	永尾 健	大 川
教 諭	ふ さ く ら	支 援 教 育	倉富 護	留 米
教 諭	専 科	支 援 教 育	弘松 英樹	岡 市
教 諭	専 科	支 援 教 育	諏訪 原佳子	岡 市
教 諭	専 科	支 援 教 育	下川 勝彦○	岡 市
教 諭	専 科	支 援 教 育	緒方 敦子	岡 市
養 護 教 諭	専 科	家 庭	松尾 七七子	岡 市
研 修 員	専 科	国 社	西村 眞輝	岡 市
研 修 員	専 科	図 画 工 作	永江 英俊	岡 市
研 修 員	専 科	理 体	安藤 順子	岡 市
研 修 員	専 科	国 語	田代 直美	岡 市
講 師	専 科	音 楽	堀 亮輔	岡 市
講 師	専 科	英 語	清水 知子	岡 市
講 師	専 科	英 語	阿久津 奈美恵	岡 市
		英 語	セバウン かおり	岡 市
			Matthew Love	岡 市
			松本 優美	岡 市

※ ○印は平成20年度研究部員

## 平成19年度 附属福岡小学校転出教員

久保 勝美(筑 紫)	木下 美紀(宗 像)	原田 敏男(久留米)
長門 直子(福岡市)	原尻 敏広(糟 屋)	松藤 勲(八女・筑後)
白井のり子(糸 島)	平山 哲也(宗 像)	武田 耕治(筑 紫)
増山 雄一(嘉 麻)		

平成20年6月 印刷・発行  
福岡教育大学附属福岡小学校  
研究紀要 No.39

発行者 福岡教育大学附属福岡小学校  
〒810-0061 福岡市中央区西公園12番1号  
TEL 092(741)4731(代)

印刷所 (株)ネオプリンティング  
TEL 092(511)8941(代)

*Fuzok*  
**FuKoka**

